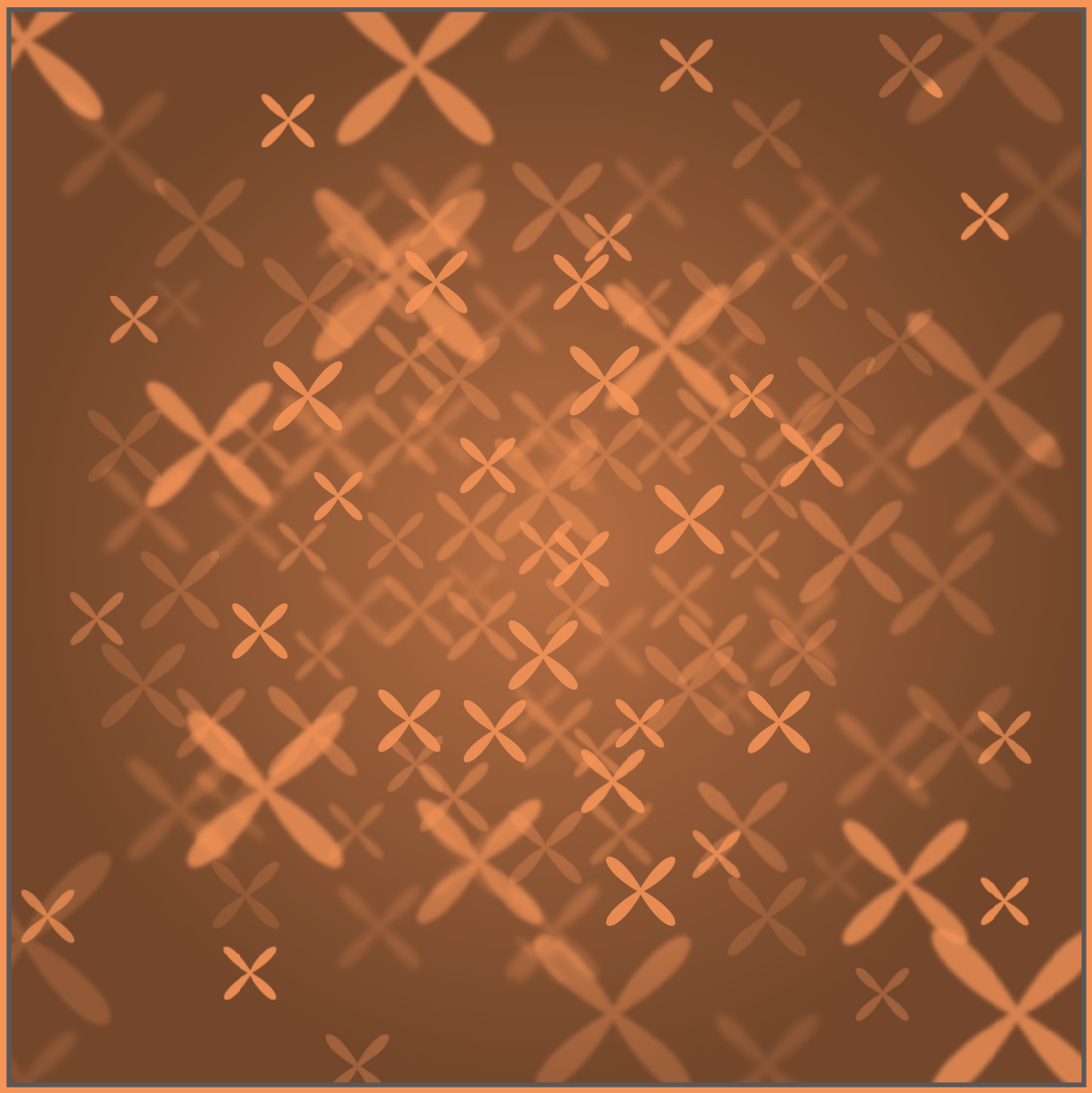
2012年度

シラバス

交流文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にある**インデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。**

目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

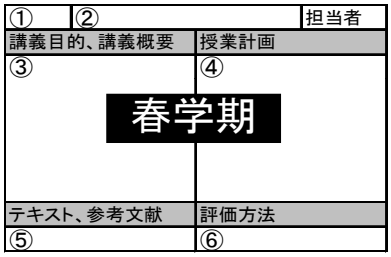
②履修できない科目

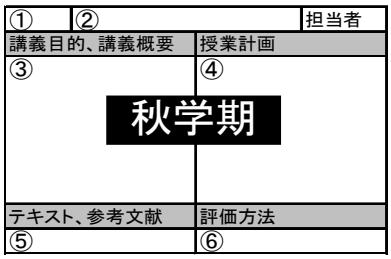
「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	経： 経済学部	法： 法学部
独： ドイツ語学科		済： 経済学科	律： 法律学科
英： 英語学科		営： 経営学科	国： 国際関係法学科
仏： フランス語学科			総： 総合政策学科
交： 交流文化学科			
言： 言語文化学科			

2. シラバスページの見方（右図参照）





①入学年度

08年度以降・・・2008～2012年度入学者
01年度以降・・・2001～2012年度入学者
03年度以降・・・2003～2012年度入学者
05年度以降・・・2005～2012年度入学者
01～04年度・・・2001～2004年度入学者
01～07年度・・・2001～2007年度入学者

②入学年度に対応した科目名

2003年度以降の学則別表にある名称を基本に表記してあります。

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』で確認した上で、履修登録をしてください。

②定員

経済学部の科目は、学習環境および防災上などの観点から、「全学共通授業科目」と同様に定員を設けています。

各科目の定員は、『授業時間割表』を参照してください。

交流文化学科　授業科目

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
交流文化概論i	遠藤　充信	春	木4	2	1	全	13
交流文化概論ii	北野　収/須永　和博	春	金1	2	1	全	14
交流文化概論iii	永野　隆行	秋	火5	2	1	全	14
基礎演習Ⅰ	北野　収	春	水1	2	1	全	15
基礎演習Ⅱ	北野　収	秋	水1	2	1	全	15
基礎演習Ⅰ	島田　啓一	春	水1	2	1	全	16
基礎演習Ⅱ	島田　啓一	秋	水1	2	1	全	16
基礎演習Ⅰ	須永　和博	春	水1	2	1	全	17
基礎演習Ⅱ	須永　和博	秋	水1	2	1	全	17
基礎演習Ⅰ	永野　隆行	春	水1	2	1	全	18
基礎演習Ⅱ	永野　隆行	秋	水1	2	1	全	18
基礎演習Ⅰ	町田　喜義	春	水1	2	1	全	19
基礎演習Ⅱ	町田　喜義	秋	水1	2	1	全	19
英語圏の文学と文化概論	上野　直子	春	木5	2	1	全	20
英語圏の文学と文化概論	小林　愛明	秋	木4	2	1	全	20
英語圏の文学と文化概論	前沢　浩子	秋	木5	2	1	全	20
英語の世界Ⅰ	府川　謹也	春	火5	2	1	全	21
英語の世界Ⅰ	府川　謹也	秋	金1	2	1	全	21
English for BusinessⅠ	各担当教員	春		1	2	全	22
English for BusinessⅡ	各担当教員	秋		1	2	全	22
Listening & Speaking	P. ドーレ	春	火1	1	1	全	23
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	P. ドーレ	秋	火1	1	1	全	23
Listening & Speaking	P. ドーレ	春	火2	1	1	全	24
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	P. ドーレ	秋	火2	1	1	全	24
Listening & Speaking	日野　克美	春	火1	1	1	全	25
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	日野　克美	秋	火1	1	1	全	25
Listening & Speaking	日野　克美	春	火3	1	1	全	26
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	日野　克美	秋	火3	1	1	全	26
Listening & Speaking	日野　克美	春	木1	1	1	全	27
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	日野　克美	秋	木1	1	1	全	27
Grammar for TOEFL®＆TOEIC®I	各担当教員	春		1	1	全	28
Grammar for TOEFL®＆TOEIC®Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	28
Reading StrategiesⅠ	伊藤　兵馬	春	木3	1	1	全	29
Reading StrategiesⅡ	伊藤　兵馬	秋	木3	1	1	全	29
Reading StrategiesⅠ	島田　啓一	春	火1	1	1	全	30
Reading StrategiesⅡ	島田　啓一	秋	火1	1	1	全	30
Reading StrategiesⅠ	瀬戸　千尋	春	月4	1	1	全	31
Reading StrategiesⅡ	瀬戸　千尋	秋	月4	1	1	全	31
Reading StrategiesⅠ	袰岩　ナオミ	春	金2	1	1	全	32
Reading StrategiesⅡ	袰岩　ナオミ	秋	金2	1	1	全	32
Reading StrategiesⅠ	袰岩　ナオミ	春	金3	1	1	全	33
Reading StrategiesⅡ	袰岩　ナオミ	秋	金3	1	1	全	33
Reading StrategiesⅢ	N. H. ジョスト	春	月1	1	2	全	34
Reading StrategiesⅣ	N. H. ジョスト	秋	月1	1	2	全	34
Reading StrategiesⅢ	河原　宏之	春	水1	1	2	全	35
Reading StrategiesⅣ	河原　宏之	秋	水1	1	2	全	35
Reading StrategiesⅢ	河原　宏之	春	水2	1	2	全	36
Reading StrategiesⅣ	河原　宏之	秋	水2	1	2	全	36
Reading StrategiesⅢ	白川　貴子	春	水1	1	2	全	37
Reading StrategiesⅣ	白川　貴子	秋	水1	1	2	全	37
Reading StrategiesⅢ	三吉　美加	春	月4	1	2	全	38
Reading StrategiesⅣ	三吉　美加	秋	月4	1	2	全	38

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Writing Strategies Ⅰ	D. マッキャン	春	金2	1	1	全	39
Writing Strategies Ⅱ	D. マッキャン	秋	金2	1	1	全	39
Writing Strategies Ⅰ	J. A. グレイ	春	月4	1	1	全	40
Writing Strategies Ⅱ	J. A. グレイ	秋	月4	1	1	全	40
Writing Strategies Ⅰ	M. ダーリン	春	月4	1	1	全	41
Writing Strategies Ⅱ	M. ダーリン	秋	月4	1	1	全	41
Writing Strategies Ⅰ	R. J. バロウズ	春	火2	1	1	全	42
Writing Strategies Ⅱ	R. J. バロウズ	秋	火2	1	1	全	42
Writing Strategies Ⅰ	R. J. バロウズ	春	火3	1	1	全	43
Writing Strategies Ⅱ	R. J. バロウズ	秋	火3	1	1	全	43
Comprehensive English Ⅰ	D. ベーカー	春	木3	1	1	全	44
Comprehensive English Ⅱ	D. ベーカー	秋	木3	1	1	全	44
Comprehensive English Ⅰ	J. ウォールドマン	春	月3	1	1	全	45
Comprehensive English Ⅱ	J. ウォールドマン	秋	月3	1	1	全	45
Comprehensive English Ⅰ	J. ウォールドマン	春	木3	1	1	全	46
Comprehensive English Ⅱ	J. ウォールドマン	秋	木3	1	1	全	46
Comprehensive English Ⅰ	K. ミーハン	春	月3	1	1	全	47
Comprehensive English Ⅱ	K. ミーハン	秋	月3	1	1	全	47
Comprehensive English Ⅰ	K. ミーハン	春	金2	1	1	全	48
Comprehensive English Ⅱ	K. ミーハン	秋	金2	1	1	全	48
Comprehensive English Ⅰ	L. K. ハーキンス	春	月2	1	1	全	49
Comprehensive English Ⅱ	L. K. ハーキンス	秋	月2	1	1	全	49
Comprehensive English Ⅰ	L. K. ハーキンス	春	金2	1	1	全	50
Comprehensive English Ⅱ	L. K. ハーキンス	秋	金2	1	1	全	50
Comprehensive English Ⅰ	M. ダーリン	春	木3	1	1	全	51
Comprehensive English Ⅱ	M. ダーリン	秋	木3	1	1	全	51
Comprehensive English Ⅰ	N. H. ジョスト	春	月2	1	1	全	52
Comprehensive English Ⅱ	N. H. ジョスト	秋	月2	1	1	全	52
Comprehensive English Ⅰ	P. M. ホーネス	春	月2	1	1	全	53
Comprehensive English Ⅱ	P. M. ホーネス	秋	月2	1	1	全	53
Comprehensive EnglishⅢ	D. マッキャン	春	木3	1	2	全	54
Comprehensive EnglishⅣ	D. マッキャン	秋	木3	1	2	全	54
Comprehensive EnglishⅢ	E. フランコ	春	木1	1	2	全	55
Comprehensive EnglishⅣ	E. フランコ	秋	木1	1	2	全	55
Comprehensive EnglishⅢ	P. アップス	春	水2	1	2	全	56
Comprehensive EnglishⅣ	P. アップス	秋	水2	1	2	全	56
Comprehensive EnglishⅢ	P. ドーレ	春	月4	1	2	全	57
Comprehensive EnglishⅣ	P. ドーレ	秋	月4	1	2	全	57
Comprehensive EnglishⅢ	R. ダラム	春	木3	1	2	全	58
Comprehensive EnglishⅣ	R. ダラム	秋	木3	1	2	全	58
E-learning Ⅰ	坂本　洋子	春	金5	1	1	全	59
E-learning Ⅱ	坂本　洋子	秋	金5	1	1	全	59

学科共通科目 「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Japanese Art & Culture)	A. ゾーリンジャー	春秋	木2	2	2	全	60
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Culture and Communication)	C. B. 池口	春秋	水3	2	2	全	61
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Multiculturalism & Multicultural Education)	E. 本橋	春秋	月3	2	2	全	62
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Language & Teaching)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2	全	63
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Origin and Evolution of Language)	J. N. ウェンデル	春秋	月4	2	2	全	64
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (James Joyce)	M. フッド	春秋	火2	2	2	全	65
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (The Learning Brain Lesson for Educa)	N. H. ジョスト	春秋	水1	2	2	全	66
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Reading for Academic Purpose)	T. ホサイン	春秋	金2	2	2	全	67
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (音声科学入門)	青柳　真紀子	春秋	火3	2	2	全	68
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Exploring Language Teaching)	浅岡　千利世	春秋	水1	2	2	全	69
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカの広告文化史研究 ①/アメリカの広告文化史研究 ②)	板場　良久	春秋	金3	2	2	全	70
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代における国際関係の展開)	伊藤　兵馬	春秋	木4	2	2	全	71
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ビート詩人たちの預言)	遠藤　朋之	春秋	木3	2	2	全	72
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	大木　理恵子	春秋	月4	2	2	全	73
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (強制的異性愛社会からの脱出)	片山　亜紀	春秋	金2	2	2	全	74
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷　優子	春秋	金4	2	2	全	75
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子　芳樹	春秋	水1	2	2	全	76
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (生成文法入門)	河原　宏之	春秋	月5	2	2	全	77
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (地球市民のためのフェアトレード入門)	北野　収	春秋	金4	2	2	全	78
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (コミュニケーションと文化)	工藤　和宏	春秋	火2	2	2	全	79
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (オーストラリアの詩)	国見　晃子	春秋	火3	2	2	全	80
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Critically thinking things through)	小西　卓三	春秋	月2	2	2	全	81
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (動詞の意味と文法)	小早川　暁	春秋	木4	2	2	全	82
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アレン・ギンズバーグの詩を読む)	小林　愛明	春秋	水3	2	2	全	83
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英国ユダヤ人史 / 米国ユダヤ人史)	佐藤　唯行	春秋	火4	2	2	全	84
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (物語を読んで楽しむ)	佐藤　勉	春秋	木3	2	2	全	85
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代国際関係論)	佐野　康子	春秋	火4	2	2	全	86
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ小説)	島田　啓一	春秋	木2	2	2	全	87

学科共通科目 「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (イギリス児童文学)	白鳥　正孝	春秋	水4	2	2	全	88
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	杉山　晴信	春秋	水2	2	2	全	89
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (生成文法理論への誘い)	鈴木　英一	春秋	月3	2	2	全	90
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Deconstructing “Japaneseness”)	須永　和博	春秋	月2	2	2	全	91
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (コミュニケーションと異文化理解)	瀬戸　千尋	春秋	火3	2	2	全	92
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国の対外政策)	髙木　綾	春秋	金3	2	2	全	93
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	高田　宣子	春秋	火4	2	2	全	94
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (グローバルな眼でアジアを読む)	竹田　いさみ	春秋	火4	2	2	全	95
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (日本語学)	長南　一豪	春秋	月4	2	2	全	96
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代イギリス小説)	東郷　公徳	春秋	月5	2	2	全	97
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (戦後国際政治史)	永野　隆行	春秋	火3	2	2	全	98
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (インタビューやニュースのスクリプトを読む)	鍋倉　健悦	春秋	月2	2	2	全	99
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (SLA実証研究論文)	羽山　恵	春秋	金2	2	2	全	100
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ現代詩を読む)	原　成吉	春秋	木2	2	2	全	101
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく)	福井　嘉彦	春秋	火3	2	2	全	102
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (King Learを読む)	前沢　浩子	春秋	木3	2	2	全	103
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ビデオゲームと身体 / 映像表象の歴史と理論)	松本　健太郎	春秋	火1	2	2	全	104
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ミステリー＆サスペンスを解読する / 米国とカリブ社会のアフリカ系作家によるショートストーリー)	三吉　美加	春秋	月3	2	2	全	105
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (オープンスカイと北東アジア共通航空市場)	山路　顕	春秋	木3	2	2	全	106
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカにおける人種概念)	佐原　彩子	春秋	木2	2	2	全	107

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語の世界Ⅱ	府川　謹也	春	金1	2	2	全	108
英語の世界Ⅱ	府川　謹也	秋	火5	2	2	全	108
観光英語Ⅰ	日野　克美	春	木2	2	2	英	109
観光英語Ⅱ	日野　克美	秋	木2	2	2	英	109
通訳案内士の英語Ⅰ	日野　克美	春	火2	2	2	英	110
通訳案内士の英語Ⅱ	日野　克美	秋	火2	2	2	英	110
Business Writing	海老沢　達郎	春	火1	2	2	英	111
Business Writing	海老沢　達郎	秋	火1	2	2	英	111
Academic Writing	D. H. ケネディ	春	火1	2	2	全	112
Academic Writing	D. H. ケネディ	秋	火1	2	2	全	112
Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	全	113
Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	全	113
Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火1	2	2	全	114
Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火1	2	2	全	114
Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	全	115
Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	全	115
Academic Writing	E. フランコ	春	木3	2	2	全	116
Academic Writing	E. フランコ	秋	木3	2	2	全	116
Academic Writing	J. ウォールドマン	春	木2	2	2	全	117
Academic Writing	J. ウォールドマン	秋	木2	2	2	全	117
Academic Writing	K. フォード	春	金3	2	2	全	118
Academic Writing	K. フォード	秋	金3	2	2	全	118
Academic Writing	K. ミーハン	春	月4	2	2	全	119
Academic Writing	L. K. ハーキンス	秋	月3	2	2	全	120
Academic Writing	M. ダーリン	春	月5	2	2	全	121
Academic Writing	M. ダーリン	秋	月5	2	2	全	121
Academic Writing	M. フッド	春	火3	2	2	全	122
Academic Writing	M. フッド	秋	火3	2	2	全	122
Academic Writing	未定（掲示で確認）	春	月1	2	2	全	123
Academic Writing	R. ジョーンズ	春	水3	2	2	全	124
Academic Writing	R. ジョーンズ	秋	水3	2	2	全	124
Academic Writing	R. ダラム	春	木2	2	2	全	125
Academic Writing	R. ダラム	秋	木2	2	2	全	125
Academic Writing	佐原　彩子	春	木3	2	2	全	126
Academic Writing	佐原　彩子	秋	木3	2	2	全	126
翻訳Ⅰ	上野　直子	秋	水2	2	2	全	127
翻訳Ⅰ	国見　晃子	秋	木4	2	2	全	128
翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	春	木3	2	2	全	129
翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	秋	木3	2	2	全	129
翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	春	木4	2	2	全	130
翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	秋	木4	2	2	全	130
翻訳Ⅰ	白鳥　正孝	春	水3	2	2	全	131
翻訳Ⅰ	高田　宣子	春	火5	2	2	全	132
翻訳Ⅰ	高田　宣子	秋	火5	2	2	全	132
翻訳Ⅰ	山中　章子	春	木5	2	2	全	133
翻訳Ⅰ	山中　章子	秋	木5	2	2	全	133
翻訳Ⅱ	P. ネルム	春	金5	2	2	全	134
翻訳Ⅱ	P. ネルム	秋	金5	2	2	全	134
翻訳Ⅱ	白川　貴子	春	水4	2	2	全	135
翻訳Ⅱ	白川　貴子	秋	水4	2	2	全	135
College Grammar	靭江　静	秋	月4	2	2	全	136
College Grammar	靭江　静	春	水3	2	2	全	137
College Grammar	靭江　静	秋	水3	2	2	全	137
College Grammar	靭江　静	春	水4	2	2	全	138
College Grammar	河原　宏之	春	木2	2	2	全	139
College Grammar	河原　宏之	秋	木2	2	2	全	139

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
College Grammar	小早川　暁	春	木3	2	2	全	140
College Grammar	小早川　暁	秋	木3	2	2	全	140
College Grammar	坂本　洋子	春	金3	2	2	全	141
College Grammar	坂本　洋子	秋	金3	2	2	全	141
College Grammar	坂本　洋子	春	金4	2	2	全	142
College Grammar	坂本　洋子	秋	金4	2	2	全	142
College Grammar	長南　一豪	春	月5	2	2	全	143
College Grammar	長南　一豪	秋	月5	2	2	全	143
College Grammar	長南　一豪	春	水4	2	2	全	144
College Grammar	長南　一豪	秋	水4	2	2	全	144
College Grammar	府川　謹也	春	金2	2	2	全	145
College Grammar	府川　謹也	秋	金2	2	2	全	145
Communicative English	D. ブラドリー	春	火2	2	2	全	146
Communicative English	D. ブラドリー	秋	火2	2	2	全	146
Communicative English	D. マッキャン	春	木2	2	2	全	147
Communicative English	D. マッキャン	秋	木2	2	2	全	147
Communicative English	J. A. グレイ	春	月5	2	2	全	148
Communicative English	J. A. グレイ	春	水5	2	2	全	149
Communicative English	J. N. ウェンデル	春	火3	2	2	全	150
Communicative English	J. N. ウェンデル	秋	火3	2	2	全	150
Communicative English	J. スネール	春	木2	2	2	全	151
Communicative English	J. スネール	秋	木2	2	2	全	151
Communicative English	K. ミーハン	春	月1	2	2	全	152
Communicative English	K. ミーハン	秋	月1	2	2	全	152
Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	月1	2	2	全	153
Communicative English	L. K. ハーキンス	春	金1	2	2	全	154
Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	金1	2	2	全	154
Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	金3	2	2	全	155
Communicative English	M. ダーリン	春	木5	2	2	全	156
Communicative English	M. ダーリン	秋	木5	2	2	全	156
Communicative English	P. M. ホーネス	春	月1	2	2	全	157
Communicative English	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2	全	157
Communicative English	P. アップス	春	火2	2	2	全	158
Communicative English	P. アップス	秋	火2	2	2	全	158
Communicative English	未定（掲示で確認）	秋	月1	2	2	全	159
Communicative English	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	全	160
Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	全	160
Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	全	161
Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	全	161
Communicative English	R. ダラム	春	火1	2	2	全	162
Communicative English	R. ダラム	秋	火1	2	2	全	162
Communicative English	R. ダラム	春	火3	2	2	全	163
Communicative English	R. ダラム	秋	火3	2	2	全	163
Discussion	C. B. 池口	春	水4	2	2	全	164
Discussion	C. B. 池口	秋	水4	2	2	全	164
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	全	165
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	全	165
Discussion	J. ウォールドマン	春	月4	2	2	全	166
Discussion	J. ウォールドマン	秋	月4	2	2	全	166
Discussion	N. H. ジョスト	春	火5	2	2	全	167
Discussion	N. H. ジョスト	秋	火5	2	2	全	167
Discussion	P. マッケビリー	春	月3	2	2	全	168
Discussion	P. マッケビリー	秋	月3	2	2	全	168
Discussion	未定（掲示で確認）	春	金4	2	2	全	169
Discussion	未定（掲示で確認）	秋	金4	2	2	全	169

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Public Speaking Ⅰ	C. B. 池口	春	水2	2	2	全	170
Public Speaking Ⅱ	C. B. 池口	秋	水2	2	2	全	170
Public Speaking Ⅰ	J. N. ウェンデル	春	月3	2	2	全	171
Public Speaking Ⅱ	J. N. ウェンデル	秋	月3	2	2	全	171
Public Speaking Ⅰ	門倉　弘枝	春	木3	2	2	全	172
Public Speaking Ⅱ	門倉　弘枝	秋	木3	2	2	全	172
Debate Ⅰ	N. H. ジョスト	春	火4	2	2	全	173
Debate Ⅱ	N. H. ジョスト	秋	火4	2	2	全	173
Debate Ⅰ	小西　卓三	春	月3	2	2	全	174
Debate Ⅱ	小西　卓三	秋	月3	2	2	全	174
通訳 Ⅰ	鍋倉　健悦	春	火3	2	2	全	175
通訳 Ⅰ	鍋倉　健悦	秋	火3	2	2	全	175
通訳 Ⅰ	原口　友子	春	金3	2	2	全	176
通訳 Ⅰ	原口　友子	秋	金3	2	2	全	176
通訳 Ⅰ	原口　友子	春	金5	2	2	全	177
通訳 Ⅰ	原口　友子	秋	金5	2	2	全	177
通訳 Ⅱ	原口　友子	春	金4	2	2	全	178
通訳 Ⅱ	原口　友子	秋	金4	2	2	全	178
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	春	火3	2	2	全	179
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	秋	火3	2	2	全	179
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	春	水3	2	2	全	180
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	秋	水3	2	2	全	180
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木3	2	2	全	181
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木3	2	2	全	181
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木4	2	2	全	182
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木4	2	2	全	182
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	月1	2	2	全	183
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	月1	2	2	全	183
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	月2	2	2	全	184
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	月2	2	2	全	184
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	春	金1	2	3	全	185
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	秋	金1	2	3	全	185
メディア英語 Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2	全	186
メディア英語 Ⅰ	A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2	全	186
メディア英語 Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	金2	2	2	全	187
メディア英語 Ⅰ	A. R. ファルヴォ	秋	金2	2	2	全	187
メディア英語 Ⅰ	P. ネルム	春	金3	2	2	全	188
メディア英語 Ⅰ	P. ネルム	秋	金3	2	2	全	188
メディア英語 Ⅰ	海老沢　達郎	春	火2	2	2	全	189
メディア英語 Ⅰ	海老沢　達郎	秋	火2	2	2	全	189
メディア英語 Ⅰ	国見　晃子	春	火4	2	2	全	190
メディア英語 Ⅰ	国見　晃子	秋	火4	2	2	全	190
メディア英語 Ⅰ	小林　愛明	春	木3	2	2	全	191
メディア英語 Ⅰ	小林　愛明	秋	木3	2	2	全	191
メディア英語 Ⅱ	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	全	192
メディア英語 Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	全	192
メディア英語 Ⅱ	P. ネルム	春	金4	2	2	全	193
メディア英語 Ⅱ	P. ネルム	秋	金4	2	2	全	193
メディア英語 Ⅱ	東郷　公徳	春	月4	2	2	全	194
メディア英語 Ⅱ	東郷　公徳	秋	月4	2	2	全	194
シネマ英語	D. ベーカー	春	火4	2	2	全	195
シネマ英語	D. ベーカー	秋	火4	2	2	全	195
シネマ英語	T. ホサイン	春	金1	2	2	全	196
シネマ英語	T. ホサイン	秋	金1	2	2	全	196
シネマ英語	門倉　弘枝	春	木2	2	2	全	197
シネマ英語	門倉　弘枝	秋	木2	2	2	全	197

学科専門科目

ツーリズム

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ツーリズム交流論	遠藤　充信	木4	秋	2	2	英	198
ツーリズム・リスク論	竹田　いさみ	月3	春	2	2	全	199
ツーリズム文化論	遠藤　充信	火4	秋	2	2	外	200
ツーリズム・メディア論	高橋　利男	金1	秋	2	2	外	201
ツーリズム・マネジメント論	山路　顕	木2	秋	2	2	外	202
国際会議・イベント事業論	遠藤　充信	火5	秋	2	2	外	203
ツーリズム政策論	山路　顕	火5	秋	2	2	外	204
旅行・宿泊産業論	遠藤　充信	火4	春	2	2	外	205
航空産業論	山路　顕	木2	春	2	2	外	206
サステイナブル・ツーリズム論	北野　収	月3	春	2	2	外	207
オルタナティブ・ツーリズム論	須永　和博	金5	秋	2	2	外	208
ツーリズム人類学	須永　和博	金5	春	2	2	外	209
ツーリズム地誌論	須永　和博	金4	秋	2	2	全	210
市民参加のまちづくり論	北野　収	金2	秋	2	2	外	211
フィールドワーク論	須永　和博	金4	春	2	2	全	212
インターンシップ	遠藤　充信/山路　顕	火5	春	2	2	全	213

トランスナショナル文化

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
トランスナショナル文化論	高橋　雄一郎	木5	秋	2	2	英	214
トランスナショナル・メディア論	横村　出	水3	春	2	2	英	215
メディア・ライティング論	横村　出	水4	春	2	2	外	216
パフォーマンス研究	本年度休講			2	2	外	
表象文化論	高橋　雄一郎	木4	秋	2	2	外	217
開発文化論	北野　収	金2	春	2	2	外	218
トランスナショナル社会学	北野　収	金3	秋	2	2	外	219
食の文化論	北野　収	金3	春	2	2	外	220
英語圏のエリア・スタディーズa	前沢　浩子	水3	秋	2	2	全	221
英語圏のエリア・スタディーズb	前沢　浩子	水3	春	2	2	全	221
ヨーロッパの文化（フランスの美術Ⅱ）	阿部　明日香	火2	秋	2	2	全	222
ヨーロッパの文化（ドイツ語概論a）	柿沼　義孝	金4	春	2	2	全	223
ヨーロッパの文化（ドイツ語概論b）	柿沼　義孝	金4	秋	2	2	全	223
ヨーロッパの文化（フランスの音楽Ⅰ）	松橋　麻利	木3	春	2	2	全	224
ヨーロッパの文化（フランスの音楽Ⅱ）	松橋　麻利	木3	秋	2	2	全	224
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏文学・思想概論a）	矢羽々　崇	火1	春	2	2	全	225
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏文学・思想概論b）	矢羽々　崇	火1	秋	2	2	全	225
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏芸術・文化概論a）	山本　淳	木1	春	2	2	全	226
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏芸術・文化概論b）	山本　淳	木1	秋	2	2	全	226

学科専門科目

グローバル社会

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
グローバル社会論a	竹田　いさみ	火3	春	2	2	全	227
グローバル社会論a	竹田　いさみ	火3	秋	2	2	全	227
グローバル社会論b	佐野　康子	火3	春	2	2	全	228
グローバル社会論b	佐野　康子	火3	秋	2	2	全	228
国際協力論	竹田　いさみ	月3	秋	2	2	全	229
国際開発論	金子　芳樹	火2	春	2	2	全	230
国際交流論	小松　諄悦	金2	春	2	2	全	231
国際NGO・ボランティア論	金子　芳樹	火2	秋	2	2	全	232
英語圏の国際関係a	永野　隆行	月2	春	2	2	全	233
英語圏の国際関係b	永野　隆行	月2	秋	2	2	全	233
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅰ）	尾玉　剛士	月2	春	2	2	全	234
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅱ）	尾玉　剛士	月2	秋	2	2	全	234
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅰ）	廣田　愛理	水1	春	2	2	全	235
ヨーロッパの社会（フランスの政治経済Ⅱ）	廣田　愛理	水1	秋	2	2	全	235
ヨーロッパの社会（ドイツ語圏歴史概論a）	古田　善文	木5	春	2	2	全	236
ヨーロッパの社会（ドイツ語圏歴史概論b）	古田　善文	木5	秋	2	2	全	236

第二外国語（英語プラス1言語）

言語	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ語	ドイツ語(Ia 総合1)	S. ヴィーク	春	火4	1	1	全	237
	ドイツ語(Ib 総合1)	S. ヴィーク	秋	火4	1	1	全	237
	ドイツ語(Ia 総合2)	S. ヴィーク	春	木2	1	1	全	238
	ドイツ語(Ib 総合2)	S. ヴィーク	秋	木2	1	1	全	238
	ドイツ語(Ia 総合3)	辻本　勝好	春	金4	1	1	全	239
	ドイツ語(Ib 総合3)	辻本　勝好	秋	金4	1	1	全	239
	ドイツ語(IIa 総合1)	H. J. トロル	春	月2	1	2	全	240
	ドイツ語(IIb 総合1)	H. J. トロル	秋	月2	1	2	全	240
	ドイツ語(IIa 総合2)	H. J. トロル	春	金2	1	2	全	241
	ドイツ語(IIb 総合2)	H. J. トロル	秋	金2	1	2	全	241
	ドイツ語(IIa 総合3)	井村　行子	春	火2	1	2	全	242
	ドイツ語(IIb 総合3)	井村　行子	秋	火2	1	2	全	242
	ドイツ語(IIIa 応用)	E. ビリック	春	火1	1	3	全	243
	ドイツ語(IIIb 応用)	E. ビリック	秋	火1	1	3	全	243
フランス語	フランス語(Ia 総合1)	大原　知子	春	月1	1	1	全	244
	フランス語(Ib 総合1)	大原　知子	秋	月1	1	1	全	244
	フランス語(Ia 総合2)	C. ヴァリエンヌ	春	火4	1	1	全	245
	フランス語(Ib 総合2)	C. ヴァリエンヌ	秋	火4	1	1	全	245
	フランス語(Ia 応用)	田中　成和	春	金4	1	1	全	246
	フランス語(Ib 応用)	田中　成和	秋	金4	1	1	全	246
	フランス語(IIa 総合1)	富塚　真理子	春	金2	1	2	全	247
	フランス語(IIb 総合1)	富塚　真理子	秋	金2	1	2	全	247
	フランス語(IIa 総合2)	C. ヴァリエンヌ	春	火2	1	2	全	248
	フランス語(IIb 総合2)	C. ヴァリエンヌ	秋	火2	1	2	全	248
	フランス語(IIa 応用)	竹内　久雄	春	月2	1	2	全	249
	フランス語(IIb 応用)	竹内　久雄	秋	月2	1	2	全	249
	フランス語(IIIa 応用)	Ch. ペリセロ	春	火1	1	3	全	250
	フランス語(IIIb 応用)	Ch. ペリセロ	秋	火1	1	3	全	250
スペイン語	スペイン語(Ia 総合1)	兒島　峰	春	火4	1	1	全	251
	スペイン語(Ia 総合1)	柴田　バネッサ	春	火4	1	1	全	251
	スペイン語(Ib 総合1)	兒島　峰	秋	火4	1	1	全	251
	スペイン語(Ib 総合1)	柴田　バネッサ	秋	火4	1	1	全	251
	スペイン語(Ia 総合2)	櫻井　道子	春	木2	1	1	全	252
	スペイン語(Ia 総合2)	篠﨑　英樹	春	金4	1	1	全	252
	スペイン語(Ib 総合2)	櫻井　道子	秋	木2	1	1	全	252
	スペイン語(Ib 総合2)	篠﨑　英樹	秋	金4	1	1	全	252
	スペイン語(Ia 会話)	P. ラゴ	春	月1	1	1	全	253
	スペイン語(Ia 会話)	G. ベギリスタイン	春	月1	1	1	全	253
	スペイン語(Ib 会話)	P. ラゴ	秋	月1	1	1	全	253
	スペイン語(Ib 会話)	G. ベギリスタイン	秋	月1	1	1	全	253
	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	火2	1	2	全	254
	スペイン語(IIa 会話1)	P. ラゴ	春	月2	1	2	全	254
	スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	火2	1	2	全	254
	スペイン語(IIb 会話1)	P. ラゴ	秋	月2	1	2	全	254
	スペイン語(IIa 会話2)	G. ベギリスタイン	春	金3	1	2	全	255
	スペイン語(IIa 会話2)	J. I. ドメネク・アロンソ	春	火2	1	2	全	255
	スペイン語(IIb 会話2)	G. ベギリスタイン	秋	金3	1	2	全	255
	スペイン語(IIb 会話2)	J. I. ドメネク・アロンソ	秋	火2	1	2	全	255
	スペイン語(IIa 総合)	北岸　団	春	月2	1	2	全	256
	スペイン語(IIa 総合)	髙橋　睦	春	金3	1	2	全	256
	スペイン語(IIb 総合)	北岸　団	秋	月2	1	2	全	256
	スペイン語(IIb 総合)	髙橋　睦	秋	金3	1	2	全	256

第二外国語（英語プラス1言語）

言語	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
スペイン語	スペイン語(IIIa 応用)	落合　佐枝	春	木1	1	3	全	257
	スペイン語(IIIa 応用)	中村　都珠子	春	水4	1	3	全	257
	スペイン語(IIIb 応用)	落合　佐枝	秋	木1	1	3	全	257
	スペイン語(IIIb 応用)	中村　都珠子	秋	水4	1	3	全	257
中国語	中国語(Ia 講読・文法)	阿邉　淳	春	木2	1	1	全	258
	中国語(Ib 講読・文法)	阿邉　淳	秋	木2	1	1	全	258
	中国語(Ia 会話1)	張　亜紅	春	月1	1	1	全	259
	中国語(Ib 会話1)	張　亜紅	秋	月1	1	1	全	259
	中国語(Ia 会話2)	張　亜紅	春	火4	1	1	全	260
	中国語(Ib 会話2)	張　亜紅	秋	火4	1	1	全	260
	中国語(IIa 講読・文法)	阿邉　淳	春	火2	1	2	全	261
	中国語(IIb 講読・文法)	阿邉　淳	秋	火2	1	2	全	261
	中国語(IIa 会話1)	星野　芳欣	春	月2	1	2	全	262
	中国語(IIb 会話1)	星野　芳欣	秋	月2	1	2	全	262
	中国語(IIa 会話2)	秦　敏	春	金3	1	2	全	263
	中国語(IIb 会話2)	秦　敏	秋	金3	1	2	全	263
	中国語(IIIa 応用)	阿邉　淳	春	木1	1	3	全	264
	中国語(IIIb 応用)	阿邉　淳	秋	木1	1	3	全	264
韓国語	韓国語(Ia 総合1)	森　勇俊	春	土1	1	1	全	265
	韓国語(Ib 総合1)	森　勇俊	秋	土1	1	1	全	265
	韓国語(Ia 総合2)	森　勇俊	春	土2	1	1	全	266
	韓国語(Ib 総合2)	森　勇俊	秋	土2	1	1	全	266
	韓国語(Ia 応用)	金　泰植	春	火4	1	1	全	267
	韓国語(Ib 応用)	金　泰植	秋	火4	1	1	全	267
	韓国語(IIa 総合1)	金　熙淑	春	月2	1	2	全	268
	韓国語(IIb 総合1)	金　熙淑	秋	月2	1	2	全	268
	韓国語(IIa 総合2)	白　寅英	春	金3	1	2	全	269
	韓国語(IIb 総合2)	白　寅英	秋	金3	1	2	全	269
	韓国語(IIa 応用)	金　熙淑	春	火2	1	2	全	270
	韓国語(IIb 応用)	金　熙淑	秋	火2	1	2	全	270
	韓国語(IIIa 応用)	金　熙淑	春	火1	1	3	全	271
	韓国語(IIIb 応用)	金　熙淑	秋	火1	1	3	全	271

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合講座	廣田　愛理	春	水2	2	1	養・経・法	273
総合講座	廣田　愛理	秋	水2	2	1	養・経・法	273
総合講座	谷口　亜沙子	春	水3	2	1	養・経・法	274
総合講座	谷口　亜沙子	秋	水3	2	1	養・経・法	274
情報科学概論a	呉　浩東	春	月2	2	1	養・経・法	275
情報科学概論b	休講						
（入門）情報科学各論	各担当教員						
（情報処理演習）[総合]	田中　雅英	春	火2	2	1	養・経・法	276
（情報処理演習）[総合]	田中　雅英	春	火3	2	1	養・経・法	276
（情報処理演習）[総合]	内田　俊郎	秋	木4	2	1	養・経・法	276
（情報処理演習）[英語]	内田　富男	春	水1	2	1	養・経・法	277
（情報処理演習）[英語]	内田　富男	秋	水1	2	1	養・経・法	277
（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	木1	2	1	養・経・法	278
（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	金井　満	春	火2	2	1	養・経・法	278
（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	火4	2	1	養・経・法	278
（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	木1	2	1	養・経・法	278
（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	金井　満	秋	火2	2	1	養・経・法	278
（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	火4	2	1	養・経・法	278
（応用）情報科学各論	各担当教員						
（Excel・プレゼンテーション中級）	松山　恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	279
（Excel・プレゼンテーション中級）	内田　俊郎	春	木2	2	1	養・経・法	279
（Excel・プレゼンテーション中級）	田中　雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	279
（Excel・プレゼンテーション中級）	松山　恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	279
（プレゼンテーション中級）	金子　憲一	春	月4	2	1	養・経・法	280
（プレゼンテーション中級）	金子　憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	280
（Word中級）	金子　憲一	春	月3	2	1	養・経・法	281
（Word中級）	金子　憲一	春	月5	2	1	養・経・法	281
（Word中級）	内田　俊郎	春	木4	2	1	養・経・法	281
（Word中級）	田中　雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	281
（Word中級）	内田　俊郎	秋	木3	2	1	養・経・法	281
（Office中級）	松山　恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	282
（Office中級）	松山　恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	282
（言語情報処理1）	羽山　恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	283
（言語情報処理2）	羽山　恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	283
（言語情報処理1）	吉成　雄一郎	春	金2	2	2	英・養・経・法	284
（言語情報処理2）	吉成　雄一郎	秋	金2	2	2	英・養・経・法	284
（HTML）情報科学各論	各担当教員						
（HTML初級）	内田　俊郎	春	木3	2	1	養・経・法	285
（HTML初級）	金子　憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	285
（HTML初級）	田中　雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	285
（HTML初級）	内田　俊郎	秋	木2	2	1	養・経・法	285
（HTML中級）	金子　憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	286
経済原論a	未定（掲示で確認）	春	金2	2	2	養・経・法	287
経済原論b	未定（掲示で確認）	秋	金2	2	2	養・経・法	287
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論　重複履修可否一覧」を参考にしてください。

09年度以降	交流文化概論　i	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 領域も広範なツーリズム関連科目を学ぶ者の<u>入門編</u>として、<u>ツーリズムの基礎的な知識</u>を修得する。 講義概要 ２１世紀は「人類大移動時代」と称されるようになり、観光は産業としてのみならず、人の生きがいとしても重要な要素の一つになっている。 語源から旅と観光の意義を把握し、旅と観光の歩みを辿りながらツーリズムの持つ意味を文明史的にとらえ、文化との関連を考える。 又、旅や観光が持つ経済的影響をツーリズム産業の中核をなす旅行業、宿泊業、航空業を概観することにより理解する。併せて今日的課題である環境問題をエコツーリズムの視点から触れる事により、観光を身近な問題として把握したい。 講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。	１．講義の概要（ツーリズムを学ぶ意味と意義） ２．ツーリズムとは・①観光とツーリズムの語源・ ３．ツーリズムとは・②観光の意義と役割 ４．旅と観光の歩み・①グランドツアーの時代 ５．旅と観光の歩み・②近代ツーリズムと トーマス・クックの時代 ６．旅と観光の歩み・③マスツーリズムの時代 ７．旅と観光の歩み・④新しい観光の時代と観光立国 ８．ツーリズムと文化・①（文化観光と観光行動） ９．ツーリズムと文化　②（文化の商品化と観光） １０．ツーリズム産業・①航空業 １１．ツーリズム産業・②宿泊業 １２．ツーリズム産業・③旅行業 １３．新しいツーリズム・① １４．新しいツーリズム・② １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『観光学入門』（岡本伸之編）有斐閣 『トーマス・クックの旅』（本城靖久）講談社 その他は適宜指示する。	試験結果に基づいて判断する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09 年度以降	交流文化概論 ii	担当者	北野　収 須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
「トランスナショナル（越境的）」な視点で現代の社会や文化を捉える能力や態度は、これからの地球時代を生きる私たちにとっての重要なリテラシーのひとつです。「文化」「国家」「発展」など自明だとされてきた前提を離れて、異なる視点から複眼的に物事を理解するためのいくつかのヒントを提供することが本授業のねらいです。特に、人類学と社会学の理論や方法論に依拠しつつ、いくつかのトピックスをとりあげ、思考を深めます。 前半は、文化人類学という学問を参照枠としながら、「異文化」を理解するための基本的な視点や感性を身につけることを目指します。 後半は、グローバル～ナショナル～ローカルというフレームに基づき、近代化・発展、南北問題、国家と地域社会、戦後日本の開発経験などの問題について、社会学的な観点から考察を行い、現場から世界を捉え直すことの重要性について理解を深めます。 講義は２人で担当しますが、評価責任者は北野となります。	1. ガイダンス 2. メディアのなかの「異文化」 3. 食のタブーはなぜ生まれるか？ 4. 伝統の創造 5. ジェンダーからみる「異文化」 6. 混淆する文化 7. 日本の中の「外国人」 8. 草加国際村一番地に関する議論 9. 国際開発史概論 10. 「南」へのまななざし 11. 豊かさについて考える 12. グローバル化と地域固有性 13. 持続可能性について考える 14. 日本の開発経験と世界 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし。適宜、必要に応じて授業中に提示する。	平常点（レスポンスペーパー、受講態度、小レポート）50%、期末レポート 50%（ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件は失う）

09 年度以降	交流文化概論 iii	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
半期の授業を通じて、国際関係研究（study of international relations）とはどのような学問なのかを、「戦争」について考えることを通じて理解してもらう。最終的には、教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。 毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を 30 分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。 授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。 この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。 なお私語は厳禁、真剣に学ぼうとする学生の邪魔をするものには、即座に退室してもらう。	第１回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス 第２回：グローバリゼーションとは何か？ 第３回：国際関係論はなぜ生まれたのか？ 第４回：国際関係における個人・国家 ー個人と国家の安全と国際関係の安定 第５回：戦争とは何か①その定義 第６回：戦争とは何か②国際関係の構造と戦争 第７回：戦争とは何か③戦争と国家 ー戦争は何をもたらすのか 第８回：戦争とは何か④戦争観の変化 ー正戦論、無差別戦争観、人道的介入 第９回：戦争とは何か⑤国際関係における正義と戦争 ーオバマ米大統領のノーベル平和賞受賞スピーチから 第 10 回：戦争とは何か⑥新しい紛争 ー21 世紀の紛争の特徴とは何か 第 11 回：戦争とは何か⑦戦争の主体 ー「現代の傭兵」民間軍事会社（ＰＭＣ）の登場 第 12 回：戦争とは何か⑧核兵器と国際関係 ーオバマ米大統領の「核なき世界」演説から 第 13 回：戦争とは何か⑨積極的平和と消極的平和 ー構造的暴力のない世界を目指して 第 14 回：戦争とは何か⑩国際秩序と国家 第 15 回：まとめ（質疑応答）＆国際関係をさらに学ぶには
テキスト、参考文献	**評価方法**
第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する。	不定期に実施するリアクションペーパーの提出（40%）と定期試験（論述形式、60%）による評価。

09 年度以降	基礎演習　I	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の基礎演習では、大学における最低限のスタディスキルを身につけることを最大の目標とし、原則として教科書に準拠しながら、文献の読み方、要約の仕方、図書館の活用法、レポートの書き方、引用ルールなどについて学習します。基本的に講義形式となります。	1. クラスガイダンス 2. 全体ガイダンス 3. 自己紹介、ＭＬづくり 4. 大学と高校の違い、スタディスキルズとは 5. ノート・テイキング 6. リーディングの基本スキル 7. より深いリーディングのために 8. 文を読んで要約する 9. 図書館ガイダンス ※日程は前後する可能性あり 10. 作文とレポートの違いとは 11. アカデミック・ライティングの基本スキル① 12. アカデミック・ライティングの基本スキル② 13. 引用ルール① 14. 引用ルール② 15. 全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
学習技術研究会『知へのステップ 改訂版』くろしお出版 ※DUO 等で各自で購入して下さい。	出席点（40%）、提出物（60%）、受講態度（±α）

09 年度以降	基礎演習　II	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の基礎演習では，グループ・ワークによるレジメ作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより学習を進めていきます。とりあげる題材は、社会・文化のトランスナショナル化に関するものとし、１年間の学習の総括とします。	1. 授業の進め方について 2. 専門文献を読んでレジメにまとめる① 3. 専門文献を読んでレジメにまとめる② 4. 専門文献を読んでレジメにまとめる③ 5. 専門文献を読んでレジメにまとめる④ 6. 専門文献を読んでレジメにまとめる⑤ 7. 質問を考える、問いをたてるということ 8. プレゼン資料を作成し口頭で発表する① 9. プレゼン資料を作成し口頭で発表する② 10. プレゼン資料を作成し口頭で発表する③ 11. プレゼン資料を作成し口頭で発表する④ 12. プレゼン資料を作成し口頭で発表する⑤ 13. プレゼン資料を作成し口頭で発表する⑥ 14. 留学について、キャリア形成について 15. 全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
学習技術研究会『知へのステップ 改訂版』くろしお出版 ※DUO 等で各自で購入して下さい。	出席点（40%）、提出物（60%）、受講態度（±α）

09 年度以降	基礎演習　I	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　交流文化学科 1 年生のゼミ形式の必修科目です。大学ではどのように勉強したらよいかを、実際に自分でテーマを探し、それについて調べ、自分自身の考えをまとめて発表し、他の学生と討論することにより学んでいく授業です。基本的なアカデミック・スキル(大学で学ぶ技能)を身につけ、プレゼンテーションの仕方やレポートの書き方の基本について学び、実習するのが、この授業の目的です。 講義概要 　まず、基本的なアカデミック・スキル(Study Skills)について学びます。次に、毎週、課題文献を読み、レジュメを作成し、グループで順番にプレゼンテーションをしてもらいます。質疑応答のあと、プレゼンに対してのリアクション・ペーパーを作成、提出してもらいます。最後に、レポートの書き方について解説し、プレゼンをしたテーマに関係するレポートを書いて提出してもらいます。	1. クラスガイダンス(1): 春学期の授業計画他 2. クラスガイダンス(2): クラスメートを知る 3. クラスガイダンス(3): クラスメートを紹介する 4. スタディ・スキルズ (1) 5. スタディ・スキルズ (2) 6. スタディ・スキルズ (3) 7. 文献を読み、レジュメを作成、発表する(1) 8. 文献を読み、レジュメを作成、発表する(2) 9. 文献を読み、レジュメを作成、発表する(3) 10. 文献を読み、レジュメを作成、発表する(4) 11. 文献を読み、レジュメを作成、発表する(5) 12. アカデミック・ライティングの基本(1) 13. アカデミック・ライティングの基本(2) 14. 引用の仕方(1) 15. 引用の仕方(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：未定 参考文献：授業で随時紹介	授業参加度、複数回提出の課題、最終レポートをもとに総合的に評価します。4 回以上欠席すると、単位取得資格を失います。遅刻は、2 回で欠席 1 回扱いとします。

09 年度以降	基礎演習　II	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「基礎演習　I」の継続です。交流文化やツーリズムに関するトピックをグループや個人で調査・研究して、それらをクラスメートの前で発表し、さらにそれらについて討論をすることを通じて、学問への取り組み方を身につけていきます。 講義概要 　各自が、交流文化やツーリズムに関するテーマを選び、プレゼンテーションをしてもらいます。発表者以外は、毎週のプレゼンに対するリアクション・ペーパーを提出してもらいます。そして、学期末に、各自が、プレゼンテーションを発展させたレポートを作成し、提出します。	1. プレゼンのオリエンテーション 2-14. 個人プレゼンテーション(毎週 2 名程度)とリアクション・ペーパーの提出 15. まとめとレポートについて
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：未定 参考文献：授業で随時紹介	授業参加度、複数回提出の課題、最終レポートをもとに総合的に評価します。4 回以上欠席すると、単位取得資格を失います。遅刻は、2 回で欠席 1 回扱いとします。

09 年度以降	基礎演習　I	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本演習は、1. グループ・ワークによる小研究（＝実践的な学習）を通じて、大学で勉強・研究するための基礎的な考え・技法を身につけること、2. グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況のなかでの文化の動態について学問的に分析する能力を養うこと、を目的としている。 本演習ではまず、担当者が数回、文献資料収集やフィールドワーク技法、プレゼンテーション技法、レポート作成法等について講義を行なう。そしてこの講義をふまえた上で、後半はグループごとに指定した課題に関する小研究を行なってもらう。 小研究で扱うトピックは多岐にわたるが、現在のところ「世界の食文化」「世界の観光事情」「身近なものから考えるグローバリゼーション」などを予定している。小研究のトピックは、受講生の関心・能力等によって変更する可能性がある。詳細については、初回授業で説明する。 また週末や夏季休業等を利用した課外授業を実施することもある（実費負担）。	1. 全体ガイダンス 2. 個別趣旨説明・自己紹介・グループ分け 3. 講義 2：研究とは何か 4. 講義 3：文献資料収集の作法 5. 講義 4：文献資料の読解・引用の流儀 6. 講義 5：フィールドワークの技法 7. 講義 6：プレゼンテーション・レポート作成技法 8~10 回：グループワークによる小研究 11~15 回：小研究の成果発表 （授業計画はあくまで目安ですので、変更になる可能性があります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤望ほか（編）2006『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会	小レポート・小研究の成果発表（50%）、学期末レポート（50%）。ただし、4 回以上欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	基礎演習　II	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、グループごとの小研究・プレゼンテーションを毎回行なう。 自分で調べたことをクラスメートの前で発表し、議論することを通じて、大学で勉強する際に必要なアカデミック・スキルを磨くと同時に、研究を行なうための感性や想像力を養う。	1. ガイダンス 2ー14 回　プレゼンテーション 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
韓敬九・桑山敬己 2008『グローバル化時代をいかに生きるか』平凡社	小レポート・小研究の成果発表（50%）、学期末レポート（50%）。ただし、3 回以上欠席の者は特段の理由がない限り、単位認定の資格を失う。

09 年度以降	基礎演習　I	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
大学での「学び」と何でしょうか。それは高校とは違い、学生の自発的、積極的な取り組みが求められるものです。大学生は、ただ教師から与えられ、教えられる知識、そしてそれをもとに出来上がっている世界を盲目的に受け入れるのではなく、それらを「批判的」に受け止める姿勢を持つことが大切です。 そして大学での「学び」を通じて（その「学び」がなんであれ）、これまで当たり前だ、常識だと教えられてきた世界に疑問を持ち、真実とは何かを見極める力を身につけて欲しいと思っています。大学での「学び」を通じて獲得した能力や姿勢は、卒業後の人生にとっても大いに役立つものです。 授業では、前半では教員の用意する資料を使用しながら、大学で講義を聞くこと、疑問に思うこと、調べること、読むこと、考えをまとめること、書くこと、発表することとは何かを理解し、後半ではテキストの輪読と発表・討論を通じて、前半で学んだことを実践に移します。この授業を通じて、これから３ないし４年間の大学生活が、少しでも有意義なものとなるように願っています。 なお 4 月、5 月、6 月、7 月にそれぞれ課題を設定し、レポートの提出を義務づけます。	1．ガイダンスーこの授業の進め方に関するオリエンテーション（第１週） 2．配付資料についての講義と討論（第 2～第 5 週） 3．テキストの内容（第 1ー第 8 章）についてのグループ・プレゼンテーション（第 6ー14 週） ＊テキストの内容をまとめ、疑問に思った点、重要だと思われる点をいくつか取り上げて、それについて自分たちで調べた結果を報告します。レジメ（Ａ３用紙 1 枚程度）を用意します。発表時間はおよそ 40 分とします。その後の質疑応答も、発表者が司会進行を務めます。 4．まとめと秋学期にむけたガイダンス（第 15 週）
テキスト、参考文献	**評価方法**
高柳先男『戦争を知るための平和学入門』筑摩書房、2000 年。	出欠（30%）、課題の提出状況（40%）、プレゼンテーション（30%）とします。３回以上欠席した場合には、単位取得の権利を失います。また、遅刻は２回で欠席１回に相当します。

09 年度以降	基礎演習　II	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、春学期に学んだことをもとにより実践に近い形で授業を進めます。自ら問題提起を行い、それについて調査し、結果を口頭で発表し、最終的に文章にしたためます。大学生としてふさわしい一連の知的作業を行います。	1．秋学期のオリエンテーション（第１週） 2．個人によるプレゼンテーション（第 2～14 週） ＊１週あたり 2 人の発表を予定しています。 ＊1 人につき約 20 分のプレゼン（レジメ[A３用紙 1 枚程度]を用意）と約 10 分の質疑応答を行い、その後リアクションペーパーを書く時間を設けます。 3．まとめー最終レポートについて（第 15 週） 【注意事項】 第 2ー14 週の個人発表終了後には、発表担当者を除く全学生に対して<u>リアクションペーパーの提出</u>を求めます。発表を受けて自分が考えたこと、疑問に思ったことなどを出来る限り詳しく書くこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にテキストは指定しません。参考文献については授業の中で紹介します。	Presentation（20%）、リアクションペーパー（20%）、出欠（20%）、最終レポート（40%）で成績評価を行います。３回以上欠席した場合には、単位取得の権利を失います。また、遅刻は２回で欠席１回に相当します。

09 年度以降	基礎演習　I	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・内容：社会的・文化的コミュニケーションの概念を理解し、コミュニケーション・リテラシーを身につける。 ・概要： ① コミュニケーション・プロセスにおける構成要素とその連鎖 ② 言語・非言語コミュニケーション ③ コミュニケーション理論の応用	1．プロローグ：講義概要説明 2．コミュニケーション・モデル：その１ 3．コミュニケーション・モデル：その２ 4．コミュニケーション・モデル：その３ 5．言語と非言語：その１ 6．言語と非言語：その２ 7．言語と非言語：その３ 8．マズローの三角形 9．ジョハリの窓 10. イノベーションの普及過程 11. グループ討議 12. グループ・プレゼンテーション 13. グループ・プレゼンテーション 14. グループ・プレゼンテーション 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：担当者がハンドアウトを用意する。 参考文献：その都度明示する。	出席回数／個人レポート／筆記試験による・ 詳細は開講時に明示する。

09 年度以降	基礎演習　II	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・内容：レポート、論文の書き方を理解する。 概要：テキストに沿って進める。	1．プロローグ：講義概要説明 2．テキスト第１章 3．以下毎週１章ずつ 4． 5． 6． 7． 8． 9． 10. 11. 12. 13. 14. 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『よくわかる卒論の書き方』 参考文献：その都度明示する。	出席回数／個人プレゼンおよびレポート 詳細は開講時に明示する。

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	上野 直子・ 小林 愛明・前沢 浩子

講義目的、講義概要	授業計画
世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。三名の講師が、それぞれの切り口でテーマを設定し、そのテーマのもとに、文学の作られ方、読み方について、連続講義を行う。様々に異なるアプローチをもつ文学批評や、その用語も紹介する。 三つのテーマと講義内容の概略は以下のとおりである。 １－５回「文学とメディア」では、イギリス近現代において、劇場、印刷物、映画、インターネットなど、媒体（メディア）の変化がどのように文学ジャンルの成立や変容に影響を与えてきたかを考える。文学の生産と受容とを、近代英語の成立時から 21 世紀までを包括的に検討したうえで、６－10 回「共鳴と違和、そしてもうひとつの」では、読者が置かれた政治的・歴史的状況によって、同じテキストがどのように異なる意味を持つのかに注目する。また、英国中心に進められてきた講義は、ここでより大きな英語圏へと開かれる。11-15 回「理想と現実、アメリカの光と陰」では、文学（詩）とロック・ミュージックをテキストにしながら、アメリカの過去と現在が抱える問題を検証する。	＜文学とメディア＞　担当：前沢 第１回:文学とメディア 第２回：劇場と大衆文化の成立 第３回：印刷文化と近代英語の成立 第４回：イギリス映画の衰退と復活 第５回：デジタル・テクノロジーと文学 ＜共感と違和、そしてもうひとつの物語＞　担当：上野 第６回：世紀をこえるベストセラー*Jane Eyre(*の魅力 第７回：フェミニズム批評と *Jane Eyre* 第８回：ポストコロニアル批評と *Jane Eyre* 第９回：もうひとつの物語　*Wide Sargasso Sea* 第 10 回：ディアスポラと言葉という故郷 ＜理想と現実、アメリカの光と影＞　担当：小林 第 11 回：Bob Dylan の "With God on Our Side" からみるアメリカの歴史 第 12 回：アメリカ先住民の世界観 第 13 回：詩集 *Leaves of Grass* にみる民主主義 第 14 回：Billy Joel の"Goodnight Saigon"にみるベトナム戦争 第 15 回：Bioregionalim からみるアメリカ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。	定期試験による。詳細は開講時に説明する。

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	上野 直子・ 小林 愛明・前沢 浩子

講義目的、講義概要	授業計画
世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。三名の講師が、それぞれの切り口でテーマを設定し、そのテーマのもとに、文学の作られ方、読み方について、連続講義を行う。様々に異なるアプローチをもつ文学批評や、その用語も紹介する。 三つのテーマと講義内容の概略は以下のとおりである。 １－５回「文学とメディア」では、イギリス近現代において、劇場、印刷物、映画、インターネットなど、媒体（メディア）の変化がどのように文学ジャンルの成立や変容に影響を与えてきたかを考える。文学の生産と受容とを、近代英語の成立時から 21 世紀までを包括的に検討したうえで、６－10 回「共鳴と違和、そしてもうひとつの」では、読者が置かれた政治的・歴史的状況によって、同じテキストがどのように異なる意味を持つのかに注目する。また、英国中心に進められてきた講義は、ここでより大きな英語圏へと開かれる。11-15 回「理想と現実、アメリカの光と陰」では、文学（詩）とロック・ミュージックをテキストにしながら、アメリカの過去と現在が抱える問題を検証する。	＜文学とメディア＞　担当：前沢 第１回:文学とメディア 第２回：劇場と大衆文化の成立 第３回：印刷文化と近代英語の成立 第４回：イギリス映画の衰退と復活 第５回：デジタル・テクノロジーと文学 ＜共感と違和、そしてもうひとつの物語＞　担当：上野 第６回：世紀をこえるベストセラー*Jane Eyre(*の魅力 第７回：フェミニズム批評と *Jane Eyre* 第８回：ポストコロニアル批評と *Jane Eyre* 第９回：もうひとつの物語　*Wide Sargasso Sea* 第 10 回：ディアスポラと言葉という故郷 ＜理想と現実、アメリカの光と影＞担当：小林 第 11 回：Bob Dylan の "With God on Our Side" からみるアメリカの歴史 第 12 回：アメリカ先住民の世界観 第 13 回：詩集 *Leaves of Grass* にみる民主主義 第 14 回：Billy Joel の"Goodnight Saigon"にみるベトナム戦争 第 15 回：Bioregionalim からみるアメリカ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。	定期試験による。詳細は開講時に説明する。

09 年度以降	英語の世界　I	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 英語学(English linguistics)の学問研究から得られた英語についての知見を紹介することを通じ、高校時代までに習ってきた英語の知識（単語の意味・イントネーション・語法・構文）のうちで間違って習った点を正しながら、さらに一歩掘り下げ、正しい知識であっても、なぜそのように言えて別の言い方ができないのかということを中心に解説します。したがってこの講義を受講すると、例えば、高校時代に楽器には定冠詞を付けて play the guitar と言わなければならないと教わりますが、冠詞を付けなくとも、あるいは a と the のどちらを付けてもよく、ただ単にギターという楽器にたいする意味づけの仕方が異なるだけであるということがわかるようになります。 [概要] 右の授業計画に沿い、高校時代までに学習してきた英語の知識にたいし、「どうしてそう言えてもこうは言えないのか？」という素朴な疑問に対し、現代言語学の観点からその成果を踏まえて説明することを試みます。 なお、履修に当たっての注意は、下の（秋）のシラバスの★のところを読んで下さい。	1. 和訳は英語をわからなくする 2. コミュニケーションに必要な文法とは？ 3. 日常言語の中の比喩 4. 多義語の意味も比喩によってつながる 5. 続き 6. 英語の基本構造（自動詞/他動詞構文・受動態の意味） 7. 続き（have と be のイメージ･二重目的語構文） 8. 英語の情報構造 9. a と the の使い方 10. 名詞の２つの用法―可算･不可算の区別はあるの？ 11. 時制の表現法―未来時制はあるの？ 12. 単純･進行・完了相の概念 13. 過去形と丁寧表現 14. 否定の意味 15. 前置詞の意味 ※ 上のトピックに多少の変更を加える場合は、第 1 回目の授業で提示します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： ①今井隆夫『イメージで捉える感覚英文法』開拓社 ②講義支援ポータルサイトで配布するプリント	最終成績は平常テストと課題が 4 割～5 割を占め、定期試験が 5 割～6 割を占めます。なお、平常の成績が一定基準を満たさないと定期試験が受験できない場合があります。

09 年度以降	英語の世界　I	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的と概要は春学期と同じです。 この授業は単位を取るのが難しいと言われていますが、予習･復習をしていればそのようなことはありません。 参考のために、単位を落とす人の学習態度傾向を以下に示しておきます。 ★授業当日までにテキスト（とプリント）に目を通し、例文の意味を調べず、授業後も復習をしない。 ★欠席しがちで、出席しても集中して聴かない。 ★講義内容でわからないところを（メール等で）質問せず、ほったらかしておく。 ★英語の知識を身につけたいという意欲があまりない。 要するに、学習の基本的態度さえ身についていれば容易に単位をとることができるということです。	1. 和訳は英語をわからなくする 2. コミュニケーションに必要な文法とは？ 3. 日常言語の中の比喩 4. 多義語の意味も比喩によってつながる 5. 続き 6. 英語の基本構造（自動詞/他動詞構文・受動態の意味） 7. 続き（have と be のイメージ･二重目的語構文） 8. 英語の情報構造 9. a と the の使い方 10. 名詞の２つの用法―可算･不可算の区別はあるの？ 11. 時制の表現法―未来時制はあるの？ 12. 単純･進行・完了相の概念 13. 過去形と丁寧表現 14. 否定の意味 15. 前置詞の意味 ※ 上のトピックに多少の変更を加える場合は、第 1 回目の授業で提示します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： ①今井隆夫『イメージで捉える感覚英文法』開拓社 ②講義支援ポータルサイトで配布するプリント	最終成績は平常テストと課題が 4 割～5 割を占め、定期試験が 5 割～6 割を占めます。なお、平常の成績が一定基準を満たさないと定期試験が受験できない場合があります。

09 年度以降	English for Business Ⅰ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
初学者を対象に、Writing、Reading を問わずビジネス場面における基礎レベルの英語運用能力を幅広く習得し、上級科目である「Business Writing」、「英語ビジネス・コミュニケーション」、「英語ビジネス・コミュニケーション実務」等を履修するための予備的な実力を養成します。 Writing では、**プリント教材**を利用し、単語レベルから単文作成、文書の構築まで学習していきます。同時に、**英文ビジネス・メール**の中でよく使用される**独特な英語表現**を勉強し、実践的な学習となるよう指導していきます。 Reading では、英字新聞などに使用されているビジネスに関する基本的な語彙と語彙の説明や経済英語独特の表現を学んでいきます。例えば、英字新聞によく使用される単語である失業率（unemployment rate/ jobless rate）、貿易黒字（trade surplus）、買収する（acquire）、最高経営責任者（CEO）などの語彙を学んで、英字新聞ビジネス記事の基本的な読み方を学習すると同時に、Writing と関連させ、総合的なビジネス英語の基本を学んでいきます。	各担当教員が第 1 回目の授業で提示する。
テキスト	**評価方法**
(1)Writing：プリント使用 (2) Reading：プリント使用	各担当者が第 1 回目の授業で説明する。

09 年度以降	English for Business Ⅱ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
Writing では、「English for Business I」で用いた**プリント教材**を引き続き用い、**英文ビジネス・メール**の作成を中心とした、実践的な学習をしていきます。 Reading では、「English for Business I」同様、英字新聞などいろいろな種類のビジネスに関係する記事を読み、Reading 能力の向上を図っていきます。また、Writing と関連させ、総合的なビジネス英語の基本を学んでいきます。	各担当教員が第 1 回目の授業で提示する。
テキスト	**評価方法**
(1)Writing:プリント使用 (2) Reading：プリント使用	各担当者が第 1 回目の授業で説明する。

09 年度以降	Listening & Speaking（火１）	担当者	Ｐ．ドーレ

講義目的、講義概要	授業計画
Listening and speaking go hand-in-hand. Speaking helps improve your listening, and listening helps you to build your vocabulary for speaking. In this class, you will talk about the various topics you are introduced to through listening. We will use the internet a lot to give you a chance to hear authentic texts. (N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)	1. Orientation 2. Introduction to topic issues, concepts, and vocabulary. 3. Listening strategies I. 4. Listening I. and discussion 5. Discussion strategies I. 6. Listening II. and discussion 7. Continuation and review of Listening II. 8. Listening strategies II. 9. Listening III. and discussion 10. Discussion strategies II. 11. Listening IV. and discussion 12. Continuation and review of Listening IV. 13. In-class review of content 14. In-class peer assessment and review 15. Final listening and discussion
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced in class	Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®（火１）	担当者	Ｐ．ドーレ

講義目的、講義概要	授業計画
In this class you will have the chance to do a lot of TOEIC and TOEFL listening practice. There will also be chance to listen to other real English from authentic programmes. You will also get the opportunity to discuss the different listening strategies and decide which strategies are the most helpful for you.	1. Orientation 2. Introduction to TOEIC, TOEFL and other websites. Homework I 3. Practice TOEIC test and listening strategy discussion. Review homework I 4. Practice TOEFL test and listening strategy discussion. Review homework II 5. Practice OTHER format listening test and listening strategy discussion. Review homework III 6. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper I. 7. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper II. 8. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper III. 9. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper IV. 10. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. 11. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. 12. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests 13. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests 14. In-class review of listening strategies. 15. Final in-class listening tests.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced in class	Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.

09 年度以降	Listening & Speaking（火２）	担当者	Ｐ．ドーレ

講義目的、講義概要	授業計画
Listening and speaking go hand-in-hand. Speaking helps improve your listening, and listening helps you to build your vocabulary for speaking. In this class, you will talk about the various topics you are introduced to through listening. We will use the internet a lot to give you a chance to hear authentic texts. (N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)	1. Orientation 2. Introduction to topic issues, concepts, and vocabulary. 3. Listening strategies I. 4. Listening I. and discussion 5. Discussion strategies I. 6. Listening II. and discussion 7. Continuation and review of Listening II. 8. Listening strategies II. 9. Listening III. and discussion 10. Discussion strategies II. 11. Listening IV. and discussion 12. Continuation and review of Listening IV. 13. In-class review of content 14. In-class peer assessment and review 15. Final listening and discussion
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced in class	Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®（火２）	担当者	Ｐ．ドーレ

講義目的、講義概要	授業計画
In this class you will have the chance to do a lot of TOEIC and TOEFL listening practice. There will also be chance to listen to other real English from authentic programmes. You will also get the opportunity to discuss the different listening strategies and decide which strategies are the most helpful for you.	1. Orientation 2. Introduction to TOEIC, TOEFL and other websites. Homework I 3. Practice TOEIC test and listening strategy discussion. Review homework I 4. Practice TOEFL test and listening strategy discussion. Review homework II 5. Practice OTHER format listening test and listening strategy discussion. Review homework III 6. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper I. 7. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper II. 8. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper III. 9. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper IV. 10. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. 11. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. 12. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests 13. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests 14. In-class review of listening strategies. 15. Final in-class listening tests.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced in class	Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.

09 年度以降	Listening & Speaking（火１）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
英語の音の本質を理解し、日本語の特質との違いを把握させることを主眼とする。 歌には言語の特質が端的に現れる。歌詞と曲を集中的に学ぶことは英語の音の特質を把握する効果的方法の一つである。本授業ではよく知られた歌を取り上げ英語のリズムの特徴を理解し、さらに再現できることを目指す。	1.Orientation 2.Lesson 1 3.Lesson 2 4.Lesson 3 5.Lesson 4 6.Lesson 5 7.Lesson 6 8.Lesson 7 9.Lesson 8 10.Lesson 9 11.Lesson 10 12.Lesson 11 13.Lesson 12 14.Lesson 13 15.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hot Beat Listening Book　3 Macmillan Languagehouse	定期試験と課題および授業における参加度による。

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®（火１）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的 Listening の訓練を行い TOEIC® 及び TOEFL®等の試験に対応できるよう配慮する。	1. Orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 3 5. Lesson 4 6. Lesson 5 7. Lesson 6 8. Lesson 7 9. Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 13 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『TOEIC®　テスト　新公式問題集　VOL1』 国際ビジネスコミュニケーション協会	定期試験と課題、および授業における参加度による。

09 年度以降	Listening & Speaking（火３）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
英語の音の本質を理解し、日本語の特質との違いを把握させることを主眼とする。 歌には言語の特質が端的に現れる。歌詞と曲を集中的に学ぶことは英語の音の特質を把握する効果的方法の一つである。本授業ではよく知られた歌を取り上げ英語のリズムの特徴を理解し、さらに再現できることを目指す。	1.Orientation 2.Lesson 1 3.Lesson 2 4.Lesson 3 5.Lesson 4 6.Lesson 5 7.Lesson 6 8.Lesson 7 9.Lesson 8 10.Lesson 9 11.Lesson 10 12.Lesson 11 13.Lesson 12 14.Lesson 13 15.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hot Beat Listening Book　3 Macmillan Languagehouse	定期試験と課題および授業における参加度による。

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®（火３）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的 Listening の訓練を行い TOEIC® 及び TOEFL®等の試験に対応できるよう配慮する。	1. Orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 3 5. Lesson 4 6. Lesson 5 7. Lesson 6 8. Lesson 7 9. Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 13 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『TOEIC®　テスト　新公式問題集　VOL1』 国際ビジネスコミュニケーション協会	定期試験と課題、および授業における参加度による。

09 年度以降	Listening & Speaking（木１）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
英語の音の本質を理解し、日本語の特質との違いを把握させることを主眼とする。 歌には言語の特質が端的に現れる。歌詞と曲を集中的に学ぶことは英語の音の特質を把握する効果的方法の一つである。本授業ではよく知られた歌を取り上げ英語のリズムの特徴を理解し、さらに再現できることを目指す。	1.Orientation 2.Lesson 1 3.Lesson 2 4.Lesson 3 5.Lesson 4 6.Lesson 5 7.Lesson 6 8.Lesson 7 9.Lesson 8 10.Lesson 9 11.Lesson 10 12.Lesson 11 13.Lesson 12 14.Lesson 13 15.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hot Beat Listening Book　3 Macmillan Languagehouse	定期試験と課題および授業における参加度による。

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®（木１）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的 Listening の訓練を行い TOEIC® 及び TOEFL®等の試験に対応できるよう配慮する。	1. Orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 3 5. Lesson 4 6. Lesson 5 7. Lesson 6 8. Lesson 7 9. Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 13 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『TOEIC®　テスト　新公式問題集　VOL1』 国際ビジネスコミュニケーション協会	定期試験と課題、および授業における参加度による。

09 年度以降	Grammar for TOEFL® & TOEIC® Ⅰ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英語の語法と文法の知識を身につけてもらうことである。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから学習し始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語ということばの規則性を探っていく習慣を身につけていく方法が、結局は効率の良い英語の学習方法であるということがわかるようになる。この授業では、テキストを基にした講義から、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたい。 なお、この授業は「英語の世界Ⅰ」と密接な関係にあるので、そちらも欠かさず出席し、この授業同様、予習・復習を怠ることのないようにしてほしい。	1. 現在と過去のコト 2. 未来のコト 3. 動詞で語るコト 4. 続き 5. 話し手の態度の表現（助動詞） 6. 続き（助動詞の過去形、副詞・形容詞） 7. 続き（助動詞の関連表現） 8. 表に出ない行為者（能動文と受動文） 9. 続き 10. HAVE, BE, ING のちから 11. 続き 12. 動詞の共演者と構文タイプ 13. 続き 14. 続き 15. 続き
テキスト、参考文献	**評価方法**
田中茂範『NHK 新感覚☆わかる使える英文法　文法がわかれば英語はわかる！』日本放送出版協会	定期試験、課題、オンライン学習の成果および授業における参加度による。（オンライン学習の成果が最終成績に占める割合は授業で説明される。）

09 年度以降	Grammar for TOEFL® & TOEIC® Ⅱ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
表現する主体（話し手もしくは書き手）と文法とはけして無関係ではないという立場から、表現の主体を中心に据えて英文法を考える。そして、表現主体が周りの世界をいかに描写するかという観点から英文法を見ると、ある事態を表現するのに「なぜそうは言えてもこうは言えないのか？」ということには意味的な動機付けのあることに気づく。したがって、文法がわかるということはその意味的動機付けの仕組がわかるということであり、それはとりもなおさず「なぜそうは言えてもこうは言えないのか」という説明ができるようになるということである。そうなると、英文法学習というのは暗記力の良し悪しの問題ではなくなり、「なるほど？」と納得しながら学ぶものであることがわかるようになり、現在完了形と過去形の使い分け、a と the の使い分け、あるいは‘I'm standing on/in the street.’の前置詞の使い分けもできるようになってくる。	1. 形容詞を中心とした構文 2. 動詞の文法の総括 3. モノ（名詞）の文法 4. 続き 5. 修飾語とその配列順 6. あとから言い足していく語り方（後置修飾） 7. 続き 8. 代名詞と指示詞、そして名詞節 9. 続き 10. 副詞で状況を語る 11. 続き 12. さまざまな副詞表現 13. 仮想の状況を設定する 14. 情報の接続と論理 15. 続き
テキスト、参考文献	**評価方法**
田中茂範『NHK 新感覚☆わかる使える英文法　文法がわかれば英語はわかる！』日本放送出版協会	定期試験、課題、オンライン学習の成果および授業における参加度による。（オンライン学習の成果が最終成績に占める割合は授業で説明される。）

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
本授業の主たる目的は、英語の基礎的な読解力をしっかりと身につけることであり、英文を「ていねいに訳す」のではなく、「内容を把握する」ことを念頭に置いて授業を進めます。同時に英語の語彙を増やしながら、日本語を介さず英語で理解し、英語で考える能力を養い、諸外国の社会や文化を理解する力をつけてもらいます。 毎回の授業では、国際情勢・時事問題に関する英文を輪読し、要約・キーワードの確認などを通して内容理解を深め、その後、クラス全体で内容に関するディスカッションを行います。 また適宜、受講者全員にテキストの部分訳を課題として提出してもらいます。	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：英文の講読およびディスカッション① 第 3 回：英文の講読およびディスカッション② 第 4 回：英文の講読およびディスカッション③ 第 5 回：英文の講読およびディスカッション④ 第 6 回：英文の講読およびディスカッション⑤ 第 7 回：英文の講読およびディスカッション⑥ 第 8 回：英文の講読およびディスカッション⑦ 第 9 回：英文の講読およびディスカッション⑧ 第 10 回：英文の講読およびディスカッション⑨ 第 11 回：英文の講読およびディスカッション⑩ 第 12 回：英文の講読およびディスカッション⑪ 第 13 回：英文の講読およびディスカッション⑫ 第 14 回：英文の講読およびディスカッション⑬ 第 15 回：授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
使用テキストは、受講者の英語能力などを勘案して決定します。	出席率、授業への貢献度、課題（もしくは試験）を基に評価します。詳細に関しては、初回の授業で説明します。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は、上記の Reading Strategies Ⅰ と同様ですが、クオリティの高い英文を読むことを通じて、春学期で習得した能力をより一層向上させることを目指します。 毎回の授業では、国際情勢・時事問題に関する英文を輪読し、トピックセンテンスの和訳、パラグラフの要約、キーワードの抽出などを通して、内容の理解を深め、その後、クラス全体で内容に関するディスカッションを行います。 また適宜、受講者全員にテキストの部分訳を課題として提出してもらいます。	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：英文の講読およびディスカッション① 第 3 回：英文の講読およびディスカッション② 第 4 回：英文の講読およびディスカッション③ 第 5 回：英文の講読およびディスカッション④ 第 6 回：英文の講読およびディスカッション⑤ 第 7 回：英文の講読およびディスカッション⑥ 第 8 回：英文の講読およびディスカッション⑦ 第 9 回：英文の講読およびディスカッション⑧ 第 10 回：英文の講読およびディスカッション⑨ 第 11 回：英文の講読およびディスカッション⑩ 第 12 回：英文の講読およびディスカッション⑪ 第 13 回：英文の講読およびディスカッション⑫ 第 14 回：英文の講読およびディスカッション⑬ 第 15 回：授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
使用テキストは、受講者の英語能力などを勘案して決定します。	出席率、授業への貢献度、課題（もしくは試験）を基に評価します。詳細に関しては、初回の授業で説明します。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標： 英語の語彙を増やしながら、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。 授業概要： 短編小説を中心に、毎週、予定された範囲を予習してきてもらい、パラグラフごとに英語や日本語で要約したり、精読が必要な箇所は、和訳してもらいます。 また Web 上の AFP World Academic Archive を利用して、時事英語にも、触れます。AFP ニュースのプレゼンやミニ・レポートを課しますので、リアルタイムに世界で今、何が起こっているか、関心を持ってもらいたいと思います。 時間の許す限り、RL R 練習(Read, Look Up, and Repeat: テキストの英文を声を出して読み、一つの文章を読むごとに、テキストから目を離して、その文章をリピートする練習)を用いて、英語の総合力アップも図りたいと思います。	1. 授業のやり方、評価方法などの説明、RLR 練習の実習など 2. 約 2 ページから 5 ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 3-15. 同上。随時、Web 上の AFP World Academic Archive のニュースについても学習する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:　プリントを使用の予定 参考文献:　授業で随時紹介	授業参加度、ミニ・テスト、ミニ・レポート、プレゼン、定期試験の結果を総合的に評価する。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標： “Reading Strategies I”に引き続き、英語の語彙力をつけながら、直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。“Reading Strategies I”で身につけた基礎的な読解技能を定着させ、発展させる。 授業概要： 春学期の該当箇所を参照してください。	1. 約 2 ページから 5 ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 2-15. 同上。随時、Web 上の課外読み物を扱う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:　プリントを使用の予定 参考文献:　授業で随時紹介	授業参加度、ミニ・テスト、ミニ・レポート、プレゼン、定期試験の結果を総合的に評価する。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は，英語の語彙を増やし，かつ日本や外国の文化を理解する力を付けるとともに，正確に英語を理解するための基礎的な読解技能を習得することである． 授業は，予習がなされていることを前提に進める．この段階で必ず音読まで出来るようにしておくことが重要である．テキスト本文の理解については，授業中に学生の発表によって確認する．また，読解技能や文法事項の確認に関しては，授業担当者が講義または質疑応答を行なう． テキストの内容は，国際政治，資源環境問題，雇用と会社文化，教育，科学の分野で日本と外国の関係を報じた英文が取り上げられている．学生諸君は，テキストに書かれている内容にとどまらず，興味・関心に基づいて積極的に図書館などを利用し，さまざまな情報を調べて授業に臨んでもらいたい． また，この授業では，毎回宿題が出され，単語テストを行う．	1.　Course Orientation 2.　読解技法について 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 最初の授業で，テキストの中から学生が特に興味や関心のある 12 units を選んでもらいます．それらを順次進めていきます． 15.　春学期のまとめ ※ 理解度等により，授業進度が変わることもあります．
テキスト、参考文献	**評価方法**
1）渡辺英樹，小塚良孝（2012）『Reading the New York Times – Look at Japan, Look at the World -』成美堂． 2）　京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社『京大・学術語彙データベース：基本英単語 1110』東京：研究社．	宿題点（10%），単語テスト（20%），期末テスト（60%），平常点（10%）で評価する．詳細については，最初の授業で説明する．

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は，春学期に引き続き英語の語彙を増やし，直読直解の力と，日本や外国の文化を理解する力を付けることである．さらに，フォーマリティーが高い英文を読み，それについて自ら考えたり，表現したりする能力を身に付けることである． 授業は，予習がなされていることを前提に進める．テキスト本文の理解については，授業中に学生同士の質疑応答によって確認する．また，読解技能や文法事項の確認に関しては，授業担当者が講義または質疑応答を行なう． この授業では，学生の積極的な参加態度が非常に重要になる．英語という言語そのものはもちろんのこと，書かれている内容についても能動的に理解し，思考し，表現する姿勢が求められる．学生諸君の手で活気ある授業にしてもらいたい． また，この授業では，毎回宿題が出され，単語テストを行う．	1. Course Orientation 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 最初の授業で，テキストの中から学生が特に興味や関心のある 13 chapters を選んでもらいます．それらを順次進めていきます． 15. 秋学期のまとめ ※ 理解度により，授業進度が変わることもあります．
テキスト、参考文献	**評価方法**
1）Carl Becker (2012). *Americal and English Ideals* (rev. ed.). 英宝社． 2）　京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社『京大・学術語彙データベース：基本英単語 1110』東京：研究社．	宿題点（10%），単語テスト（20%），期末テスト（60%），平常点（10%）で評価する．

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（金２）	担当者	袈岩(ほろいわ) ナオミ

講義目的、講義概要	授業計画
日本人が英語を学ぶ上で欠かせない基礎体力をつけ、英語の文献を読み取る力を磨く。 １．英語文化圏と日本文化の特徴をつかむ。 ２．実生活で使われる英語表現を学ぶ。 ３．音読をすることにより、生きた英語のリズムを体感し、英文を読む、という行為における呼吸に気づく。	1. Overview and Introduction 2. Total Body Response 3.- 10 ｝reading aloud lecture/ excercises 11-15 Integration / Summer Project Discussion
テキスト、参考文献	**評価方法**
Tba(to be arranged / announced in class)	出席最重要視・期日内課題提出・授業参加を重視 詳細は授業時に提示

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（金２）	担当者	袈岩(ほろいわ) ナオミ

講義目的、講義概要	授業計画
Reading Strategies I の基礎の上に成り立つ。 秋学期には、各自の意訳するセンスを磨きたいと思う。 さらに留学や国際機関での貢献を視野に入れ、 今、世界で展開されている（必ずしもメディアには載らない）さまざまな国際活動の実際に触れながら、生きた情報をつかみ、有効活用していく力を養う。	1. Review of the Summer Projects 2. Discussion on Summer Projects cont. 3-12 Lecture/ exercise / 13-15 Presentations & Integrations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Tba (to be arranged / announced) 開講時に提示	春に同じ ＋ 夏季課題、グループワークなど。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（金３）	担当者	袈岩(ほろいわ) ナオミ

講義目的、講義概要	授業計画
日本人が英語を学ぶ上で欠かせない基礎体力をつけ、英語の文献を読み取る力を磨く。 １．英語文化圏と日本文化の特徴をつかむ。 ２．実生活で使われる英語表現を学ぶ。 ３．音読をすることにより、生きた英語のリズムを体感し、英文を読む、という行為における呼吸に気づく。	1. Overview and Introduction 2. Total Body Response 3.- 10 ｝reading aloud lecture/ excercises 11-15 Integration / Summer Project Discussion
テキスト、参考文献	**評価方法**
Tba(to be arranged / announced in class)	出席最重要視・期日内課題提出・授業参加を重視 詳細は授業時に提示

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（金３）	担当者	袈岩(ほろいわ) ナオミ

講義目的、講義概要	授業計画
Reading Strategies I の基礎の上に成り立つ。 秋学期には、各自の意訳するセンスを磨きたいと思う。 さらに留学や国際機関での貢献を視野に入れ、 今、世界で展開されている（必ずしもメディアには載らない）さまざまな国際活動の実際に触れながら、生きた情報をつかみ、有効活用していく力を養う。	1. Review of the Summer Projects 2. Discussion on Summer Projects cont. 3-12 Lecture/ exercise / 13-15 Presentations & Integrations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Tba (to be arranged / announced) 開講時に提示	春に同じ ＋ 夏季課題、グループワークなど。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their reading skills and further develop their critical thinking skills. The reading material chosen for this class will look at some of the issues that face us today as they appear in print. Students in this class will have the opportunity to learn the different skills to become effective and efficient readers. This includes the abilities to skim and to scam, to improve vocabulary and to synthesize the material read. Students are required to maintain a notebook for this class which will include articles taken from various sources with written summaries	Week 1: Course introduction Week 2: Reading/Vocabulary/Discussion Week 3: Continued; skimming Week 4: Reading/Vocabulary/Discussion Week 5: Continued; scanning Week 6: Reading/Vocabulary/Discussion Week 7: Continued; speed reading Week 8: Reading/Vocabulary/Discussion Week 9: Continued; vocab. acquisition Week 10: Reading/Vocabulary/Discussion Week 11: Continued; graded readers Week 12: Reading/Vocabulary/Discussion Week 13: Continued; graded readers Week 14: Final projects Week 15: Final projects
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printed reading materials will be provided by the instructor	Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their reading skills and further develop critical thinking skills. The reading material chosen for this class will look at some of the issues that face us today as they appear in print. Students in this class will have to the opportunity to learn the different skills to become effective and efficient readers. This includes the abilities to skim and to scam, to improve vocabulary and to synthesize the material read. Students are required to have a notebook for this class which will include articles taken from various sources with written summaries	Week 1: Course introduction Week 2: Reading/Vocabulary/Discussion Week 3: Continued; skimming Week 4: Reading/Vocabulary/Discussion Week 5: Continued; scanning Week 6: Reading/Vocabulary/Discussion Week 7: Continued; speed reading Week 8: Reading/Vocabulary/Discussion Week 9: Continued; vocab. acquisition Week 10: Reading/Vocabulary/Discussion Week 11: Continued; graded readers Week 12: Reading/Vocabulary/Discussion Week 13: Continued; graded readers Week 14: Final projects Week 15: Final projects
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printed reading materials will be provided by the instructor.	Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks.

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（水１）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading : Scanning や Skimming の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 **オンライン学習プログラム：**交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。	第１回 導入 第２回～第 14 回 初回授業にて指示します。 第 15 回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。	出席、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（水１）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading : Scanning や Skimming の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 **オンライン学習プログラム：**交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。	第１回 導入 第２回～第 14 回 初回授業にて指示します。 第 15 回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。	出席、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（水２）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading : Scanning や Skimming の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 **オンライン学習プログラム：**交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。	第１回 導入 第２回～第 14 回 初回授業にて指示します。 第 15 回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。	出席、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（水２）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading : Scanning や Skimming の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 **オンライン学習プログラム：**交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。	第１回 導入 第２回～第 14 回 初回授業にて指示します。 第 15 回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。	出席、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
目標 　英語の語順にしたがってテキストを読み進める読解技能を養い、英語の語彙を増やしながら、速読・精読を通じて英文が伝える意味を正確に理解する力を身につけます。教材はフィクションを用いる予定。 講義概要 　受講生は毎回授業時間にテキストを音読し、内容を訳出して“読む”力をつけていきます。随時討議や発表も行い、全員が積極的に授業に参加するスタイルで内容を完全に理解していきます。 　また交流文化学科のカリキュラムの一環として、総合的な英語力を養成するためのオンライン学習プログラムを課外学習用に採用します。オンライン学習については、初回の授業で説明します。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回から第 14 回 　使用テキストを購読 第 15 回　　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。	出席回数、授業への参加態度、課題とオンライン学習の取り組みを総合的に評価する。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
目標 　英語の語順にしたがってテキストを読み進める能力を強化し、英語の語彙を増やしながら、英文が伝える意味を正確に理解する力を身につけます。文を味わって読むことも目指します。 講義概要 　受講生は毎回授業時間にテキストを音読し、内容を訳出して“読む”力をつけていきます。随時討議や発表も行い、全員が積極的に授業に参加するスタイルで内容を完全に理解していきます。 　また交流文化学科のカリキュラムの一環として、総合的な英語力を養成するためのオンライン学習プログラムを課外学習用に採用します。オンライン学習については、初回の授業で説明します	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回から第 14 回 　使用テキストを購読 第 15 回　　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。	出席回数、授業への参加態度、課題とオンライン学習の取り組みを総合的に評価する。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
毎回読み切りのいろんなトピックを扱った読み物を時間を決め、読んでいく。また、内容の理解を深めるために、いくつかの異なる視点から書かれたサブテキストも用いる。 各週で単語テストを行い、できるだけ語彙を増やすように努めていく。 受講者は授業外で好きな読み物を選び、定期的に授業内で発表していく。	1　session1 2　session2 3　session 3 4　session 4 5　session 5 6　session 6 7　session 7 8　session 8 9　session 9 10　session 10 11　session 11 12　session 12 13　session 13 14　session 14 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回授業時に指示する。	期末試験　60%、小テスト　10%、平常授業における積極的態度（発言、宿題など）30%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
毎回読み切りのいろんなトピックを扱った読み物を時間を決め、読んでいく。また、内容の理解を深めるために、いくつかの異なる視点から書かれたサブテキストも用いる。 各週で単語テストを行い、できるだけ語彙を増やすように努めていく。 受講者は授業外で好きな読み物を選び、定期的に授業内で発表していく。	1　session1 2　session2 3　session 3 4　session 4 5　session 5 6　session 6 7　session 7 8　session 8 9　session 9 10　session 10 11　session 11 12　session 12 13　session 13 14　session 14 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回授業時に指示する。	期末試験　60%、小テスト　10%、平常授業における積極的態度（発言、宿題など）30%

09年度以降	Writing Strategies Ⅰ	担当者	D．マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, I shall aim to help students improve their writing ability, beginning with vocabulary and sentence level activities and progressing to paragraph organization and construction, stressing the function of the paragraph as a building block of more extended texts. Attention will be paid to both accuracy and fluency of expression, and many activities will focus on the interconnection between writing and the other aspects of language learning (listening, speaking and reading). Materials will be selected from various sources, including authentic spoken and written texts, and students will be encouraged to share their writing activities with their classmates both as audience and source of support. Grammatical issues will be covered as the need arises, with special emphasis on students` individual needs and problems specific to most Japanese learners of English.	1. Introductions 2. English alphabet and punctuation 3. Alphabet activities 4. The paragraph. A personal letter 5. letter exchange and response 6. Writing narrative: opening paragraph 7. Writing narrative: closing paragraph 8. Book and movie reviews 9. Students present their own review 10. Free/fast writing 11. Describing pictures and photographs 12. Making paragraphs from comic strips 13. Writing plans for summer vacation 14. Written course review, with suggestions 15. Summer holiday alphabet project
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced	Grading will be based on enthusiasm, performance of language tasks and attendance throughout the course

09年度以降	Writing Strategies Ⅱ	担当者	D．マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	1. Holiday writing activities 2. Paragraph exchange and questions 3. Preparing 300-word paragraph 4. Guided writing of paragraph 5. Advertisements for goods and services 6. Students present their own chosen product 7. Review of grammar 8. Common errors in students` own work 9. Poetry and song lyrics 10. Presentation of student-selected text 11. Gift-giving and receiving letter style 12. Beyond the paragraph 13. Writing about future plans 14. Letter to classmates 15. Survey of course and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced	Grading will be based on enthusiasm, performance of language tasks and attendance throughout the course

09 年度以降	Writing Strategies Ⅰ	担当者	Ｊ．Ａ．グレイ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is concentrated on writing at the sentence level in the first semester and paragraph level in the second semester to promote accuracy in grammar usage. Students will observe and learn how to avoid common grammatical errors produced by second language learners of English. As students begin to write assignments, they will learn to: find ideas for their writing and express them in sentences, logically order sentences to form paragraphs, and strengthen their work through review and revision. On-line, video, and other sources including a text may be used in and outside of class.	1. Course Introduction / Assignment 2. Lesson 1 Assignment 3. Continued… 4. Lesson 2 Assignment 5. Continued… 6. Lesson 3 Assignment 7. Continued… 8. Mid-Term Assignment Due 9. Lesson 4 Assignment 10. Continued… 11. Lesson 5 Assignment 12. Continued… 13. Lesson Assignment 14. End-Term Assignment Due 15. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: To Be Announced	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, participation, homework, and other assignments.

09 年度以降	Writing Strategies Ⅱ	担当者	Ｊ．Ａ．グレイ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is concentrated on writing at the sentence level in the first semester and paragraph level in the second semester to promote accuracy in grammar usage. Students will observe and learn how to avoid common grammatical errors produced by second language learners of English. As students begin to write assignments, they will learn to: find ideas for their writing and express these in sentences, logically order sentences to form paragraphs, and strengthen their work through review and revision. On-line, video, and other sources including a text may be used in and outside of class.	1. Course Introduction / Assignment 2. Lesson 7 Assignment 3. Continued… 4. Lesson 8 Assignment 5. Continued… 6. Lesson 9 Assignment 7. Continued… 8. Mid-Term Assignment Due 9. Lesson 10 Assignment 10. Continued… 11. Lesson 11 Assignment 12. Continued… 13. Lesson 12 Assignment 14. End-Term Assignment Due 15. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: To Be Announced	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, participation, homework, and other assignments.

09 年度以降	Writing Strategies Ⅰ	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to provide a basic introduction to the process of writing with an emphasis on grammatical accuracy. Students will learn various methods of pre-writing and then put their ideas into sentences. In addition, students will gain an awareness of common grammatical problems in writing made by Japanese students.	Week 1: Course Introduction Week 2: Sentence Writing Week 3: Sentence Structure Week 4: Topic Sentences Week 5: Connectors Week 6: Brainstorming Week 7: Combining sentences with adjectives Week 8: Capitalization Week 9: Tenses Week 10: Modals Week 11: Conditional Week 12: Passive Week 13: Assignment Week 14: Assignment & Journals due Week 15: Review & Feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Writing Paragraphs Macmillan	Students will be evaluated on their writing assignments, journals and their classroom participation.

09 年度以降	Writing Strategies Ⅱ	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
Points for further consideration: ● Students will need an English-English dictionary ● Students will be required to make weekly entries for journal writing	Week 1: Review & Freewriting Week 2: Facts & Opinions Week 3: Proofreading & Editing Week 4: Assignment Week 5: Error Analysis & revise writing Week 6: Noun clauses Week 7: Combining sentences with so & because Week 8: Using Time Expressions Week 9: Assignment Week 10: Error Analysis Week 11: Relative Clauses Week 12: Concluding sentences Week 13: Writing a movie review Week 14: Assignment & Journals due Week 15: Review & Feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Writing Paragraphs Macmillan	Students will be evaluated on their writing assignments, journals and their classroom participation.

09 年度以降	Writing Strategies Ⅰ（火２）	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to master basic paragraph structuring to through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reorts on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week 1: Course Introduction Week 2: Beginning to Work Week 3: Giving & Receiving Presents Week 4: A Favourite Place Week 5: An Exceptional Person Week 6: Trends & Fads Week 7: White Lies Week 8: Explanations & Excuses Week 9: Problems Week10:StrangeStories Week 11: Differences Week 12: Difficult Decisions Week 13: Finding Answers Week 14: Course Review Week 15: Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
'Writing Paragraphs' by Dorothy Zemach & Carlos Islam & Dictionary	Attendance & Punctuality 30% Class work & homework 40% Final Evaluation 30%

09 年度以降	Writing Strategies Ⅱ（火２）	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reorts on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted. In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week 1: Process & Pre-Writing Week 2: The Structure of a Paragraph Week 3: The Development of a Paragraph Week 4: Descriptive & Process Paragraphs Week 5: Opinion Paragraphs Week 6: Comparison & Contrast Paragraphs Week 7: Problem/Solution Paragraphs Week 8: The Structure of an Essay Week 9: Outlining an Essay Week10:Introductions&Conclusions Week 11: Unity & Coherence Week 12: Footnotes, References & Citations Week 13: Essays for Examinations Week 14: Course Review Week 15: Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
'Writing Essays" by Dorothy Zemach & Lisa Ghulldu & Dictionary	Attendance & Punctuality 30% Class work & homework 40% Final Evaluation 30%

09 年度以降	Writing Strategies Ⅰ（火３）	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to master basic paragraph structuring to through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reorts on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week 1: Course Introduction Week 2: Beginning to Work Week 3: Giving & Receiving Presents Week 4: A Favourite Place Week 5: An Exceptional Person Week 6: Trends & Fads Week 7: White Lies Week 8: Explanations & Excuses Week 9: Problems Week10:StrangeStories Week 11: Differences Week 12: Difficult Decisions Week 13: Finding Answers Week 14: Course Review Week 15: Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
'Writing Paragraphs' by Dorothy Zemach & Carlos Islam & Dictionary	Attendance & Punctuality 30% Class work & homework 40% Final Evaluation 30%

09 年度以降	Writing Strategies Ⅱ（火３）	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reorts on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted. In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week 1: Process & Pre-Writing Week 2: The Structure of a Paragraph Week 3: The Development of a Paragraph Week 4: Descriptive & Process Paragraphs Week 5: Opinion Paragraphs Week 6: Comparison & Contrast Paragraphs Week 7: Problem/Solution Paragraphs Week 8: The Structure of an Essay Week 9: Outlining an Essay Week10:Introductions&Conclusions Week 11: Unity & Coherence Week 12: Footnotes, References & Citations Week 13: Essays for Examinations Week 14: Course Review Week 15: Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
'Writing Essays" by Dorothy Zemach & Lisa Ghulldu & Dictionary	Attendance & Punctuality 30% Class work & homework 40% Final Evaluation 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
The overall objective of this course is to help you settle into university life by simply communicating with others. You will have maximum opportunities to get to know and befriend fellow classmates through lots of speaking activities grow more confident in interpersonal communication skills learn about basic study skills for effective language acquisition	1 Introduction & Orientation 2 First Impressions 3 Communicative & Cultural Awareness 4 Self-study Guide 5 Written Assignments & MLA Format 6 Asking Questions 7 Topic: Food & Drink 8 Answering 9 Topic: Character & Personality 10 Listening Skills 11 Topic: Feelings 12 Topic: Music 13 Numbers & Counting 14 Topic: Travel 15 Review & Evaluations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set textbook E-J/J-E dictionary required	Minimum two-thirds attendance required to pass Evaluation based upon continuous assessment of class participation and written assignments

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
The overall objective of this course is to have you to continue exploring and developing communication skills through writing for discussions and public speaking reading for discussions making effective presentations	1 Introduction & Orientation 2 Appropriate Topics & Research 3 Highlighting & Outlining 4 Writing 1st Draft, Typing 2nd Draft 5 Error Correction & Editing 6 PowerPoint & Presentation Practice 7 Class Presentations 8 Essay & Presentation Feedback 9 Write: Present: Discuss 10 Write: Present: Discuss 11 Final Presentation Set-up 12 Final Presentation Preparation 13 Final Class Presentations 14 Essay & Presentation Feedback 15 Review & Evaluations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set textbook E-J/J-E dictionary required	Evaluation based upon quality of three written assignments and two presentations

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（月３）	担当者	Ｊ．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.	1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements. 2. Cosmetic surgery: Is there too much emphasis on appearance these days? 3. Can man and woman be close without romance? 4. This session will focus on environmental issues. 5. Teenage life with student presentations. 6. Is plagiarism a crime? 7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues. 8. What are the options for pregnant teenagers? 9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues. 10. How important is appearance in a relationship? 11. Should adult children move out? Quiz on previous issue. 12. Should employees go out with their bosses? 13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues. 14.The changing role of women in society. 15. Explanation of summer homework projects.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title: *Impact Issues 3* Author: Day, Shaules and Yamanaka Publisher: Pearson/Longman	Students will be grade on attendance, classroom participation, homework and tests.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（月３）	担当者	Ｊ．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.	1. Discussion will focus on summer projects. 2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class. 3. Is money more important than life style? 4. Story telling techniques. 5. The problems faced by immigrants. 6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations. 7. Does technology create distance in relationships? 8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue. 9. Career choices. 10. Story telling techniques. 11. When is war justified? 12. The art of compromise. 13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues. 14. Unrequited love. 15.Story telling techniques.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title: *Impact Issues 3* Author: Day, Shaules and Yamanaka Publisher: Pearson/Longman	Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（木３）	担当者	Ｊ．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.	1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements. 2. Cosmetic surgery: Is there too much emphasis on appearance these days? 3. Can man and woman be close without romance? 4. This session will focus on environmental issues. 5. Teenage life with student presentations. 6. Is plagiarism a crime? 7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues. 8. What are the options for pregnant teenagers? 9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues. 10. How important is appearance in a relationship? 11. Should adult children move out? Quiz on previous issue. 12. Should employees go out with their bosses? 13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues. 14.The changing role of women in society. 15. Explanation of summer homework projects.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title: *Impact Issues 3* Author: Day, Shaules and Yamanaka Publisher: Pearson/Longman	Students will be grade on attendance, classroom participation, homework and tests.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（木３）	担当者	Ｊ．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.	1. Discussion will focus on summer projects. 2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class. 3. Is money more important than life style? 4. Story telling techniques. 5. The problems faced by immigrants. 6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations. 7. Does technology create distance in relationships? 8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue. 9. Career choices. 10. Story telling techniques. 11. When is war justified? 12. The art of compromise. 13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues. 14. Unrequited love. 15.Story telling techniques.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title: *Impact Issues 3* Author: Day, Shaules and Yamanaka Publisher: Pearson/Longman	Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（月３）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Introduction 2.Memories and keepsakes 3.Opinions about food 4.Crimes and mysteries 5.Trends 6. Errands 7.Postgraduate plans 8. Celebrations 9. Fairy tales and folk stories 10. The world of work 11. Telecommunications 12. Technology today 13 Travel preparation 14. Destinations 15Test- Poster presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Grades will be based on attendance, class participation, and tests

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（月３）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Summer vacation 2.Imagination,dreams,and rules 3.Career plans 4.Media 5. Men and women 6.Cultural differences 7. Big business 8 Health 9 Sports and hobbies 10. Social issues 11. Wealth 12. Honesty and lies 13. Our earth 14. Developing countries 15.Test- Poster presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Grades will be based on attendance, class participation, and tests

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（金２）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Introduction 2.Memories and keepsakes 3.Opinions about food 4.Crimes and mysteries 5.Trends 6. Errands 7.Postgraduate plans 8. Celebrations 9. Fairy tales and folk stories 10. The world of work 11. Telecommunications 12. Technology today 13 Travel preparation 14. Destinations 15Test- Poster presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Grades will be based on attendance, class participation, and tests

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（金２）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Summer vacation 2.Imagination,dreams,and rules 3.Career plans 4.Media 5. Men and women 6.Cultural differences 7. Big business 8 Health 9 Sports and hobbies 10. Social issues 11. Wealth 12. Honesty and lies 13. Our earth 14. Developing countries 15.Test- Poster presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Grades will be based on attendance, class participation, and tests

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（月２）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this class is to provide the students of the Tourism Department with an interesting and educational course in modern American English that will be of use to them in future when they must utilize their language skills in the work force.	In this class, we shall use a Disney movie, (subtitled in English) to study modern American English. Each week, the students will watch one subtitled scene of approximately 10 minutes. We will then study, the vocabulary, idioms and grammar used in that scene. In this class, the students will be exposed to a great deal of modern, idiomatic English, and will have ample opportunities to speak with both each other and the instructor. I hope this will be an enjoyable and educational class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.	The students will be evaluated on attendance, class participation, a speaking test and a written report.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（月２）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
Same as the above.	This course will have the same format as the earlier semester and will build and expand upon the skills the students developed in the first part of the course.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Same as above.	Same as above.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（金２）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this class is to provide the students of the Tourism Department with an interesting and educational course in modern American English that will be of use to them in future when they must utilize their language skills in the work force.	In this class, we shall use a Disney movie, (subtitled in English) to study modern American English. Each week, the students will watch one subtitled scene of approximately 10 minutes. We will then study, the vocabulary, idioms and grammar used in that scene. In this class, the students will be exposed to a great deal of modern, idiomatic English, and will have ample opportunities to speak with both each other and the instructor. I hope this will be an enjoyable and educational class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.	The students will be evaluated on attendance, class participation, a speaking test and a written report.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（金２）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
Same as the above.	This course will have the same format as the earlier semester and will build and expand upon the skills the students developed in the first part of the course.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Same as above.	Same as above.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to develop students' fluency and increase their confidence as English speakers Students will have ample opportunities to speak in class doing pair work and having small group discussions	Week 1: course introduction Week 2: unit 1 Week 3: unit 1 Week 4: unit 1 Week 5: unit 2 Week 6: unit 2 Week 7: unit 2 Week 8: unit 3 Week 9: unit 3 Week 10: unit 3 Week 11: introduce project Week 12: project preparation Week 13: project preparation Week 14: presentations Week 15: review & feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Interchange Third Edition Student's Book 3A Jack C. Richards Cambridge	Students will be evaluated on tests, presentations and participation.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
Points for further consideration ・ Students will need an English - English dictionary ・ Students will be required to have a notebook	Week 1: unit 5 Week 2: unit 5 continued Week 3: unit 5 continued Week 4: unit 7 Week 5: unit 7 continued Week 6: unit 7 continued Week 7: unit 8 Week 8: unit 8 continued Week 9: unit 8 continued Week 10: introduce project Week 11: project research Week 12: preparing visual aids Week 13: presentations Week 14: presentations Week 15: review & feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Interchange Third Edition Student's Book 3A Jack C. Richards Cambridge	Students will be evaluated on tests, presentations and participation.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. As there will be student-centered group learning activities, it is important to maintain for all students to maintain a friendly learning relationship.	Week 1: Course introduction Week 2: People and Places Week 3: Video Journal/Discussion Week 4: Student Discussions & Presentations Week 5: The Mind Week 6: Video Journal/Discussion Week 7: Student Discussions & Presentations Week 8: Changing Planet Week 9: Video Journal/Discussion Week 10: Student Discussion & Presentations Week 11: Money Week 12: Video Journal/Discussion Week 13: Student Discussion & Presentations Week 14: Summations Week 15: Final Class
テキスト、参考文献	**評価方法**
World English 3 CSplit 3A + CSplit Student CD-Rom A	Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. As there will be student-centered, group learning activities, it is important to maintain for all students to maintain a friendly learning relationship.	Week 1: Course introduction Week 2: Survival Week 3: Video Journal/Discussion Week 4: Student Discussions & Presentations Week 5: Art Week 6: Video Journal/Discussion Week 7: Student Discussions & Presentations Week 8: Art and the World Week 9: Video Journal/Discussion Week 10: Student Discussion & Presentations Week 11: Getting Around Week 12: Video Journal/Discussion Week 13: Student Discussion & Presentations Week 14: Summations Week 15: Final Class
テキスト、参考文献	**評価方法**
World English 3 CSplit 3A + CSplit Student CD-Rom A	Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ	担当者	Ｐ．Ｍ．ホーネス

講義目的、講義概要	授業計画
This required course emphasizes oral communication in class in a variety of ways. The main goal for the students is to develop confidence in stating personal opinions not only verbally, but also in written form. The course will begin with personal topics and move toward more academic issues. Students will be expected to research information prior to classes as the course transitions from personal to academic topics. In addition, students are expected to set personal language goals to accomplish in the course.	1 Introduction 2 Movies 3 Shopping 4 Music 5 Dating 6 Speaking tests 7 Speaking tests 8 Language and identity 9 Group behavior 10 School types 11 MASK 12 Tourism 13 Eco-tourism 14 Speaking tests 15 Speaking tests
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Attendance 20 Class Participation 15 Speaking test #1 15 Speaking test #2 30 Written summaries 20

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	Ｐ．Ｍ．ホーネス

講義目的、講義概要	授業計画
This required course emphasizes the organizational skills of speech communication. Students will make speech presentations on academic issues. Students will concentrate on speech delivery skills such as posture, eye contact, and pacing that will make them more effective public speakers. Students will collect data outside of class and prepare that information to be presented in class. Students will be expected to use visual aids such as Power point in all of the presentations.	1 Introduction 2 Personal item 3 Work 4 Reading 5 Money 6 Culture 7 Speaking tests 8 Speaking tests 9 Survey 10 Presentation preparation 11 Presentation preparation 12 Presentation preparation 13 Final Presentation 14 Final Presentation 15 Final Presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
None, but Speaking of Speech is an excellent book to help you understand the basic components of a speech.	Attendance 20 Mini-presentations:(4X5) 20 Speaking test 15 Final Presentation 30 Written summaries 15

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	D. マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed. Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester. Grammatical issues will be covered as the need arises, with special emphasis on students individual needs and problems specific to most Japanese learners of English.	The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions. 1. Introductions 2. Collecting introduction cards 3. Travel topic alphabets 4. Student profiles and expectations Listening 5. Varieties of English 6. Group discussion 7. World music and song 8. Students select song texts 9. Presentation of song texts 10. Discussion of song and music 11. Students select summer holiday topic 12. Preparation of holiday topic Materials 13. Discussion on language strategies 14. Written feedback/personal interviews 15. Letter to classmates
テキスト、参考文献	**評価方法**
A selection of authentic language materials	Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	D. マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed. Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.	The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions. 1. Review of holiday topics 2. Presentations of chosen topics 3. Imagination and Fantasy：animation,comics and cartoons 4. Exchange reading and discussion 5. Films, books and magazines 6. Students discuss their tavourites 7. Language learning strategies 8. Individual learning/studying styles 9. Use of multimedia-discussion 10. Students select presentation topic 11. Presentation preparation 12. Presentations 13. Presentations 14. Review of presentations 15. Feedback writing-farewells
テキスト、参考文献	**評価方法**
A selection of authentic language materials	Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
The class aims to provide interaction in an English native like environment. Students will study will study tourism topics, using English newspaper articles. This course seeks to master competency in English fluency improving with speaking, reading, listening, writing, comprehension skills with pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements & start article # 1 Week 2: Article # 2 Week 3: Article # 3 Week 4: Article # 4 Week 5: Article # 5 Week 6: Article # 6 Week 7: Article # Quiz Week 8: Article # 7 Week 9: Article # 8 Week 10: Article # 9 Week 11: Article # 10 Week 12: Article # 11 Week 13: Article # 12 Week 14: Article # 13 Week 15: Article # Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week.	Attendance, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
The class aims to provide interaction in an English native like environment. Students will study will study tourism topics, using English newspaper articles. This course seeks to master competency in English fluency improving with speaking, reading, listening, writing, comprehension skills with pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements & start article # 1 Week 2: Article # 2 Week 3: Article # 3 Week 4: Article # 4 Week 5: Article # 5 Week 6: Article # 6 Week 7: Article # Quiz Week 8: Article # 7 Week 9: Article # 8 Week 10: Article # 9 Week 11: Article # 10 Week 12: Article # 11 Week 13: Article # 12 Week 14: Article # 13 Week 15: Article # Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week.	Attendance, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ｐ．アップス

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are • To improve the students' knowledge of current English. • To improve the students' critical thinking skills • To improve the students' reading and speaking skills • To improve discussion and presentation skills.	1. Introduction　In this class we will go through the grading policies. Goals of the Course 2. The five paragraph essay and Poster presentation. 3. My Future – Poster My Future - Preparation - how to prepare a for a presentation. 4. Explanation on Fonts, colors and bullets in　Power point Presentation 5. My Future -　Preparation 6. My Future -　Class Presentations (Poster Project) 7. Social Issue - Find an issue in society and research it in groups 8. Social Issue - Start presenting newspaper clippings 9. Social Issue - Class survey 10. Social Issue - Preparation 11. Social Issue - PowerPoint Presentation 12. Social Issue - PowerPoint Presentation 13. Cultural Problems　- Introduction 14. Cultural Issues – Movie “East is East” 15. Cultural Issues – Movie “East is East”
テキスト、参考文献	評価方法
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.	1. Student Attendance　2. Student participation 3. My Future Poster　4. Social Issue PowerPoint 5. Cultural Issues essay

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ｐ．アップス

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are • To improve the students' knowledge of current English. • To improve the students' critical thinking skills • To improve the students' reading and speaking skills • To improve discussion and presentation skills.	1. Learning how to discuss in class. 2. Discussion topic Gun Control 3. Discussion topic - Global Warming 4. Discussion topic - Japanese Population 5. Discussion topic - Japanese Education 6. Discussion topic - Homelessness in the World 7. Discussion topic - Religion 8. Students prepare the topics 9. Students prepare the topics 10. Students prepare the topics 11. Final Movie and essay Good Will Hunting 12. Final Movie and essay Good Will Hunting 13. Final Movie and essay Good Will Hunting 14. Final Movie and essay Good Will Hunting 15. Final class and interview
テキスト、参考文献	評価方法
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.	1 .Student Attendance　2. Student participation 3. Student discussion Project　4. Essay

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	P．ドーレ

講義目的、講義概要	授業計画
Expressing an opinion is something we all do. Every person from every culture does this almost daily. In this class, we will learn the nuances of the language used to express opinions. We will also learn about and practice participating in and leading group discussions. You will begin by reading about a teacher-selected topic. Then you will develop your opinions and present your ideas in an in-class discussion. You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers and your teacher. (N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)	1. Orientation 2. Communication methods #1 3. Communication methods #2 4. Facts, Opinions and beliefs 5. Connect and communicate ideas + events #1 6. Connect and communicate ideas + events #2 7. Communication activity day #1 8. Communication activity day #2 9. Review communication activity and experience 10. Communication project #1 start 11. Communication project #1 continued 12. Communication project#1 final day 13. Communication assessment and review #1 14. Communication assessment test 15. Final written report peer evaluation day
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced in class	Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their discussion leadership.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	P．ドーレ

講義目的、講義概要	授業計画
Presenting you ideas and research in a coherent way is an essential life skill. This skill will take you a long way in your professional career. In this class, you will have the opportunity to research, practice with peers, and finally present an issue you have researched. You will begin by collecting ideas and background information and developing your ideas on the subject. You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers and teacher. Finally, you will present your research in class and be assessed on it. You will need to use other media (video, power point, pictures, etc) to support your presentation. You will also analyze other presentations in order to build on and improve your own presentation skills. (N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)	1. Orientation 2. & 3. Presentation analysis 4. & 5. How to choose a topic 6. & 7. Preparing a presentation 8. & 9.Critical analysis of ideas, data and background information 10. First draft of presentation due 11. Research and documentation of sources 12. In-class presentation peer review 13. In-class major presentations for final assessment 14. In-class major presentations for final assessment 15. In-class major presentations for final assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced in class	Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their presentations.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) research, learn about, and actively discuss hobbies, preferences, plans, and World Issues, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting discussions about those topics,* in English; and d) prepare and 'give' (present) a DYNAMIC English *class presentation*.	(* Note: This is a ***tentative*** weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking *student suggestions for* **INTERNATIONAL** *topics/themes which they would like to learn & study.* Week 3: 'What are your plans for Golden Week?": explaining Future activities, in Moder English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment. Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with discussion therof. Week 5: Student hobbies, and expaining thereof, in Modern English. Pair practice thereof. Continuous assessment. ***Mother's Day*** song and/or discussion. Week 6: Discussion of recent **International News** articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Ongoing student assessment. Week 7: Preparations for making presentations & discussions. International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners ('EQ')***. Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment. Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of --- do you like?": explaining preferences, in Modern English. Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listenining exercise. Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. Presentations. Week 12: Further student presentations & class discussion. Video and/or song listening & discussion exercise. Week 13: Final presentations. 'What do you think of ----?": ***Giving your opinions*** about various topics. Week 14: Giving opinions, part two: ***elaborating***. Final presentations. Ongoing assessment. Week 15: Final presentations. If time remains: discussing & explaining ***future plans for the Summer***.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. ***IF*** a textbook is truly necessary, one will be chosen.	You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***summarize & present*** your topic; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be *tentatively* & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (30%); and attendance (20%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes,*** **for <u>any</u> reason.** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (**One late = 1/2 absence**.)

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to MORE EFFECTIVELY: a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) research, learn about, and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *MORE DYNAMIC, interesting discussions about those topics,* in English; and d) research and 'give' (present) a DYNAMIC & EFFECTIVE English *class presentation*.	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your ***Summer Break***, using modern English. Week 2: "Used to": four different usages of 'used to'; with pair practice. Continuouis assessments. Week 3: Researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video. Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone. Ongoing assessments. Week 5: Practice with ***telephone inviations***. Hallowe'en discussion, and/or video. Week 6: ***Restaurant ordering***, in English, at sit-down restaurants. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening & discussion. Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (& recommendations) of those short presentation 'intros'. Week 8: ***Thanksgiving*** history; and usual Thanksgiving customs & dates. '***What are you thankful for?*** Further short 'demo' presentations; peer-assessment & recommendations, re: those 'demo' presentations. Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations. Week 10: Asking for, and giving, ***street directions*** and/or ***train directions***, in English. Pair practice of that. Student presentations begin. Week 11: Class presentations & discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video. Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations. Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations. Week 14: Discussing & pair-practicing ***New Year's Resolutions***. Last opportunity for class presentations. Week 15: Finalizing ***specific*** New Year's Resolutions. *If* time remains: discussion of ***future plans*** (for the February & March Break).
テキスト、参考文献	**評価方法**
We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. **IF** a textbook is necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you research, summarize, and present information in English; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (30%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. **You must NOT miss more than three classes, for <u>any</u> reason.** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (**One late = 1/2 absence**.)

09 年度以降	E-learning Ⅰ	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] Writing Strategies、Reading Strategies、Grammar for TOEFL & TOEICなどの、教室での対面授業で習ったスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。 [概要] ● １週目および２週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に集合のこと。 ● 初回授業後すぐにPCでの課題に取りかかることになる。自宅あるいは学内のPCを使用することになるので、学内のPCを利用するためのIDとパスワードを常に携帯すること。 ● 通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし、自主的に学習を進めること。 ● ４週目以降は隔週で対面授業を行うので、指定教室に集合すること。 ● 計画的に学習を進めないと単位の取得は難しいので、十分注意すること。	1. 全体ガイダンス 2. Criterion ガイダンス、Criterion (1) 3. 自習 4. 単語テスト(1)、Criterion (2) 5. 自習 6. 単語テスト(2)、Criterion (3) 7. 自習 8. 単語テスト(3)、Criterion (4) 9. 自習 10. 単語テスト(4)（中間試験）、Criterion (5) 11. 自習 12. 単語テスト(5)、Criterion(6) 13. 自習 14. 単語テスト(6)、Criterion (7) 15. 自習 単語テスト(7)（定期試験）
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン学習教材（*Criterion, 英単語*）	(a)テストの得点、(b)課題の提出回数、(c)課題の評定から総合的に評価する。

09 年度以降	E-learning Ⅱ	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] Writing Strategies、Reading Strategies、Grammar for TOEFL & TOEICなどの、教室での対面授業で習ったスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。 [概要] ● １週目および２週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に集合のこと。 ● 通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし、自主的に学習を進めること。 ● ３週目以降は隔週で対面授業を行うので、指定教室に集合すること。 ● 計画的に学習を進めないと単位の取得は難しいので、十分注意すること。	1. 全体ガイダンス 2. Criterion ガイダンス、Criterion (1) 3. 自習 4. 単語テスト(1)、Criterion (1)Feedback 5. 自習 6. 単語テスト(2)、Criterion (2) 7. 自習 8. 単語テスト(3)、Criterion (2)Feedback 9. 自習 10. 単語テスト(4)（中間試験）、Criterion (3) 11. 自習 12. 単語テスト(5)、Criterion(3)Feedback 13. 自習 14. 単語テスト(6)、Criterion (4) 15. まとめ 単語テスト(7)（定期試験）
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン学習教材（*Criterion, 英単語*）	(a)テストの得点、(b)課題の提出回数、(c)課題の評定から総合的に評価する。

09 年度以降	英語専門講読　I （Japanese Art & Culture）	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced. Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.	Exhibitions for study during the spring semester will include one or two from the following: • **根津美術館**「KORIN 展 国宝『燕子花図』とメトロポリタン美術館所蔵『八橋図』」 4 月 21 日～5 月 20 日 • **東京国立博物館**「東京国立博物館 140 周年　特別展『ボストン美術館 日本美術の至宝』　平成館 特別展示室」 3 月 20 日～6 月 10 日 • **三井記念美術館**「特別展 ホノルル美術館所蔵　北斎展－葛飾北斎生誕 250 周年記念」 4 月 16 日～6 月 17 日 • **出光美術館**「日本の美・発見 VII　祭　MATSURI—遊楽」6 月 16 日～7 月 22 日 Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next. Class 15 will focus on review and assessment.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), the completion of homework assignments (20%), and achievement on quizzes (25%) and a final essay (35%).

09 年度以降	英語専門講読　II （Japanese Art & Culture）	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced. Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.	Exhibitions for study during the fall semester will include one or two from the following: • **サントリー美術館**「お伽草子　この国は物語にあふれている」 9 月 19 日～11 月 4 日 • **MOA 美術館**「開館 30 周年記念所蔵名品展　肉筆浮世絵名作展」 10 月 5 日～11 月 14 日 • **出光美術館**「琳派芸術 II」 10 月 27 日～12 月 16 日 Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next. Class 15 will focus on review and assessment.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), the completion of homework assignments (20%), and achievement on quizzes (25%) and a final essay (35%).

09 年度以降	英語専門講読　I （Culture and Communication）	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
This course provides intensive training on reading different types of articles, and integrated skills building.	1. Introduction 2. The Importance of NVC 3. Greetings: Kiss, Bow or Shake Hands 4. Smile across cultures 5. The Picture Paints a Thousand Words 6. Body Language: Is It Important 7. The Confusing World of Gestures 8. Time Value Across Cultures 9. Communication Style 10. The Tempura Metaphor 11. The Ping-pong Metaphor 12. Gender Styles in Communication 13. Women's Language 14. Honorrific Or Terrific Language 15. Summary and Assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook will be introduced on the first day of class.	Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.

09 年度以降	英語専門講読　II （Culture and Communication）	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
This course provides intensive training on different types of challenging articles, and integrated skills building	1. Introduction to the course 2. Computer for Literacy? 3. The Power of You Tube 4. Pets or noPets? 5. Fashion in Italy and around 6. Gossiping in the Media? 7. Green Profits for Green Forests 8. Where have all the Flowers Gone? 9. Adventure Tourism 10. A Growing Crisis: Fresh Water 11. Yoga for Sports 12. Culture Exportation 13. Film Festivals: are they worth it? 14. Japan: Its Aging Population 15. Summary and Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook will be introduced on the first day of class.	Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.

09 年度以降	英語専門講読　I （Multiculturalism & Multicultural Education）	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
Societies around the world have been radically altered by colonialism & globalization. Vast migrations of peoples have either voluntarily or involuntarily embarked on journeys for economic, personal or political reasons to countries and regions far from their homes, and indigenous peoples have suffered from colonialism and territorialism whereby foreign cultures where forced on native populations.　In the Spring term this course considers the broader questions of multiculturalism with regard to the political, economic and social policies that multiethnic and multilingual countries face with increasingly diverse populations.　This course explores the following questions: • What is multiculturalism & what historical antecedents precede current multicultural policies in the world? • Do societies that *claim to* be racially homogeneous suffer more social unrest and intercultural tension in adapting to multiculturalism than those with multicultural/multiethnic and multilingual historical 'roots'? • How might a laissez-faire attitude toward multiculturalism lead to cultural relativism? • What are the standard arguments both for and against multiculturalism?	Week 1 – Introduction to Course & Each Other Week 2 – What is Multiculturalism (Ch.1,　pp.1-18) Week 3 – A Careful Consideration of Terms & Cases (Ch. 1, pp. 18- 41) Week 4 – Culture Matters: Cultural Identity & Recognition Week 5 – Is Multiculturalism Bad for Women? (Ch. 2, pp.42-56) Week 6 – Is Multiculturalism Bad for Women? (Ch. 2 pp. 57-67) Week 7 – Multiculturalism & Cultural Relativism (hand-out) Week 8 – Has Multiculturalism Created Ghettoes & Parallel Lives?　(Ch. 3, pp.68-80) Week 9 – Has Multiculturalism Created Ghettoes & Parallel Lives?　(Ch. 3, pp.81-93) Week 10 – National Identity & Belonging (What does it mean to 'be Japanese & Who Counts as Japanese'? (Ch. 5, pp.119-126) & (hand-out) Week 11 – Multicultural & Multiethnic Japan – The Changing & Emerging Face(s) of Japan Pt. I (hand-outs) Week 12 – Multicultural & Multiethnic Japan, Pt. II Week 13 – Country Case Study Presentations Week 14 – Country Case Study Presentations Week 15 – Country Case Study Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Rattansi, A. (2011). *Multiculturalism: A very short introduction.* Oxford: Oxford University Press *Additional readings provided as hand-outs	In-class Participation (40%) Reading Assignments (20%) Case Study Project & Presentation (30%), Newspaper/Magazine journal (10%)

09 年度以降	英語専門講読　II （Multiculturalism & Multicultural Education）	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
The Fall term will narrow the scope to consider the importance and influence of educational institutions to both aid and impede minority ethnic, racial and language groups' integration and transition into the host society. During Pt. II of this course we consider the following questions: • How have schools been utilized by governments to assimilate ethnic, racial, and language minorities throughout history? • Is it the role of schools to support and preserve ethnic and language minority students' heritage language development and ethnic identity? • How do economic class, ethnicity, race and gender intersect with educational opportunity and success? • What educational programs best support ethnic and language minority students? *To remain consistent with the Spring term this course will remain focused on ethnic, racial and language minority students .	Week 1 – Introduction to Course & Catch-Up Week 2 – Characteristics & Goals of Multicultural Ed. (Pt. I – article provided) Week 3 – Characteristics & Goals of Multicultural Ed. (Pt. I – article provided) Week 4 – Ethnic/Racial/Linguistic Difference & Schooling Practices: From Cultural Deficit to Empowerment (Pt. I –Case Study 1, hand-out) Week 5 – Ethnic/Racial/Linguistic Difference & Schooling Practices: From Cultural Deficit to Empowerment (Pt. I –Case Study 2, hand-out) Week 6 – Ethnic/Racial/Linguistic Difference & Schooling Practices: From Cultural Deficit to Empowerment (Pt. I –Case Study 3, hand-out) Week 7 & 8 – Class & Minority Status – Minorities in Japan Week 9 – 10　'Foreign'　Children in Japanese Schools Week 11 – Colorblindness & Equal Ed. Opportunity Week 12 – Accepting & Learning from Difference Week 13 –Multicultural Ed. in Practice Presentations Week 14 – Multicultural Ed. in Practice Presentations Week 15 – Multicultural Ed. in Practice Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Selected readings provided in class	In-class Participation (40%) Reading Assignments (20%) Multicultural Education Presentation (30%), Newspaper/Magazine journal (10%)

09 年度以降	英語専門講読　I （Language & Teaching）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at how English rose to become a global language, and at the future potential of English as the international language of communication. By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor. As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.	Week 1: Introduction. Week 2: Chapter 1: Selected sections. Week 3: Chapter 1: Selected sections. Week 4: Chapter 1: Selected sections. Week 5: Chapter 1: Selected sections. Week 6: Chapter 2: Selected sections. Week 7: Chapter 2: Selected sections; Quiz I Week 8: Chapter 2: Selected sections. Week 9: Chapter 2: Selected sections. Week 10: Chapter 2: Selected sections. Week 11: Chapter 3: Selected sections. Week 12: Chapter 3: Selected sections. Week 13: Chapter 3: Selected sections; Quiz II. Week 14: Consolidation. Week 15: Review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Crystal, D. *English as a Global Language*. (Cambridge University Press).	Grades are based on in-class participation, assignments, quizzes, and a final assessment based on the text and lecture.

09 年度以降	英語専門講読　II （Language & Teaching）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at how English rose to become a global language, and at the future potential of English as the international language of communication. By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor. As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.	Week 1: Introduction. Week 2: Chapter 4: Selected sections. Week 3: Chapter 4: Selected sections. Week 4: Chapter 4: Selected sections. Week 5: Chapter 4: Selected sections. Week 6: Chapter 5: Selected sections. Week 7: Chapter 5: Selected sections; Quiz I. Week 8: Chapter 5: Selected sections. Week 9: Chapter 5: Selected sections. Week 10: Chapter 5: Selected sections. Week 11: Chapter 5: Selected sections. Week 12: Chapter 5: Selected sections. Week 13: Chapter 5: Selected sections; Quiz II. Week 14: Consolidation. Week 15: Review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Crystal, D. *English as a Global Language*. (Cambridge University Press).	Grades are based on in-class participation, assignments, quizzes, and a final assessment based on the text and lecture.

09 年度以降	英語専門講読 I （Origin and Evolution of Language）	担当者	J．N．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Language is the most extraordinary ability that humans possess, and yet, curiously, we know so little about its origins and evolution. But in fact, the past 30 years have seen fascinating developments in our understanding about language origins. These developments are found in sciences that range across many disciplines including biology, genetics, archeology, anthropology, psychology and, of course, linguistics. This course will survey the many perspectives that have enriched our understanding of language and its origin and evolution. A word of advice: This course will require careful reading of many short articles—several of them quite difficult. I recommend this course only for students who are genuinely interested in this topic and who are willing to devote the time and effort it takes to understand the issues.	1 Introduction 2-3 Why learn about languages? 4-5 How many languages are there? 6-7 Do all languages come from the same source? 8-9 Differences between a language and a dialect. 10-11 What was the original language? 12 Where does grammar come from? 13-15 Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Readings will be provided to the students by the instructor on the first day of class.	Students will be evaluated on their attendance, participation in class, written assignments, and presentations.

09 年度以降	英語専門講読 II （Origin and Evolution of Language）	担当者	J．N．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Language is the most extraordinary ability that humans possess, and yet, curiously, we know so little about its origins and evolution. But in fact, the past 30 years have seen fascinating developments in our understanding about language origins. These developments are found in sciences that range across many disciplines including biology, genetics, archeology, anthropology, psychology and, of course, linguistics. This course will survey the many perspectives that have enriched our understanding of language and its origin and evolution. A word of advice: This course will require careful reading of many short articles—several of them quite difficult. I recommend this course only for students who are genuinely interested in this topic and who are willing to devote the time and effort it takes to understand the issues.	1 Introduction 2-3 Language lessons 4-5 Pidgins and creoles 6-7 Contributions from genetics 8-9 Contributions from archeology 10-11 Contributions from psychology 12 Contributions from animal studies 13-15 Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Readings will be provided to the students by the instructor on the first day of class.	Students will be evaluated on their attendance, participation in class, written assignments, and presentations.

09 年度以降	英語専門講読　I （James Joyce）	担当者	M．フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce. During the spring term, we will focus on Joyce's collection of short stories, *Dubliners* and begin reading his semi-autobiographical novel *A Portrait of the Artist as a Young Man.* Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature. This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: The Sisters Week 3: Araby Week 4: Araby (video) Week 5: Eveline Week 6: Two Gallants Week 7: A Painful Case Week 8: The Dead Week 9: The Dead (video) Week 10: Review, Nora (video) Week 11: Nora (video) Week 12: Introduction to A Portrait of the Artist Week 13: Portrait, Chapter 1 Week 14: Portrait, Chapter 2 Week 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this class. All of Joyce's works are in the public domain, so weekly readings will be sent to students via email.	Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.

09 年度以降	英語専門講読　II （James Joyce）	担当者	M．フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce. During the fall term, we will finish *A Portrait of the Artist as a Young Man* and read excerpts from Joyce's most important novel, *Ulysses.* We will finish the course with a short introduction to Joyce's final and most enigmatic work, *Finnegans Wake.* Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature. This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Portrait, Chapter 3 Week 2: Portrait, Chapters 4 Week 3: Portrait 5 Week 4: Review of Portrait Week 5: Introduction to Ulysses Week 6: Telemachus, Nestor (video) Week 7: Calypso, Hades (video) Week 8: Cyclops, The Wandering Rocks (video) Week 9: The Sirens, Circe (video) Week 10: Ithaca Week 11: Penelope (video) Week 12: Review of Ulysses Week 13: Finnegans Wake Week 14: Finnegans Wake Week 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this class. All of Joyce's works are in the public domain, so weekly readings will be sent to students via email.	Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.

09 年度以降	英語専門講読　I （The Learning Brain Lesson for Educa）	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The course text for this class--*The Learning Brain: Lesson for Education*—looks at how the brain learns and how our understanding of the brain can help in education. It investigates topics such as genetics, environment, emotion and age, and how they influence our abilities to reach the limits of our brains capacity to learn.　It also looks at some of the technical processes used in analyzing the brain and neurological systems. Topics will include how our brains: -develop -learn words and numbers -learn mathematics -learn to read -develop during adolescences -continue lifelong learning -have different ways of learning -harness our mental powers.	Week 1: Course Introduction Week 2: Studying the Brain. a Week 3: Studying the Brain. b Week 4: Lecture & Discussion Week 5: The Developing Brain. a Week 6: The Developing Brain. b Week 7: Lecture & Discussion Week 8: The Mathematical Brain. a Week 9: The Mathematical Brain. b Week 10: Lecture & Discussion Week 11: The Literate Brain. a Week 12: The Literate Brain. b Week 13: Lecture & Discussion Week 14: Final Paper review Week 15: Final Paper presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Learning Brain: Lesson for Education Sarah-Jayne Blakemore and Uta Frith Pub: Blackwell Publishing 2009.　3,100 yen	Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.

09 年度以降	英語専門講読　II （The Learning Brain Lesson for Educa）	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The course text for this class--*The Learning Brain: Lesson for Education*—looks at how the brain learns and how our understanding of the brain can help in education. It investigates topics such as genetics, environment, emotion and age, and how they influence our abilities to reach the limits of our brains capacity to learn.　It also looks at some of the technical processes used in analyzing the brain and neurological systems. Topics will include how our brains: -develop -learn words and numbers -learn mathematics -learn to read -develop during adolescences -continue lifelong learning -have different ways of learning -harness our mental powers.	Week 1: Course Introduction Week 2: Learning to Read. a Week 3: Learning to Read. b Week 4: Lecture & Discussion Week 5: Social/Emotional Dev. a Week 6: Social/Emotional Dev. b Week 7: Lecture & Discussion Week 8: The Adolescent Brain. a Week 9: The Adolescent Brain. b Week 10: Lecture & Discussion Week 11: Life Long Learning. a Week 12: Life Long Learning. b Week 13: Lecture & Discussion Week 14: Final Paper review Week 15: Final Paper presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Learning Brain: Lesson for Education Sarah-Jayne Blakemore and Uta Frith Pub: Blackwell Publishing 2009. 3,100 yen	Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.

09 年度以降	英語専門講読 I （Reading for Academic Purpose）	担当者	T．ホサイン

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, students will improve their academic reading skills through study and discussion of articles on important issues mentioned in textbook. Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure, and also on micro- and macro-reading skills. Students will also learn how to get the main points of the text quickly and effectively, without the need for translation into the native language. They will also be encouraged to read related reading with the referred textbook to gain a deeper understanding of the covered topics. Students will also develop writing skills in English. In addition, students are required to master academic words including their meaning and collocations by studying the words from the textbook. Students are expected to do 90 minutes homework on weekly	授業内容 / contents(15 weeks) 第 1 回 Course Orientation 第 2 回 Language and Learning: Part-1 第 3 回 Language and Learning:Part-2 第 4 回 Danger and Daring: Part 1 & & Review test # 1 第 5 回 Danger and Daring: Part II 第 6 回 Gender and Relationships: Part-1 & Review test #2 第 7 回 Book Report 1 第 8 回 Gender and Relationships: Part-II 第 9 回 Beauty and Aesthetics: Part-1 & & Review test #3 第 10 回 Beauty and Aesthetics: Part-II 第 11 回 Transitions: Part-1 & & Review test # 4 第 12 回 Book Report 2 第 13 回 Transitions: Part-II 第 14 回& Review test #5 and course review 第 15 回 Final Assessment *The instructor has the right to amend the syllabus.*
テキスト、参考文献	**評価方法**
Mosaic 2 Reading (with CD) by Brenda Wegmann and Miki Knesevic (McGraw-Hill) Articles will be provided in the classroom, if necessary	Class work/Midterm: 20 pts Vocabulary quiz: 10 pts Vocabulary notebook: 10 pts Book Report/ Presentations: 20 pts Final assessment: 40 pts

09 年度以降	英語専門講読 II （Reading for Academic Purpose）	担当者	T．ホサイン

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, students will develop their academic speaking, listening, reading, and writing skills. Activities will include listening lectures, taking structured notes, discussion, answering questions, and writing summaries. Students will also develop their communication skills through a variety of pair, group and class activities. Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure, and also on micro- and macro-reading skills. They will also be encouraged to read related reading with the referred textbook to gain a deeper understanding of the covered topics. Students will also develop writing skills in English. In addition, students are required to master academic words including their meaning and collocations by studying the words from the textbook. Students are expected to do 90 minutes homework on weekly assignments.	授業内容 / Contents(15 weeks) 第 1 回 Course Orientation 第 2 回 The Mind: Part 1 第 3 回 The Tell-Tale Heart: Part II 第 4 回 Working: Part 1& Review test # 1 第 5 回 Working: Part II 第 6 回 Breakthroughs: Part-1 & Review test #2 第 7 回 Book Report 1 第 8 回 Breakthroughs: Part-II 第 9 回 Art and Entertainment: Part-1 & & Review test #3 第 10 回 Art and Entertainment: Part-II 第 11 回 Conflict and Reconciliation: Part-1 & & Review test # 4 第 12 回 Book Report 2 第 13 回 Conflict and Reconciliation: Part-II 第 14 回 Review test #5 and course review 第 15 回 Final Assessment *The instructor has the right to amend the schedule.*
テキスト、参考文献	**評価方法**
Mosaic 2 Reading (with CD) by Brenda Wegmann and Miki Knesevic (McGraw-Hill) Articles will be provided in the classroom, if necessary.	Attendance: ……10 Class participation/note taking:…… 20 Homework/ Vocabulary……10 Summary/report……..20 Midterm Assessment/Presentations……15 Final Assessment/ Presentations…… .25

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （音声科学入門）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 この授業では、音声をより実感できるよう、1年生の「英語音声学」ではほとんど触れなかった音響音声学の初歩の初歩を学ぶ。 音（=音波）は耳から聞くものであるが、これをグラフ上(波形，ｿﾅｸﾞﾗﾑ等)に示してみると、文字や音声記号から受ける印象とはかなり違う「音の実態」が見えてくる。既に学んだことを、今度は別の視点から考えてみる。 ある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより，英文の読解力と分析的な視点を養う。 講義概要 各学生はリーディング課題をこなし、内容について教員が解説をし、質疑応答・議論を行う。また、学生担当者がまとめをする。 ＜メッセージ＞ ・英語で読む: 内容には既に学んだことが多く含まれるので、知っていることを英語で読むことはよい練習となるはずである。 ・理系人間でなくてOK: 波形などを学ぶといっても、極めて基本的なものである。易しく導入するので、恐れずに来たれ。新たな発見もあるはずである。 ・コツコツ: 最初は少し大変かもしれないが、例年見ていると，少しずつ慣れていく。こつこつと継続することで、年度末には必ず読解力向上が実感できると思われる。進度や理解をチェックしながら進めて行くので，一緒に頑張りましょう。 ・テキストは Duo に若干数を注文しておく。自分でオンライン購入してもよい。	1. Ch-1 Introduction to speech 2. Ch-2 Voice (1) 3. Ch-2 Voice (2) 4. Exercises 5. Ch-3 Place of Articulation (1) 6. Ch-3 Place of Articulation (2) 7. Exercises 8. Ch-4 Manner of articulation (1) 9. Ch-4 Manner of articulation (2) 10. Exercises 11. Ch-5 Vowels 12. Ch-5 Vowels (2) 13. Ch-6 Voice II (1) 14. Ch-6 Voice II(2) 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Michael Ashby and John Maidment. 2005. *Introducing Phonetic Science.* Cambridge University Press. (ISBN-13: 978-0-521-00496-1 / ISBN-10: 0-521-00496-9) その他　配布資料	授業参加（準備・参加）、小テスト、発表、試験　等の総合評価による。 各項で最低限をクリアすること。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （音声科学入門）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 春学期に引き続き読み進め，さらなる読解力を養う。 講義概要 春学期に同じ	1. Review Voice/Vowels/Consonants 2. Ch-7 Airstream mechanisms (1) 3. Ch-7 Airstream mechanisms (2) 4. Exercises 5. Ch-8 Speech sounds and speech movements (1) 6. Ch-8 Speech sounds and speech movements (2) 7 Exercises 8. Ch-9 Basic phonological concepts (1) 9. Ch-9 Basic phonological concepts (2) 10. Exercises 11. Ch-10 Suprasegmentals (1) 12. Ch-10 Suprasegmentals (2) 13. Ch-11 Speaker and hearer (1) 14. Ch-11 Speaker and hearer (2) 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Michael Ashby and John Maidment. 2005. *Introducing Phonetic Science.* Cambridge University Press. (ISBN-13: 978-0-521-00496-1 / ISBN-10: 0-521-00496-9) その他　配布資料	授業参加（準備・参加）、小テスト、発表、試験等の総合評価による。 各項で最低限をクリアすること。

09 年度以降	英語専門講読　I （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English.* You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Reflecting on your own learning 3. Approach, method, and technique 4. An eclectic approach 5. Teaching by principles 6. Motivation in the classroom 7. Teaching across age levels 8. Overall discussion 9. Teaching across proficiency levels 10. Sociopolitical and institutional contexts 11. Techniques, textbooks, and technology 12. Interactive language teaching 13. Sustaining interaction through group work 14. Classroom management 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムとハンドアウト使用 （cf. Teaching by Principles, H.D. Brown, Longman）	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)

09 年度以降	英語専門講読　II （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English*. You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Integrating the four skills 3. Teaching listening 4. Teaching speaking 5. Teaching reading 6. Teaching writing 7. Teaching vocabulary 8. Overall discussion 9. Teaching pronunciation 10. Form-focused instruction 11. Language assessment I 12. Language assessment II 13. Strategies-based instruction 14. An all-English approach 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムとハンドアウト使用 （cf. Teaching by Principles, H.D. Brown, Longman）	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)

09 年度以降	英語専門講読　I （アメリカの広告文化史研究①）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、「世界を震撼させたアメリカの広告」の歴史を理解することによって、消費者としてではなく、文化研究者として広告をとらえ、私たちが生活する後期資本主義社会について批判的に考えていきます。 授業形式は、グループ・ワークとグループ発表が中心となります。 学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。 使用するテキストは、初回の授業で共同購入申請ができるよう、現在、その手続き方法について検討中です。（もちろん各自で購入しても構いません。）	1. Course Overview 2. Introduction 3. P.T. Barnum 4. Lydia E. Pinkham's Vegetable Compound 5. Pears' Soap 6. Pepsodent 7. Listerine 8. The Queensboro Corporation 9. The Kid in Upper 4 10. De Beers 11. Coke and Christmas 12. The Volkswagen Beetle 13. Consultation 14. Presentation 1 15. Presentation 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
James B. Twitchell, *Twenty Ads That Shook the World* (2001, Three Rivers Press, Reprint 版).	①参加＆貢献度（発表や発言など）：50%（理由にかかわらず、５回以上の欠席で学期成績が F となります。） ②クイズ：50%

09 年度以降	英語専門講読　II （アメリカの広告文化史研究②）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
春学期からの続きです。目的や授業形式は春学期と同じです。 学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。 12 月に 1 回、関連する映画のスクリーニングを行うため、昼休みからの授業参加が必要となる予定です。（詳細は学期中に事前連絡します。）	1. Course Overview 2. Miss Clairol's "Does She … or Doesn't She?" 3. The Marlboro Man 4. The Hathaway Man 5. Anacin and the Unique Selling Proposal 6. LBJ vs. Barry Goldwater 7. She's Very Charlie 8. Absolut 9. Apple's *1984* 10. The Rise and Fall and Rise of the Infomercial 11. Nike and Michael Jordan 12. Our Life as Advertisement? Screening a Film 13. Consultation 14. Presentation 1 15. Presentation 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
James B. Twitchell, *Twenty Ads That Shook the World* (2001, Three Rivers Press, Reprint 版).	①参加＆貢献度（発表や発言など）：50%（理由にかかわらず、５回以上の欠席で学期成績が F となります。） ②クイズ：50%

09 年度以降	英語専門講読　I （現代における国際関係の展開）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、現代における国際関係の展開を時系列で追っていきます。第一次世界大戦の勃発から、冷戦後の世界まで、国際政治がどのように発展し、形成されてきたかを明らかにしていきます。 授業は、テキストに基づいて行い、受講者によるプレゼンテーションとその後のディスカッションを中心に進めます。受講者の人数によっては、プレゼンテーションをグループで行う可能性もあります。また、テキストの一部を翻訳して、受講者全員に適宜提出してもらいます。 なお、本授業は継続性が高いため、基本的には春学期と秋学期両方の履修を求めます。	第 1 回：オリエンテーション、プレゼンテーションの担当者を決定 第 2 回～第 14 回：受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションおよび質疑応答 第 15 回：まとめ テキスト： 有賀貞　『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年） 英文テキストは、国際関係の歴史を詳細に分析・解説したものです。受講者には、テキストに沿って以下の章からプレゼンテーションを担当してもらいます。 The Second Phase of World War I The World in Postwar Confusion The Return of Relative Stability The Collapse of the International Order The Beginning of War in East Asia and in Europe World War II after Pearl Harbor
テキスト、参考文献	**評価方法**
有賀貞　『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）	出席率、プレゼン内容、翻訳内容、ディスカッションへの参加状況を基に評価します。

09 年度以降	英語専門講読　II （現代における国際関係の展開）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および概要は、上記の英語専門講読 I と同様です。春学期に扱った年代以降の国際関係史を検討していきます。 授業は、テキストに基づいて行い、受講者によるプレゼンテーションとその後のディスカッションを中心に進めます。受講者の人数によっては、プレゼンテーションをグループで行う可能性もあります。また、テキストの一部を翻訳して、受講者全員に適宜提出してもらいます。 なお、本授業は継続性が高いため、基本的には春学期と秋学期両方の履修を求めます。	第 1 回：オリエンテーション、プレゼンテーションの担当者を決定 第 2 回～第 14 回：受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションおよび質疑応答 第 15 回：まとめ テキスト： 有賀貞　『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年） 英文テキストは、国際関係の歴史を詳細に分析・解説したものです。受講者には、テキストに沿って以下の章からプレゼンテーションを担当してもらいます。 Turbulence in East Asia The Post-Stalin USSR and East-West Relations The Retreat of Western European Imperialism Vietnam and the Reorientation of American Foreign Policy The Advanced Industrial World and the Challenge of OPEC The End of Cold War
テキスト、参考文献	**評価方法**
有賀貞　『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）	出席率、プレゼン内容、翻訳内容、ディスカッションへの参加状況を基に評価します。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （ビート詩人たちの預言）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
2011年3月11日、14:46、比類なき激震が東日本を襲った。そしてその激震は天災であったが、その後、これまた比類なき放射能汚染という人災を引き起こし、それはいまだに終息する気配はない（福島第一原発の終息宣言は、世界の笑い物である）。 このような事態に至って「脱原発」は声高に語られているが、このことは、20世紀後半のアメリカ詩においては、すでに語られていることであった。 本講座では、20世紀後半に登場してきた「ビート」の詩人たちが、「エネルギー」をどのように考えていたか、それを探る。 春学期は、ビート詩人たちが持つにいたった「エネルギー観」がどのような土壌から生まれたか、それを、1950年代の詩的記録である Michael McClure の *Scratching the Beat Surface* という散文（とはいえ、詩が5編出てくるが）をもとに探る。キーワードは、“margin”である。	1:　イントロダクション 2: Allen Ginsberg “America”、“A Supermarket in California” 2~15:　*Scratching the Beat Surface* 所収のエッセイ 注）この講座で読む当該部分には、Allen Ginsberg の “Howl” の数行、 Gary Snyder の “Berry Feast”、Philip Whalen の “Plus ça Change”、Michael McClure の “Point Lobos: Animism”、“For the Death of 100 Whales” が含まれる。この詩群は、受講者のみなさんがレポーターとなり、プレゼンテーションをしてもらうことになる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント、及び、 *Scratching the Beat Surface*。	プレゼンテーション、授業への participation、及び、レポート。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （ビート詩人たちの預言）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期には、「エネルギー」関連の詩を読むための clear the ground をする。その上で、まずは “energy” とは何なのか、それを考えるために、主に Gary Snyder の作品を読んでいく。キーワードは「転生（"reincarnation"）」である。このタームは、仏教、そして「再生可能エネルギー」ともつながってくるだろう。	1: 前期レポートの返却 2: “LMFBR” 3: “Burning the Small Dead”、“Oil” 4: “’Control Burn” 5: “Spel Against the Demons” 6: “Tomorrow’s Song” 7~8：“What Happened Here Before” 9: “’One Should Not Talk to a Skilled Hunter about What Happended Here Before”、“A Volcano in Kyushu” 10: “Song of the Taste” 11: “The Dead by the Side of the Road” 12: “Stories in the Night” 13: “Bomb Test”、“For the Children” 14: “Piute Creek”、“Pine Tree Tops” 15: まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Gary Snyder、 *No Nature*、及びプリント。	プレゼンテーション、授業への participation、及び、レポート。

09 年度以降	英語専門講読　I （ディズニー・アニメの歴史をたどる）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じ、『白雪姫』から『ジャングル・ブック』まで、Walt Disney 存命中の長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡をたどります。Disney 映画と、それを核として広がる壮大な Disney 文化の世界は、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものです。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。 授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。 全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。	1. 春学期コース・オリエンテーション 2. Launching the Animated Feature 3. Seven Dwarfs for Snow White 4. New Tools 1 5. New Tools 2 6. Disney's Folly 7. Pinocchio 8. Fantasia 9. Bambi 10. Economizing: Dumbo 11. The New Studio, The Strike, and the War 1 12. The New Studio, The Strike, and the War 2 13.Cinderella Restores the Glory 14. 春学期のまとめ 15. 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thomas, Bob, *Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast*, Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。	授業貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読　II （ディズニー・アニメの歴史をたどる）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期から引き続き、Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じて、Disney 映画の軌跡をたどります。 秋学期は、Walt の存命中の作品だけでなく、Walt 亡き後のスタジオの作品（『リトル・マーメイド』まで）も扱います。受講者の皆さんには、引き続きテキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。 春学期と同じく、授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。 全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。	1. The Anthology Features 2. Alice, Peter, Lady and the Tramp 1 (Alice) 3. Alice, Peter, Lady and the Tramp 2 (Peter Pan) 4. Alice, Peter, Lady and the Tramp 3 (L&T) 5. Sleeping Beauty Awakens 6. Walt Disney's Last Films 7. Carrying on the Tradition 8. The Black Cauldron 9. A New Regime and a Rebirth 10. A New Regime and a Rebirth 11. Who Framed Roger Rabbit 12. Triumph: The Little Mermaid 13. The Rescuers Down Under 14. 秋学期のまとめ 15. 秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thomas, Bob, *Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast*, Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。	授業貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （強制的異性愛社会からの脱出）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
私たちは男女の恋愛こそ正しい結びつきだと迫ってくる「強制的異性愛社会」に生きています。日本で法的に結婚できるのは男女だけであり、バレンタインデーにチョコレートを贈るのも女性から男性へ、となっているように、慣習レベルでも男女の異性愛こそ自然で正しいものと刷り込まれる場面が多く存在しています。 けれども海外では同性どうしの恋愛もかなり認められるようになったと聞きます。英語圏で言えば、カナダ、イギリス、アイルランド、オーストラリア、そしてアメリカのいくつかの州で、同性カップルにも男女の法律婚カップルと同じか、それに準じた権利が認められています。 ここまでの変化を、人々はどう体験してきたのでしょうか。この授業では、イギリスとアメリカで書かれた20世紀以降の短編小説を手がかりとして、この問いについていっしょに考えます。春学期はゲイ男性たちのストーリーを、秋学期はレズビアン女性たちのストーリーを扱います。当事者たちの体験談や研究論文なども適宜取り上げます。 授業の内容上、性的表現が含まれることがありますが、了承のうえ受講してください。	第１回：イントロダクション 第２回ー１４回：担当者による発表と討論 第１５回：レポートの書き方の説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業でプリントを配布	発表、課題、最終レポートから総合的に評価 （ただし４回を越えての欠席は評価対象としない）

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （強制的異性愛社会からの脱出）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
同上	第１回：イントロダクション 第２回ー１４回：担当者による発表と討論 第１５回：レポートの書き方の説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業でプリントを配布	発表、課題、最終レポートから総合的に評価 （ただし４回を越えての欠席は評価対象としない）

09 年度以降	英語専門講読　I （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
『怒りの葡萄』(*The Grapes of Wrath*, 1939)、『エデンの東』(*The East of Eden,* 1952)の著者であり、1962 年にノーベル文学賞を受賞した John Steinbeck(1902-1968)は、20 世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、寓話的中編『真珠』(*The Pearl, 1947*)を中心に彼の作品を扱ってゆく。 毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、スタインベックの他の作品と比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。 授業には予習をして臨んで下さい。	1:　Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介 2:　小説を読む楽しみについて／修辞法解説 3:　Introduction by Linda Wagner-Martin 読解 4:　同上 5:　*The Pearl* の時代的文化的背景 6:　*The Pearl* 読解　Chapter 1 7:　同上 8:　*The Pearl* 読解　Chapter 2 9:　同上 10:　*The Pearl* 読解　Chapter 3 11:　同上 12:　Chapter 1~3 について詳細解説と問題提起 13:　Chapter 1~3 について　学生発表 14:　同上 15:　Review／期末レポート回収
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：John Steinbeck, *The Pearl* (Penguin Classics)	出席（30%）、提出物（20%）、授業中の発表（20%）、期末レポート（30%）を総合的に評価。全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。

09 年度以降	英語専門講読　II （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、*The Pearl* を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。 ＊授業には予習をして臨んで下さい。	1: 前期レポートについてグループ発表 2:　同上 3:　*The Pearl* 読解　Chapter 4 4:　同上 5:　*The Pearl* 読解　Chapter 5 6:　同上 7:　*The Pearl* 読解　Chapter 6 8:　同上 9:　Chapter 4~6 について詳細解説と問題提起 10:　Chapter 4~6 について　学生発表 11:　同上 12:　関連資料　読解と考察 13:　同上 14:　Review 15:　期末レポート回収
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：John Steinbeck, *The Pearl* (Penguin Classics)	出席（30%）、提出物（20%）、授業中の発表（20%）、期末レポート（30%）を総合的に評価。全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は３つあります。第１に、国際関係論や地域研究（area studies）にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第２に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第３に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。 テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ（春）とⅡ（秋）は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で１時間程度の英文読解力を計るためのテスト（国際政治経済の時事問題に関する英文和訳）を実施します。	第１回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 第２回ー第 15 回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, *Regional Outlook: Southeast Asia 2012-2013*, ISEAS, 2012（近刊）.（150 ページ前後、価格は 2000 円程度）。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。 ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。	出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が３回に達した時点で履修者リストから除外します。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ（春）とⅡ（秋）は継続性が強いため、本授業の履修については英語専門講読Ⅰ（春学期：金子担当）を履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。	第１回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 第２回ー第 15 回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2013*, ISEAS, 2012（予定）.（350 ページ前後、価格は 2200 円程度）。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。（内容の概略は以下の Web サイトで検索が可能：http://bookshop.iseas.edu.sg/） ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。	出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が３回に達した時点で履修者リストから除外します。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （生成文法入門）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の１つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。 読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。	1　Introduction 2　Overview 3　Overview 4　Overview 5　Phrase Structure 6　Phrase Structure 7　Phrase Structure 8　Binding 9　Binding 10　Binding 11　Binding 12　Empty Pronoun PRO 13　Empty Pronoun PRO 14　Review 15　Review ※　上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。 ※　本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社	出席＆授業参加率（30%）、レポート＆試験（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （生成文法入門）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の１つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。 読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。	1　Anaphors 2　Anaphors 3　Anaphors 4　Government 5　Government 6　Types of Subject 7　Types of Subject 8　Types of Subject 9　Pronouns 10　Pronouns 11　Pronouns 12　Referential Expressions 13　Referential Expressions 14　Review 15　Review ※　上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社	出席＆授業参加率（30%）、レポート＆試験（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODA などの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。 大切なのは身の回りのできることから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。 授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。	1. 授業の進め方について 2. 教員によるレクチャー（予定） 3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? 4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives 5. Why is Fair Trade so popular? 6. Fair Trade principles and practices 7. Fair Trade histories 8. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』 9. Yes, but does it work? 10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 11. Will free trade ever be fair? 12. The future of Fair Trade 13. Daily life with Fair Trade 14. 教員によるレクチャー（予定） 15. 全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Jacqueline Decarlo, *Fair Trade: A Beginner's Guide* (Oneworld Publications, 2007) ◎各自で購入して下さい。	出席点、レジメ、プレゼン、期末レポート。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。 取り上げる文献は、今のところ、フェアトレード、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。	授業では、担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスを行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
図書館の論文データベース、検索サービスを利用する。	出席点、レジメ、プレゼン、期末レポート。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （コミュニケーションと文化）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give short summary presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English. This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development. ＊内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論a, b」を履修済みであることが望ましい。	1. Introduction to the course 2. A brief history of communication study (pp. 1-11) 3. Communication today (pp. 11-16) 4. Defining communication (pp. 17-24) 5. It all depends on your point of view (pp. 24-40) 6. What is listening (pp. 41-56) 7. Responding (pp. 56-66) 8. What is language? (pp. 67-85) 9. Language and social identity (pp. 85-100) 10. What is nonverbal communication? (pp. 101-108) 11. The nonverbal codes (pp. 108-131) 12. What is interpersonal communication? (pp. 132-148) 13. Increasing relational skills (pp. 148-164) 14. What is a group? (pp. 165-180) 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Trenholm, S. (2011). *Thinking through communication* (6th International edition). Boston, MA: Allyn & Bacon. ISBN9780205786848 **(Amazon.co.jp 等で各自購入してください。)**	Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （コミュニケーションと文化）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give short summary presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English. This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development. ＊内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。	1. Review and introduction 2. Group development (pp.181-198) 3. What is an organization? (pp. 199-212) 4. Increasing organizational skills (pp. 212-233) 5. What is public communication? (pp. 234-239) 6. Evaluating public communication (pp. 240-261) 7. What is a public speech? (pp. 262-272) 8. Managing delivery (pp. 272-280) 9. The traditional mass media (pp. 281-303) 10. New media (pp. 303-324) 11. What is culture? (pp. 325-331) 12. Barriers to intercultural communication (pp. 331-347) 13. How is communication research done? (pp. 349-377) 14. English/Japanese in intercultural contexts (Hashimoto & Kudo, 2010)* 15. Wrap-up * Hashimoto, H. & Kudo, K. (2010). Investment matters: Supremacy of English and (re)construction of identity in international exchange. *Language and Intercultural Communication* [Routledge], 10 (4), 373-387
テキスト、参考文献	**評価方法**
Trenholm, S. (2011). *Thinking through communication* (6th International edition). Boston, MA: Allyn & Bacon. ISBN9780205786848 **(Amazon.co.jp 等で各自購入してください。)**	Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)

09年度以降	英語専門講読　I （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
2011年。東日本大震災、そして福島原発事故が起こりました。変動相場制に移行して以降、対米ドルで、史上最高値の円高を更新。日本だけでなく、世界的にも、欧州経済危機やアラブの春など、大変化を経験しました（ここに書ききれない程、本当に沢山の歴史的出来事がありました）。「激動の時代」と表現されることが多くなりましたが、実際に就職活動を体験している学生の方や、これから卒業後の身の振り方の準備にかかる学生の方は、今の時代にリアルに不安を抱えているのではないでしょうか。 そんな状況の中で、「**詩を学ぶ**」ことは時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、**詩を学ぶことも実用的**だと言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「**言葉の力」を体感**することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「**詩を学ぶ＝生き方を学ぶ**」と言えるかもしれません。 詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れしたイメージが詩にあるとしたら、詩を一面的にしか見ていないように感じます。詩って、案外、もっと生活に密接しているものなのですよ。（↓に続きます）	私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます（便宜上、グループ発表となりますが、評価はグループ単位ではなく、個人単位です）。 発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるか、他の学生を眠らせないためにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。 1.　ガイダンス、グループ作り 2-3　オーストラリアの歴史①② 4-5　アボリジニの歴史①② 6-7　アボリジニの神話・伝説①② 8-9　英訳されたアボリジニの詩①② 10-14　英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤ 15.　講義のまとめ **第一回目の授業でグループを作ります。必ず参加してくださいね**
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。 www.leafandletters.com	※ 学期末レポート（**提出しなかった場合不可**）、 授業での参加度（プレゼン発表&発言）、出席状況 ※ 遅刻３回（30分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

09年度以降	英語専門講読　II （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
（↑からの続きです） 「**オーストラリアを学ぶ**」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。今でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しくなると思います。 それから、私たちは案外自分について理解していません。比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいですね。（例えば「オーストラリア人とは誰を指すか？」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。） 講義目的をまとめて書くと、「**言葉の力を体感する**」「**オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す**」「**オーストラリアを通して己を考える**」また、発表形式の授業ですので「**自分の言葉で考え、語る**」ことになります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「**自分の意見を他人に正確に伝える**」ことも学んでほしい大事なことです。 授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立つことができたら最高に嬉しく思います。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！	春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。 春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。 春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。 1.　ガイダンス 2～14. オーストラリアの詩、精読 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。 www.leafandletters.com	※　学期末レポート（**提出しなかった場合不可**）、 授業での参加度（プレゼン発表&発言）、出席状況 ※　遅刻３回（30分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

09 年度以降	英語専門講読　I （Critically thinking things through）	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
価値や意見の多様性を求めていく時代には、論争的な話題について考えていくことが大事になります。この授業では、議論の評価･作成をおこなうことによって、議論とは何か、論争にかかわるとは何かといったことを考えていきます。具体的には主に新聞や雑誌記事を分析、解釈することで、議論に関わるスキルの育成や、議論にかかわる際の望ましい態度の醸成を目指します。 授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になります。まず重要な概念を学びそれを用いて考えていくという流れをとるため、学期が進むにつれて授業参加の重要性が増していきます。	1 Course Overview 2 What is argument? 3 Argument structure 4 Argument structure 5 Argument evaluation: acceptability 6 Argument evaluation: acceptability 7 Mid-term exam 8 Argument evaluation: relevance 9 Argument evaluation: relevance 10 Argument evaluation: strength 11 Argument evaluation: strength 12 Evaluating a sidetracking argument 13 Evaluating a sidetracking argument 14 Evaluating a sidetracking argument 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に配布	授業参加、レポート、試験の総合評価による。

09 年度以降	英語専門講読　II （Critically thinking things through）	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続きです。目的や授業形態は春学期と同じです。この学期ではanalogy, causalityなどの特定の議論タイプ、視覚的議論に関して検討した後、実際の社会的論争について考えてみます。 授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になりますが、本学期はグループワークの比重が前期よりも高くなります。	1 Retrospect and Prospect 2 Analogical argument 3 Analogical argument 4 Analogical argument 5 Causal argument 6 Causal argument 7 Causal argument 8 Mid-term 9 Visual argument 10 Visual argument 11 Visual argument 12 Controversies 13 Controversies 14 Controversies 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に配布	授業参加、レポート、試験の総合評価による。

09 年度以降	英語専門講読　I （動詞の意味と文法）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは，英語のテンス，アスペクト及びモダリティに関する書籍である。 授業では，下記のテキストのはじめから 4 章の中ほどまでを読んでゆく予定である。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は，鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような，ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ，それを並べかえさえすればそれでよし，というようなことをせず，真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて，日本語らしさ，英語らしさについても学ぶことができるはずである。 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は論述式の予定である。	進度の目安は次の通りである。題目は章のタイトルに対応する。 １．オリエンテーション（出席は必須） ２．Simple Present and Past Tenses 1 ３．Simple Present and Past Tenses 2 ４．Simple Present and Past Tenses 3 ５．Simple Present and Past Tenses 4 ６．Progressive Aspect 1 ７．Progressive Aspect 2 ８．Progressive Aspect 3 ９．Progressive Aspect 4 １０．The Expression of Past Time 1 １１．The Expression of Past Time 2 １２．The Expression of Past Time 3 １３．The Expression of Past Time 4 １４．The Expression of Future Time 1 １５．The Expression of Future Time 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
Leech, Geoffrey (2011) *Meaning and the English Verb* (3rd edition). 東京：ひつじ書房.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

09 年度以降	英語専門講読　II （動詞の意味と文法）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは，英語のテンス，アスペクト及びモダリティに関する書籍である。 授業では，下記のテキストの 4 章の中ほどから終わりまでを読んでゆく予定である。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は，鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような，ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ，それを並べかえさえすればそれでよし，というようなことをせず，真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて，日本語らしさ，英語らしさについても学ぶことができるはずである。 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めない。試験は論述式の予定である。	進度の目安は次の通りである。題目は章のタイトルに対応する。 １．The Expression of Future Time 3 ２．The Expression of Future Time 4 ３．The Primary Modal Auxiliaries 1 ４．The Primary Modal Auxiliaries 2 ５．The Primary Modal Auxiliaries 3 ６．The Primary Modal Auxiliaries 4 ７．Modality Continued 1 ８．Modality Continued 2 ９．Modality Continued 3 １０．Modality Continued 4 １１．Indirect Speech 1 １２．Indirect Speech 2 １３．Indirect Speech 3 １４．Indirect Speech 4 １５．Mood: Theoretical and Hypothetical Meaning
テキスト、参考文献	**評価方法**
Leech, Geoffrey (2011) *Meaning and the English Verb* (3rd edition). 東京：ひつじ書房.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

09 年度以降	英語専門講読　I （アレン・ギンズバーグの詩を読む）	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
[概要]「ビート・ジェネレーション」を代表する詩人アレン・ギンズバーグ(Allen Ginsberg, 1926-1997)の作品を中心に読んでいく。西洋だけでなく東洋のエッセンスも詰め込んだギンズバーグの詩は大変難しい。従って作品の精読だけでなく、関連する批評も同時に読み進めていく。 [課題] 二週間に一度、もしくはそれ以上の頻度で提示される。 [発表] 一人一スタンザの割合で輪読していく。担当の学生は事前に詩の翻訳と補足資料を作成し、メーリングリストを使ってクラス全員に配布すること。 [レポート] 班を決定した後、各班で詩を分担し、作品の翻訳と作品論(1,500~2,000 字程度)を作成してもらう。なお、質に問題がある場合は、教員の指示のもとに繰り返し再提出してもらう。 上記の理由により、履修する学生にはかなりの忍耐力と語学力（目安：TOEIC 800 点）が必要とされる。また、発表を無断で欠席したり、他の学生に対して無責任な行動を取ったりした場合は評価対象外となる。 単位取得のためには相当な努力が必要であることを覚悟して頂きたい。	1. オリエンテーション 2. 映画『ビートニク』 3. 作品分析① 4. 作品分析② 5. 作品分析③ 6. 作品分析④ 7. 作品分析⑤ 8. 作品分析⑥ 9. 作品分析⑦ 10. 作品分析⑧ 11. 作品分析⑨ 12. 作品分析⑩ 13. 作品分析⑪ 14. 作品分析⑫ 15. 前期のまとめ（※レポート提出日）
テキスト、参考文献	**評価方法**
詩：*Selected Poems: 1947-1995* (Penguin Modern Classics)を購入すること。 批評（等）：教員が毎週配布する。	プリゼンテーションと翻訳＆作品論を総合して決める。なお、作品論の書式に関しては下記のサイトを参照のこと。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html

09 年度以降	英語専門講読　II （アレン・ギンズバーグの詩を読む）	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
[概要]前期と同じく「ビート・ジェネレーション」を代表する詩人アレン・ギンズバーグ(Allen Ginsberg, 1926-1997)の作品を中心に読んでいく。西洋だけでなく東洋のエッセンスも詰め込んだギンズバーグの詩は大変難しい。従って作品の精読だけでなく、関連する批評も同時に読み進めていく。 [課題] 二週間に一度、もしくはそれ以上の頻度で提示される。 [発表] 一人一スタンザの割合で輪読していく。担当の学生は事前に詩の翻訳と補足資料を作成し、メーリングリストを使ってクラス全員に配布すること。 [レポート] 班を決定した後、各班で詩を分担し、作品の翻訳と作品論(1,500~2,000 字程度)を作成してもらう。なお、質に問題がある場合は、教員の指示のもとに繰り返し再提出してもらう。 上記の理由により、履修する学生にはかなりの忍耐力と語学力（目安：TOEIC 800 点）が必要とされる。また、発表を無断で欠席したり、他の学生に対して無責任な行動を取ったりした場合は評価対象外となる。 単位取得のためには相当な努力が必要であることを覚悟して頂きたい。	1. オリエンテーション 2. 作品分析① 3. 作品分析② 4. 作品分析③ 5. 作品分析④ 6. 作品分析⑤ 7. 作品分析⑥ 8. 作品分析⑦ 9. 作品分析⑧ 10. 作品分析⑨ 11. 作品分析⑩ 12. 作品分析⑪ 13. 作品分析⑫ 14. 作品分析⑬ 15. 後期のまとめ（※レポート提出日）
テキスト、参考文献	**評価方法**
詩：*Selected Poems: 1947-1995* (Penguin Modern Classics)を購入すること。 批評（等）：教員が毎週配布する。	プリゼンテーションと翻訳＆作品論を総合して決める。なお、作品論の書式に関しては下記のサイトを参照のこと。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html

09年度以降	英語専門講読　Ⅰ （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。 使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高価なため、コピーを配布します。	毎回出席をとります。授業日数の１／３以上欠席された方は単位をあげません。遅刻３回で欠席１回にカウント。

09年度以降	英語専門講読　Ⅱ （米国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
米国ユダヤ人史の概説書を使用します。	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （物語を読んで楽しむ）	担当者	佐藤　勉

講義目的、講義概要	授業計画
優れた現代英米の物語（短編小説と呼んでもかまわない）を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、文学の読み方はどのようなものか、という点に焦点を当てて考えてみる。 物語の面白さを感じ取りながら、読むための技術を身につけることを目指す。そのためにいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになるかも知れない。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席すること大切である。 言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者が物語の語りにどんな技巧を駆使しているかを見極めていく。物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえることを期待している。授業では読み進める物語の解説とともに、 右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説をしながら読んでいくので、番号は必ずしも授業時間の回数ではない。	(序.) 1. J. Thurber の”The Unicorn in the Garden”――物語の面白さへの誘い――寓話と現実; J. C. Oates の “Embrace” における無言の意味; 2. I Asimov の “Silly”と A. Clarke の”The Curse”における宇宙科学のアイロニーと人間の愚かさ 3.S.V. Benet の”By the Waters of Babylon” における核の脅威と教訓 4. 前の授業の続き――読みと文学の解釈 5. 前の授業の続き――ドラマとしての語りの手法 6. 前の授業の続き――語り手の視点と作者 7. L. Newlin の “Our Last Day in Venice” における母と娘の関係 8. 前の授業の続き 9. 前の授業の続き 10. R.Gunesekera の”Carapace” における男女の違い 11. 前に授業の続き――物語の究極の意味とは 12　前の授業の続き――作者の本心を探る 13. F. Stockton の”The Lady or the Tiger?”―語りの基本 14. 前の授業の続き――関係的コミュニケーションとは 15. 前の授業の続き――物語の仕組みについて 注意：この授業に参加したい学生は予習の分担ができないと次の予習予定者に迷惑がかかります。この分担約束が果たせない学生は受講しないでください。もし一回でも果たせなかった場合は不可とします。それだけ重要なのです。 また、自分で発表しないと授業に困難が生じます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはすべてプリント教材を使います。授業の進展によって読むテキストが変更になることがあります。	出席点と期末テストによります。平常点は順番制で当たりますので、その時やらなかった場合にはマイナス点として点数化します。3 分の 2 以上の出席がないと単位は出ない。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （物語を読んで楽しむ）	担当者	佐藤　勉

講義目的、講義概要	授業計画
優れた現代英米の物語（短編小説と呼んでもかまわない）を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、文学の読み方はどのようなものか、という点に焦点を当てて考えてみる。 物語の面白さを感じ取りながら、読むための技術を身につけることを目指す。そのためにいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになるかも知れない。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席すること大切である。 言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者が物語の語りにどんな技巧を駆使しているかを見極めていく。物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえることを期待している。授業では読み進める物語の解説とともに、 右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説をしながら読んでいくので、番号は必ずしも授業時間の回数ではない。	物語の語りの技巧を学ぶとともに、さまざまな人生における物語の意味と重要性を理解します 1. Emma Brookes の”Visiting Time” の現代性とは 2. 前の授業の続き――罪と罰 3. 前の授業の続き――語り手の心の深刻さと変化 4. 前の授業の続き――許しとは 5. R. Dahl の “The Landlady” 恐怖の本質 6. 前の授業の続き 7. 前の授業の続き 8. S. Jackson の “The Lottery”――伝説と現実 9. 前の授業の続き 10. 前の授業の続き 11. M. Burgess の “Whose face Do You See?” における現代の生と死の意味 12. 前の授業の続き 13. 前の授業の続き 14. T. Williams の”Portrait of a Girl in Glass” における人間の優しさと個性 15. 前の授業の続き 注意：春学期と同じ内容の注意ですので、そちらを一緒に読んでおいて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはすべてプリント教材を使います。授業の進展によって読むテキストが変更になることがあります。	出席点と期末テストによります。平常点は順番制で当たりますので、その時やらなかった場合にはマイナス点として点数化します。3 分の 2 以上の出席がないと単位は出ない。

09 年度以降	英語専門講読　I （現代国際関係論）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、国際関係論の中でも紛争、民主化、核拡散、気候変動などの個別イシューを扱う。教材としては、*Foreign Affairs*、*Current History*、*The New York Times*、*Foreign Policy* などに掲載された論文や記事を用いる。これら論文を通して、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。 基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3 名で 1 つのグループを形成し、発表を行ってもらう。 授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。 なお、第 1 回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期の両方の履修が望ましい。	第 1 回　オリエンテーション、発表者決め 第 2～15 回　発表、ディスカッション （例） ・Lester Brown, The New Geopolitics of Food, *Foreign Policy*, May/June 2011. ・Wang Jisi, China's Search for a Grand Strategy, *Foreign Affairs*, March/April 2011. ・ Jeffery Sachs, Can Extreme Poverty Be Eliminated?, *Scientific American*, September 2005.. ・Jonathan Glennie, More Aid Is Not the Answer, *Current History*, May 2010.
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜配布する。	出席回数、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。

09 年度以降	英語専門講読　II （現代国際関係論）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、国際関係論の中でも紛争、民主化、核拡散、気候変動などの個別イシューを扱う。教材としては、*Foreign Affairs*、*Current History*、*The New York Times*、*Foreign Policy* などに掲載された論文や記事を用いる。これら論文を通して、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。 基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3 名で 1 つのグループを形成し、発表を行ってもらう。 授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。 なお、第 1 回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期の両方の履修が望ましい。	第 1 回　オリエンテーション、発表者決め 第 2～15 回　発表、ディスカッション （例） ・Jeff M.Smith, Sino-Indian Relations: A Troubled History, An Uncertain Future, *Harvard International Review*, Spring 2011. ・Timothy M. Shaw, Can the BRICs Become a Bloc? *China monitor*, June 2010. ・Daniel W. Drezner, Does Obama Have a Grand Strategy? Why We Need Doctrines in Uncertain Times, *Foreign Affairs, July/August* 2009.. ・Franco Pavoncello, One for All, All for One: The Euro in Crisis, *World Affairs*, May/June 2011.
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜配布する。	出席回数、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。

09 年度以降	英語専門講読　I （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
まず第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に質問表にもとづく質疑応答・討論により作品理解を深めることを目的とします。 20 世紀最大のアメリカ作家と言われる William Faulkner の最高傑作 *The Sound and the Fury*　(1929)に挑戦します。難解な小説と言われていますが、100%理解できなくても十分楽しめ、人間の想像力の素晴らしさを味わうことが出来る作品です。いくつかの例外はありますが、比較的平易な英語で書かれている箇所も多く、一般的に言われているほど英語学習者にとって読むことが困難な小説ではないと考えます。最近はインターネット上で難解な箇所を解き明かしてくれるサイトなども出現していますので、それらを利用すればさらに理解を深めることが出来るでしょう。アメリカ南部が舞台の作品ですが、「家族崩壊」、「初恋」、「兄弟間の愛憎」など現代の学生諸君にも十分理解・自己投影できる普遍性をもった作品と考えます。 質問表は教師が用意し、教師が討論の司会をしますが、途中から、学生諸君にプレゼンテーションや司会をしてもらうかもしれません。 授業で積極的に発言して、討論・意見交換に参加する学生の受講を希望します。	第 1 回～10 回：第 1 章 第 11 回～15 回：第 2 章前半 第 1 週に授業の進め方などについての説明と質問表にもとづく質疑応答・討論による体験授業を行います。 第 2 週以降、質問表にもとづく同様な方法で毎回平均ほぼ 10～15 ページずつ読んでいく予定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
William Faulkner, *The Sound and the Fury* (Vintage International, 1990) 参考文献：秋学期の授業計画の欄を参照	学期末の定期試験、および平常点（出席点ではありません。授業での発言による貢献度を加味します）

09 年度以降	英語専門講読　II （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
上記を参照。 参考までに、春学期第 1 週の質問表を以下に載せます。 1.　On the first line of the first page, the narrator writes, "I could see them hitting."　What on earth are they hitting? 2.　Why do you think Luster says, "Listen at you, now"? 3.　The last paragraph of the first page is italicized. Why do you think is the sudden change in typography? 4.　What does Benjamin [Benjy] want to do?　Why do you think he wants to go out? 5.　What is the first name of Benjamin's mother? 6.　Where are Mother and Benjamin going in the carriage T.P. is driving?　(Note what Mother tells Jason later.) 7.　The first underlined passage on page eight goes: "Then those on one side stopped at the tall white post where the soldier was. But on the other side they went on smooth and steady, but a little slower."　What is happening here? 8.　What do you think is the content of the letter Uncle Maury asks Caddy to take to Mrs. Patterson?	第 1 回～5 回：第 2 章後半 第 6 回～15 回：第 3 章と第 4 章 左記の質問表の解説が以下のサイトにありますので、参照してください。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit2faulkner.htm また下記のサイトにはこの作品の全文が掲載されており、その上、難解な箇所を読みやすくする工夫がなされています。受講希望者はぜひ参照しておいてください。 http://www.usask.ca/english/faulkner/
テキスト、参考文献	**評価方法**
William Faulkner, *The Sound and the Fury* (Vintage International, 1990) 参考文献：秋学期の授業計画の欄を参照	学期末の定期試験、および平常点（出席点ではありません。授業での発言による貢献度を加味します）

09 年度以降	英語専門講読　I （イギリス児童文学）	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
「習うより慣れよ。」（Use makes perfect.）の観点より、面白くて易しい英語を多読することを、目的とする。（昨年の実績は、課外のレポートも含めて 423 頁であった。） Lang (Andrew,1844-1922)の『色分け昔話集』（全１２巻）の内、『ブラウン昔話集』を読む。ラングはグリム同様編者に過ぎないが、中には翻訳・再話で少し変えているところもある。今回もなじみの話は少ないが、基本は同じ、夢とヒューマーとペイソスである。（１回２０頁相当を２人の共同責任で読んでもらう。） 参考文献 キャサリン・ブリグス編著　『妖精辞典』　平野敬一他訳 冨山房　１９９２年	1. ガイダンス 2. What the Rose did the Cypress 3. Ball-Carrier and the Bad One 4. The Bunyip 5. Father Grumbler 6. The Story of the Yara 7. The Cunning Hare 8. The Turtle and his Bride 9. How Geirald the Coward was Punished 10. Habogi 11. How the Little Brother set Free his Big Brothers 12. The Sacred Milk of Koumongoe 13. The Wicked Wolverine 14. The Husband of the Rat's Daughter 15. Mermaid and the Boy
テキスト、参考文献	**評価方法**
Lang,Andrew, *The Brown Fairy Book.* Dover Pubns,(1956/06)	期末試験をする。それとは別に課外に２０頁程度のものを読んでいただく。詳細は教室で指示する。

09 年度以降	英語専門講読　II （イギリス児童文学）	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
同　上	1. Pivi and Kab 2. The Elf　Maiden 3. How Some Wild Animals became Tame Ones 4. Fortune and Woodcutter 5. The Enchanted Head 6. The Sister of the Sun 7. The Prince and the Three Fates 8. The Fox and the Lapp 9. Kisa and the Cat 10. The Lion and the Cat 11. Which is the foolishest! 12. Asmund and Signy 13. Rubezahl 14. Story of King who would be Stronger than Fate 15. Story of Wali Dad the Simple-hearted
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

09 年度以降	英語専門講読　I （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
インコタームズ®（Incoterms®）とは、国際商業会議所（the International Chamber of Commerce; ICC）が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の制定以来、長年にわたって貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。数次の改訂を経て、現在、最新版のIncoterms®2010と旧版のIncoterms®2000がもっぱら実務に使用されています。インコタームズ®を貿易取引に採用すれば、FOBやCIF等の貿易条件（trade terms）の略号を表示することにより、売主と買主の義務、費用負担、貨物の引渡し場所などが明確になり、誤解や紛争が防げます。 　ところで、貿易実務やビジネス・コミュニケーションの学習者にとって不可欠な知識でありながら、インコタームズ®だけに焦点をあてて広く深く勉強するといった機会はこれまでほとんどありませんでした。そこで、この授業では、海外の文献を使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件を徹底的に学習することにより、単に実務的な知識を身につけるだけでなく、いわゆるロジスティクスの観点からも貿易条件を考察します。（下欄に続く）。	1.　春学期の授業内容および授業計画の説明 2.　Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件の概略 3.　E 類型（出荷地条件）の詳細 4.-5.　F 類型（主要運賃買主負担条件）の詳細 6.-8.　C 類型（主要運賃込み条件）の詳細 9.-11.　D 類型（到着条件）の詳細 12.　改正米国貿易定義(1941)と Incoterms®2000 の比較 13.-14.　主要貿易条件を用いた輸出入価格の積算訓練 15.　春学期の総復習および質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
Petersen, Catherine J., *Incoterms® 2000 and Incoterms®2010: A Practical Review,* Global Training Center Inc., 2011　および配布プリント	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

09 年度以降	英語専門講読　II （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
（上欄から続く）春学期は、Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件について、売主と買主の手続き義務、費用負担の範囲（価格の構成要素）、危険負担の分岐点（貨物の引渡し場所）、適用可能な運送手段などの点から詳細かつ正確に学習し、主要な貿易条件を用いた輸出価格および輸入価格の積算訓練を行います。また、特に米国との貿易で混乱を生じやすい「改正米国貿易定義」（Revised American Foreign Trade Definitions, 1941）の貿易条件についても学習する機会をもうけます。 　秋学期は、Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件について、Incoterms®2000 からの変更点を中心に詳細かつ正確に学習した後、各々の貿易条件の長所と短所を売主と買主の立場からそれぞれ検討して、国際ロジスティクス（logistics）の観点から有利な貿易条件を選択する戦略考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。 　この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクスなどに興味があり、これらの分野への就職や就活を考えている学生諸君に対して、非常に有益な知識を提供できるものと確信しています。その一方、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くなければ最後まで履修を継続することが難しいかもしれません。くれぐれも熟慮して履修の決定をして下さい。	1.　秋学期の授業内容および授業計画の説明 2.　Incoterms®2000 から Incoterms®2010 への変更点 3.　Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件の概略 4.-7.　「いかなる単数または複数の輸送手段にも適した」7 条件（EXW, FCA, CPT, CIP, DAT, DAP, DDP）の詳細 8.-10.　「海上および内陸水路輸送のための」4 条件（FAS, FOB, CFR, CIF）の詳細 11.-12.　各々の貿易条件についての売主側および買主側からみた長所と短所の検討 13.　貿易条件の誤用事例の紹介と問題点の検討 14.　国際ロジスティクスの観点から有利な貿易条件を選択する戦略の検討 15.　秋学期の総復習および質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
Petersen, Catherine J., *Incoterms® 2000 and Incoterms®2010: A Practical Review,* Global Training Center Inc., 2011　および配布プリント	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （生成文法理論への誘い）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： ２０世紀の言語学を先導したNoam Chomskyが１９８１年に公刊した生成文法理論の中心的な考え方と言語学の進むべき方向性を提示した論文を読み，生成文法理論の神髄を理解しながら，英語の読解力を伸ばすことを目的とする． **講義概要**： この論文は，生成文法理論の基本的な方針である〈原理と媒介変数による研究方法〉を提案している論文である．まず，言語学が取り組むべき三つの課題，①言語の知識とは何か，②この知識はどのように発展するか，③この知識はどのように使用されるかという課題が提示される．人間の生得的言語能力（Language Faculty）を説明するために普遍文法（Universal Grammar）が提唱される．普遍文法は全ての個別言語を可能にするものであり，言語獲得により核心文法（Core Grammar）が形成される．幼児がいかなる言語でも獲得できることを説明するために普遍的な諸原理を仮定し，同時に個別言語の多様性を説明するために媒介変数を仮定する．核心文法として拡大標準理論（Extended Standard Theory）の内容を説明し，変形部門とα移動規則（Move α）を解説する．	1. Three Fundamental Questions (1) 2. Three Fundamental Questions (2) 3. The Language Faculty 4. Universal Grammar 5. The Descriptively Adequate Grammar (1) 6. The Descriptively Adequate Grammar (2) 7. Universal Grammar and Core Grammar (1) 8. Universal Grammar and Core Grammar (2); MIDTERM EXAM 9. The Extended Standard Theory (1) 10. The Extended Standard Theory (2) 11. Transformational Component and Wh-movement (1) 12. Transformational Component and Wh-movement (2) 13. Comparison of Two Theories 14. The Theory with Move α (1) 15. The Theory with Move α (2); TERM EXAM
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: Noam Chomsky (1981) "Principles and Parameters in Syntactic Theory," in Hornstein, N. & D. Lightfoot (eds.) *Explanation in Linguistics*. Longman. pp. 32-75.	中間試験（40%）と期末試験（40%）と出席状況（10%程度）と授業における平常点（10%程度）に基づき総合的に評価する．単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる．

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （生成文法理論への誘い）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 20世紀の言語学を先導したNoam Chomskyが1981年に公刊した生成文法理論の中心的な考え方と言語学の進むべき方向性を提示した論文を読み，生成文法理論の神髄を理解しながら，英語の読解力を伸ばすことを目的とする． **講義概要**: α移動規則の適用は一般的な制約を受ける．その制約として複合名詞句制約（Complex NP Constraint），Wh-島条件（Wh-island Condition），下接の原理（Subjacency Principle）を議論する．下接の原理は，移動される要素の元の位置と移動先の位置の間には最多一つの境界範疇しか存在することができないというものである．英語のWh疑問文を詳細に検討し，さらに，英語とフランス語とイタリア語との比較から，境界範疇として考えられる句範疇は言語によって異なることを明らかにする．このことから，諸原理は媒介変数を仮定することにより，各個別言語では異なる形で働くことを説明する．さらに，α移動規則の適切な適用を保証するためには，下接の原理に加え，空範疇原理（Empty Category Principle）と束縛原理（Binding Principles）が必要になることを例証する．	1. Constraints on Move α: Complex NP Constraint 2. Constraints on Move α: Wh-island Condition 3. Constraints on Move α: Subjacency Principle 4. Successive Cyclic Applications of Move α 5. Wh-movement over "bridge verbs" 6. The Parametric Properties of the Subjacency Principle 7. Comparative Clauses as Islands; MIDTERM EXAM 8. Double Wh-island Constraint 9. Comparison among English, French and Italian 10. The Empty Category Principle 11. The Notion of Government 12. Case Assignment and Case Filter (1) 13. Case Assignment and Case Filter (2) 14. Binding Principles (1) 15. Binding Principles (2); TERM EXAM
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: Noam Chomsky (1981) "Principles and Parameters in Syntactic Theory," in Hornstein, N. & D. Lightfoot (eds.) *Explanation in Linguistics*. Longman. pp. 32-75.	中間試験（40%）と期末試験（40%）と出席状況（10%程度）と授業における平常点（10%程度）に基づき総合的に評価する．単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる．

09 年度以降	英語専門講読　I （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションやポスト・コロニアリズムという視点から、現代日本について書かれた論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状況についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、国際結婚などを予定している。 本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。 なお、週末等を利用して、本講義に関連した学外実習等を行なう可能性があるので注意されたい。	1. 趣旨説明・グループ分け （初回の授業でグループ分けを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。） 2. 各課題についての解説(1~2 回) 3. 基礎文献の講読・議論 個別の研究プロジェクトに取りかかる前の準備作業として、多文化・多民族という視点から日本社会を論じた文献の購読・議論を行なう。具体的には、テキスト欄に紹介した本のなかから、いくつかのチャプターを読んでいく。それゆえ、履修希望者はテキストを初回授業時までに用意しておくこと。なお扱う予定のチャプターは以下の通りである。 ・ Geographical and Generational Variations ・ Varieties in Work and Labor ・ Gender Stratification and the Family System ・ Minority Groups: Ethnicity and Discrimination ・ Popular Culture and Everyday Life
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sugimoto, Yoshio 2010. *An Introduction to Japanese Society (Third Edition).* **Cambridge and New York: Cambridge University Press**.	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語専門講読　II （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションやポスト植民地主義的状況という視点から、現代日本について書かれた英語論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状況についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、国際結婚などを予定している。 本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。 なお、週末等を利用して、本講義に関連した学外実習等を行なう可能性があるので注意されたい。	1 回 講義 2~14 回　プレゼンテーション 15 回　総合討論・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で、論文リスト（基本的には学術雑誌所収論文）を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語専門講読　I （コミュニケーションと異文化理解）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，異文化間コミュニケーション論の専門的な文献（書籍・論文）を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的にしています．すなわち，より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り，研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します．春学期は特に，一般コミュニケーションに関する基本的な知識を学習した上で，より専門的な文献の内容を理解することを目的にします． 授業は，グループワークが中心です．担当箇所についてのグループ発表の後，内容に関する質疑応答やディスカッション，担当者による補足説明と解説という形で進めていきます．グループ発表では，文献の内容を簡潔かつ具体的に説明することが求められます．コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し，その経験の中にあふれていて，学生諸君も必ず体験していることです．このことを念頭に置いて，受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし，毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています．目指すのは「学生の，学生による，学生のための授業」です．	1. 授業オリエンテーション 2. プレゼンテーションの方法 3. プレゼングループの決定 4. 基本文献講読 pp. 1-10　※ 教材配布 5. 基本文献講読 pp. 11-28　※ 教材配布 6. 基本文献講読 pp. 29-47　※ 教材配布 7. 基本文献講読 pp. 48-59　※ 教材配布 8. 基本文献講読 pp. 59-75　※ 教材配布 9. 基本文献講読 pp. 76-83　※ 教材配布 10. 非言語メッセージ・コード① 11. 非言語メッセージ・コード② 12. 異文化コミュニケーションの研究意義① 13. 異文化コミュニケーションの研究意義② 14. 異文化コミュニケーションとは何か① 15. 異文化コミュニケーションとは何か② ※ 理解度等により，授業進度が変わることもあります．
テキスト、参考文献	**評価方法**
1）Klopf, W. D. & Ishii, S. (1988). Communicating Effectively Across Cultures. Tokyo: Nan'un-do. 2）その他にコピー教材を配布します．	グループワーク（準備，発表の仕方，発表内容），授業への貢献度（質疑応答．議論への参加），学期末レポートまたは試験により評価します．

09 年度以降	英語専門講読　II （コミュニケーションと異文化理解）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，コミュニケーション論における専門的な文献（書籍・論文）を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的にしています．すなわち，より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り，研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します．秋学期では，特にいくつかの理論について書かれた文献を読むため，文献中に見られるそれぞれに概念やそれらの違い，およびその関連性を正しく理解しながら読み進めていくことを最大の目的にします． 授業は，グループワークが中心です．担当箇所についてのグループ発表の後，内容に関する質疑応答やディスカッション，担当者による補足説明と解説という形で進めていきます．コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し，その経験の中にあふれていて，学生諸君も必ず体験していることです．このことを念頭に置いて，受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし，毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています．目指すのは「学生の，学生による，学生のための授業」です．	1. 重要な文化的価値のパターン① 2. 重要な文化的価値のパターン② 3. 重要な文化的価値のパターン③ 4. 二元論の源泉：デカルト的世界観 5. 文化アイデンティティーの次元 6. 自己開示 7. Identity Management Theory ① 8. Identity Management Theory ② 9. Face-Negotiation Theory ① 10. Face-Negotiation Theory ② 11. Face-Negotiation Theory ③ 12. Expectancy Violation Theory ① 13. Expectancy Violation Theory ② 14. Expectancy Violation Theory ③ 15. 学期のまとめ＆レポート課題配布 ※ 理解度により，授業進度が変わることもあります．
テキスト、参考文献	**評価方法**
1）コピー教材を配布します． 2）心理学，社会学，物理学，統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など．	グループワーク（準備，発表の仕方，発表内容），授業への貢献度（質疑応答．議論への参加），学期末レポートまたは試験により評価します．

09 年度以降	英語専門講読　I （米国の対外政策）	担当者	髙木　綾

講義目的、講義概要	授業計画
米国の対外政策、特に日米関係及び米中関係について、その背景と現状を学ぶ。その理由は、グローバル化が進展する世界において、米国と中国は、日本にとってこれまで以上に重要な大国となるためである。本講義では、米国の視点からとらえた日米関係及び米中関係に関する知識を習得したのち、問題点を見つけ、解決策を模索することを試みる。 講義の進め方は、毎回全員が要約を A4 で 1 枚程度にまとめて提出し、学生同士交換する。それを踏まえた上で、ディスカッションを行う。そのためには、教材を読むだけではなく、必要な情報を補足してから講義に参加することも求められる。	第 1 週: Introduction (1) Japan-U.S. Relations 第 2 週: Most Recent Developments 第 3 週: March 2011 “Triple Disaster” 第 4 週: Major Diplomatic and Security Issues 第 5 週: Alliance Issues 第 6 週: Economic Issues 第 7 週: Japanese Politics (2) U.S.-China Relations: Policy Issues 第 8 週: Overview of U.S.-China Relations 第 9 週: Obama Administration Policy 第 10 週: Security Issues 第 11 週: Taiwan 第 12 週: Economic Issues 第 13 週: Climate Change and Clean Energy Cooperation 第 14 週: Human Rights Issues 第 15 週: 授業の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
米国連邦議会図書館議会調査局(CRS)の報告書を教材とする。(1) Japan-U.S. Relations: Issues for Congress 及び(2) U.S.-China Relations: Policy Issues を扱う。	出席点（３０％）、毎回の要約（４５％）、ディスカッションへの貢献度（５％）、小テスト（２０％）で評価します。

09 年度以降	英語専門講読　II （米国の対外政策）	担当者	髙木　綾

講義目的、講義概要	授業計画
英語専門講読 I.(米国の対外政策)で得た知識を前提に、米国の対外政策、特に日中関係及び中国の台頭が北東アジア諸国（台湾、日本、韓国）にもたらす影響について学ぶ。春学期で学んだ、日米関係、米中関係と併せて、日本を取り巻く国際政治環境の総合的理解をめざす。 講義の進め方は、毎回全員が要約を A4 で 1 枚程度にまとめて提出し、学生同士交換する。それを踏まえた上で、ディスカッションを行う。そのためには、教材を読むだけではなく、必要な情報を補足してから講義に参加することも求められる。	第 1 週: Introduction (1) Sino-Japanese Relations: Issue for U.S. Policy 第 2 週: Introduction 第 3 週: Historical Background 第 4 週: Outline of Détente 2006 - Present 第 5 週: Japan-China Economic Ties 第 6 週: Potential Complications and Issues for the U.S. (2)The Rise of China and Its Effect on Taiwan, Japan, and South Korea: U.S. Policy Choices 第 7 週: Globalization and the Rise of China 第 8 週: Bilateral Relationships in Northeast Asia/ ①Beijing-Taipei 第 9 週: ②Beijing-Tokyo 第 10 週: ③Beijing-Seoul 第 11 週: Policy Discussion 第 12 週: Policy Choices for the United States 第 13 週: Policy Choices for Japan 第 14 週: Policy Choices for China 第 15 週: 授業の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
CRS の報告書、(1) Sino-Japanese Relations: Issue for U.S. Policy 及び(2) The Rise of China and Its Effect on Taiwan, Japan, and South Korea: U.S. Policy Choices を扱う。	出席点（３０％）、毎回の要約（４５％）、ディスカッションへの貢献度（５％）、小テスト（２０％）で評価します。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （20 世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、２０世紀後半のアメリカの女性作家・詩人たちの作品（エッセイ、短篇小説、詩）を、精読あるいは多読しながら、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。	１．　ガイダンス ２．　日系アメリカ人の歴史と文化 ３．　映像や音楽に見られる日系アメリカ人 ４．　Hisaye Yamamoto　（小説） ５．　Janice Mirikitani　（詩） ６．　Janice Mirikitani　（インタビュー） ７．　日系からアジア系へ ８．　まとめ　復習テスト ９．　アフリカ系アメリカ人の文化と歴史 10.　Alice Walker　（小悦） 11.　Alice Walker　（詩） 13.　女性作家（未定）（インタビューなど） 14.　映像や音楽に見られるアフリカ系アメリカ人 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。	小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。 なお、4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （20 世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に続き、２０世紀アメリカの有色系女性作家・詩人たちの作品（エッセイ、短篇小説、詩）を精読あるいは多読することで、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。	１．ガイダンス ２．ネイティヴ・アメリカンの歴史と文化 ３．Leslie Marmon Silko　（小説） ４．Leslie Marmon Silko　（詩） ５．Leslie Marmon Silko (インタビュー) ６．映像に見られるネイティヴ・アメリカン ７．関連テーマの評論を読む ８．まとめ　復習テスト ９．境界からの声―チカーナという生き方 10.　Sandra Cisneros　（小説） 11.　Sandra Cisneros　（小説） 12.　Sandra Cisneros (インタビュー) 13.　映像に見られるチカーナ文化 14.　関連テーマの評論を読む 15.　まとめ　復習テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。	小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。なお、4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

09 年度以降	英語専門講読　I （グローバルな眼でアジアを読む）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に取り上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思います。 グループごとにプレゼンテーションを行ないます。４人～５人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。 グループは２週間を担当し、次のグループに交代します。 第１週目には、グループごとにプレゼン資料（レジュメ）を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましょう。 第２週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思います。	１．オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 ６つのグループを編成 グループ発表の日程を調整 ２．グループ発表のテーマ候補 以下の中から、グループごとに選びます。 アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）など
テキスト、参考文献	**評価方法**
Asian Survey　(A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2012.	プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答への貢献度などによって評価します。

09 年度以降	英語専門講読 （グローバルな眼でアジアを読む）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に取り上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思います。 グループごとにプレゼンテーションを行ないます。４人～５人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。 グループは２週間を担当し、次のグループに交代します。 第１週目には、グループごとにプレゼン資料（レジュメ）を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましょう。 第２週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思います。	１．オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 ６つのグループを編成 グループ発表の日程を調整 ２．グループ発表のテーマ候補 春学期に扱っていない国を、以下の中から選びます。 アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）など
テキスト、参考文献	**評価方法**
Asian Survey　(A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2012.	プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答への貢献度などによって評価します。

09 年度以降	英語専門講読　I （日本語学）	担当者	長南　一豪

講義目的、講義概要	授業計画
外国人に日本語を教える機会があると、私たちは母語である日本語のことをあまり知らないことに気づかされます。私たちが外国語を使いこなせるようになるためには、日本語について理解する必要があるでしょう。 この授業では、英語で書かれた日本語学に関する入門書を読みながら、日本語について考えます。英語や他の言語と比較しながら日本語の特徴を理解するとともに、言語学ではどのような分析がなされ、どのような問題点があるかを概観します。同時に、英語の論文を読むための実践的な読解力を養成します。受講者はテキストを予習し、質疑応答ができるようにしておくことが求められます。 日本語学はもちろん、英語学、言語学、異文化理解等に関心のある学生の参加を期待します。 春学期のトピックは、「私は本が好きだ」の「本が」は主語か、「雨の降った。」とは言えないが「雨の降った日」と言えるのはなぜか、子どもは「黄色いお花」のかわりに「黄色いのお花」と言うことがあるのはなぜか、など。	1. イントロダクション 2. 主格目的語構文(1) 3. 主格目的語構文(2) 4. 主格目的語構文(3) 5. 主格目的語構文(4) 6. 「が」「の」交替(1) 7. 「が」「の」交替(2) 8. 「が」「の」交替(3) 9. 「が」「の」交替(4) 10.日本語文法の獲得(1) 11.日本語文法の獲得(2) 12.日本語文法の獲得(3) 13.日本語文法の獲得(4) 14.日本語文法の獲得(5) 15.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Miyagawa, S. and M. Saito. (eds.) (2008) *The Oxford Handbook of Japanese Linguistics*, Oxford. （プリント配布）	期末試験(80%)と出席・授業参加(20%)を評価対象とします。

09 年度以降	英語専門講読　II （日本語学）	担当者	長南　一豪

講義目的、講義概要	授業計画
外国人に日本語を教える機会があると、私たちは母語である日本語のことをあまり知らないことに気づかされます。私たちが外国語を使いこなせるようになるためには、日本語について理解する必要があるでしょう。 この授業では、英語で書かれた日本語学に関する入門書を読みながら、日本語について考えます。英語や他の言語と比較しながら日本語の特徴を理解するとともに、言語学ではどのような分析がなされ、どのような問題点があるかを概観します。同時に、英語の論文を読むための実践的な読解力を養成します。受講者はテキストを予習し、質疑応答ができるようにしておくことが求められます。 日本語学はもちろん、英語学、言語学、異文化理解等に関心のある学生の参加を期待します。 秋学期のトピックは、「学生が研究室に３人来た」と言えるのに「学生が本を３人買った」と言えないのはなぜか、「太郎が着物を着くずす」と言えるが「太郎が着物を着くずれる」と言えないのはなぜか、「太郎が来た」と「太郎は来た」はどう違うのか、など。	1. イントロダクション 2. 数量詞遊離(1) 3. 数量詞遊離(2) 4. 数量詞遊離(3) 5. 数量詞遊離(4) 6. 動詞複合語(1) 7. 動詞複合語(2) 8. 動詞複合語(3) 9. 動詞複合語(4) 10.「が」「は」と情報構造(1) 11.「が」「は」と情報構造(2) 12.「が」「は」と情報構造(3) 13.「が」「は」と情報構造(4) 14.「が」「は」と情報構造(5) 15.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Miyagawa, S. and M. Saito. (eds.) (2008) *The Oxford Handbook of Japanese Linguistics*, Oxford. （プリント配布）	期末試験(80%)と出席・授業参加(20%)を評価対象とします。

09 年度以降	英語専門講読　I （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、英国の作家ジョージ･オーエルの小説 *Nineteen Eighty-four*（1948 年作品）を読む。 ここで描かれているのは、ビッグ･ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は３つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。 人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。オーエルを読み解くキーワードは、「人間らしさ(“decency”)」である。この２０世紀を代表する問題作を読みながら、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。	毎回、講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子をみて決定、調整する。折をみて、映画化された作品も授業内で紹介したい。学期末にレポートを課す。
テキスト、参考文献	**評価方法**
George Orwell *Nineteen Eighty-four* Penguin	授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。

09 年度以降	英語専門講読　II （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続き。	春学期の続き。
テキスト、参考文献	**評価方法**
George Orwell *Nineteen Eighty-four* Penguin	授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （戦後国際政治史）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。 毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお授業終了後には、英文和訳や内容確認の小テストを毎週行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。 テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。自信のない学生には、永野が担当する「国際関係特殊講義」（春学期、木曜２限）の受講を勧める。 ＊なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも５ページ分は読んでおくこと。**テキスト（もしくはコピー）を持参していないものの受講は認めない**。	１．　この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第１週） ２．　各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第 2～第 15 週）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert J. McMahon, *Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford University Press, 2003.	評価は次の３点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③小テスト（35%）。欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （戦後国際政治史）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。 毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてらうので、予習が不可欠になる。なお授業終了後には、和文英訳の小テストを毎週行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。 テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に 2 年生は要注意。 ＊なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも５ページ分は読んでおくこと。**テキスト（もしくはコピー）を持参していないものの受講は認めない**。	１．　この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第１週） ２．　各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第 2～第 15 週）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert J. McMahon, *Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford University Press, 2003.	評価は次の３点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③小テスト（35%）。欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

09年度以降	英語専門講読　Ⅰ （インタビューやニュースのスクリプトを読む）	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。ただこのことは、往々にして忘れられがちである。 当講座は、英会話以上の英語（スピーチ・レクチャー・インタビューetc）を聴いて理解できるようにするためにはどうしたらよいのか、そのスキルを会得するためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルのスクリプトを使って、聴解力アップのためのいろいろな読み方を体験してもらう。 なお、授業の３分の１以上を欠席した場合、単位は認められない。	聴解能力には、読解能力だけでなく、スピードもまた重要となってくる。そこで、学生には、文頭からの読み、予測読み、速読など（英語を聴いて理解するための読みの技術）を教えていきたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回ごとにスクリプトのプリントを使用	出席、平常授業での評価による

09年度以降	英語専門講読　Ⅱ （インタビューやニュースのスクリプトを読む）	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回ごとにスクリプトのプリントを使用	出席、平常授業での評価による

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （SLA 実証研究論文）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 第二言語習得(SLA: second language acquisition)研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文を講読する。それにより SLA に関する知識を得るとともに、研究論文で用いられる英語表現を知ることを目的とする。加えて、複雑ではあっても論理的な研究デザインを読み解くために繰り返し対象論文を読み、ロジカルな思考の訓練、さらなる英語力増強をも目指していく。 [概要] 「人間はどのようにして自分の母語以外の言語（第二言語）を身に付けていくのか？」ということは、自身英語学習者であるわれわれにとって非常に身近なテーマである。また、より良い英語学習法・教育法を追い求めるなかで、教師や研究者たちはさまざまな「実証研究」を行っている。たとえば「A という教え方と B という教え方のどちらが効果的なのか？」、「日本人の英語語彙力を正確に測るテストはどのように作ったらよいのか？」といったものである。本授業では、そのような実証研究論文を講読する。さらに、それらの研究結果、方法論について批評・議論も行う。	1.　【ガイダンス】実証研究とは何か 2.　実証研究論文の一例 3.　論文（1）：内容理解の確認 4.　論文（1）：内容理解の確認 5.　論文（1）：ディスカッション 6.　論文（2）：内容理解の確認 7.　論文（2）：内容理解の確認 8.　論文（2）：ディスカッション 9.　論文（3）：内容理解の確認 10.　論文（3）：内容理解の確認 11.　論文（3）：ディスカッション 12.　論文（4）：内容理解の確認 13.　論文（4）：内容理解の確認 14.　論文（4）：ディスカッション 15.　【まとめ】
テキスト、参考文献	**評価方法**
日本国内で出版された、日本人英語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （SLA 実証研究論文）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 春学期同様、SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を行う研究論文を講読する。 秋学期は、より広い視野をもって SLA 研究を考えること、より洗練されかつ高度な英語を読むことを目指し、海外で出版された論文を講読する。 [概要] 1）論文を読み、その内容について理解の確認を行う 2）その研究結果、方法論について批評・議論を行う 3）議論をもとに、より良い研究方法を提案する 秋学期はディスカッションとレポート作成を英語で行う。	1.　【ガイダンス】 2.　論文（1）：内容理解の確認 3.　論文（1）：内容理解の確認 4.　論文（1）：内容理解の確認 5.　論文（1）：ディスカッション 6.　論文（2）：内容理解の確認 7.　論文（2）：内容理解の確認 8.　論文（2）：内容理解の確認 9.　論文（2）：ディスカッション 10.　論文（3）：内容理解の確認 11.　論文（3）：内容理解の確認 12.　論文（3）：内容理解の確認 13.　論文（3）：ディスカッション 14.　最終レポート練習 15.　【まとめ】
テキスト、参考文献	**評価方法**
日本国外で出版された、第二言語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。

09 年度以降	英語専門講読　I （アメリカ現代詩を読む）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『奥の国』(*The Back Country,* 1968) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論の形式で行い、レポートを提出してもらいます。 ヴィデオ映像やＣＤを使って「声としての詩」—poetry performance についても紹介します。スナイダーについては、 http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を参照してください。 レポートの書き方については、 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html を参照ください。 最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。	1. An Introduction to Gary Snyder's Poetry 2. "When I went down" (p.72) & "Alysoun" (p.73) 3. "To Hell with your Fertility Cult (p.73) & "For a Stone Girl at Sanchi" (p. 74) 4. "Robin" (p.69) & " North Beach Alba" (p.75) 5. "Could She See the Whole Real World" (p.76) 6. "Night" (p. 77) & "A Dry Day Just Before the Rainy Season" (p. 78) 7. "Another for the Same"(p.79) & "This Tokyo" (p. 80) 8. "Kyoto Footnote" (p. 81) & " The Manichaeans" (pp. 82-83) 9. "Artemis" (p. 84) & "Madly Whirling Downhill"(p.85) 10. "Xrist" (p.86) & " More Better" (p.87) 11. "For Plants" (p.88) &What Do They Say" (p.89) 12. "The Six Hells of the Engine Room" (p.90) & "Maya" (p.91) 12. "Mother of Buddhas" (p.92) & " Wandering the Old, Dirty Countries" (p.93) 13. "On our Way to Khajuraho" (p.94) & "Anuradhapura City of the Pleiades" (p.95) 14. "Circumambulating Arunachala" (p.96) & "7: VII" (p. 97) 15. "Nanao Knows" (p.98) & "Lying in Bed on a Late Morning" (p.99)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Gary Snyder, *The Back Country.* New York: New Directions, 1971. (ISBN 0-8112-0194-5) ＊各自amazon.co.jpなどで購入のこと。	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはなりません。

09 年度以降	英語専門講読　II （アメリカ現代詩を読む）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『奥の国』(*The Back Country,* 1968) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論の形式で行い、レポートを提出してもらいます。 ヴィデオ映像やＣＤを使って「声としての詩」—poetry performance についても紹介します。スナイダーについては、 http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を参照してください。 レポートの書き方については、 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html を参照ください。 最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。	1. "An Introduction to Gary Snyder's Poetry" 2. "Looking at Pictures to be Put Away" (p.100) & "The Truth like the Belly of a Woman Turning" (p.101) 3. "For John Chappell" (p.102) & "How Many Times" (p.103) 4. "Tasting the Snow" (p.104) & "Go Round" (p.105) 5. "*After Ramprasad Sen* " (p.106) & The Old Dutch Woman" (pp.109-10) & "7.IV.64"(p.118) 6. "Nature　Green Shit" (p.110) 7. "To the Chinese Comrades" (p.111-14) 8. "For the West" (p.115-17) 9. "Twelve Hours out of New York" (p.119) & "Across Lamarck Col" (p.120) 10. "Hop, Skip, and Jump" (p.121) & "August was Foggy"(122) 11. "Beneath my Hand and Eye the Distant Hills" (p.123) & "The Plum Blossom Poem" (p.124) 12. "Through the Smoke Hole" (pp.125-27) 13. "Oysters" (p.128) 14. "A Berry Feast" (p.3-7) 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Gary Snyder, *The Back Country.* New York: New Directions, 1971. (ISBN 0-8112-0194-5) ＊各自 amazon.co.jp などで購入のこと。	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはなりません。

09 年度以降	英語専門講読　I （スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく）	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
この著者は、スヌーピーの漫画にはキリスト教のメッセージが描かれていると、述べている。 そこで、私たちの読者は、そのメッセージとはいかなるものか、読み取ってみたい。 昨年は、図書の内 Ⅱ．”The Whole Trouble”：Original Sin と Ⅲ．The Wages of Sin is “Aaaughh!” の二章を読んだ。 今年度は続いて Ⅳ．Good Grief! Ⅴ．The Hound of Heaven Ⅵ．Concluding Unscientific Postscript の三章を読む。 英文は、決して読み易いとは言えない。難易度は高く、読み難い。が、この文章に読み慣れてくると、そうでもなくなる。	１回目、ガイダンスとテキストコピーの配布。 ２回目以後、最終回までは、その日の事情にそって進み具合は変わってくるが、テキストを読み合わせていく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要とあれば、その都度配布。	授業への参加と試験とによる。

09 年度以降	英語専門講読　II （スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく）	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる。	初回から最終回まで春学期と同じように英文テキストを読み合わせていく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に準じる。	授業への参加と試験とによる。

09 年度以降	英語専門講読　I （*King Lear* を読む）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
シェイクスピアの悲劇 *King Lear*（『リア王』）を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。 *King Lear* はシェイクスピアの四大悲劇の一つである。古代ブリテンの老いた王が娘たちの心を読み取れなかったことに端を発する悲劇であるが、親子の問題がやがて人間と自然の対立、理性と狂気の混在、諦観と不条理の共存といった壮大なドラマに展開していく。テクストを丹念に読みながら、ドラマティックなアクションと内省的な心理表現とが結びつくシェイクスピアの作劇法を理解する。 近代初期の英語の韻文に初めて触れるという人も多いと思うので、現代の日常的な英語との語義や語法の違いなどを少しずつ説明しながら読みなれていく。またイギリス俳優による音声テープを聞き、セリフを音読して、韻文の音のパターンに慣れる。作品への理解を深めるために、シェイクスピア時代の劇場や社会的背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。	1. シェイクスピアについての概説と授業の進め方の説明 2. 精読 3. 精読 4. 精読 5. 精読 6. 精読 7. 小テスト 8. 精読 9. 精読 10. 精読 11. 精読 12. 精読 13. 精読 14. 精読 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
大修館シェイクスピア双書　*Julius Caesar*	小テスト：40% 期末テスト：60%

09 年度以降	英語専門講読　II （*King Lear* を読む）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期「英語専門講読 I」に同じ。	1. 精読 2. 精読 3. 精読 4. 精読 5. 精読 6. 精読 7. 精読 8. 小テスト 9. 精読 10. 精読 11. 精読 12. 精読 13. 精読 14. 精読 15. 精読
テキスト、参考文献	**評価方法**
大修館シェイクスピア双書　*Julius Caesar*	小テスト：40% 期末テスト：60%

09 年度以降	英語専門講読　I （ビデオゲームと身体）	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
デジタルメディアの発達は、人間と表象との関係をどのように変容させたのか。私が担当する授業では、おもな題材としてビデオゲームを取りあげながら、現代的なメディア環境における身体の位置に着眼し、映像表象への没入体験を誘発すると同時に、人間の認識・思考・行為などを制約しもするインターフェイスやデジタルテクノロジーの役割について考察する。 春学期に開講される「英語専門講読Ｉ」では、主要な講読の対象としてジェスパー・ジュールの『A Casual Revolution』を選定する。これは昨今におけるビデオゲーム研究の重要な成果のひとつであり、インターフェイスの発達によって惹起されるゲーム世界の変容について考察するための格好の題材であるといえる。	１　概要説明、プレゼンテーション担当者決定 ２　ビデオゲームと身体①【講義】 ３　ビデオゲームと身体②【講義】 ４　ビデオゲームと身体③【講義】 ５　A Casual Revolution【講読】 ６　What Is Casual? 【講読】 ７　All the Games You Played Before【講読】 ８　Innovations and Clones: The Gradual Evolution of Downloadable Casual Games【講読】 ９　Return to Player Space: The Success of Mimetic Interface Games【講読】 １０　Social Meaning and Social Goals【講読】 １１　Casual Play in a Hardcore Game【講読】 １２　Player, Developers, and the Future of Video Games【講読】 １３　研究発表 １４　研究発表 １５　研究発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
Jesper Juul　『A Casual Revolution』　The MIT Press	出席　40%、　プレゼンテーション　30% レポート　30%

09 年度以降	英語専門講読　II （映像表象の歴史と理論）	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、現代の映像文化を読み解くために必要な理論的知識／歴史知識を習得してもらうことにある。そのために本講義では、各種の映像表現を分析するために有効な学問的なアプローチ（記号論や視覚文化論など）を学び、さらには遠近法や写真などの視覚システムについて理解を深めながら、人間と映像との関係性について多角的に考察していく予定である。 なお、本講義では複数の文献を講読の題材として設定することになるが、その詳細は初回の授業において紹介する予定である。	１　概要説明、プレゼンテーション担当者決定 ２　映像表象の歴史と理論①【講義】 ３　映像表象の歴史と理論②【講義】 ４　映像表象の歴史と理論③【講義】 ５　記号論の文献を読む①【講読】 ６　記号論の文献を読む②【講読】 ７　記号論の文献を読む③【講読】 ８　視覚文化論の文献を読む①【講読】 ９　視覚文化論の文献を読む②【講読】 １０　写真史の文献を読む①【講読】 １１　写真史の文献を読む②【講読】 １２　写真史の文献を読む③【講読】 １３　研究発表 １４　研究発表 １５　研究発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
講読の対象となる文献に関しては初回の授業において紹介する。	出席　40%、　プレゼンテーション　30% レポート　30%

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （ミステリー&サスペンスを解読する）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
米国19世紀終わりから20世紀半ばまでを舞台にしたショートミステリー、サスペンス、怪奇ものを読み、時代背景を考察していく。味わい深い表現やシンボリックなものについてもみていく。 講読する作品が現代どのような意味をもつか、いまの文化表象にみる影響などについても考えてみる。	1　ミステリー小説と時代 2　ヒッチコック作品 3　ヒッチコック作品 4　ヒッチコック作品 5　エドガー・アラン・ポー作品 6　エドガー・アラン・ポー作品 7　エドガー・アラン・ポー作品 8　ミステリー作家大賞受賞作 9　ミステリー作家大賞受賞作 10　ミステリー作家大賞受賞作 11　「怖さ」「奇異」についての評論 12　現代ホラー 13　現代ホラー 14　Wrap-Up 1 15　Wrap-Up 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。	平常授業時における課題レポート、宿題、発言等 50%、期末試験 50%。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （米国とカリブ社会のアフリカ系作家によるショートストーリー）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
米国やカリブ海出身のアフリカ系作家によるショートストーリーを読んでいく。彼/女らの語りのなかにある歴史性を考察していく。 「黒人性」にこだわったスタイリッシュな語り口を特徴とする作品を選ぶので、十分に味わいながら楽しんでほしい。	1　アフリカ系ディアスポラ 2　アフリカ系アメリカ人の表現 3　Chicken Soup1 4　Chicken Soup 2 5　Chicken Soup 3 6　Root へのこだわり 1 7　Root へのこだわり 2 8　Root へのこだわり 3 9　音楽とアイデンティティ 1 10　音楽とアイデンティティ 2 11　音楽とアイデンティティ 3 12　カリブの昔話 1 13　カリブの昔話 2 14　Wrap-Up1 15　Wrap-Up 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。	平常授業時における課題レポート、宿題、発言等 50%、期末試験 50%。

09 年度以降	英語専門講読　I （オープンスカイと北東アジア共通航空市場）	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
今、日本の航空が激動の時期を向かえているのは誰の目にも分かる。どういういきさつの下でこうなったのか。そして今後どうなるのか、否、どうすべきなのか。 ・国際民間航空の枠組みは、第二次大戦中に、米国が中心となり連合国の国々によって作られ、今も世界を規制している。　他方、この航空の世界的な枠組みである「シカゴ・バミューダ体制」の生みの親の一方である米国はこの枠組みを脱し二国間でのオープンスカイを世界に拡め、又もう一方の親であるＥＵは 27 カ国でバリヤー・フリーの航空圏を作った。世界の空は規制のないオープンスカイに向けて大きく舵を切り始めたのである。 ・日本は伝統的な「シカゴ・バミューダ体制」の枠を脱しきれず、近隣諸国（韓国、中国など）との連携もなく一国主義の枠からも出ることがない。 ・講義計画に掲げるテキストを使用し、世界の空を規制する現行の空の枠組み、ＥＵ－ＵＳの新たな空への動き、日中韓、北東アジアの空のこれからを読み解く。 日本の「おもてなしの心」、アジアで共有する高コンテクスト文化を礎とする「東アジア共通航空市場」（仮称）の姿を探求する。	1 回　オリエンテーション；講義の進め方 2 回　グループ分けと講義（シカゴ・バミューダ体制の基礎） 3～7 回　シカゴ・バミューダ体制を読み解く （7 回はグループ発表、レジュメを用意する） 8 回　講義；現行「シカゴ・バミューダ体制」の問題 9～13 回　現行体制の問題を読み解く （13 回はグループ発表、レジュメを用意する） 14 回　講義；世界の空の問題とＥＵで起きていること 15 回　まとめ、個人発表 テキスト ①“Chicago Regime Research Committee Report” by Japan International Transport Institute ②“The US-EU Agreement-A Path to a Global Aviation Agreement”　Issues in Aviation Law and Policy ③“Recent developments in China’s air transport：Implications for Northeast Asia Integration” by　Professor Anming Zhang, The University of British Columbia その他欧米における関連論文を都度紹介する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義計画の欄に記載のテキスト。　プリント教材の形で配布する。その他、講義の中で適宜プリントを配布する。	出席、発表、授業への参画（５０％）、期末レポート（５０％）

09 年度以降	英語専門講読　II （オープンスカイと北東アジア共通航空市場）	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の読み解き、考察をベースに、「北東アジア共通航空市場構想」に力点を向ける。同構想の基礎をなす、又理念ともなるアジアの精神、「ホスピタリティ」の考察にも注力する。	1 回　講義の進め方　新グループ作り 2 回　講義；ＥＵ単一航空市場について 3～7 回　テキスト①のＣｈ３、Ｃｈ４を中心に読み解く Hospitality についての議論を深める （7 回はグループ発表、レジュメを用意する） 8 回　講義；ＵＳ，ＥＵの戦略、ASEAN の動き 「日本から発信するホスピタリティ」について 9～13 回　テキスト②、③を読み解く （13 回はグループ発表、レジュメを用意する） 14 回　個人発表　北東アジア共通航空市場構想について 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	出席、発表、授業への参画（５０％）、期末レポート（５０％）

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （アメリカにおける人種概念）	担当者	佐原　彩子

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は、アメリカ合衆国の文化・政治・社会を理解するために、避けては通れない人種概念を英語で理解することです。そのため Reginald Horsman “Race and Manifest Destiny”を春学期に読み、合衆国の国民国家概念と人種概念の結びつきを学びます。その後の合衆国が白人優越意識を保持し、その勢力を海外に拡張していく過程も考慮にいれながら、人種概念が文化・政治・社会に果たす役割を検討していきます。テキストは 19 世紀半ばまでが中心ですが、授業では現在の合衆国の文化・政治・社会も題材に、テキストと結びつけながら合衆国社会における人種概念の変遷と白人性のあり方を考察します。 週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その内容を日本語に要約し、毎週提出してもらいます。授業はテキストに基づいた内容の説明、質疑応答、討論を軸に進めます。	Tentative schedule: 1. Introduction 2. Liberty and the Anglo-Saxon 3. Aryans Follow the Sun 4. Science and Inequality 5. Racial Anglo-Saxonism in England 6. Providential Nation 7. The Other Americans 8. Superior and Inferior Races 9. The Dissemination of Scientific Racialism 10. Romantic Racial Nationalism 11. Racial Destiny and the Indians 12. Anglo-Saxons and Mexicans 13. Race, Expansion, and the Mexican War 14. A Confused Minority 15. Expansion and World Mission
テキスト、参考文献	**評価方法**
Reginald Horsman, *Race and Manifest Destiny: The Origins of American Racial Anglo-Saxonism* (Cambridge, MA: Harvard University Press, 1981)	出席 30%　授業への参加・貢献度 50%（提出物含む）学期末研究発表 20%

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （アメリカにおける人種概念）	担当者	佐原　彩子

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は、春学期と同様ですが、秋学期は特に冷戦以後の人種概念を英語で理解することを目的とします。そのため Thomas Borstelmann “The Cold War and the Color Line”を読み、冷戦下での合衆国の国民国家概念と人種概念の結びつきを学びます。1945 年から 1990 年代において、合衆国の人種概念が国内にとどまらず国際的に果たした役割を検討していきます。テキストは 1990 年代までが中心ですが、授業では現在の合衆国の文化・政治・社会、とくに“war on terror”を題材に、テキストと結びつけながら冷戦下における人種概念の変遷が現在の世界の状況と密接に結びついていることを考察します。 授業は、受講者によるプレゼンテーション、テキストに基づいた内容の説明、質疑応答、討論を軸に進めます。初回の授業でプレゼンテーションの担当者を決めます。また、受講者の関心にしたがって、学期後半の週に研究発表をしてもらいます。	Tentative schedule: 1. Course Introduction 2. Prologue 3. Race and Foreign Relations before 1945 4. Jim Crow’s Coming Out 5. The Last Hurrah of the Old Color Line 6. The Last Hurrah of the Old Color Line II 7. The Revolutions in the American South and Southern Africa 8. The Revolutions in the American South and Southern Africa II 9. The Perilous Path to Equality 10. The Perilous Path to Equality II 11. The End of the Cold War and White Supremacy 12. The End of the Cold War and White Supremacy II 13. Epilogue 14. Presentations 15. Feedback and comments
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thomas Borstelmann, *The Cold War and the Color Line: American Race Relations in the Global Arena* (Cambridge, MA: Harvard University Press, 2001)	出席 30%　授業への参加・貢献度 50%（プレゼンテーション含む）　学期末研究発表 20%

09 年度以降	英語の世界 Ⅱ	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
受講者は TOEIC900 点以上の取得者から break の過去形を broked と、また dog に冠詞も-s も付けずに書く人までさまざまいますが、9 割は教諭免許取得希望者ですから、授業の狙いは、言語学の最近の成果を踏まえ、英語その本当の姿についての知識をしっかり身につけてもらうことにあります。したがって、授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそう言えるのに、こうは言えないの？」という素朴な疑問に対する「なるほど！」と納得のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。 この授業は単位を取るのが難しいと言われていますが、予習･復習をしていればそのようなことはないはずです。参考のために、単位を落とす人の傾向を示しておきます。 ★授業当日までにプリントに目を通し、例文の意味を調べず、授業後も復習をしない。 ★欠席しがちで、出席しても集中して聴かない。 ★講義内容でわからないところを（メール等で）質問せず、ほったらかしておく。 ★英語の知識を身につけたいという意欲があまりない。 要するに、学習の基本的態度さえ身についていれば容易に単位をとることができるということです。<以下に続く>	1. 前置詞の意味 2. 前置詞と動詞の意味ネットワーク 3. 不定冠詞 vs. はだか名詞 4. 英語と日本語の情報構造 5. 情報の新旧と冠詞 6. 自動詞構文と他動詞構文 7. 英語受動文 8. GET 受身と BE 受身･動詞的受身と形容詞的受身 9. 再帰代名詞の使い方 10. 動詞の意味と構文（結果構文） 11. 動詞の意味と構文（二重目的語構文） 12 動詞の意味と構文（壁塗り構文） 13. 動詞の意味と構文（tough 構文と中間構文） 14. 書き換え構文はどこまで交替可能か 15. 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相） ※ 上のトピックに変更を加える場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：第 2 週目からは講義支援ポータルサイトを通じて配布しますので、各自で印字して下さい。 参考書：授業中に適宜紹介します。	最終成績は平常テストと課題が 4 割～5 割を占め、定期試験が 5 割～6 割を占めます。なお、平常の成績が一定基準を満たさないと定期試験が受験できない場合があります。

09 年度以降	英語の世界 Ⅱ	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業を受ける利点には次のようなこともあります。 (1) 3 通りのかたちの名詞それぞれの使い分けが出来るようになる。 a. Anyone who plays piano knows that is no great feat. b. He hates playing a piano which is out of tune. c. Do you play the piano? (2) 上の c の the と the sun、the wines of France などに使う the の規則に共通性のあること知ることができる。 (3) “I was standing (　) the corner.” のカッコに at も in も on も入るが意味（=見方）が違うことがわかる。 (4) 疲れている人に向かって「一所懸命働いたから疲れているんだよ」という場合には a のほうがよいとわかる。 a. You feel tired because you've worked hard. b.??Because you've worked hard, you feel tired. (5) 日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言えても、“I persuaded John out of smoking, but he didn’t quit smoking.” とは言えない理由がわかるようになる。 (6) The President of the United States is Barack Obama, に付く付加疑問は isn’t he?ではなく isn’t it?になることがわかるようになる。	1. 前置詞の意味 2. 前置詞と動詞の意味ネットワーク 3. 不定冠詞 vs. はだか名詞 4. 英語と日本語の情報構造 5. 情報の新旧と冠詞 6. 自動詞構文と他動詞構文 7. 英語受動文 8. GET 受身と BE 受身･動詞的受身と形容詞的受身 9. 再帰代名詞の使い方 10. 動詞の意味と構文（結果構文） 11. 動詞の意味と構文（二重目的語構文） 12 動詞の意味と構文（壁塗り構文） 13. 動詞の意味と構文（tough 構文と中間構文） 14. 書き換え構文はどこまで交替可能か 15. 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相） ※ 上のトピックに変更を加える場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：第 2 週目からは講義支援ポータルサイトを通じて配布しますので、各自で印字して下さい。 参考書：授業中に適宜紹介します。	最終成績は平常テストと課題が 4 割～5 割を占め、定期試験が 5 割～6 割を占めます。なお、平常の成績が一定基準を満たさないと定期試験が受験できない場合があります。

09 年度以降	観光英語　I	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ 　海外に旅行する日本人、海外から来日する外国人の数も飛躍的に増えており、これに対応する職業（旅行・観光・ホテル・レストランサービス等）にあっては、必然的に外国語、特に英語による業務が急増している。そこでは英語の一般的能力だけではなく、業界専門用語や独特の言い回しなど、業務遂行に必要な英語力を持ったプロフェッショナルの養成が急務であり、また恒常的にもかかる能力を有する人への高い需要がある。したがって、この授業では、主として海外旅行で必要かつ観光・旅行の仕事で役立つ観光英語の運用能力を身につけることを目的とし、具体的には、「観光英語検定試験」（Tourism English Proficiency Test）の２級合格を目指すことをひとつの目標とする。 授業の概要 　マルチメディア（ＤＶＤ／ビデオ・ＰＣ）を駆使して、実際の観光状況を確認し、観光に関する用語・表現様式、文化の差異、マナー等々について学びながら、実践的英語運用能力を高めてゆくことを目途とする。	第１回：　Orientation(参加者の英語力・異文化経験･外国旅行経験等々調査) 第２回：観光英語検定試験の模擬試験実施 第３回：英語力涵養の様々な Tool(Internet,映画、テレビ、ラジオ等々)の確認と利用実験 第４回：観光体験を基にシナリオ作成 第５回：シナリオを基に観光活動を英語で実践 第６回：観光実務に必要とされる語彙の確認 第７回:異文化に対する感性を鋭くするための Case Study 第８回：観光英語検定試験の模擬試験実施 第９回：ビデオによる擬似観光体験をしながら、英語による案内を練習 第１０回：ビデオによる擬似観光体験をしながら、英語による案内を練習 第１１回：案内の講評と校正版の実施 第１２回：ゲストを招き観光についてのインタビュー 第１３回：観光英語検定試験の模擬試験実施 第１４回：観光英語検定試験の解説と対策 第１５回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考書　適宜紹介する	出席 30%　課題 20%　試験 30%　授業貢献度 20%

09 年度以降	観光英語　II	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ 「観光英語　I」の続きの授業で、国際観光事業に従事する際に必要となる実務レベルの観光英語の運用能力を身につけることを目的とし、具体的には、「観光英語検定試験」（Tourism English Proficiency Test）の１級合格を目指すことをひとつの目標とする。 授業の概要 　観光英語　I に引き続いて、同様の方式にて更に高度な実践的英語運用能力を涵養すべく､Role Playing を多用し、かつ観光計画を作成させ、Simulation を実施する。	第１回：ガイダンス 第２回：　種々の英語検定試験の概観と英語語彙力テスト 第３回：観光英語検定試験１級の問題実施 第４回：問題解説 第５回：学習方法の紹介と研究 第６回：英語での日本観光計画作成 第７回：観光客からの想定質問集作成 第８回：想定質問に対する回答作成 第９回：想定質問に対する回答作成 第１０回：日本の観光名所を選び、想定案内シナリオ作成 第１１回：　Role Playing による観光案内の練習とその経過のビデオ撮り 第１２回：　ビデオを見ながら検討会 第１３回：観光英語検定試験１級の問題実施 第１４回：観光英語検定試験１級の解説と対策 第１５回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考書　『英語で話す「日本」Q &A』　講談社	出席 30%　課題 20%　試験 30%　授業貢献度 20%

09 年度以降	通訳案内士の英語　I	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ 通常通訳ガイドとして最低限求められる読解力、説明力、語彙力等、口述力以外の総合的な語学能力を身につけることを目的とし、具体的には通訳案内士試験の第一次試験の合格を目指すことを目標とする。 第１次試験の出題に沿い、その受験対策となるような実践的学習を行う。 授業の概要 　明確な目標の下、問題演習を多くこなしてゆく。また集中的訓練を中心とした Pair-work, Group-work の形式で柔軟な対応を身につける相互訓練、及び Communication 訓練を行う。	第１回：　ガイダンス 第２回：　Orientation（出席者の異文化体験･外国旅行体験等々調査を含む） 第３回：実際の通訳案内士試験問題に取り組む 第４回：必要とされる英語レベルの確認を行いながら、自己の英語総合力を認識させる 第５回：幅広い理解力運用力涵養のため、様々な英語（各国の訛・特徴）を知る 第６回：　Speaking の訓練方法を紹介実践 第７回：　Listening の訓練方法を紹介実践 第８回：　Writing の訓練方法の紹介実践 第９回：　Extensive/Intensive Reading の紹介実践 第１０回：模擬通訳案内士試験問題取り組み 第１１回：英字新聞を利用し、時事問題について簡潔に伝える練習を行う 第１２回：映画を利用して名場面を英語で紹介する練習を行う 第１３回：日本の名所旧跡を選び印象的に紹介する練習をする 第１４回：日本一週のガイドに挑戦 第１５回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考書　『英語で読む日本史』　講談社、『翻訳力練成テキストブック』　日外アソシエーツ	出席 30%　課題 20%　試験 30%　授業貢献度 20%

09 年度以降	通訳案内士の英語　II	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ 「通訳案内士の英語　I」の続きの授業であるが、「通訳案内士の英語　I」で目標とした英語力に加え、通訳案内士の第２次口述試験を合格するのに必要な実践的コミュニケーション能力の訓練を行う。 授業の概要 　「通訳案内士の英語　I」の授業の方式を踏襲しつつ、更に高度な応用能力を涵養すべく、擬似口述試験の練習を定期的に取り入れる。クラス内でゲストを招き実際の通訳案内の体験を行う。	第１回：　ガイダンス 第２回：　Orientation（通訳案内士の英語 I で身につけた総合力の確認） 第３回：　Project（観光案内の計画）大テーマ策定 第４回：各グループに分かれ、テーマを絞り、観光計画策定 第５回：各グループで調査･演習活動（１）<u>具体的計画策定</u> 第６回：各グループで調査･演習活動（２）<u>計画実行及び反省・検討</u> 第７回：各グループ発表（審査･検討会） 第８回：新しいテーマと新しいグループによる観光案内計画策定 第９回：各グループで調査･演習活動（１）<u>前回の計画・実行の反省・検討を基に計画策定</u> 第１０回：各グループで調査･演習活動（２）<u>計画実行及び反省・検討</u> 第１１回：各グループ発表（審査･検討会） 第１２回：模擬試験 第１３回：模擬試験検討会 第１４回：各人による観光案内計画発表 第１５回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考書 *Communicating with the Japanese* J.V.Neustupny　The Japan Times	出席 30%　課題 20%　試験 30%　授業貢献度 20%

09 年度以降	Business Writing	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
国際化時代にあって、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても大半の学生が、ある程度本格的なビジネスレターを書けないのが現状である。**本講義では、本格的な Business Writing の書き方を分かりやすく解説し、指導していきます。** 外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたい学生と英語教員志望の学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。**将来に役立つ実践的な Business Writing の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。** 具体的に講義を説明いたします。英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、ビジネスレターの書き方を指導する。同時に、国際企業への就職活動や海外の大学・大学院に入学するために必要な英文履歴書と英文カバーレターの書き方も分かりやすく説明し、指導する。**English for Business と Business Writing の講義を併せて履修すると、社会に出ても十分に通用する Business English を総合的に学習することになります。** 尚、半期終了型の授業なので、それなりのスピードで授業を進めていきますので、予習・復習を十分にできる学生を対象といたします。第１回目の授業で詳しく説明いたします。一緒に勉強いたしましょう。	第１回：ガイダンス 第２回：ビジネスレターの形式（その１―「ビジネスレターの構成要素」） 第３回：ビジネスレターの形式（その２―「スタイル・句読点」）と**練習問題１** 第４回：効果的なビジネスレターの書き方（その１―「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・"You" Attitude・礼儀正しさ」） 第５回：効果的なビジネスレターの書き方（その２―「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と**練習問題２** 第６回：よく使用される表現（その１―「取引の申込み」） 第７回：よく使用される表現（その２―「引合い」）と**練習問題３** 第８回：よく使用される表現（その３―「オファー」） 第９回：よく使用される表現（その４―「信用状」）と**練習問題４** 第１０回：よく使用される表現（その５―「積出し」） 第１１回：よく使用される表現（その６―「クレーム」） 第１２回　英文履歴書と英文カバーレターの書き方 第１３回：英文 Business Writing **実践練習問題（その１）** 第１４回：英文 Business Writing **実践練習問題（その２）** 第１５回：まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：海老沢達郎著『BUSINESS WRITING　英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年） プリント：必要に応じて随時配布する	学期末試験（８０％）を中心にして、これに出席・レポート・授業貢献度（２０％）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は５回までとする。

09 年度以降	Business Writing	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
国際化時代にあって、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても大半の学生が、ある程度本格的なビジネスレターを書けないのが現状である。**本講義では、本格的な Business Writing の書き方を分かりやすく解説し、指導していきます。** 外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたい学生と英語教員志望の学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。**将来に役立つ実践的な Business Writing の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。** 具体的に講義を説明いたします。英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、ビジネスレターの書き方を指導する。同時に、国際企業への就職活動や海外の大学・大学院に入学するために必要な英文履歴書と英文カバーレターの書き方も分かりやすく説明し、指導する。**English for Business と Business Writing の講義を併せて履修すると、社会に出ても十分に通用する Business English を総合的に学習することになります。** 尚、半期終了型の授業なので、それなりのスピードで授業を進めていきますので、予習・復習を十分にできる学生を対象といたします。第１回目の授業で詳しく説明いたします。一緒に勉強いたしましょう。	第１回：ガイダンス 第２回：ビジネスレターの形式（その１―「ビジネスレターの構成要素」） 第３回：ビジネスレターの形式（その２―「スタイル・句読点」）と**練習問題１** 第４回：効果的なビジネスレターの書き方（その１―「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・"You" Attitude・礼儀正しさ」） 第５回：効果的なビジネスレターの書き方（その２―「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と**練習問題２** 第６回：よく使用される表現（その１―「取引の申込み」） 第７回：よく使用される表現（その２―「引合い」）と**練習問題３** 第８回：よく使用される表現（その３―「オファー」） 第９回：よく使用される表現（その４―「信用状」）と**練習問題４** 第１０回：よく使用される表現（その５―「積出し」） 第１１回：よく使用される表現（その６―「クレーム」） 第１２回：英文履歴書と英文カバーレターの書き方 第１３回：英文 Business Writing **実践練習問題（その１）** 第１４回：英文 Business Writing **実践練習問題（その２）** 第１５回：まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：海老沢達郎著『BUSINESS WRITING　英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年） プリント：必要に応じて随時配布する	学期末試験（８０％）を中心にして、これに出席・レポート・授業貢献度（２０％）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は５回までとする。

09 年度以降	Academic Writing	担当者	D．H．ケネディ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-semester course to develop students' confidence and ability to write academic research papers in English. Students will approach this art experientially – by participating meaningfully within a real academic community. In the process, they will understand the relevance of doing primary and secondary research, as well the logic behind expressing their discoveries in an acceptable academic format. The course will culminate in a short research paper with proper citation. Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback. Students are expected to spend plenty of time outside class doing readings, responding to these readings in a casual written format, conducting research, and completing assignments with care. In class, students should be prepared to contribute and to engage with others in the exchange of ideas.	1. Course introduction 2. Discussions on first reading 3. Discussions on second reading 4. Discussions on third reading 5. Explanation of primary research project 6. Planning and preparation 7. Planning and preparation 8. Group presentations 9. Explanation of secondary research paper 10. Discovering the natural structure of research papers 11. Introductions, thesis statements, plans 12. Plagiarism and the importance of citations 13. Peer and instructor consultations 14. Research paper due 15. Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
All materials will be provided by the instructor. Students are expected to retain these materials until the end of the semester.	Students will be graded on the basis of attendance, preparation, participation, a group presentation, and a final research paper.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	D．H．ケネディ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-semester course to develop students' confidence and ability to write academic research papers in English. Students will approach this art experientially – by participating meaningfully within a real academic community. In the process, they will understand the relevance of doing primary and secondary research, as well the logic behind expressing their discoveries in an acceptable academic format. The course will culminate in a short research paper with proper citation. Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback. Students are expected to spend plenty of time outside class doing readings, responding to these readings in a casual written format, conducting research, and completing assignments with care. In class, students should be prepared to contribute and to engage with others in the exchange of ideas.	1. Course introduction 2. Discussions on first reading 3. Discussions on second reading 4. Discussions on third reading 5. Explanation of primary research project 6. Planning and preparation 7. Planning and preparation 8. Group presentations 9. Explanation of secondary research paper 10. Discovering the natural structure of research papers 11. Introductions, thesis statements, plans 12. Plagiarism and the importance of citations 13. Peer and instructor consultations 14. Research paper due 15. Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
All materials will be provided by the instructor. Students are expected to retain these materials until the end of the semester.	Students will be graded on the basis of attendance, preparation, participation, a group presentation, and a final research paper.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.	Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and narrowing a topic Week 3 The five-paragraph essay Week 4 Outlining Week 5 Introductions and conclusions Week 6 Quoting sources Week 7 Choosing a project Week 8 Describing a process Week 9 Cause and effect essay Week 10 Expressing opinions Week 11 Expressing opinions Week 12 Classifying information Week 13 Writing a reaction Week 14 Editing your essay Week 15 Timed essay
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).

09 年度以降	Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.	Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and narrowing a topic Week 3 The five-paragraph essay Week 4 Outlining Week 5 Introductions and conclusions Week 6 Quoting sources Week 7 Choosing a project Week 8 Describing a process Week 9 Cause and effect essay Week 10 Expressing opinions Week 11 Expressing opinions Week 12 Classifying information Week 13 Writing a reaction Week 14 Editing your essay Week 15 Timed essay
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).

09 年度以降	Academic Writing（火１）	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning to write in a foreign language takes time and effort, but it is very satisfying to be able to communicate your ideas in writing. The purpose of this course is to refine the skills acquired in the Basic Essay Writing course. Each student has a different level of skill in writing, but the only way to improve writing skills is to write. The course will introduce and give practice in collecting, organizing and presenting information in a written format in an academic environment. There will be a number of short assignments that students will resubmit after receiving feedback and one short final paper.	1. Introduction to the course 2. Review of writing basics 1 3. Review of writing basics 2 4. Critical reading 5. Summary skills 1 6. Summary skills 2 7. Book reports 8. Academic vocabulary 9. Choosing a topic - Outlining 10. Academic patterns 11. Citations and references 12. Introductions and conclusions 13. Checking the first draft 14. Sharing the final product 15. Final paper submission and wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
All materials will be provided by the instructor Reference materials will be introduced during the course.	Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%

09 年度以降	Academic Writing（火１）	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to further refine academic writing skills. The more students practice, the more enjoyable writing will become. There will be a number of short assignments designed to reinforce class content and to enable students to receive detailed feedback from the instructor. Students should resubmit these assignments because it is common practice in academic writing to revise drafts before final submission. Students will also write one short paper on a topic of their choice.	1. Introduction to the course 2. Writing workshop 1 3. Writing workshop 2 4. Library research skills 5. Avoiding plagiarism 1 – summary and paraphrase 6. Topics, outlines and academic writing patterns 7. Topics, outlines and academic writing patterns 8. Avoiding plagiarism 2 – citations and references 9 Topics, outlines and academic writing patterns 10. Topics, outlines and academic writing patterns 11. Topics for the final paper 12. Questionnaires, graphs and tables 13. Checking the first draft 14. Sharing the final product 15. Final paper submission and wrap up This syllabus may be modified to better suit student needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
All materials will be provided by the instructor. Reference materials will be introduced during the course.	Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%

09 年度以降	Academic Writing（火２）	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a designed to build on the writing skills acquired in the Basic Essay Writing course and to help students produce short but more academic pieces of writing. In this semester we will look again at the different types of essays that students can write, such as description, comparing and contrasting, or expressing and supporting opinions in English. We will look at how to gather information and ideas and making an outline in class before writing up the essay. At the end of the semester students will submit three revised essays as a final portfolio.	1. Introduction to the course 2. Review of academic writing basics 1 3. Review of academic writing basics 2 4. Description, process and narrative in academic writing 5. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 6. How to support an opinion 7. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 8. Comparison and contrast in academic writing 9. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 10. Problem solving and discussion 11. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 12. Writing a review 13. Writing workshop – editing and common errors 14. Writing workshop – acquiring academic vocabulary 15. Portfolio submission and wrap up The content of this course may change slightly to suit the needs of the students..
テキスト、参考文献	**評価方法**
Prints will be supplied by the instructor Reference materials will be discussed on the first day of Class	In class participation 35%; Portfolio 65%

09 年度以降	Academic Writing（火２）	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a designed to build on the writing skills acquired in the Basic Essay Writing course and to help students produce short but more academic pieces of writing. In this semester we will look again at the different types of essays that students can write, such as description, comparing and contrasting, or expressing and supporting opinions in English. We will look at how to gather information and ideas and making an outline in class before writing up the essay. At the end of the semester students will submit three revised essays as a final portfolio.	1. Introduction to the course 2. Review of academic writing basics 1 3. Review of academic writing basics 2 4. Description, process and narrative in academic writing 5. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 6. How to support an opinion 7. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 8. Comparison and contrast in academic writing 9. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 10. Problem solving 11. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 12. Writing a review 13. Writing workshop – editing and common errors 14. Writing workshop – acquiring academic vocabulary 15. Portfolio submission and wrap up The content of this course may change slightly to suit the needs of the students..
テキスト、参考文献	**評価方法**
Prints will be supplied by the instructor Reference materials will be discussed on the first day of Class	In class participation 35%; Portfolio 65%

09 年度以降	Academic Writing	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to improve and refine academic writing skills. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills. Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement, in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life. Students will evaluate basic writing structures, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, Etymology and referencing in order to synthesize information to produce clear and coherent discourse.	Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start writing topic # 1 Week 2: Writing Topic # 2 Week 3: Writing Topic # 3 Week 4: Writing Topic # 4 Week 5: Writing Topic # 5 Week 6: Writing Topic # 6 Week 7: Quiz Week 8: Writing Topic # 7 Week 9: Writing Topic # 8 Week 10: Writing Topic # 9 Week 11: Writing Topic # 10 Week 12: Writing Topic # 11 Week 13: Writing Topic # 12 Week 14: Writing Topic # 13 Week 15: Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.	Attendance, weekly exercises, quizzes, participation, class writing activities and writing of a number of papers.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to improve and refine academic writing skills. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills. Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement, in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life. Students will evaluate basic writing structures, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, Etymology and referencing in order to synthesize information to produce clear and coherent discourse.	Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start writing topic # 1 Week 2: Writing Topic # 2 Week 3: Writing Topic # 3 Week 4: Writing Topic # 4 Week 5: Writing Topic # 5 Week 6: Writing Topic # 6 Week 7: Quiz Week 8: Writing Topic # 7 Week 9: Writing Topic # 8 Week 10: Writing Topic # 9 Week 11: Writing Topic # 10 Week 12: Writing Topic # 11 Week 13: Writing Topic # 12 Week 14: Writing Topic # 13 Week 15: Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.	Attendance, weekly exercises, quizzes, participation, class writing activities and writing of a number of papers.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	J．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.	1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. In-class diagnostic writing and Chapter 1 3. Chapter 2: Review of paragraph basics. 4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2. 5. Chapter 3. Revising and editing. 6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook. 7. Chapter 4: The five-paragraph essay. 8. The process essay. 9. The division and classification essay. 10. In-class timed division and classification essay. 11. Causes and effects essay. 12. Finish chapter 7 13. The comparison/contrast essay 14.Problem – Solution Essays 15. Final in-class essay.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title: *Ready To Write 3* Author: Blanchard and Root Publisher :Pearson/Longman	Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays..

09 年度以降	Academic Writing	担当者	J．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.	1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. In-class diagnostic writing and Chapter 1 3. Chapter 2: Review of paragraph basics. 4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2. 5. Chapter 3. Revising and editing. 6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook. 7. Chapter 4: The five-paragraph essay. 8. The process essay. 9. The division and classification essay. 10. In-class timed division and classification essay. 11. Causes and effects essay. 12. Finish chapter 7 13. The comparison/contrast essay. 14.Problem – Solution Essays 15. Final in-class essay.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title: *Ready To Write 3* Author: Blanchard and Root Publisher: Pearson/Longman	Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Academic Writing course students develop their ability to write an essay that has logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in an argumentative style essay. The 1000-word essay is on an academic topic of each student's choosing. It will incorporate researched sources, using paraphrases/summaries and quotations. This assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Finding sources 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Grades are based on attendance, submissions of work in progress, final writing assignment.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Academic Writing course students develop their ability to write an essay that has logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in an argumentative style essay. The 1000-word essay is on an academic topic of each student's choosing. It will incorporate researched sources, using paraphrases/summaries and quotations. This assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Finding sources 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Grades are based on attendance, submissions of work in progress, final writing assignment.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse　Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.	1. Course Introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Organization 4.Collecting and synthesizing information 5 Paragraph to short essay 6.Descriptive essay 7.Narrative essay 8.Opinion essay 9.Peer evaluation 10.writing final draft 11.Comparison and contrast essay 12.Paraphrasing 13.Bibliography 14 In-text citations 15.Final Examination
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook is to be announced	Evaluation will be based on attendance, assignments, and final examination.

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	Academic Writing	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to instruct the students on how to write a well-structured, well-organized, logical and convincing essay in English. The students will be required master the use the basic essay structure (i.e. an introduction, a clear and concise topic sentence, a body and conclusion) and to compose essays on a variety of topics.		In this course, we will focus mainly in essay structure, to compose well-organized, well-thought, persuasive essays. We will write on number of interesting topics of increasing complexity. We hope to have an interesting, useful and educational class.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided by the instructor.		Attendance and the quality of the essays.	

09 年度以降	Academic Writing	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this class is to help students develop the skill of academic writing by learning how to construct an essay. The focus will be on the organization and presentation of ideas, and the clarity and intelligibility of the English itself. The typical class will usually consist of a short lecture, followed by the presentation and analysis of a model writing. The class will be taught entirely in English. Students will be expected to use English to discuss their own writing and model essays which will be analyzed in the class. Ample opportunities will be provided for students to revise their writings and for sharing them in class with their peers. By the end of this course, students will be more competent writers and better understand the process of writing academic essays.	Week1: Course Introduction Week 2: Analyzing sources Week 3: Prewriting activities Week 4: Brainstorming and narrowing the topic Week 5: Writing a thesis statement Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an essay outline Week 8: Revising the outline Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting other sources; writing task Week 11: Using statistics; writing task Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Photocopies will be provided by the instructor.	Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
Points for further consideration: ・ Students will need an English-English dictionary ・ Students will be required to have a notebook	Week1: Course Introduction Week 2: Analyzing sources Week 3: Prewriting activities Week 4: Brainstorming and narrowing the topic Week 5: Writing a thesis statement Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an essay outline Week 8: Revising the outline Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting other sources; writing task Week 11: Using statistics; writing task Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Photocopies will be provided by the instructor.	Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	M．フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice. Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis. One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Summarizing Week 3: Summary Workshop Week 4: Responding Week 5: Responding Week 6: Response Workshop Week 7: Textual Analysis Week 8: Textual Analysis Week 9: Textual Analysis Workshop Week 10: Comparison & Contrast Week 11: Comparison & Contrast Week 12: Comparison & Contrast Week 13: Comparison & Contrast Workshop Week 14: Final Workshop Week 15: Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this class, but students should bring a dictionary each week.	Grades will be based on participation and written assignments.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	M．フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice. Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis. One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Cause & Effect Week 3: Cause & Effect Week 4: Cause & Effect Workshop Week 5: Cause & Effect Workshop Week 6: Research Skills Week 7: Documentation & Plagiarism Week 8: Evaluating Sources Week 9: Problem Solving Week 10: Problem Solving Week 11: Problem Solving Week 12: Problem Solving Workshop Week 13: Problem Solving Workshop Week 14: Review Week 15: Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this class, but students should bring a dictionary to class each week.	Grades will be determined based on participation and written assignments.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	未定（掲示で確認）

講義目的、講義概要	授業計画
To Be Announced.	To Be Announced.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced.	To Be Announced.

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09 年度以降	Academic Writing	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This positive and active class is for students who are serious about improving their academic writing skills. The lessons will progress step by step allowing the students to improve their essay writing skills. In addition to essay writing, the class will contain many opportunities to debate and discuss important social and world issues. Students who study hard will be able to improve their writing and debating skills. In addition, it is hoped that the students will be able to increase their vocabulary levels. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English.	Below is a general outline of the course. Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics. Week 3 - 4, The thesis statement. Discussion topics Week 5 - 6, Writing an effective introduction. Discussion topics. Week 7 - 8, Unity in an essay. Discussion topics. Week 9 - 10, Concluding an essay. Discussion topics. Week 11 - 14, Other important points in essay writing. Discussion topics. Week 15 - Final assessments. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%, Final assessment: 20%

09 年度以降	Academic Writing	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This positive and active class is for students who are serious about improving their academic writing skills. The lessons will progress step by step allowing the students to improve their essay writing skills. In addition to essay writing, the class will contain many opportunities to debate and discuss important social and world issues. Students who study hard will be able to improve their writing and debating skills. In addition, it is hoped that the students will be able to increase their vocabulary levels. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English.	Below is a general outline of the course. Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics. Weeks 3 - 4, The paragraph and review of short essay structure. Discussion topics. Weeks 5 - 7, Developing the 5 paragraph essay. Discussion topics. Weeks 8 - 10, Unity and coherence in an essay. Discussion topics. Weeks 11 -14, Editing your writing. Discussion topics. Week 15 Final assessments. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%, Final assessment: 20%

09 年度以降	Academic Writing	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to learn to: a) write grammatically-correct English sentences; b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence); c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an ***International*** point of view; d) (depending on student abilities & desires) research and write compostions about Academic (university level) topics; and e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Writing about your part-time job. Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication).* English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to correct English grammar and sentences.) Week 3: Writing about your (future) ***plans for Golden Week*** (including elaborating (explaining) about your plans. Week 4: ***"How was your Golden Week?"*** writing about what you did, during Golden Week. English re-writing exercises. Continuous assessments. Week 5: Finishing & re-drafting compositions about pre- and post-Golden Week activities. Continuous assessment. Week 6: Writing and explaining about your plans for **Mother's Day**. Writing about your mother...in ***English paragraph format***. Week 7: Re-drafting and completing compositions re: Mother's Day. Continuous assessment. Week 8: **Writing to express your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion and writing about News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 9: Writing to expressing your opinions, part two. Ongoing assessments. Re-writing exercises. Continuous assessment. Week 10: Writing (and talking) about your **hobbies**, with elaboration thereof. Week 11: Finalizing compositions re: hobbies (with elaboration). Optionally: *perhaps* student research/writing/discussion about a variety of themes which are of students interest, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.) Continuous assessment. .Week 12: **"What kind of _____ do you like?"**: Discussing and writing about **music, movies, magazines, TV shows, books, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Week 13: International News exercise, and/or video exercise, with writing & discussion about that. Re-writing exercises. Week 14: Second drafts of composition re: current News topic and/or video. Ongoing assessment of students. Week 15: Writing, discussing, and elaborating about plans for the **Summer Break**. Final opportunity to submit final drafts of all compositions.

テキスト、参考文献	評価方法
To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles; Internet research; some songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **write/speak/elaborate** (explain)/**communicate** in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 25%); class participation (20%); compositions (including several 'draft' versions) (40%); and attendance (15%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes***. for ***any*** reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course* (**One late = 1/2 absence**); c) if you are late/absent, and somehow miss submiting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, *before* the deadline. *Late submissions will not be accepted.*

09 年度以降	Academic Writing	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to learn to: a) write grammatically-correct English sentences; b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence); c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an ***International*** point of view; d) (depending on student abilities & desires) research and write compostions about Academic (university level) topics; and e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).	(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Discussing/communicating/writing/elaborating about your ***Summer Break***,, using correct modern English. Sentence re-writing exercises. Week 2: Finishing & re-drafting the composition, re: Summer Break. Continuous assessment. Week 3: **"What do you usually do ...?"**: discussing, communicating, and writing about ***your usual activities*** on holidays/weekends/weeknights, English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to grammatically- & cuturally-correct English sentences.) Week 4: "What do you usually do...?", part two. (A News topic of current interest might be chosen, instead, for students to write opinions about.) Perhaps selection of a research topic for an Academic essay. Ongoing assessments. Week 5: **Hallowe'en**: researching, discussing, and writing about this international 'festival'. Parts of a Hallowe'en video might be shown, to stimulate the imagination. Week 6: **"If you went to a Hallowe'en party, what would you dress up as?"**: using your imaginative abilities to write about a possible Hallowe'en costume, and about what you would do at such a party. Re-writing exercises. Week 7: Research, discussion, and writing about **Thanksgiving**. (A Song-listening exercise may be used, to stimulate discussion & writing.). Writing to answer the question, "*What are you thankful for?*" Week 8: Thanksgiving, part two: continuing to write (& re-draft) a composition about what you are thankful for. Continuous assessment. Week 9: Christmas writing & discussion--perhaps involving research about Christmas in various countries. (Parts of a Christmas video may be shown, in order to assist students to imagine Christmas possibilities.) Continuous assessments. Week 10: Finishing/Re-drafting Christmas compositions. Sentence re-writing exercises. Week 11:**"What are your plans for Christmas?"**: discussing and writing about student plans for Christmas.(A Christmas song exercise may be introduced, in order to stimulate thinking/discussion/writing.) Re-writing exercises. Week 12: Writing about Christmas plans, part two (final drafts re: Christmas plans). Parts of a Christmas video may be shown, in order to assist students to imagine Christmas possibilities. Continuous assessments. Week 13: Discussion & writing about **'How was your O Sho Gatsu?'**. Ongoing student assessment.. Week 14: Discussing and writing about **"New Year's Resolutions".** Continuous assessment. Week 15: Final drafts, re: *specific* New Year's Resolutions. Continuous assessment, and submission of final drafts of all compositions.

テキスト、参考文献	評価方法
To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, some songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **write/speak/elaborate** (explain)/**communicate** in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 25%); class participation (20%); compositions (including several 'draft' versions) (40%); and attendance (15%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes***. for ***any*** reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course* (**One late = 1/2 absence**); c) if you are late/absent, and somehow miss submiting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, *before* the deadline. *Late submissions will not be accepted.*

09 年度以降	Academic Writing	担当者	佐原　彩子

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, the students will learn how to write academic essays in English. The aim of the class is to write an organized research paper in English (1000-1300 words). To reach this goal, the student will be taught how to write thesis statement, show evidences and cite sources. This is a process to learn how to develop ideas into academic essay topics. Students are expected to turn in a couple of drafts before the final draft. To produce an English academic essay, students need to do some research, write drafts and revise them.	Tentative schedule: 1. Course introduction 2. Choosing a topic 3. Research skills (citation format, quotation, plagiarism) 4. Analyzing research findings 5. Writing a thesis statement 6. Writing outline (flow of argument) 7. Writing a first draft 8. Revising organization (overall argument, each paragraph) 9. Revising thesis statement 10. Writing the second draft 11. Peer evaluation 12. Revising and editing the second draft 13.Writing the final draft 14. Peer evaluation 15. Feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Writing Academic English Level 4 (Hogue & Oshima, Pearson Education)	Attendance & participation 25%, Each draft 25% (75%). Instruction will be given on the first day of the class.

09 年度以降	Academic Writing	担当者	佐原　彩子

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, the students will learn how to write academic essays in English. The aim of the class is to write an organized research paper in English (1000-1300 words). To reach this goal, the student will be taught how to write thesis statement, show evidences and cite sources. This is a process to learn how to develop ideas into academic essay topics. Students are expected to turn in a couple of drafts before the final draft. To produce an English academic essay, students need to do some research, write drafts and revise them.	Tentative schedule: 1. Course introduction 2. Choosing a topic 3. Research skills (citation format, quotation, plagiarism) 4. Analyzing research findings 5. Writing a thesis statement 6. Writing outline (flow of argument) 7. Writing a first draft 8. Revising organization (overall argument, each paragraph) 9. Revising thesis statement 10. Writing the second draft 11. Peer evaluation 12. Revising and editing the second draft 13.Writing the final draft 14. Peer evaluation 15. Feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Writing Academic English Level 4 (Hogue & Oshima, Pearson Education)	Attendance & participation 25%, Each draft 25% (75%). Instruction will be given on the first day of the class.

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	翻訳　I	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。 　問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたうえで、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。またテキストの性質によっても、考慮すべき問題はかわってきますので、そこにも注目していきます。また後半にはグループでミニ翻訳プロジェクトに取り組んでもらいます。 　受講生に求める英語力のレベル：*Guardian* 紙のトップ記事が、辞書を使って単語を調べれば理解できること。特に文法的な構造がしっかりと理解できること。（時事的な内容が理解できなくても、文章を「翻訳」できなくてもかまいません）そこに達していない学生は、「翻訳」を勉強する前に基礎英語力をつけてください。授業内では原則として基礎的な文法の指導は行いません。	＊授業はひとつの教材について次の流れで行う。 教材の紹介（授業）→教材を読んで不明点を洗い出す＋翻訳開始（課題）→不明点を解決する（授業）→訳了＋提出（課題）→添削＋解説（授業）。 ＊15 回の授業は原則として以下のとおりにすすめる。紙幅の都合によりここに提示できない詳細については一回目の授業で説明する。 ＿＿＿＿＿＿15 回の授業は以下のとおり＿＿＿＿＿＿ 1. 導入とトライアル（短い教材を対象に、上記の全プロセスの作業を行う）＋教材 1 の紹介 2～10.　教材 1 －8 までを上記のプロセスで訳了。 （第 2 回めの半分は図書館で辞書・事典の紹介を行う。適切なところで、11 回目以降のプロジェクトについての解説と下準備を行う。） 11～15.　グループ・プロジェクト （邦訳されていない本を選び、一冊読了したうえで、最初の章、あるいは数頁を翻訳し、その本の書評の翻訳と、自分たちで作成した本の紹介文とともに提出。）

テキスト、参考文献	評価方法
1 回から 10 回までは、ハンドアウトおよびインターネットからのダウンロードを使用する。また、講師が実際に仕事としてやってきた業務翻訳から文学作品まで、翻訳の実際のプロセスも提示する。11 回以降のプロジェクト用には、自分が選んだ本を購入していただく。対象テキストは散文とする。辞書や参考書については、授業内で指示する。	出席 20% 教材 1～8 までの提出物の評価　50% グループ・プロジェクトの評価 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	翻訳　I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳するためには、テキストにどっぷり浸かり込んで、他者のなかに入り込み、声に耳を澄ませ、沢山ある可能性のなかから選択し削り取り、懇切丁寧に別の言語に変えていくという必要があります。翻訳は、自分を表現する場、というよりは、愛情持ってテキストの内容を伝える場、となるのかもしれません。 この授業では、名訳と評される翻訳文と英文を照らし合わせて検証、実際自分で訳し提出、授業内で訳の過程と結果を発表、グループで訳を作成等、行っていきます。 翻訳とは「もっとも効率の悪い読書」であり、「何かを真剣に学びとろうという作業」。そして翻訳者にとって一番必要なのは「偏見ある愛情」で、「悲観的な人には翻訳なんてできない」。村上春樹はこう表現しました。「翻訳」の好きな方、どうぞお待ちしております。	1. ガイダンス 2-14　演習 15. 講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：初回の授業で指示します。	※ 授業参加度、提出物、発表などを総合的に評価します。 ※ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

09年度以降	翻訳 Ⅰ（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説　(3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検１級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全100題を終了します。今・春学期は01番から25番を扱います。	１　翻訳という仕事① ２　試練に立つ文明 ３　文体論 ４　技師の親指 ５　過激の効用 ６　神経質な私 ７　独立独歩 ８　詩人の感性 ９　文化伝達の経路 １０旅の楽しみ １１興味をもつこと １２食べ物の話題 １３余暇の過ごし方 １４自分の基準をもて １５翻訳のための文法① ＊各回、他に１題を扱います
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

09年度以降	翻訳 Ⅰ（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説　(3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検１級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全100題を終了します。今・秋学期は26番から50番を扱います。	１　翻訳という仕事② ２　集団と個人 ３　編集者の誇り ４　歴史が証明するもの ５　親であるよろこび ６　隣人について ７　民主主義国家の政治 ８　イギリスの官界の習い ９　あるがままの人生 １０赤ずきんのお話 １１人から尊敬をうけるには １２話すことと書くこと １３日本人論 １４都市問題 １５翻訳のための文法② ＊各回とも上記ほか１編を扱う
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

09年度以降	翻訳 Ⅰ（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。 木曜３時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。 秋学期同時限(木 4)の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。	1、英語の規則　① 2、児童文学「幸福の王子」Ⅰ 3、児童文学「幸福の王子」Ⅱ 4、児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅰ 5、児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅱ 6、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅰ 7、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅱ 8、子供百科「フクロウの目」 9、子供百科「恐竜」 10、子供百科「宇宙」 11、ミュージカル「オクラホマ」 12、詩「虹の歌」 13、小説「マダム・ロゼット」 14、歴史「トロイ戦争」 15、歴史「ミノタウロス」
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤よみやすい日本語か、を見ます。

09年度以降	翻訳 Ⅰ（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(600 ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。 木曜３時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。 抽選に落ちても、単位にならなくても、他学部・他大学の学生でも、大学院生でも、もぐりの社会人でも、大学教員でも、意欲のある人は受講歓迎します。	1、英語の規則② 2、音楽「スライ・ストーン」 3、ロマンス小説「サラの冒険」 4、ロマンス小説「サラの冒険」(続き) 5、評論「日本人」 6、文学「二都物語」 7、評伝「吉田寅次郎」 8、評伝「吉田寅次郎」(続き) 9、ジャック・ニコラウス自伝 10、精神世界「ミーガンの奇跡」 11、歴史「ギロチン」 12、短編小説「悲劇のはじまり」① 13、短編小説「悲劇のはじまり」② 14、短編小説「悲劇のはじまり」③ 15、短編小説「悲劇のはじまり」④
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤よみやすい日本語か、を見ます。

09 年度以降	翻訳　I	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳するといっても英語から日本語への翻訳である。その中でも扱うことの少ない英詩の翻訳をするのが目的である。とはいってもいきなり本格的な詩の訳は難しいので、入門と銘うって、易しい詩の翻訳を心掛ける。初めに詩の成り立ち、形などについて説明し、右に示したポップスの歌詞や比較的易しい詩の翻訳を心掛ける。	1.ガイダンス、A. 詩の形について、B. 授業の進め方 2~14 実践　eg. “Masachusetts”, “Release Me”,” Green,Green,Grass of Home”, “Vacation”, “Mona Lisa” 他、Walter de la Mare(1873-1956), Emily Dickinson(1830-86)など比較的易しい詩を選んでそれぞれ若干づつ翻訳してもらう予定。 15. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリント配布。参考文献：阿部公彦『英詩のわかり方』　研究社　2007	1. 平常の参加具合を態度価値として一定の評価をする。 2. テストを課す。詳細は追って説明する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09年度以降	翻訳　I	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を明らにし、翻訳の限界と可能性について実践的に探ります。 翻訳では、原文を的確な英語あるいは日本語に置き換える際に、目的や状況などを考慮する必要があります。また、翻訳語の字数やリズムについても工夫が求められる場合もあります。 授業では、主として文系英文および和文（新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品）などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。 コトバの意味と音に関心のある学生を求めます。	第１回　ガイダンス　辞書について 第２回　翻訳の難しさと面白さについて 第３回　機械翻訳の可能性について 第４回　翻訳の実例比較検討 第５回　復習テスト 第6～14回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換 第15回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、４回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない

09年度以降	翻訳　I	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。 授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。 なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。 また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。	第１回前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第２回日英および英日翻訳の実例検討　その１ 第３回日英および英日翻訳の実例検討　その２ 第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第７回復習テスト 第8～14回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第15回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、４回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

09 年度以降	翻訳　I	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。 翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。 授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。 本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。 なお、履修登録のみの幽霊学生を予防するため、初回の授業に出席することを履修の条件とします。	1. イントロダクション 2－14. 演習 15. 講義のまとめ 進度は遅いかもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sudden Fiction (Continued). R. Shapard and J. Thomas eds. New York: Norton, 1996. Aimee Bender. *Willful Creatures*. New York: Anchor Books, 2005.などを使用。必要箇所のコピーを配布します。	授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。

09 年度以降	翻訳　I	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。 翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。 授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。 本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。 なお、履修登録のみの幽霊学生を予防するため、初回の授業に出席することを履修の条件とします。	1. イントロダクション 2－14. 演習 15. 講義のまとめ 進度は遅いかもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sudden Fiction (Continued). R. Shapard and J. Thomas eds. New York: Norton, 1996. Aimee Bender. *Willful Creatures*. New York: Anchor Books, 2005.などを使用。必要箇所のコピーを配布します。	授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。

09 年度以降	翻訳 II	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from English to Japanese. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include poems (by Robert Frost, et al.), novels (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.) newspaper and magazine articles (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with Western (Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1.1 Introduction 1.2 Document #1 1.3 Document #2 1.4 Document #3 1.5 Document #4 1.6 Document #5 1.7 Document #6 1.8 Document #7 1.9 Document #8 1.10 Document #9 1.11 Document #10 1.12 Document #11 1.13 Document #12 1.14/15 Final Examination and Self-Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Class participation 25%, Homework 25%, Final examination and self-evaluation 25%

09 年度以降	翻訳 II	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from Japanese to English. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include English translations of novels and essays by famous Japanese authors (including Matsuo Basho, Natsume Soseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with movies based on those authors's works, and Japanese animated features (looking at the English and Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	2.1 Introduction 2.2 Author #1 2.3 Author #2 2.4 Author #3 2.5 Author #4 2.6 Author #5 2.7 Author #6 2.8 Author #7 2.9 Author #8 2.10 Author #9 2.11 Author #10 2.12 Author #11 2.13 Author #12 2.14/15 Final Examination and Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Class participation 25%, Homework 25%, Final examination and self-evaluation 25%

09 年度以降	翻訳 Ⅱ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　原文の言葉を置き換えるのでなく、内容を厳密に読み取り、意味と形式の両面を考えて等価の訳文を作るのが翻訳です。このクラスでは、翻訳と英文和訳はどう違うのか、翻訳をするとはどういうことかを学び、実践の場で役に立つ基礎的なスキルを身につけます。 講義概要 　演習を中心に、名訳の解析・訳文の比較、グループ・ディスカッションや発表を通じ、さまざまな角度から翻訳の要諦を取り上げていきます。	1. オリエンテーション 2 翻訳とは 3 翻訳の考え方 4. 翻訳の方法 5. 翻訳演習(1) 6. 翻訳演習(2) 7. 翻訳演習(3) 8. 翻訳演習(4) 9. 翻訳演習(5) 10 翻訳演習(6) 11. 翻訳演習(7) 12. 翻訳演習(8) 13. 翻訳演習(9) 14. 翻訳演習(10) 15. 総括 　予定している内容は適宜必要に応じテーマを差し替えることもあります。辞書は毎回必ず持参してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。	出席回数、授業への参加態度、課題の取り組みを総合的に評価する。

09 年度以降	翻訳 Ⅱ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期に引き続き、翻訳をするための基本姿勢を学び、実践の場で応用できるように翻訳の基礎的なスキルを身につけます。 講義概要 　詳しい内容は第 1 回の授業で説明します。春学期同様、さまざまな角度から翻訳の要諦を取り上げていきます。訳文の発表やグループ・ディスカッションも行ってもらいますので、積極的に授業に参加する姿勢が求められます。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回～第 14 回　翻訳演習 第 15 回　総括 毎回必ず辞書を持参してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。	出席回数、授業への参加態度、課題の取り組みを総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	College Grammar（月 4）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 　秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ（授業計画2~4参照）。次に、各構文について学ぶ（授業計画5~14参照）。 　この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 　なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1.　授業概要 2.　時制 3.　呼応と時制の一致（1） 4.　呼応と時制の一致（2） 5.　態 6.　仮定法 7.　不定詞 8.　分詞 9.　動名詞 10.　関係代名詞（1） 11.　関係代名詞（2） 12.　関係副詞 13.　比較 14.　否定 15.　授業のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：安井稔（1986）*A Shorter Guide to English Grammar* 開拓社 参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧(改訂版)』開拓社	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

09 年度以降	College Grammar（水３）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ(授業計画2~6参照)。次に、文の各要素について学ぶ(授業計画7~14参照)。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. 授業概要 2. 文 3. 主部・文型 4. 述語動詞Ⅰ 5. 述語動詞Ⅱ 6. 文の種類・8 品詞 7. 名詞 8. 代名詞 9. 形容詞 10. 冠詞 11. 副詞・動詞 12. 助動詞 13. 接続詞 14. 前置詞 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔（1986）*A Shorter Guide to English Grammar*　開拓社 参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』開拓社	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

09 年度以降	College Grammar（水３）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ（授業計画2~4参照）。次に、各構文について学ぶ（授業計画5~14参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. 授業概要 2. 時制 3. 呼応と時制の一致（1） 4. 呼応と時制の一致（2） 5. 態 6. 仮定法 7. 不定詞 8. 分詞 9. 動名詞 10. 関係代名詞（1） 11. 関係代名詞（2） 12. 関係副詞 13. 比較 14. 否定 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔（1986）*A Shorter Guide to English Grammar* 開拓社 参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧(改訂版)』開拓社	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

09 年度以降	College Grammar（水４）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ（授業計画2~6参照）。次に、文の各要素について学ぶ（授業計画7~14参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. 授業概要 2. 文 3. 主部・文型 4. 述語動詞Ⅰ 5. 述語動詞Ⅱ 6. 文の種類・8 品詞 7. 名詞 8. 代名詞 9. 形容詞 10. 冠詞 11. 副詞・動詞 12. 助動詞 13. 接続詞 14. 前置詞 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔（1986）*A Shorter Guide to English Grammar*　開拓社 参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』開拓社	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09 年度以降	College Grammar	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文（1） 4・移動が関与する構文（2） 5・移動が関与する構文（3） 6・補部と付加部の区別（1） 7・補部と付加部の区別（2） 8・補部と付加部の区別（3） 9・条件の副詞節（1） 10・条件の副詞節（2） 11・条件の副詞節（3） 12・Be 動詞の機能（1） 13・Be 動詞の機能（2） 14・Be 動詞の機能（3） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店	出席＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性（1） 4・解釈の曖昧性（2） 5・SVOC 構文の下位区分（1） 6・SVOC 構文の下位区分（2） 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（1） 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（2） 9・一般動詞の意味特性（1） 10・一般動詞の意味特性（2） 11・一般動詞の意味特性（3） 12・情報構造（1） 13・情報構造（2） 14・情報構造（3） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店	出席＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英文法に対する理解を深めること，および，英文法に対する理解の深め方を修得することである。学期末には，暗記の対象としてではなく，発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標としたい。また，英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して，多くのものにとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めていない。試験は論述式の予定である。	１．オリエンテーション（出席は必須） ２．場所扱いか道具扱いか（１） ３．場所扱いか道具扱いか（２） ４．自動詞＋前置詞は他動詞か（１） ５．自動詞＋前置詞は他動詞か（２） ６．〈道具〉はいつ主語になれるか（１） ７．〈道具〉はいつ主語になれるか（２） ８．再帰代名詞の不思議（１） ９．再帰代名詞の不思議（２） １０．EAT AT は EAT とどう違うのか（１） １１．EAT AT は EAT とどう違うのか（２） １２．Mary hit John on the head.の構文（１） １３．Mary hit John on the head.の構文（２） １４．I did the book.＝「私はその本をした」？（１） １５．I did the book.＝「私はその本をした」？（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
中右実（1995-1998）「発見の英文法 連載１～７」『高校英語展望』第 8 号～第 14 号．小学館・尚学図書.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

09 年度以降	College Grammar	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英文法に対する理解を深めること，および，英文法に対する理解の深め方を修得することである。学期末には，暗記の対象としてではなく，発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標としたい。また，英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して，多くのものにとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。 成績評価のための試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みは認めていない。試験は論述式の予定である。	１．オリエンテーション（出席は必須） ２．「数の一致」はどのように決まるか（１） ３．「数の一致」はどのように決まるか（２） ４．絶対複数名詞 trousers の不思議（１） ５．絶対複数名詞 trousers の不思議（２） ６．何が可算名詞と質量名詞を分けるか（１） ７．何が可算名詞と質量名詞を分けるか（２） ８．何が可算名詞と質量名詞を分けるか（３） ９．秤の変遷：scales から scale への道（１） １０．秤の変遷：scales から scale への道（２） １１．なぜ in a car なのに on a bus なのか（１） １２．なぜ in a car なのに on a bus なのか（２） １３．なぜ in a car なのに on a bus なのか（３） １４．なぜ at night というのに at day とはいわないか（１） １５．なぜ at night というのに at day とはいわないか（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
中右実（1998-2001）「発見の英文法 連載８～２０」『高校英語展望』第 15 号～第 20 号．小学館・尚学図書.	評価は試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし，出席そのものが加点の対象となることはない。

09 年度以降	College Grammar（金３）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. また, 英語の規則性を探求することを目的とする. **講義概要**: 英文法を学習する際に, トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である. 文全体から句, 句から語というような方式をとりながら, 春学期ではまず, 英文法の基本的な事項のうち, 文というものはどのようなものであるかを考える. 文は基本的な文, 拡張的な文, 派生的な文の三種類に分けられる. まず, 基本的な文は5文型によって説明することが可能である. 拡張的な文は一つの文に二つ以上の節（主語＋述語）を含む文であり, 重文や複文として学習する. さらに, 派生的な文の種類として, 疑問文, 感嘆文, 命令文などを学習する. 文の枠組みを捉えた上で, その構成要素である名詞, 形容詞, 冠詞, 副詞などを扱う.	1. 文:主部を欠く文,「主部 ＋ 述部」, 節・句・語 2. 主部:主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型 4. 述語動詞:述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 5. 述語動詞:自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部 6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文 7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文 8. 名詞, 名詞の種類, 可算名詞, 不可算名詞, 集合名詞 9. 代名詞, 代名詞の種類, 人称代名詞, 再帰代名詞 10. 指示代名詞, 疑問代名詞, 不定代名詞 11. 形容詞, 形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞 12. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 13. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置 14. 助動詞, 助動詞の用法 15. 接続詞, 前置詞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：**安井稔**(1986) *A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社）　**参考書：安井稔**（1996)『英文法総覧（改訂版）』（開拓社）	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

09 年度以降	College Grammar（金３）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:（春学期と同じ） 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. また, 英語の規則性を探求することを目的とする. **講義概要**:（春学期の続き） 秋学期ではまず, 不定詞・分詞・動名詞を学習する. さらに, 不定詞と動詞の ing 分詞（いわゆる現在分詞）には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する. 次に, 関係代名詞, 関係副詞を扱い, 制限的用法と非制限的用法について学習する. また, 英語において重要な時制を扱い, 英語において時の概念がどのように理解されているかを学習する. さらに, 能動態と受動態について学ぶことにより、受動態の構造や意味上の特徴を学習する. 秋学期の後半では, 複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する. さらに, 英語の文の構成に重要な役割を果たしている仮定法, 比較表現, 否定表現の用法を学習する.	1. 不定詞 2. 分詞, 動名詞 3. 関係代名詞, 関係副詞 4. 時制:現在時制の用法, 過去時制の用法 5. 現在完了の用法, 過去完了の用法 6. 進行形の用法 7. 能動態と受動態 8. 呼応と時制の一致 9. 仮定法, 直説法と仮定法, to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現 10. 話法, 直接話法と間接話法 11. 比較, 原級の用法 12. 比較級の用法, 最上級の用法 13. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 14. 文の主語と情報構造, 15. 強調, 省略・挿入
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：**安井稔**(1986) *A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社）　**参考書：安井稔**（1996)『英文法総覧（改訂版）』（開拓社）	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

09 年度以降	College Grammar（金４）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. また, 英語の規則性を探求することを目的とする. **講義概要**: 英文法を学習する際に, トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である. 文全体から句, 句から語というような方式をとりながら, 春学期ではまず, 英文法の基本的な事項のうち, 文というものはどのようなものであるかを考える. 文は基本的な文, 拡張的な文, 派生的な文の三種類に分けられる. まず, 基本的な文は5文型によって説明することが可能である. 拡張的な文は一つの文に二つ以上の節（主語＋述語）を含む文であり, 重文や複文として学習する. さらに, 派生的な文の種類として, 疑問文, 感嘆文, 命令文などを学習する. 文の枠組みを捉えた上で, その構成要素である名詞, 形容詞, 冠詞, 副詞などを扱う.	1. 文:主部を欠く文,「主部 ＋ 述部」, 節・句・語 2. 主部:主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型 4. 述語動詞:述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 5. 述語動詞:自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部 6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文 7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文 8. 名詞, 名詞の種類, 可算名詞, 不可算名詞, 集合名詞 9. 代名詞, 代名詞の種類, 人称代名詞, 再帰代名詞 10. 指示代名詞, 疑問代名詞, 不定代名詞 11. 形容詞, 形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞 12. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 13. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置 14. 助動詞, 助動詞の用法 15. 接続詞, 前置詞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：**安井稔**(1986) *A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社）　**参考書：安井稔**（1996)『英文法総覧（改訂版）』（開拓社）	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

09 年度以降	College Grammar（金４）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:（春学期と同じ） 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. また, 英語の規則性を探求することを目的とする. **講義概要**:（春学期の続き） 秋学期ではまず, 不定詞・分詞・動名詞を学習する. さらに, 不定詞と動詞の ing 分詞（いわゆる現在分詞）には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する. 次に, 関係代名詞, 関係副詞を扱い, 制限的用法と非制限的用法について学習する. また, 英語において重要な時制を扱い, 英語において時の概念がどのように理解されているかを学習する. さらに, 能動態と受動態について学ぶことにより、受動態の構造や意味上の特徴を学習する. 秋学期の後半では, 複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する. さらに, 英語の文の構成に重要な役割を果たしている仮定法, 比較表現, 否定表現の用法を学習する.	1. 不定詞 2. 分詞, 動名詞 3. 関係代名詞, 関係副詞 4. 時制:現在時制の用法, 過去時制の用法 5. 現在完了の用法, 過去完了の用法 6. 進行形の用法 7. 能動態と受動態 8. 呼応と時制の一致 9. 仮定法, 直説法と仮定法, to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現 10. 話法, 直接話法と間接話法 11. 比較, 原級の用法 12. 比較級の用法, 最上級の用法 13. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 14. 文の主語と情報構造, 15. 強調, 省略・挿入
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：**安井稔**(1986) *A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社）　**参考書：安井稔**（1996)『英文法総覧（改訂版）』（開拓社）	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

09 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	長南　一豪

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、英語で書かれた最近の英文法書を読みながら、英文法の全体像をつかみ、理解を深めることを目的とします。その際、講義やテキストの内容をただ受動的に受け入れるのではなく、意味や用例を自分の手で調べ、問題点を自分の頭で考えることに重点を置きます。同時に、英文法書を読むために必要な英語力・読解力を身につけます。さらに、「日本人（日本語を母語とする者）にとっての英文法」という観点から、英語と日本語の違いについても考えます。 受講者は、テキストの内容についてきちんと予習し、講師の質問に対して答えられるようにしておくことが求められます。また、学期中に、テキストや講義の内容について５回程度の簡単なレポートが課されます。 春学期は、語や句に関する内容が中心となります。 知識としての英文法ではなく、言葉について考えることの面白さをお伝えしたいと思いますので、英語学・言語学に関心のある学生の受講を期待します。	1. 授業のイントロダクション 2. １章：英文法の概観 3. ２章：語の構造と語形成(1) 4. ２章：語の構造と語形成(2) 5. ３章：品詞と単純な句(1) 6. ３章：品詞と単純な句(2) 7. ３章：品詞と単純な句(3) 8. ３章：品詞と単純な句(4) 9. ４章：文法機能・意味役割・樹形図(1) 10. ４章：文法機能・意味役割・樹形図(2) 11. ４章：文法機能・意味役割・樹形図(3) 12. ５章：複雑な句と等位接続(1) 13. ５章：複雑な句と等位接続(2) 14. ５章：複雑な句と等位接続(3) 15.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Bas Aarts (2011), *Oxford Modern English Grammar*, Oxford. （一括注文し、実費で頒布。2100 円程度）	期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。

09 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	長南　一豪

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、英語で書かれた最近の英文法書を読みながら、英文法の全体像をつかみ、理解を深めることを目的とします。その際、講義やテキストの内容をただ受動的に受け入れるのではなく、意味や用例を自分の手で調べ、問題点を自分の頭で考えることに重点を置きます。同時に、英文法書を読むために必要な英語力・読解力を身につけます。さらに、「日本人（日本語を母語とする者）にとっての英文法」という観点から、英語と日本語の違いについても考えます。 受講者は、テキストの内容についてきちんと予習し、講師の質問に対して答えられるようにしておくことが求められます。また、学期中に、テキストや講義の内容について５回程度の簡単なレポートが課されます。 秋学期は、文や節に関する内容が中心となります。 知識としての英文法ではなく、言葉について考えることの面白さをお伝えしたいと思いますので、英語学・言語学に関心のある学生の受講を期待します。	1. 春学期の復習 2. ６章：節の種類と否定 3. ７章：定形従属節(1) 4. ７章：定形従属節(2) 5. ８章：非定形節と動詞のない節(1) 6. ８章：非定形節と動詞のない節(2) 7. ８章：非定形節と動詞のない節(3) 8. ９章：時制と相(1) 9. ９章：時制と相(2) 10.10 章：法(1) 11.10 章：法(2) 12.10 章：法(3) 13.11 章：情報構造(1) 14.11 章：情報構造(2) 15.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Bas Aarts (2011), *Oxford Modern English Grammar*, Oxford. （一括注文し、実費で頒布。2100 円程度）	期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。

09 年度以降	College Grammar（水４）	担当者	長南　一豪

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、英語で書かれた最近の英文法書を読みながら、英文法の全体像をつかみ、理解を深めることを目的とします。その際、講義やテキストの内容をただ受動的に受け入れるのではなく、意味や用例を自分の手で調べ、問題点を自分の頭で考えることに重点を置きます。同時に、英文法書を読むために必要な英語力・読解力を身につけます。さらに、「日本人（日本語を母語とする者）にとっての英文法」という観点から、英語と日本語の違いについても考えます。 受講者は、テキストの内容についてきちんと予習し、講師の質問に対して答えられるようにしておくことが求められます。また、学期中に、章末の練習問題や講義の内容について５回程度の簡単なレポートが課されます。 春学期は、語や句に関する内容が中心となります。 知識としての英文法ではなく、言葉について考えることの面白さをお伝えしたいと思いますので、英語学・言語学に関心のある学生の受講を期待します。	1. 授業のイントロダクション 2. １章：イントロダクション 3. ２章：概観 4. ３章：動詞と時制・相・法(1) 5. ３章：動詞と時制・相・法(2) 6. ３章：動詞と時制・相・法(3) 7. ４章：節の構造と補部・付加部(1) 8. ４章：節の構造と補部・付加部(2) 9. ５章：名詞と名詞句(1) 10. 5 章：名詞と名詞句(2) 11. 5 章：名詞と名詞句(3) 12. 6 章：形容詞と副詞 13. 7 章：前置詞と前置詞句(1) 14. 7 章：前置詞と前置詞句(2) 15.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Huddleston, R, and G. Pullum. (2005), *A Student's Introduction to English Grammar*, Cambridge. （一括注文し、実費で頒布。2500 円程度）	期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。

09 年度以降	College Grammar（水４）	担当者	長南　一豪

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、英語で書かれた最近の英文法書を読みながら、英文法の全体像をつかみ、理解を深めることを目的とします。その際、講義やテキストの内容をただ受動的に受け入れるのではなく、意味や用例を自分の手で調べ、問題点を自分の頭で考えることに重点を置きます。同時に、英文法書を読むために必要な英語力・読解力を身につけます。さらに、「日本人（日本語を母語とする者）にとっての英文法」という観点から、英語と日本語の違いについても考えます。 受講者は、テキストの内容についてきちんと予習し、講師の質問に対して答えられるようにしておくことが求められます。また、学期中に、章末の練習問題や講義の内容について５回程度の簡単なレポートが課されます。 秋学期は、文や節に関する内容が中心となります。 知識としての英文法ではなく、言葉について考えることの面白さをお伝えしたいと思いますので、英語学・言語学に関心のある学生の受講を期待します。	1. 春学期の復習 2. ８章：否定と関連現象 3. ９章：節の種類：疑問・感嘆・命令 4. 10 章：従位接続と内容節 5. 11 章：関係節 6. 12 章：級と比較 7. 13 章：非定形節と動詞のない節(1) 8. 13 章：非定形節と動詞のない節(2) 9. 14 章：等位接続 10.15 章：節内の情報提示(1) 11.15 章：節内の情報提示(2) 12.15 章：節内の情報提示(3) 13.16 章：形態論：語と語彙(1) 14.16 章：形態論：語と語彙(2) 15.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Huddleston, R, and G. Pullum. (2005), *A Student's Introduction to English Grammar*, Cambridge. （一括注文し、実費で頒布。2500 円程度）	期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。

09 年度以降	College Grammar	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切です。そうすると、次第に表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む、ネイティブスピーカーが無意識に身につけてきた英語の感覚・イメージを探っていく習慣が身につき、結局はこの方法がもっとも効率の良い英語が学習方法である、ということがわかるようになります。この授業は、日本語には無くて日本人にはもっとも習得の難しいとされる**冠詞の a と the およびゼロ冠詞の付いた名詞**（冠詞も複数の語尾変化もない名詞形）の使用法をと**前置詞の用法**を会得することを目的とします。そのためには、ほぼ毎時間、練習問題を徹底的に解いてもらうこととなります。	1. a と the およびゼロ冠詞のドリルと答え合わせと解説 2. 同上 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. まとめ 10. 前置詞のドリルと答え合わせと解説 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講義支援システムを通じて配布するプリント	課題と定期試験および授業への参加度によります。

09 年度以降	College Grammar	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
「ドアをノックする」を英語では knock the door ではなく knock on the door ですが，ではなぜそう言うのかと問うと、「そう習ったから」としか答えない人がほとんどです。しかし、実はどうして on が必要なのかというような問い掛けこそが英語の勘を養う上でとても重要なことです。そしてこの問にたいする答（＝理屈）に「なるほど！」と納得することができれば、英語を学ぶことの知的好奇心を満たすことになり、それがひいては英語学習への強い動機づけにつながります。そうやって動機づけられれば、「そういえば、ああいうような**前置詞の使い方**をするのも同じように理屈があるのでは」という思考を通じ、ネイティブスピーカーが無意識に身につけた自然な感覚に迫るための「気づき」を持てるようになります。この授業では、そういった観点から、**前置詞の本当のイメージ**を理解してもらいます。	1. はじめに 2. つづき 3. toward(s), to, in/into, inward, outward, 4. through, out (of), from (vs. of), away (from) 5. on vs. of, onto, on vs. in, on vs. out, off, vs. from 6. 続き 7. in vs. on & out, in vs. inside, within, during 8. beside, along, near, alongside, against 9. between, among, amid, inter- 10. across (from), opposite, cattycorner 11. in front (of), behind, before, next 12. above, over, across, through, throughout, via 13. (a)round, about vs. by/past, over, on 14. under, below, beneath, underneath 15. back, backward(s), at vs. in, on, toward(s), by,
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： Lindstromberg, S. 1997. *English Prepositions Explained*. John Benhamins Publishing Company.（プリント配布）	課題と定期試験および授業への参加度によります。

09 年度以降	Communicative English	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions. The materials for spring and autumn will be different. There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.	Week 1　Introduction to the course Week 2　Consolidation Week 3　Giving opinions Week 4　Background introduction to the UK Week 5　Work and daily lives Week 6　Discussion and introduction to the project Week 7　Health Week 8　A famous author Week 9　Discussion and project follow up Week 10　Language development quiz Week 11　Social English Week 12　Language development: conditionals Week 13　Project corrections Week 14　Review Week 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.

09 年度以降	Communicative English	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions. The materials for spring and autumn will be different. There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.	Week 1　Introduction to the course Week 2　Consolidation Week 3　Giving opinions Week 4　Discussion Week 5　Vocabulary game Week 6　Fluency activity and introduction to the project Week 7　Language development: phrasal verbs Week 8　Roleplay Week 9　Language development quiz Week 10　Discussion and project follow up Week 11　London taxi Week 12　More about London Week 13　Project corrections Week 14　Review Week 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.

09 年度以降	Communicative English	担当者	D. マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations. A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.	Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.	Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.

09 年度以降	Communicative English	担当者	D. マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations. A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.	Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.	Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.

09 年度以降	Communicative English（月５）	担当者	Ｊ．Ａ．グレイ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may be assigned and can include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point individually and in groups depending on class size. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.	1. Course Introduction / Demonstration /Assignment Choose Topics Today 2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions 3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions 4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions 5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions 6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions 7. Mid-term 8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions 9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions 10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions 11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions 12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions 13. Final 14. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews 15. Wrap-up of this semester's work. **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09 年度以降	Communicative English（水５）	担当者	Ｊ．Ａ．グレイ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may be assigned and can include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point individually and in groups depending on class size. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.	1. Course Introduction / Demonstration /Assignment Choose Topics Today 2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions 3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions 4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions 5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions 6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions 7. Mid-term 8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions 9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions 10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions 11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions 12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions 13. Final 14. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews 15. Wrap-up of this semester's work. **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09 年度以降	Communicative English	担当者	J．N．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This course will provide students with the opportunity to develop their English oral communication skills and vocabulary. Along the way, students will also develop their critical thinking skills and broaden their background knowledge in a number of issues facing Japan and the world today. Each week, students will bring in authentic materials from newspapers or news magazines and give short presentations to their groups on their chosen articles. Following their presentations, students will be responsible for leading a follow-up discussion. We will focus on a different topic every other week.	1. Introduction 2. Social issues in Japan 3. Issues in education in Japan 4. Social issues around the world 5. The economy 6. The economy 7. Entertainment 8. Entertainment 9. The media 10. The media 11. The environment 12. The environment 13. Politics 14. Politics 15. Summary and wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Students will select articles from English language newspapers (e.g., The New York Times) and magazines (e.g., The Economist).	Evaluation will be based on attendance, participation in class discussions, and submission of a class notebook.

09 年度以降	Communicative English	担当者	J．N．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This course will provide students with the opportunity to develop their English oral communication skills and vocabulary. Along the way, students will also develop their critical thinking skills and broaden their background knowledge in a number of issues facing Japan and the world today. Each week, students will bring in authentic materials from newspapers or news magazines and give short presentations to their groups on their chosen articles. Following their presentations, students will be responsible for leading a follow-up discussion. We will focus on a different topic every other week.	1. Introduction 2. Social issues in Japan 3. Issues in education in Japan 4. Social issues around the world 5. The economy 6. The economy 7. Entertainment 8. Entertainment 9. The media 10. The media 11. The environment 12. The environment 13. Politics 14. Politics 15. Summary and wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Students will select articles from English language newspapers (e.g., The New York Times) and magazines (e.g., The Economist).	Evaluation will be based on attendance, participation in class discussions, and submission of a class notebook.

09 年度以降	Communicative English	担当者	J．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to improve students' communicative English in speaking and listening. The class will emphasize developing fluency for everyday speaking, improving listening comprehension, and developing effective presentation skills. Most of class time will be devoted to speaking. Students are expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Most of the listening will take place outside of class. Grades will be based on attendance and participation, listening tests, a class presentation and a speaking test at the end of the semester.	Week 1: Class orientation Week 2: Listening introduction Week 3: Small talk, family; self-introductions Week 4: Travel; interrupting Week 5: Music; natural openers and closings Week 6: Health; reported speech Week 7: Beliefs; responding naturally Week 8: Movies; inviting Week 9: Reading; speaking from notes Week 10: Presentation workshop Week 11: Presentation Week 12: Free time; pronunciation workshop Week 13: Restaurants; keeping a conversation going Week 14: Speaking test Week 15: Review and consultation
テキスト、参考文献	評価方法
Sound Bytes 2: Listening for Today's World (Pearson Longman)	20% attendance and participation 20% class presentation 40% listening tests 20% speaking test

09 年度以降	Communicative English	担当者	J．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to improve students' communicative English in speaking and listening. The class will emphasize developing fluency for everyday speaking, improving listening comprehension, and developing effective presentation skills. Most of class time will be devoted to speaking. Students are expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Most of the listening will take place outside of class. Grades will be based on attendance and participation, listening tests, a class presentation and a speaking test at the end of the semester.	Week 1: Class orientation Week 2: Famous people; likes and dislikes Week 3: Comedy; telling a joke Week 4: Food; describing Japanese food Week 5: Fashion; tag questions Week 6: TV; talking about experiences Week 7: Sleep; pronunciation workshop Week 8: Work; informal vs. formal usage Week 9: Dating; describing Japanese things Week 10: Presentation workshop Week 11: Presentation Week 12: Technology and online; asking for advice Week 13: Review Week 14: Speaking test Week 15: Review and consultation
テキスト、参考文献	評価方法
Sound Bytes 2: Listening for Today's World (Pearson Longman)	20% attendance and participation 20% class presentation 40% listening tests 20% speaking test

09 年度以降	Communicative English	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.	1. Introduction 2.Exchanging personal information 3.Personality Types 4.Appearances 5.Attitudes 6.Comparing experiences 7.Getting information 8. Events 9. Quiz 10. Movies 11.Music 12.Media 13 Education 14 Commercials 15. Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Grades will be based on attendance, class participation and tests.

09 年度以降	Communicative English	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of the course is to develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussion. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.	1. Summer vacation 2.Personal opinions 3.Japan 4.Preferences 5. Religions 6.Film and TV 7. Language 8 Poverty 9 War and Peace 10. Diet and nutrition 11. Green issues 12. Natural Disasters 13. Sexism 14. Poster Presentations 15 Poster Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Grades will be based on attendance, class participation and tests

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	Communicative English（月 1）	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to introduce the students to modern American idiomatic English and to improve both their speaking and listening ability. We will focus on vocabulary development, idioms and useful grammatical structures as well. It is hoped that the students will greatly expand both their vocabulary and listening ability in this class, and also enjoy the opportunity to practice the English they have learned.	We will utilize subtitled American movies in this class. The students will receive handouts for each scene and will study vocabulary, idioms and grammatical structures in each lesson, as well as engage in a speaking exercise to practice the English they have learned. It is hoped that this will be an interesting and effective method of study that will motivate the students to do their best and make this course a productive experience.

テキスト、参考文献	評価方法
Handouts will be provide by the teacher.	Attendance, Participation, (1) test, (1) report

09 年度以降	Communicative English（金１）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this class is to provide the students with an effective course of study in modern American idiomatic English. Useful vocabulary, common idioms and effective grammatical structures will be focused upon. It is hoped that this course will augment the student's ability to effectively use English in real world situations.	In this course, I will use a video as well as handouts for the main text. We will use a Disney movie because the English is clear, standard, and replete will useful vocabulary and common idioms. The scenes studied in class are also subtitled in English. Thus, we will focus on vocabulary, idioms, useful grammar and listening comprehension. This should be an interesting class, with a varied, challenging curriculum, and the students should have ample opportunity to speak with each other and the instructor.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Handouts will be provided.	Attendance, a test and a report

09 年度以降	Communicative English（金１）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
Same as the first semester	A continuation of the above
テキスト、参考文献	**評価方法**
Same as above	Same as above

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	Communicative English（金３）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to introduce the students to modern American idiomatic English and to improve both their speaking and listening ability. We will focus on vocabulary development, idioms and useful grammatical structures as well. It is hoped that the students will greatly expand both their vocabulary and listening ability in this class, and also enjoy the opportunity to practice the English they have learned.		We will utilize subtitled American movies in this class. The students will receive handouts for each scene and will study vocabulary, idioms and grammatical structures in each lesson, as well as engage in a speaking exercise to practice the English they have learned. It is hoped that this will be an interesting and effective method of study that will motivate the students to do their best and make this course a productive experience.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provide by the teacher.		Attendance, Participation, (1) test, (1) report	

09 年度以降	Communicative English	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues from the textbook.	Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & text - unit 1 Week 6: Discussions & text - unit 1 continued Week 7: Discussions & text - unit 2 Week 8: Discussions & text – unit 2 continued Week 9: Discussions & text – unit 3 Week 10: Discussion & text – unit 3 continued Week 11: Discussion & text – unit 4 Week 12: Discussion & text - unit 4 continued Week 13: Discussion & text – unit 5 Week 14: Discussion & text – unit 5 continued Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues 3 Richard R. Day Pearson Longman	Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, tests, vocabulary notebooks and attendance.

09 年度以降	Communicative English	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues in the textbook.	Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & text - unit 1 Week 6: Discussions & text - unit 1 continued Week 7: Discussions & text - unit 2 Week 8: Discussions & text – unit 2 continued Week 9: Discussions & text – unit 3 Week 10: Discussion & text – unit 3 continued Week 11: Discussion & text – unit 4 Week 12: Discussion & text - unit 4 continued Week 13: Discussion & text – unit 5 Week 14: Discussion & text – unit 5 continued Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues 3 Richard R. Day Pearson Longman	Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, tests, vocabulary notebooks and attendance.

09 年度以降	Communicative English	担当者	P．M．ホーネス

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. Much of the material is based on previously learned concepts to help improve individual aspects of fluency. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.	1 Introduction 2 Future, Suprasegmentals (intonation) 3 Simple Past 4 Alibi 5 Alibi 6 Culture Presentation: food & tourist attractions 7 Comparisons and superlatives 8 Conditionals 9 Conditionals 10 Reading presentation 11 Survey: Movies 12 Survey: Personality 13 Culture Presentation 14 Speaking tests 15 Speaking tests (written summaries due) Subject to change based on class's needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Attendance (Absence = -5 points) 20 Participation Unit 10 Summary 10 Presentations (3X10) 30 Speaking Test 30

09 年度以降	Communicative English	担当者	P．M．ホーネス

講義目的、講義概要	授業計画
This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 9-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.	1 Introduction 2 Survey: Bilinguals 3 Survey: Dating 4 Culture Presentation: language & art 5 Survey: MASK 6 School festival 7 Survey: Travel 8 Analyzing Poetry 9 Survey: Music 10 Music presentation 11 Fashion and design: Is there a universal concept? 12 Culture Presentation 13 Christmas party 14 Speaking tests (written summaries due) 15 Speaking tests Subject to change based on class's needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Attendance (Absence = -5 points) 15 Participation In class 15 Summary 20 Presentations (3X10) 30 Speaking Test 20

09 年度以降	Communicative English	担当者	P．アップス

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are • To improve the students' knowledge of current English. • To improve the students' critical thinking skills • To improve the students' reading and speaking skills • To improve discussion and presentation skills. The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)	As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher. Most of the topics will be popular in the media. In 2011 we discussed topics such as 1. Gun Control 2. Global Warming 3. Japanese Population 4. Japanese Education 5. Homelessness in the World 6. Religion 7. Arab Spring 8. Do you have Passion 9. Chewing Gum 10. British food 11. Clever Mums and Maths 12. Blood Tests Predict when you Die 13. Seven Billion People 14. Energy Saving Haircuts 15. Blood Test Predicts when you Die
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.	1. Student Attendance 2. Student participation 3. Interview test 4. Homework

09 年度以降	Communicative English	担当者	P．アップス

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are • To improve the students' knowledge of current English. • To improve the students' critical thinking skills • To improve the students' reading and speaking skills • To improve discussion and presentation skills. The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)	As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher. Most of the topics will be popular in the media. In 2011 we discussed topics such as 1. Gun Control 2. Global Warming 3. Japanese Population 4. Japanese Education 5. Homelessness in the World 6. Religion 7. Arab Spring 8. Do you have Passion 9. Chewing Gum 10. British food 11. Clever Mums and Maths 12. Blood Tests Predict when you Die 13. Seven Billion People 14. Energy Saving Haircuts 15. Blood Test Predicts when you Die 16. Also please note there is homework after every class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.	1 Student Attendance 2. Student participation 3. Interview test 4. Homework

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	Communicative English	担当者	未定（掲示で確認）

講義目的、講義概要	授業計画
To Be Announced.	To Be Announced.

テキスト、参考文献	評価方法
To Be Announced.	To Be Announced.

09 年度以降	Communicative English	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an intermediate-level context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit an essay on any topic from British culture during the term.	UK Culture I 1. Introductory Class 2. Presentation Class 3. Introduction to Britain 4. British Pop 5. London 6. The Train 7. Heathrow Airport 8. William Shakespeare 9. Tea 10. Climbers 11. Sherlock Holmes 12. The Purple Violin 13. An English Summer 14. Review 15. Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also recommended.	30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation & Essay.

09 年度以降	Communicative English	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an upper-intermediate context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit an essay on any topic from British culture during the term.	UK Culture II 1. Preview 2. Presentation Class 3. The Seven Wonders of Britain 4. Wales 5. BBC World Service 6. The Mini 7. The Village 8. Agatha Christie 9. The Sea 10. Taxi 11. Public School 12. WOMAD 13. A British Christmas 14. Review 15. Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also recommended.	30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation & Essay.

09 年度以降	Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues with this dynamic and exiting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics 1 Introduction to the course of studies. 2 Japanese work ethics. 3 Attitudes towards women. 4 Other gender issues. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

09 年度以降	Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues with this dynamic and exciting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics 1 Brief introduction/welcome back to class. 2 Computers and society. 3 Ageing Society. 4 The Automobile. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

09 年度以降	Communicative English（火１）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for <u>any</u> reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

09 年度以降	Communicative English（火１）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your ***Summer Break***, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: **"What do you usually do ...?"**: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: **Hallowe'en**: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive ***advice***, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and *Fall/Winter festival* about which to make a presentation. Discussion about "**EQ**", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: **Thanksgiving**. Song-listening exercise. Student answersto *"What are you thankful for?"* Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: **"How often do you ...?"**: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: **Christmas,** and ***Christmas cultures*** in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about ***New Year's wishes and plans***. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: **"How was your Christmas?"** & **"How was your O Sho Gatsu?"**: discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your **"New Year's Resolutions".** Final student presentations. Week 15: Review of *specific* New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: ***future plans*** for the February & March Break.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for <u>any</u> reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

09 年度以降	Communicative English（火３）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for <u>any</u> reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

09 年度以降	Communicative English（火３）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your ***Summer Break***; using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: **"What do you usually do ...?"**: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: **Hallowe'en**: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive ***advice***, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and *Fall/Winter festival* about which to make a presentation. Discussion about "**EQ**", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: **Thanksgiving**. Song-listening exercise. Student answersto *"What are you thankful for?"* Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: **"How often do you ...?"**: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: **Christmas,** and ***Christmas cultures*** in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about ***New Year's wishes and plans***. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: **"How was your Christmas?"** & **"How was your O Sho Gatsu?"**: discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your **"New Year's Resolutions".** Final student presentations. Week 15: Review of *specific* New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: ***future plans*** for the February & March Break.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for <u>any</u> reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

09 年度以降	Discussion	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
This class will provide training on the principles of effective discussion through practical and hands-on exercises.	1. Introduction to the Course 2. Discussion and Chat: what's the difference? 3. Principles of a Good Discussion 4. The Ability to Listen 5. The Ability to Agree/Disagree 6. Graded Exercise 1 7. Information: knowledge of the topic 8. Graded Exercise 2 9. Organization of ideas 10. Graded Exercise 3 11. The importance of language 12. Graded Exercise 4 13. Mind-mapping: can't be overlooked 14. Graded Exercise 5 15. Summary and evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook will be introduced on the first day of class.	Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.

09 年度以降	Discussion	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
This class will provide training on the principles of effective discussion through practical and hands-on exercises.	1. Introduction to the Course 2. Discussion and Chat: what's the difference? 3. Principles of a Good Discussion 4. The Ability to Listen 5. The Ability to Agree/Disagree 6. Graded Exercise 1 7. Information: knowledge of the topic 8. Graded Exercise 2 9. Organization of ideas 10. Graded Exercise 3 11. The importance of language 12. Graded Exercise 4 13. Mind-mapping: can't be overlooked 14. Graded Exercise 5 15. Summary and evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook will be introduced on the first day of class.	Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.

09 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication and speaking skills. The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current and interesting topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions. Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English speaking, comprehension and knowledge.	Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 Week 2: Discussion Topic # 2 Week 3: Discussion Topic # 3 Week 4: Discussion Topic # 4 Week 5: Discussion Topic # 5 Week 6: Discussion Topic # 6 Week 7: Quiz Week 8: Discussion Topic # 7 Week 9: Discussion Topic # 8 Week 10: Discussion Topic # 9 Week 11: Discussion Topic # 10 Week 12: Discussion Topic # 11 Week 13: Discussion Topic # 12 Week 14: Discussion Topic # 13 Week 15: Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Discussion notes and handouts will be provided every week.	Attendance, discussion involvement, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.

09 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication and speaking skills. The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current and interesting topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions. Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English speaking, comprehension and knowledge.	Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic #1 Week 2: Discussion Topic # 2 Week 3: Discussion Topic # 3 Week 4: Discussion Topic # 4 Week 5: Discussion Topic # 5 Week 6: Discussion Topic # 6 Week 7: Quiz Week 8: Discussion Topic # 7 Week 9: Discussion Topic # 8 Week 10: Discussion Topic # 9 Week 11: Discussion Topic # 10 Week 12: Discussion Topic # 11 Week 13: Discussion Topic # 12 Week 14: Discussion Topic # 13 Week 15: Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Discussion notes and handouts will be provided every week.	Attendance, discussion involvement, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.

09 年度以降	Discussion	担当者	J．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.	1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements. 2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class. 3. Can man and woman be close without romance? 4. This session will focus on environmental issues. 5. Teenage life with student presentations. 6. Is plagiarism a crime? 7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues. 8. What are the options for pregnant teenagers? 9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues. 10. How important is appearance in a relationship? 11. Should adult children move out? Quiz on previous issue. 12. Should employees go out with their bosses? 13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues. 14.The changing role of women in society. 15. Explanation of summer homework projects.
テキスト、参考文献	**評価方法**
no textbook	Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.

09 年度以降	Discussion	担当者	J．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.	1. Discussion will focus on summer projects. 2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class. 3. Is money more important than life style? 4. Story telling techniques. 5. The problems faced by immigrants. 6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations. 7. Does technology create distance in relationships? 8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue. 9. Career choices. 10. Story telling techniques. 11. When is war justified? 12. The art of compromise. 13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues. 14. Unrequited love will be the topic of this class. 15.Story telling techniques.
テキスト、参考文献	**評価方法**
no textbook	Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.

09 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.	Grades will be based on attendance, participation, and projects

09 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 5 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 6 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 7 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 8 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course.	Grades will be based on attendance, participation, and projects

09 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course introduction Week 2- First Impressions Week 3- Traffic Jam Week 4- Who Needs the Local Language Week 5- Getting Ahead Week 6- Forever Single Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- What are Friends For? Week 9- What's for Dinner? Week 10- Cyber Bullying Week 11- Taking Care of Father Week 12- Why Go To School? Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman	Due to the necessity of participating in discussions, regular class attendance is essential. Students will be evaluated on their level of preparedness for class, the discussions they prepare, and the final examination.

09 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course Introduction Week 2- An International Relationship Week 3- Too Little, Too Late Week 4- Ben and Mike Week 5- Government Control Week 6- Living Together Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- Size Discrimination Week 9- Who Will Help Them? Week 10- Finding the Right One Week 11- Dress for Success Week 12- A Mother's Story Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman	Due to the necessity of participating in discussions, regular class attendance is essential. Students will be evaluated on their level of preparedness for class, the discussions they prepare, and the final examination

09 年度以降	Discussion	担当者	未定（掲示で確認）

講義目的、講義概要	授業計画
To Be Announced.	To Be Announced.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced.	To Be Announced.

09 年度以降	Discussion	担当者	未定（掲示で確認）

講義目的、講義概要	授業計画
To Be Announced.	To Be Announced.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced.	To Be Announced.

09 年度以降	Public Speaking Ⅰ	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
The class aims to familiarize students with the principles of public speaking. It will prepare students public speaking presentations through hands-on exercises in guidelines	1. Introduction to the course: brainstorming 2. Preliminary Exercises: the effective speaker 3. What is Public Speaking? 4. Why is Public Speaking necessary? 5. Different Types of Public Speeches 6. Informative Speech Outline Exercises 7. Informative Speech: Presentations 8. Narrative Speech Outline Exercises 9. Narrative Speech: Presentations 10. Demonstration Speech Outline Exercises 11. Demonstration Speech: Presentations 12. Persuasive Speech Outline: Exercises 13. Persuasive Speech: Presentations 14. Summary 15. Evaluation and assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook will be introduced on the first day of class.	Evaluation is based on summative performance on speeches delivered in class, submission of requirements, and participation in class exercises.

09 年度以降	Public Speaking Ⅱ	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
The class aims to familiarize students with the principles of public speaking. It will prepare students public speaking presentations through hands-on exercises in guidelines	1. Introduction to the course: brainstorming 2. Preliminary Exercises: the effective speaker 3. What is Public Speaking? 4. Why is Public Speaking necessary? 5. Different Types of Public Speeches 6. Informative Speech Outline Exercises 7. Informative Speech: Presentations 8. Narrative Speech Outline Exercises 9. Narrative Speech: Presentations 10. Demonstration Speech Outline Exercises 11. Demonstration Speech: Presentations 12. Persuasive Speech Outline: Exercises 13. Persuasive Speech: Presentations 14. Summary 15. Evaluation and assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook will be introduced on the first day of class.	Evaluation is based on summative performance on speeches delivered in class, submission of requirements, and participation in class exercises.

09 年度以降	Public Speaking Ⅰ	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.	Assessment will be based on classroom participation, written assignments, and speeches and presentations.

09 年度以降	Public Speaking Ⅱ	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.	Assessment will be based on classroom participation, written assignments, and speeches and presentations.

09 年度以降	Public Speaking Ⅰ	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「異文化コミュニケーション」という言葉がよく聞かれる今日、どうしたら英語で上手くコミュニケーションがとれるようになるのでしょうか。この授業では、自分の伝えたい事を言葉のみでなく、Physical Message, Visual Message, Story Message によって如何により効果的にプリゼンテーションが出来るようになるかを学びます。 講義概要： プリゼンテーションをする時のコミュニケーションの方法と段階を上記の三つに分けます。それぞれのメッセージは 'What', 'Why', 'How', 'Practice' の四項目から成り、更に 'Performance' と 'Evaluation' のセクションで自分のプリゼンテーションを通じて、又クラスメイトのプリゼンテーションを聞き、如何に改善すべきかを自ら学びとります。カラーの愉快なイラストを使いながら、１００パーセント学習者参加型の演習方法で授業を進めていきます。 進度は皆さんの様子を見ながら必要に応じて調整していきます。DVD が大きな助けとなるでしょう。	1. Introduction 2. [I] THE PHYSICAL MESSAGE: What is Physical Message? 3. Posture and Eye Contact 4. Informative Speech 5. Performance 6. Gestures 7. Layout Speech 8. Performance 9. Voice Inflection 10. Demonstration Speech 11. Performance 12. [II] THE VISUAL MESSAGE: Effective Visuals (1) 13. Effective Visuals (2) 14. Performance(1) 15. Performance(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：Harrington,D. & LeBeau, C. , *Speaking of Speech – New Edition-Basic Presentation Skills for Beginners.* MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2009. 2500 円 ＋ 税	出席状況、授業への参加度、宿題、発表、試験などから総合的に評価します。主に授業中のプリゼンテーションを最重要視するので、出席は最も重要。

09 年度以降	Public Speaking Ⅱ	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 春学期と同じ。 講義概要： 春学期に引き続く。 **注意**： 何らかの理由で秋学期から履修する場合は、春学期の授業内容を理解し、且つ実際にそこまでの段階のパフォーマンスが出来るようにしておく必要があります。秋学期の最初の授業で指導致します。	1. [II] THE VISUAL MESSAGE （春学期の続き） Explaining Visuals (1) 2. Explaining Visuals (2) 3. Performance 4. [III] THE STORY MESSAGE: What is Story Message? Presentation Structure 5. Introduction What is the Story Message? 6. Introductory Phrases Model Introduction 7. Performance (Introduction) 8. The Body Evidence 9. Transitions 10. Sequencers 11. Performance (Body) 12. The Conclusion – How to Make a Conclusion? 13. Performance (Conclusion) 14. Final performance(1) 15. Final performance(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

09 年度以降	Debate Ⅰ	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.	Grades will be based on attendance, participation, and projects

09 年度以降	Debate Ⅱ	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 5 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 6 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 7 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 8 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.	Grades will be based on attendance, participation, and projects

09 年度以降	Debate Ⅰ	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
In our lives, we sometimes have to develop a position on certain controversial topics, consider objections and counterarguments and respond to them. English debate helps us understand the fundamentals of argumentation through conducting and judging debates. In the spring semester, students will learn debate procedures, criteria for assessing arguments, cross-examination and refutation skills and will join individual and team debate activities.	1 Course overview 2 Introduction to debate 3 Practice of judging debate 4 Individual Debate 5 What is argument? 6 Constructing argument 7 Constructing argument 8 Cross-examination 9 Refuting argument 10 Individual Debate 11 Team Debate Preparation 12 Team Debate 13 Team Debate 14 Team Debate 15 Team Debate
テキスト、参考文献	**評価方法**
小西卓三、菅家知洋、P. J. Collins 『Let the Debate Begin!』(東海大学出版会)	Students will be graded on class participation (doing and judging debate and providing feedback to class members) and writing assignments.

09 年度以降	Debate Ⅱ	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
Based on what we've learned in the spring semester, we will decide topics for policy debate, analyze and constructs arguments on the topics, and conduct Individual Debate and Team Debate.	1 Retrospect and Prospect 2 Deciding on Fall Semester debate topic 3 Analyzing the proposition of policy (affirmative) 4 Analyzing the proposition of policy (negative) 5 Analyzing the proposition of policy (counterplan) 6 Individual Debate 7 Individual Debate 8 Team Debate preparation 9 Team Debate preparation 10 Team Debate 11 Team Debate 12 Team Debate 13 Team Debate 14 Team Debate 15 Team Debate
テキスト、参考文献	**評価方法**
小西卓三、菅家知洋、P. J. Collins 『Let the Debate Begin!』(東海大学出版会)	Students will be graded on class participation (doing and judging debate and providing feedback to class members) and writing assignments.

09 年度以降	通訳　I	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
通訳の基礎訓練というのは、コミュニケーション能力としての総合的語学力をアップするためシステマティックなトレーニングにほかならない。 このため、様々な方法で、リーディング、リスニング、スピーキングの技術を強化していくための練習を具体的に行っていく。 なお、授業の３分の１以上を欠席した場合、単位は認められない。	１～2 回は通訳全般についての話。３回目以降から実際のトレーニングに入るが、その内容は次のとおり： リピーティング、クイック・レスポンス、シャドーイング、ボキャビル、サイト・トランスレーション、サラマイゼーション、ワンセンテンスからパラグラフ通訳、リテンション、通訳メモの取り方 etc.
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを使用する予定	平常の授業から、通訳技術をどれくらい身に付けたかで評価する。授業はステップ・アップ形式で進むので欠席すると大変不利。

09 年度以降	通訳　I	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上 ただし、春学期よりも内容の種類と難易度が増す。
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

09年度以降	通訳 Ⅰ（金３）	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
一般論ですが、英語ができる人は通訳もできるという誤解が世の中には広まっています。リスニングテストは下記の①だけでよいので楽なものです。通訳には①～③までの力が必要です。あなたは②と③を学んだことがありますか。②や③に自信が無い学生にはぜひ学習してもらいたいと思います。 ① 英語を聴き取ること ② 要点をメモすること ③ 即座に、的確、かつ、丁寧な日本語に通訳する （通訳に必須不可欠な「敬語」の使い方を学習する） 教員が通訳訓練学校で受けた訓練方法をそのまま教室で再現し、逐次通訳の実践的トレーニングを行います。 一年後のめあてとしては、理解できた内容であればすべて即座に通訳できる能力を身につけることです。	＜第１回＞ 皆さんの英語力を把握するため、TOEIC（TOEFL,英検等もあれば）スコアのコピーを持参して下さい。 また、一回目から毎週USBフラッシュメモリーを持参して下さい。 ＜第２回以降～＞ CALL教室で英語教材を聞き、各自メモを取りながら実際に逐次通訳を行います。自分のパフォーマンスはすべてUSBに保存します。 教材は、通訳に欠かせないアナウンス、ビジネスシーンでの会話、ストーリー、異文化コミュニケーション、などできるだけ多岐にわたる教材を用いつもりです。教科書以外のものはプリントで配布します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
１回目の授業で１冊はテキストを指定します。	授業中の通訳、ディクテーションの課題、数回の単語テスト、定期試験などの総合評価

09年度以降	通訳 Ⅰ（金３）	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、CALL教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音する、という実践的な訓練を積み重ねます。 英語が終わったら、一呼吸考えてから声を出す人が前期はよく見受けられます。すぐ通訳を始める瞬発力がものを言います。後期になると、逐次通訳がそれなりに形になってきます。クタクタになりながらも、緊張感と達成感を楽しんでいる学生が多いようです。 また、通訳にふさわしい、洗練された日本語に訳す必要性に気づくでしょう。 実践的な訓練を継続する中で、100%の力を出すために緊張感をコントロールできるようになり、無意識のうちにその緊張感を楽しめるようになります。	＜第１回＞ 各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。 ＜第２回以降～＞ 上記の春学期に準じます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
前期のテキストとプリント配布。	授業中の通訳、ディクテーションの課題、数回の単語テスト、定期試験などの総合評価

09年度以降	通訳 Ⅰ（金５）	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
一般論ですが、英語ができる人は通訳もできるという誤解が世の中には広まっています。リスニングテストは下記の①だけでよいので楽なものです。通訳には①～③までの力が必要です。あなたは②と③を学んだことがありますか。②や③に自信が無い学生にはぜひ学習してもらいたいと思います。 ①　　英語を聴き取ること ②　　要点をメモすること ③　　即座に、的確、かつ、丁寧な日本語に通訳する（通訳に必須不可欠な「敬語」の使い方を学習する） 教員が通訳訓練学校で受けた訓練方法をそのまま教室で再現し、逐次通訳の実践的トレーニングを行います。 一年後のめあてとしては、理解できた内容であればすべて即座に通訳できる能力を身につけることです。	＜第１回＞ 皆さんの英語力を把握するため、TOEIC（TOEFL,英検等もあれば）スコアのコピーを持参して下さい。 また、一回目から毎週 USB フラッシュメモリーを持参して下さい。 ＜第２回以降～＞ CALL 教室で英語教材を聞き、各自メモを取りながら実際に逐次通訳を行います。自分のパフォーマンスはすべて USB に保存します。 教材は、通訳に欠かせないアナウンス、ビジネスシーンでの会話、ストーリー、異文化コミュニケーション、などできるだけ多岐にわたる教材を用いつもりです。教科書以外のものはプリントで配布します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
１回目の授業で１冊はテキストを指定します。	授業中の通訳、ディクテーションの課題、数回の単語テスト、定期試験などの総合評価

09年度以降	通訳 Ⅰ（金５）	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、CALL 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音する、という実践的な訓練を積み重ねます。 英語が終わったら、一呼吸考えてから声を出す人が前期はよく見受けられます。すぐ通訳を始める瞬発力がものを言います。後期になると、逐次通訳がそれなりに形になってきます。クタクタになりながらも、緊張感と達成感を楽しんでいる学生が多いようです。 また、通訳にふさわしい、洗練された日本語に訳す必要性に気づくでしょう。 実践的な訓練を継続する中で、100%の力を出すために緊張感をコントロールできるようになり、無意識のうちにその緊張感を楽しめるようになります。	＜第１回＞ 各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。 ＜第２回以降～＞ 上記の春学期に準じます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
前期のテキストとプリント配布。	授業中の通訳、ディクテーションの課題、数回の単語テスト、定期試験などの総合評価

09年度以降	通訳 Ⅱ	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度から、以下のように一新しました。 昨年までは、通訳Ⅰの advanced　level と捉え、難易度の高い授業でしたが、今年度からは、レベル的には通訳Ⅰよりやや難易度が上がる程度にし、長時間通訳し続けることができるようになることを講義の目的とします。 講義概要は以下のようになります。 ① 通訳の現場のように、教材をぶっつけ本番で訳す練習をします。 ② 通訳Ⅰでは、細切れに通訳を録音しましたが、通訳Ⅱでは、長い時間通訳し続ける訓練をします。 ③ 訳した後スクリプトを配布します。授業以外の時間に、USB に保存した自分の通訳をスクリプトでチェックし、完全に通訳できるように練習して下さい。 ④ 同時通訳についても学びます。	全員、１回目の授業で、TOEIC（TOEFL,英検等もあれば）スコアのコピーと USB フラッシュメモリーを持ってくること。 「通訳Ⅰ」を履修していることが望ましいですが、TOEIC スコア 800 以上の英語力があれば、いきなり「通訳Ⅱ」から始めても問題ありません。 通訳の実践的な訓練を行う「学生参加型」の授業です。 教材としては、異文化コミュニケーションやビジネスに関する対談、ニュース現場からの実況中継、アナウンス、長いスピーチなどです。 話す速度の速い人の英語を聞き取るためのトレーニング、尊敬語と謙譲語の正しい使い方なども学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材は多岐にわたるので、主にプリントで配布しますが、１回目の授業で１冊はテキストを指定します。	授業中の通訳、ディクテーションの課題、小テスト、定期試験の総合評価

09年度以降	通訳 Ⅱ	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度から、以下のように一新しました。 昨年までは、通訳Ⅰの advanced　level と捉え、難易度の高い授業でしたが、今年度からは、レベル的には通訳Ⅰと同じにし、長時間通訳し続けることができるようになることを講義の目的とします。 講義概要は以下のようになります。 ① 通訳Ⅰでは、細切れに通訳を録音しましたが、通訳Ⅱでは、長い時間通訳し続ける訓練をします。 ② その教材を用いて同時通訳の方法を学びます。 ③ 訳した後スクリプトを配布します。授業以外の時間に、USB に保存した自分の通訳とスクリプトを照らし合わせ、確認作業をし、通訳を完成させる。 ④ 同時通訳についても学びます。	通訳の実践的な訓練を行う「学生参加型」の授業です。実際の通訳は常にぶっつけ本番であり、一度聞いてから二回目に訳するということはありえません。したがって、通訳Ⅱb では、「ぶっつけ本番」の臨場感のある練習をできるだけ多くさせたいと考えています。そのほうが、社会に出てから役に立つからです。 しかしながら、そうなると、訳の確認作業に十分な時間を確保できません。授業ではポイントだけの説明にとどめざるを得ない場合が出てきますから、授業後に必ず③の作業を行ってください。次の授業で確認チェック作業の時間を設けるようにしましょう。 会議の場で必要な英語表現や、ビジネスシーンでのスピーチ表現やプレゼンテーションの表現も学習します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
前期同様、テキストとプリント配布。	授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
国際化時代にあって、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。**「英語ビジネス・コミュニケーション」**とあるように、**「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」**の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に英文 **Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。 **水曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。**一緒に勉強しましょう。	１.講義の説明 ２.ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」） ３.ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と**練習問題１** ４.効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」） ５.効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と**練習問題２** ６.よく使用される表現（その１―「取引の申込み」） ７.よく使用される表現（その２―「引合い」）**練習問題３** ８.よく使用される表現（その３―「オファー」） ９.よく使用される表現（その４―「信用状」）**練習問題４** １０.よく使用される表現（その５―「積出し」） １１.よく使用される表現（その６―「クレーム」） １２.英文履歴書と英文カバーレターの書き方 １３.英文 Business Writing **実践練習問題（その１）** １４.英文 Business Writing **実践練習問題（その２）** １５.まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
海老沢達郎著 『BUSINESS WRITING　英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年） プリント：必要に応じて随時配布する	学期末の試験（８０％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（２０％）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は５回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあって、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。**本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済を」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。同時に、例えば、**「歴史的円高なのに、なぜ原油・綿花・小麦・大豆・コーヒー豆と言った外国からの輸入品が（それ程）値下がりしないのでしょうか」。**それには理由があるのです。こういう勉強もしていきます。**水曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。**また、通年でも同様の勉強ができます。	１．講義の説明 2.「英字新聞の特徴について（1）」 3.「英字新聞の特徴について（2）」 4.「Headline の読み方実践練習（1）」 5.「Headline の読み方実践練習（2）」 6.「Lead の読み方実践練習（1）」 7.「Lead の読み方実践練習（2）」 8.「Lead の読み方実践練習（3）」 9.「Lead の読み方実践練習（4）」 10.「本格的な経済記事の読み方実践練習（1）」 11.「本格的な経済記事の読み方実践練習（2）」 12.「国際経済記事の読み方実践練習（1）」 13.「国際経済記事の読み方実践練習（2）」 14.「国際経済記事の読み方実践練習（3）」 15. まとめ 随時、授業中に経済用語等について分かりやすく解説・説明していきます。尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（８０％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（２０％）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は５回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「**英文経済記事の読み方**」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあって、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。**本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済を」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。同時に、例えば、**「歴史的円高なのに、なぜ原油・綿花・小麦・大豆・コーヒー豆と言った外国からの輸入品が（それ程）値下がりしないのでしょうか」。**それには理由があるのです。こういう勉強もしていきます。**火曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。**	１．講義の説明 2.「英字新聞の特徴について（１）」 3.「英字新聞の特徴について（２）」 4.「Headline の読み方実践練習（１）」 5.「Headline の読み方実践練習（２）」 6.「Lead の読み方実践練習（１）」 7.「Lead の読み方実践練習（２）」 8.「Lead の読み方実践練習（３）」 9.「Lead の読み方実践練習（４）」 10.「本格的な経済記事の読み方実践練習（１）」 11.「本格的な経済記事の読み方実践練習（２）」 12.「国際経済記事の読み方実践練習（１）」 13.「国際経済記事の読み方実践練習（２）」 14.「国際経済記事の読み方実践練習（３）」 15. まとめ 随時、授業中に経済用語等について分かりやすく解説・説明していきます。尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（８０％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（２０％）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は５回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
国際化時代にあって、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。**「英語ビジネス・コミュニケーション」**とあるように、**「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」**の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に英文 **Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。 **火曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。**一緒に勉強しましょう。	１.講義の説明 ２.ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」） ３.ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と**練習問題１** ４.効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」） ５.効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と**練習問題２** ６.よく使用される表現（その１―「取引の申込み」） ７.よく使用される表現（その２―「引合い」）**練習問題３** ８.よく使用される表現（その３―「オファー」） ９.よく使用される表現（その４―「信用状」）**練習問題４** １０.よく使用される表現（その５―「積出し」） １１.よく使用される表現（その６―「クレーム」） １２.英文履歴書と英文カバーレターの書き方 １３. 英文 Business Writing **実践練習問題（その１）** １４. 英文 Business Writing **実践練習問題（その２）** １５.まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
海老沢達郎著『BUSINESS WRITING　英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年） プリント：必要に応じて随時配布する	学期末の試験（８０％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（２０％）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は５回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business　Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（春学期は Unit1~12）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン（skeleton plan）、および専門語彙(technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 ＊注意：　このシラバスは木曜日3時限の授業のものです。杉山担当のもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。	1.　春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2.　ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3.　「市況」の通信文の読解・作成を行います。 4.　「取引先の発見」の通信文の読解・作成を行います。 5.　「取引の申込み」の通信文の読解・作成を行います。 6.　「信用照会」の通信文の読解・作成を行います。 7.　「引合い」の通信文の読解・作成を行います。 8.　「引合いに対する返事」の通信文の読解・作成を行います。 9.　「オファー」の通信文の読解・作成を行います。 10.　「カウンター・オファー」の通信文の読解・作成を行います。 11.　「注文」の通信文の読解・作成を行います。 12.　「注文の受諾」の通信文の読解・作成を行います。 13.　「注文の謝絶」の通信文の読解・作成を行います。 14.　「成約」の通信文の読解・作成を行います。 15.　春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）　杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（改訂版)』（三恵社、2010 年）および配布プリント （参考書）　杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メールパーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況、授業貢献度など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business　Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（秋学期は Unit13~21）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton　plan)、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 ＊注意：　このシラバスは木曜日３時限の授業のものです。杉山担当のもう１つの同一名称科目とは内容が異なります。	1.　秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2.　ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3.　「信用状の開設と訂正」の通信文の読解・作成を行います。 4.　「海上保険」の通信文の読解・作成を行います。 5.　「輸出手配」の通信文の読解・作成を行います。 6.　「船積み」の通信文の読解・作成を行います。 7.　「輸入手配」の通信文の読解・作成を行います。 8.　「決済」の通信文の読解・作成を行います。 9.　「クレーム」の通信文の読解・作成を行います。 10.　「クレーム調整」の通信文の読解・作成を行います。 11.　「会社社交文」（推薦状）の読解・作成を行います。 12.　「会社社交文」（案内状）の読解・作成を行います。 13.　「会社社交文」（礼状）の読解・作成を行います。 14.　「会社社交文」（見舞状）の読解・作成を行います。 15.　秋学期の総復習と質疑応答を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）　杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（改訂版)』（三恵社、2010 年）および配布プリント （参考書）　杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メールパーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況、授業貢献度など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business　Documents）の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。 具体的には、工業製品 の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、成約にいたるまでの段階に登場する代表的なビジネス文書として、レター・オブ・インテント（Letter of Intent ; LOI）、スポット売買契約(One-shot Sales Contract）の表面約款と裏面約款、長期売買契約書(Long-term Sales Contract）、取扱説明書(Instruction Manual）などを扱います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：このシラバスは**木曜日４時限**の授業のものです。	1.　春学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2.-3.　LOI の意義と目的や作成上の注意点について説明し実際のサンプルを検討します。 4.-5.　実際の案件に基づき LOI 作成の実習を行います。 6.-8.　スポット売買契約書の目的や作成上の注意点について説明し、「表面約款」および「裏面約款（一般取引条件)」の現物のサンプルを検討します。 9-10.　長期売買契約書について説明し、現物のサンプルを「実質条項」を中心に検討します。 11-12. 製造物責任（Product Liability）の観点から英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明します。 13-14. “Plain English”を用いた取扱説明書作成の方略を検討します。 15. 春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意するプリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business　Documents）の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。 具体的には、工業製品の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、履行および決済の段階に登場する代表的なビジネス文書として、商業送り状(Commercial Invoice)、船荷証券（Bill of Lading; B/L）、保険証券（Insurance Policy）等の船積書類、輸出申告書と輸入(納税)申告書、荷為替信用状（Documentary Letter of Credit; L/C）などを扱います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：このシラバスは**木曜日４時限**の授業のものです。	1.　秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2.　各種の船積書類(Shipping Documents; S/D)の意義と目的、作成上および読解上の注意点等を説明します。 3.-4.　商業送り状のサンプルを検討し、作成する実習を行います。 5.-6.　船荷証券と保険証券のサンプルを検討し、各々の記載事項を読解する実習を行います。 7.　輸出通関および輸入通関について詳しく説明します。 8.-9.　輸出申告書（Export Declaration; E/D）を作成する実習を行います。 10.-11. 輸入(納税)申告書（Import Declaration; I/D）を作成する実習を行います。 12.-14. 荷為替信用状による決済の仕組を詳しく説明し、サンプルを検討しながら信用状の記載事項をチェックする実習を行います。 15　秋学期の授業の総復習と質疑応答を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意するプリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　ビジネス英語の特徴 2　プリント①（英文ビジネスコラム） 3　国際取引概略Ⅰ 4　プリント② 5　国際取引概略Ⅱ 6　プリント③ 7　引合（inquiry） 8　プリント④ 9　オファーⅠ（offer） 10　プリント⑤ 11　オファーⅡ 12　プリント⑥ 13　プリント⑦ 14　プリント⑧ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信　達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信　達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　契約１（contract） 2　プリント⑦ 3　契約Ⅱ 4　プリント⑧ 5　クレームⅠ（claim） 6　プリント⑨ 7　クレームⅡ 8　プリント⑩ 9　企業内組織の英語 10-15　プレゼンテーションの実習 授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信　達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信　達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　ビジネス英語の特徴 2　プリント①（英文ビジネスコラム） 3　国際取引概略Ⅰ 4　プリント② 5　国際取引概略Ⅱ 6　プリント③ 7　引合（inquiry） 8　プリント④ 9　オファーⅠ（offer） 10　プリント⑤ 11　オファーⅡ 12　プリント⑥ 13　プリント⑦ 14　プリント⑧ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信　達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信　達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　契約１（contract） 2　プリント⑦ 3　契約Ⅱ 4　プリント⑧ 5　クレームⅠ（claim） 6　プリント⑨ 7　クレームⅡ 8　プリント⑩ 9　企業内組織の英語 10-15　プレゼンテーションの実習 授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信　達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信　達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。 具体的には、春学期は、貿易の基本概念に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に６つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティング段階、取引関係創設段階、成約段階）に属するテーマを詳しく学習します。 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 春学期の授業内容および授業計画の説明 2. 貿易の基本概念(1)：貿易の意義、貿易の主体など 3. 貿易の基本概念(2)：貿易実務の遂行手順の概観 4. 貿易の基本概念(3)：種々の貿易形態、貿易関係機関 5. 貿易の基本概念(4)：貿易管理制度、関係法令など 6. 貿易マーケティング段階(1)：”Market Research” 7. 貿易マーケティング段階(2)：”Marketing Research” 8. 取引関係創設段階(1)：取引先選定と引合い 9. 取引関係創設段階(2)：信用照会(credit inquiry) 10. 成約段階(1)：　「一般取引条件」の意義と内訳 11. 成約段階(2)：　オファー(offer)と承諾(acceptance) 12. 成約段階(3)：　品質と数量に関する条件 13. 成約段階(4)：　価格と決済に関する条件 14. 成約段階(5)：　船積みと保険に関する条件 15. 春学期の授業の総復習および質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。 具体的には、秋学期は、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に６つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）に属するテーマを詳しく学習します。 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. 履行段階(1)：”Incoterms 2010”の各貿易条件の概観 3. 履行段階(2)：外為法に基づく輸出許可と輸出承認 4. 履行段階(3)：輸出通関手続き 5. 履行段階(4)：海上運送に関する実務知識と手続き 6. 履行段階(5)：航空運送に関する実務知識と手続き 7. 履行段階(6)：複合運送に関する実務知識と手続き 8. 履行段階(7)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き 9. 履行段階(8)：輸出 PL 保険に関する実務知識と手続き 10. 履行段階(9)：各種運送書類（transport document） 11. 履行段階(10)：為替リスクの種々の回避法 12. 決済段階(1)：信用状(Letter of Credit; L/C)と荷為替手形による決済の仕組み 13. 決済段階(2)：L/C によらない決済の仕組み 14. クレームおよびクレーム調整の段階：クレームの種類、クレームの予防、クレームの種々の解決法など 15. 秋学期の授業の総復習および質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

09 年度以降	メディア英語 Ⅰ（月３）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.	1. Introduction to the class 2. Mosque building ban 3. Sharia Law ban 4. Confederate History revision 5. Reconciliation of slavery issues 6. Sons of the Confederacy lobbyists 7. Birther issues 8. Picture Manipulation 9. Alcoholism in Russia 10. Koran Burning 11. CNN Vs Fox false Allegations 12. Women in the Miltary 13. Bullying 14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction 15. Final Evaluation Subject to Change
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%

09 年度以降	メディア英語 Ⅰ（月３）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.	1. Introduction to the class 2. Mistaking bath room pictures as child pornography 3. Conspiracy Theories 4. Tea Party Racists 5. Michele Bachman misquotes 6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions 7. Afghanistan War Atrocities 8. Pakistan border conflicts 9. European racism of Muslims 10. Doubts of Obama's religion 11. Arizona Immigration law 12. Sex Education 13. Whale Hunting 14. Ritual Dolphin Killings 15. Final Evaluation Subject to Change
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%

09 年度以降	メディア英語 Ⅰ（金２）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.	1. Introduction to the class 2. Mosque building ban 3. Sharia Law ban 4. Confederate History revision 5. Reconciliation of slavery issues 6. Sons of the Confederacy lobbyists 7. Birther issues 8. Picture Manipulation 9. Alcoholism in Russia 10. Koran Burning 11. CNN Vs Fox false Allegations 12. Women in the Miltary 13. Bullying 14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction 15. Final Evaluation Subject to Change
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%

09 年度以降	メディア英語 Ⅰ（金２）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.	1. Introduction to the class 2. Mistaking bath room pictures as child pornography 3. Conspiracy Theories 4. Tea Party Racists 5. Michele Bachman misquotes 6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions 7. Afghanistan War Atrocities 8. Pakistan border conflicts 9. European racism of Muslims 10. Doubts of Obama's religion 11. Arizona Immigration law 12. Sex Education 13. Whale Hunting 14. Ritual Dolphin Killings 15. Final Evaluation Subject to Change
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is aimed at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the va rious types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa.	1.1 Documentary (or article) #1 1.2 Documentary (or article) #1 1.3 Essay or Presentation #1 1.4 Documentary (or article) #2 1.5 Documentary (or article) #2 1.6 Essay or Presentation #2 1.7 Documentary (or article) #3 1.8 Documentary (or article) #3 1.9 Essay or Presentation #3 1.10 Documentary (or article) #4 1.11 Documentary (or article) #4 1.12 Essay or Presentation #4 1.13 Final preparation 1.14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is aimed at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.	2.1 Documentary (or article) #1 2.2 Documentary (or article) #1 2.3 Essay or Presentation #1 2.4 Documentary (or article) #2 2.5 Documentary (or article) #2 2.6 Essay or Presentation #2 2.7 Documentary (or article) #3 2.8 Documentary (or article) #3 2.9 Essay or Presentation #3 2.10 Documentary (or article) #4 2.11 Documentary (or article) #4 2.12 Essay or Presentation #4 2.13 Final preparation 2.14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
今年度、**春学期は「映画で学ぶ言葉と文化」**と題して、マスメディアの一つである**「映画」**を取り上げて講義いたします。外国映画を見る場合に、言葉だけでは映画を十分に理解できない場合があります。従って、時代背景・映画の題材と言った「外国の文化」を学んでいきます。また、**「日本語字幕と音声英語の違い」**、**「原作小説との比較」**などを通して、**「映画で学ぶ言葉と文化」**を分かりやすく講義していきます。同時に、**映画が社会にどのような影響を与えるかについて考えたいと思います**。就活や社会に出てから必要な**「考える力」**も養います。学生諸君にとっては、きっと**「目から鱗が落ちる」**講義となるでしょう。　m アメリカの文豪でノーベル賞作家のヘミングウェイの作品の映画を２本とりあげます。最初の映画は“**Killers (殺人者)**”（1946 年）で、主に**ハードボイルド**と言われている彼の文体と **film noir(フイルム・ノアール)**について考えてみたいと思います。２本目の映画は“**The Sun Also Rises（陽はまた昇る）**”（195７年）で、主人公ジェイク・バーンズらの生き方とアメリカについて考えてみたいと思います。 **半期完結型の講義**ですので、授業に出席し、積極的な学生の参加を望みます。一緒に勉強していきましょう。	１．講義の説明 ２．「ヘミングウェイ」についての講義（１） ３．「ヘミングウェイ」についての講義（２） ４．「殺人者（その１）」部分観賞と**講義** ５．「殺人者（その２）」部分観賞と**講義** ６．「殺人者（その３）」部分観賞と**講義** ７．「殺人者（その４）」部分観賞と**講義** ８．「殺人者（その５）」部分観賞と**講義** ９．まとめ（**講義では、当時の社会的状況、原作の一部を読みハードボイルドの文体説明と映画との比較、film noir 等について解説いたします。）** １０．「陽はまた昇る（その１）」部分観賞と**講義** １１．「陽はまた昇る（その２）」部分観賞と**講義** １２．「陽はまた昇る（その 3)」部分観賞と**講義** １３．「陽はまた昇る（その４）」部分観賞と**講義** １４．「陽はまた昇る（その５）」部分観賞と**講義** **（講義では、当時の社会的状況、Lost Generation, Pax Americana, ユダヤ人問題等について解説いたします。）** １５．まとめ　（尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（80%）を中心にして、これに出席、授業への貢献度（20%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期も「映画で学ぶ言葉と文化」と題して、マスメディアの一つである**「映画」**を取り上げて講義いたします。外国映画を見る場合に、言葉だけでは映画を十分に理解できない場合があります。従って、時代背景・映画の題材と言った「外国の文化」を学んでいきます。また、**「日本語字幕と音声英語の違い」**、**「原作小説との比較」**などを通して、**「映画で学ぶ言葉と文化」**を分かりやすく講義していきます。同時に、**映画が社会にどのような影響を与えるかについて考えたいと思います**。就活や社会に出てから必要な**「考える力」**も養います。学生諸君にとっては、きっと**「目から鱗が落ちる」**講義となるでしょう。 マーガレット・ミッチェル原作・ヴィヴィアン・リー、クラーク・ゲーブル主演でアカデミー賞１０部門を受賞したアメリカ映画の名作 **“Gone with the Wind(風と共に去りぬ)”**（1933 年）を取り上げ、150 年前の南北戦争前後のアメリカの状況と南部の文明やスカーレットの生き方などを講義していきます。 **アカデミックな講義を目指します。**また、**半期完結型の講義**ですので、積極的な学生の参加を望みます。一緒に勉強していきましょう。	１．講義の説明 ２．「マーガレット・ミッチェル」についての講義 ３．「当時の社会的状況」についての講義 ４．「風と共に去りぬ（その１）」部分観賞と**講義** ５．「風と共に去りぬ（その２）」部分観賞と講義 ６．「風と共に去りぬ（その３）」部分観賞と講義 ７．「風と共に去りぬ（その４）」部分観賞と講義 ８．「風と共に去りぬ（その５）」部分観賞と講義 ９．「風と共に去りぬ（その６」」部分観賞と講義 １０．「風と共に去りぬ（その 7)」部分観賞と講義 １１．「風と共に去りぬ（その８）」部分観賞と講義 １２．「風と共に去りぬ」関連問題について（その１） １３．「風と共に去りぬ」関連問題について（その２） １４．「風と共に去りぬ」関連問題について（その３） １５．まとめ（**講義では、アイルランド（人）との関連、プランテーション、キング牧師との関連、南北戦争の背景、ジョージア州焦土作戦、Carpetbagger と Scalawag、KKK、スカーレットの生き方などについて解説いたします。）** 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（80%）を中心にして、これに出席、授業への貢献度（20%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
「メディア英語を学ぶ」とは何を意味するのでしょうか。 ＊英字新聞・雑誌やネットの記事を効率よく読む学習 （頻出単語なども、項目ごとに暗記したりする） ＊テレビ・ラジオの音声を学習教材にして学ぶ （ニュースや演説のみならず、ＣＭも題材になりえる） ＊マスメディアの流す記事を鵜呑みにせず、懐疑的に読む 「メディア英語学習法」のいくつか例を挙げてみましたが、学習者の目的・興味によって、「メディア英語の学習法」は様々な方法があると思います。 今回この授業では、日々のニュースや現在世界で起こっている様々な出来事を、表面的ではなく深く理解するために、その発端となった重大事件や現在に至るまでの経緯、関連した歴史上重要な演説や論争を学習します。 背景知識をしっかり理解した上で、自分自身の意見を言えるように論理的思考を身につけることも、この授業の目的となります。（↓に続きます）	私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます。**第一回目の授業でグループを作ります。必ず参加してくださいね！** 1. ガイダンス、グループ作り 2. テーマ　**公民権運動**　概論 3. 演説：キング牧師　議論：差別是正案は是か非か 4. テーマ　**９．１１**　概論 5. 演説：G. W. ブッシュ　議論：テロは正当化できるか 6. テーマ　**アポロ計画**　概論 7. 演説：J. F. ケネディ　議論：宇宙開発を推進すべきか 8. テーマ　**大恐慌とサブプライムローン**　概論 9. 演説：バーナンキ　議論：政府は銀行を救済すべきか 10. テーマ　**ソ連の解体**　概論 11. 演説：ゴルバチョフ　議論：旧ソ連国（グルジアとウクライナ）の NATO 加盟を認めてもいいか 12. テーマ　**EU 誕生**　概論 13. 演説：シューマン　議論：EU は加盟希望国をすべて受け入れるべきか 14. テーマ　**ベルリンの壁崩壊**　概論 15. 演説：レーガン　議論：NATO は解体すべきか
テキスト、参考文献	**評価方法**
植田十三他著『*Global Dynamics*: 世界情勢を英語で読む』（センゲージラーニング、2011 年） ISBN：978-4-86312-183-6	※ 成績は以下の配分で評価します。 期末試験６０％、授業内での発表４０％ ※ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
2011 年。東日本大震災、そして福島原発事故が起こりました。変動相場制に移行して以降、対米ドルで、史上最高値の円高を更新。日本だけでなく、世界的にも、欧州経済危機やアラブの春など、大変化を経験しました（ここに書ききれない程、本当に沢山の歴史的出来事がありました）。 このような情勢のなか、メディアの流す情報をどのように解釈すればいいのか、一層考えさせられた方も多いのではないのでしょうか。 上記の背景をもとに、この授業の目的を以下のように設定しました。 ＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す （極端な考えに偏らないようにするため） ＊↑をもとに、自分の考えを創りだす ＊自分の考えを他人に正確に伝える ＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 （議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。） ＊行動を起こす それでは、熱意のある方、お待ちしております！	引き続き、グループ発表形式で進めていきます。学生同士、話し合う時間も、出来る限り作りたいとも考えています。 1. ガイダンス 2. テーマ　**中国民主化運動**　概論 3. 演説：江沢民　議論：政府の言論規制は是か非か 4. テーマ　**朝鮮戦争**　概論 5. 演説：マッカーサー　議論：北朝鮮への経済制裁 6. テーマ　**ベトナム戦争**　概論 7. 演説：チザム　議論：米のベトナム戦争関与の是非 8. テーマ　**高度経済成長**　概論 9. 演説：中曽根康弘　議論：資本主義と社会主義 10. テーマ　**中東情勢**　概論 11. 演説：ラビン　議論：中東和平「ロードマップ」計画 12. テーマ　**キューバ危機**　概論 13. 演説：J. F. ケネディ　議論：核兵器は廃絶すべきか 14. テーマ　**アパルトヘイト**　概論 15. 演説：マンデラ　議論：アパルトヘイトの是非
テキスト、参考文献	**評価方法**
植田十三他著『*Global Dynamics*: 世界情勢を英語で読む』（センゲージラーニング、2011 年） ISBN：978-4-86312-183-6	※ 成績は以下の配分で評価します。 期末試験６０％、授業内での発表４０％ ※ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
[概要]インターネットに載せられている最新のニュース記事を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。 [発表]クラスを４つの班に分け、右の「授業計画」に記した順番に従って発表をしてもらう。 [課題]各班は、発表の一週間前に英文記事を選択し、翻訳と補足資料を作成した後、火曜日までにメーリスを使ってクラス全員に資料を配布する。他の学生は水曜日に必ず予習をしてから木曜日の授業に臨むこと。 履修する学生にはかなりの忍耐力と語学力が必要とされる。また、一回でも発表を無断欠席したり、他の学生に対して無責任な行動を取ったりした場合は評価対象外となる。さらに、発表に対する評価基準に関しては班内の「連帯責任」となる可能性があるので要注意。 単位取得のためには相当な努力と責任感が必要であることを覚悟して頂きたい。	1. イントロダクション①（班決定＆連絡網確立） 2. イントロダクション②（班決定＆連絡網確立） 3. A 班発表 4. B 班発表 5. C 班発表 6. D 班発表 7. A 班発表 8. B 班発表 9. C 班発表 10. D 班発表 11. A 班発表 12. B 班発表 13. C 班発表 14. D 班発表 15. 前期まとめ（※レポート提出日）
テキスト、参考文献	**評価方法**
①テキストはプリントにて配布。 ②『リーダーズ英和辞典』レベルの辞書を持参すること。	発表と学期末レポートの質を総合して決める。レポートに不備（資料の無断盗用など）がある場合は評価対象外となる。

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
[概要]インターネットに載せられている最新のニュース記事を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。 [発表]クラスを４つの班に分け、右の「授業計画」に記した順番に従って発表をしてもらう。 [課題]各班は、発表の一週間前に英文記事を選択し、翻訳と補足資料を作成した後、火曜日までにメーリスを使ってクラス全員に資料を配布する。他の学生は水曜日に必ず予習をしてから木曜日の授業に臨むこと。 履修する学生にはかなりの忍耐力と語学力が必要とされる。また、一回でも発表を無断欠席したり、他の学生に対して無責任な行動を取ったりした場合は評価対象外となる。さらに、発表に対する評価基準に関しては班内の「連帯責任」となる可能性があるので要注意。 単位取得のためには相当な努力と責任感が必要であることを覚悟して頂きたい。	1. イントロダクション①（班決定＆連絡網確立） 2. イントロダクション②（班決定＆連絡網確立） 3. A 班発表 4. B 班発表 5. C 班発表 6. D 班発表 7. A 班発表 8. B 班発表 9. C 班発表 10. D 班発表 11. A 班発表 12. B 班発表 13. C 班発表 14. D 班発表 15. 後期まとめ（※レポート提出日）
テキスト、参考文献	**評価方法**
①テキストはプリントにて配布。 ②『リーダーズ英和辞典』レベルの辞書を持参すること。	発表と学期末レポートの質を総合して決める。レポートに不備（資料の無断盗用など）がある場合は評価対象外となる。

09 年度以降	メディア英語 Ⅱ	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.	1 Introduction 2 Route 66, Weekly Current Event 3 The American RED Cross, Weekly Current Event 4 The Boston Ballet, Weekly Current Event 5 Comedy, Weekly Current Event 6 Political Protest, Weekly Current Event 7 The Yellow Pages, Weekly Current Event 8 The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event 9 The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event 10 Healthy Life Styles, Weekly Current Event 11 Supermarkets, Weekly Current Event 12 Apples in the US Northwest, Weekly Current Event 14 Social Welfare Change 15 Final Evaluation Subject to Change
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%

09 年度以降	メディア英語 Ⅱ	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.	1 Introduction 2 Tennessee, Weekly Current Event 3 The Special Olympics, Weekly Current Event 4 Sports Shoes, Weekly Current Event 5 Charities for Children, Weekly Current Event 6 Health and Comedy, Weekly Current Event 7 Broadway Musical, Weekly Current Event 8 Country Western Singers, Weekly Current Event 9 Space Exploration, Weekly Current Event 10 Analysis of Commercial 11 You tube music analysis 12 Critique of Viral video 13 The Cove 14 Whaling Issues 15 Final Presentations Subject to Change
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%

09 年度以降	メディア英語 Ⅱ	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.	1.1 Documentary (or article) #1 1.2 Documentary (or article) #1 1.3 Essay or Presentation #1 1.4 Documentary (or article) #2 1.5 Documentary (or article) #2 1.6 Essay or Presentation #2 1.7 Documentary (or article) #3 1.8 Documentary (or article) #3 1.9 Essay or Presentation #3 1.10 Documentary (or article) #4 1.11 Documentary (or article) #4 1.12 Essay or Presentation #4 1.13 Final preparation 1.14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%

09 年度以降	メディア英語 Ⅱ	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English II.	2.1 Documentary (or article) #1 2.2 Documentary (or article) #1 2.3 Essay or Presentation #1 2.4 Documentary (or article) #2 2.5 Documentary (or article) #2 2.6 Essay or Presentation #2 2.7 Documentary (or article) #3 2.8 Documentary (or article) #3 2.9 Essay or Presentation #3 2.10 Documentary (or article) #4 2.11 Documentary (or article) #4 2.12 Essay or Presentation #4 2.13 Final preparation 2.14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%

09 年度以降	メディア英語 Ⅱ	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
英字新聞の記事を読む。いろいろな内容の報道記事や特集記事を読むことを通して一般社会で必要とされる英語の語彙力を養成する。予習してきた事を確認するために、毎回簡単な単語テストを行う。教材については、次の授業で使う記事のコピーを毎回配布するので、出来るだけ欠席しないことが大切である。授業では英文記事を和訳しながら内容理解に努めたい。	毎回、授業の初めに単語小テストを行う。授業では主に和訳をしながら記事を読み進める。
テキスト、参考文献	**評価方法**
次の授業で使う教材を毎回配布する。	主として単語小テストの結果の平均点により評価する。

09 年度以降	メディア英語 Ⅱ	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	春学期に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
次の授業で使う教材を毎回配布する。	主として単語小テストの平均点により評価する。

09 年度以降	シネマ英語	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester course we focus on a film from three angles: first of all we study its background next we watch the film itself in the context of its background, and we focus in on key extracts from its screenplay then we broaden our focus once more to examine the film's wider implications In this way we shall not only enjoy rich, meaningful content but also benefit from close attention to language skills. No student presentations required.	1 Introduction & Orientation 2 Backgrounding 1 3 Backgrounding 2 4 Backgrounding 3 5 Film 1 6 Film 2 7 Screenplay Focus 1 8 Screenplay Focus 2 9 Screenplay Focus 3 10 Reading rotation and discussion 1 11 Reading rotation and discussion 2 12 Panning out 1 13 Panning out 2 14 Panning out 3 15 Review & Evaluations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set textbook E-J/J-E dictionary required	Minimum two-thirds attendance required to pass Evaluation based upon continuous assessment of class participation and one written assignment

09 年度以降	シネマ英語	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester course we focus on another film from three angles: first of all we study its background next we watch the film itself in the context of its background, and we focus in on key extracts from its screenplay then we broaden our focus once more to examine the film's wider implications In this way we shall not only enjoy rich, meaningful content but also benefit from close attention to language skills. No student presentations required.	1 Introduction & Orientation 2 Backgrounding 1 3 Backgrounding 2 4 Backgrounding 3 5 Film 1 6 Film 2 7 Screenplay Focus 1 8 Screenplay Focus 2 9 Screenplay Focus 3 10 Reading rotation and discussion 1 11 Reading rotation and discussion 2 12 Panning out 1 13 Panning out 2 14 Panning out 3 15 Review & Evaluations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set textbook E-J/J-E dictionary required	Minimum two-thirds attendance required to pass Evaluation based upon continuous assessment of class participation and one written assignment

09 年度以降	シネマ英語	担当者	T．ホサイン

講義目的、講義概要	授業計画
This course explores the complex interplay between film and literature. Selected novels, short stories and plays are analyzed in relation to film versions of the same works in order to gain an understanding of the possibilities—and problems—involved in the transposition to film. The class is designed to show students how film is like a form of literature. By viewing films（classic and modern）, students will learn that good films, like good literature, have certain elements in common. Students will be expected to understand motifs, symbols, metaphors, allusions, plot, theme and other literary elements as they relate to both film and literature. In addition, students will develop an appreciation for the interaction of film elements such as scripting, directing, acting, producing, editing, cinematography, music, lighting, sound, special effects, set design and costuming. Students will learn to recognize such film genres as drama, comedy, western, musical, science fiction, mystery, action/adventure, and animation. Students will use their knowledge of the various elements of cinema to analyze and critique each film studied in class discussions and in compositions. Students will use a variety of writing forms that include note taking, paragraphs, and formal essays.	授業内容 / Contents(15 weeks) 第 1 回 Course Orientation 第 2 回 Read 1984, Part-I 第 3 回 Read 1984, Part-I 第 4 回 Read 1984, Part-I 第 5 回 In-class assessment 第 6 回 Read 1984, Part-II 第 7 回 Read 1984, Part-II 第 8 回 Read 1984, Part-II 第 9 回 Read 1984, Part-II 第 10 回 In-class assessment 第 11 回 Read 1984, Part-III 第 12 回 Read 1984, Part-III 第 13 回 Read 1984, Part-III 第 14 回 Review test 第 15 回 Final Assessment The instructor has the right to amend the schedule.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Orwell, George. *Nineeteen Eighty Four.* NY: Signet Classics	Class Participation = 20 % Composition, Projects, Tests, Quizzes = 30 % Student Notebook = 20 % Semester Final = 30 %

09 年度以降	シネマ英語	担当者	T．ホサイン

講義目的、講義概要	授業計画
This course explores the complex interplay between film and literature. Selected novels, short stories and plays are analyzed in relation to film versions of the same works in order to gain an understanding of the possibilities—and problems—involved in the transposition to film. The class is designed to show students how film is like a form of literature. By viewing films（classic and modern）, students will learn that good films, like good literature, have certain elements in common. Students will be expected to understand motifs, symbols, metaphors, allusions, plot, theme and other literary elements as they relate to both film and literature. In addition, students will develop an appreciation for the interaction of film elements such as scripting, directing, acting, producing, editing, cinematography, music, lighting, sound, special effects, set design and costuming. Students will learn to recognize such film genres as drama, comedy, western, musical, science fiction, mystery, action/adventure, and animation. Students will use their knowledge of the various elements of cinema to analyze and critique each film studied in class discussions and in compositions. Students will use a variety of writing forms that include note taking, paragraphs, and formal essays.	授業内容 / contents(15 weeks) 第 1 回 Course Orientation 第 2 回 Tess-chapter 1-5 第 3 回 Tess-chapter 6-10 第 4 回 Tess-chapter 11-15 第 5 回 Tess-chapter 16-20 第 6 回 Tess-chapter 21-25 第 7 回 Tess-chapter 26-30 第 8 回 In-class assessment &Tess-chapter 31-35 第 9 回 Tess-chapter 36-40 第 10 回 Tess-chapter 11-45 第 11 回 Tess-chapter 46-50 第 12 回 Tess-chapter &Tess-chapter 51-55 第 13 回 Tess-chapter 56-59 第 14 回 Review test 第 15 回 Final Assessment The instructor has the right to amend the syllabus.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thomas Hardy. *Tess*	Class Participation = 20 % Composition, Projects, Tests, Quizzes = 30 % Student Notebook = 20 % Semester Final = 30 %

09 年度以降	シネマ英語	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 公開後 60 年を経ても今尚その輝きを失わない名画、「カサブランカ」。（アカデミー賞受賞）第二次世界大戦のヨーロッパ、モロッコを舞台に繰り広げられる物語をＤＶＤで観賞し、生き生きとしたオーセンテイックな使える英語を学び、発表などを通じて実際に使えるようにしていきます。時代的背景の中で深みのある台詞でつずられていくストーリーを楽しみながら学べると思います。 講義概要： DVD を見てスクリプトをよく理解し、Exercise で確認します。チャプターごとに好きな表現を選び、ペアでスキットを作成し発表して、生きた英語を身につけていきます。	1. Introduction 2. Unit 1.　I'll Die in Casablanca 3. Unit 2.　Where Were You Last Night? 4. Unit 3　Yeah? What's His Name? Afternoon Tea Break 1 5. Unit 4.　Play "As Time Goes By" 6. Unit 5.　Here's Looking at You, Kid. 7. Unit 6.　Kiss Me As If It Were the Last Time Afternoon Tea Break 2 8. Unit 7.　Your Story Had Me a Little Confused 9. Unit 8.　Nobody Ever Loved Me That Much 10. Unit 9.　This Café Is Closed Until Further Notice! Afternoon Tea Break 3 11. Unit 10.　I Wish I Didn't Love You So Much 12. Unit 11.　She Isn't Just Any Woman 13. Unit 12.　We Always Have Paris 14. まとめ(1) 15. まとめ(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ed. by Hiromi Akimoto/Mayumi Hamada. *Casablanca -- Cool and Unforgettable English.* Macmillan Languagehouse, ￥2500　＋税	出席状況、授業への参加度、宿題、発表、エッセイ提出等から総合的に評価します。授業中のプリゼンテーションも重要視しますので、出席は最も重要。

09 年度以降	シネマ英語	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： ３つの有名なアメリカ映画，マーガレット　ミッチェルの「風と共に去りぬ」、　ルイザ　メイ　オルコットの「若草物語」，ライマン　フランク　ボームの「オズの魔法使い」をとうしてアメリカの歴史的、社会的、文化的背景を理解し、アメリカの心を感じとることが出来れば嬉しいと思います。 講義概要： ＤＶＤを観て、練習問題をして内容の理解を確認します。それからその場面場面にちりばめられた多くの英語表現を学び、それらの表現を使い各自スキットを作成して発表することにより実際に使えるようにしていきます。	1. Introduction 2. "Gone With the Wind" Unit 1. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review 3. Unit 2.　Same as Above 4. Unit 3.　" 5. Unit 4. Vocabulary Exercises/Scene 1,2,3/Summary 6. "Little Women" Unit 5. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review 7. Unit 6.　Same as above 8. Unit 7.　" 9. Unit 8 Vocabulary Exercises/Scene 1, 2,3/Summary 10. "The Wizard of Oz" Unit 9. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review 11. Unit 10.　Same as Above 12. Unit 11.　" 13. Unit 12. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/ Summary 13. Performance 14. まとめ　（１） 15. まとめ　（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ed. by M. Ishizuka, M. Kobayashi, M. Maass, M. Nagasaki. *American Spirits in Movies* . Seibido. ¥2400.	春学期に同じ。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	ツーリズム交流論	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ツーリズムによる交流が持つ力は、国際収支改善、雇用促進、地域開発等の経済的側面のみならず社会、文化、教育、環境、国際親善など非常に広範囲な分野に強い影響力を及ぼしていることを学習する。 講義概要 わが国の国家戦略としての観光立国政策を理解し、日本における国際観光の意義、国際観光の歴史的経緯を学びながら、経済的、文化的、社会的側面を考察し、その重要性を認識する。 ことに、日本人の海外旅行者数と訪日外国人旅行者数のアンバランスは重大問題として学習する。訪日外国人旅行者の動向、日本の観光魅力、主要国の国際観光の状況と日本との交流、国際観光マーケティングについても理解を深める。 講義では、流動的な旅行業界や航空業界の動き等々、観光関連報道記事を適宜取り上げたい。	１．講義の概要 ２．国際観光の推移と概況 ３．日本のソフトパワーと観光 ４．ソフトパワーとしての国家の観光魅力 ５．国際観光立国の今日的意義 ６．訪日外国人旅行者誘致の歴史① ７．訪日外国人旅行者誘致の歴史② ８．国際観光と観光マーケティング ９．観光立国推進基本法と実施策（VJC） １０．インバウンド振興と観光政策 １１．日本の海外旅行市場動向① １２．日本の海外旅行市場動向② １３．日本の海外旅行市場動向③ １４．　国際観光の展望 １５．講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。	試験結果に基づいて判断する。

09年度以降	ツーリズム・リスク論	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
W・ディズニー映画「カリブの海賊」を手掛かりに、世界の危険な海を舞台に、航海のリスクを抱えつつ、歴史に登場した海賊の正体に迫ります。 授業の前半でディズニー映画、もしくはアメリカ CNN やイギリス BBC の国際ニュースを取り上げます。国際ニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。また観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目して、観光、宿泊、航空産業の世界的な動向もつかみます。エアライン時刻表や海外旅行パンフレットも読み解きます。 授業の後半はツーリズム・リスクに関連したトピックを取り上げます。この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊に光をあてます。１６～１８世紀の海賊に焦点をあて、なぜリスクを冒してまで世界中を移動したのか――その謎を解きます。	１　オリエンテーション ２　ディズニー映画「カリブの海賊」解説 ３　ディズニー映画「カリブの海賊」解説 ４　ディズニー映画の解説、海賊の用語解説 ５　海賊ドレークの世界一周 ６　海洋覇権のゆくえ――海賊の役割 ７　海洋覇権のゆくえ――海賊の役割 ８　まとめ ９　スパイス争奪戦――海賊の「東インド会社」 １０　スパイス争奪戦――海賊ビジネス １１　コーヒーから「午後の紅茶」へ １２　砂糖生産――海賊の「密輸」ビジネス １３　国名・カレンダー(暦)・宗教勢力―用語解説 １４　ディズニー映画「カリブの海賊」解説 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）	評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の３点セットです。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	ツーリズム文化論	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を、観光人類学見地より考察し、観光の多様性を理解する。 講義概要 観光を、疑似イベント、イメージ、メディアの視点から考察し、観光現象を多面的に理解する。 併せて、貧困ツーリズム、戦場ツーリズムに見る観光形態の多様性や、バリ島の観光開発の光と影に触れ、文化の変容についても考える。又、ディズニーランドを模型文化としての視点より考察し観光現象の多様性を学ぶ。 近年若者の海外旅行離れが懸念されているが、その現象を観光メディアの視点から考えてみたい。 又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化、観光関連業界の報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にしたい。	１・講義概要 ２・文化への新しいアプローチとしての観光 ３・観光の誕生・疑似イベントとしての観光 ４・メディアと観光・イメージの形成とメディア ５・バリ島観光開発の植民地政策と文化の流れ ６・楽園バリ島誕生の形成と文化の流れ ７・観光文化のグローカル化と商品化 ８・文化観光と観光行動（疑似体験としての観光旅行） ９・疑似体験としての貧困・戦場ツーリズム １０・文化の商品化と観光文化・観光芸術 １１・模型文化とディズニーランド １２・ディズニー化とマクドナルド化 １３・観光メディアと旅行市場形成 １４．観光メディアと海外旅行 １５．講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『観光文化学』（山下晋司編）新曜社 その他は適宜指示する。	試験結果に基づいて評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	ツーリズム・メディア論	担当者	高橋　利男

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、「ツーリズム」と「メディア」の新しい動向について学習するとともに、「両者の係わり方」について考察することです。 講義内容としては、新聞・業界紙等のメディアを通して、旅行業及び航空・宿泊等の関連産業について、企業の広報・広告、メディア販売、消費者（旅行者）ニーズ、地域活性化等の様々な視点から、事例研究します。 地域観光推進の事例、及び、海外旅行、国内旅行、訪日旅行、新しいツーリズムの各分野等にわたる事例を幅広く取り上げます。また、代表的な世界遺産についても学習します。 「グループ討議」、「テーマレポート」及び「プレゼン発表」を実践することにより、ツーリズム産業を展望するにあたり必要な様々な基礎知識を習得するとともに、課題考察力を養うことを主眼としています。	1．講義の概要 2．多様化するメディア(1) 3．多様化するメディア(2) 4．ツーリズムの新たな動向(1) 5．ツーリズムの新たな動向(2) 6．進化するマーケティング(1) 7．進化するマーケティング(2) 8．観光誘致策(1) 9．観光誘致策(2) 10. メディア販売(1) 11. メディア販売(2) 12. 企業広報(1) 13. 企業広報(2) 14. 旅行業法の枠組み 15. 世界遺産セレクト 10 （日次の順序は前後します）

テキスト、参考文献	評価方法
新聞・業界紙等の記事コピー等	評価方法：期末定期試験（約 50%）＋平常授業における課題レポート等（約 50%）＝100 点満点

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09 年度以降	ツーリズム・マネジメント論	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ツーリズム政策論を国レベルの視点で捉え、ツーリズム・マネジメント論では産業レベルでの取り組みや政策を捉える。景観や地域の破壊に繋がる近視眼的な商業主義、大量生産・大量消費型のツーリズムから脱し、自然や景観、地域を守ることも視野に入れたツーリズム・マネジメントのあるべき姿を考察する。 講義概要 ・景観、地域環境、自然の破壊に繋がる儲け第一主義のツーリズム運営のあり方を検証し、景観や自然と共に発展するツーリズム産業のあり方を考える。 ・インターネットの普及の下での旅行会社離れ、若者の旅離れの実体を通してツーリズム産業の今、これからを探求する。 ・「和」、日本人の感性が生み出すツーリズムの形、「着地型観光」、体験型の観光に目をむけ、これからのツーリズム・マネジメントを考える。 （＊）ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。	１．ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ；講義内容、進め方、成績評価について ２．観光産業の構造と観光の要素 ３．観光の経済波及効果 ４．観光産業の規模と観光収支 ５．縮小する旅行業の課題 ６．宿泊産業；衰退する日本旅館のマネジメント ７．ディスカッション；「和 - 日本旅館を救済する」 ８．航空産業とツーリズム ９．ホスピタリティとツーリズム １０．ツーリズム・マネジメントから見える日本の課題 １１．着地型観光；マスツーリズムからの脱却 １２．自然保護とツーリズム（1）；エコツーリズム １３．自然保護とツーリズム（2）；景観法、テーマパーク １４．ツーリズム･マネジメント；既成を超える １５．講義全体のまとめ、夫々の到達点 （＊）専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。　事前に通知する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：レジュメを配布する 参考文献：横山秀司『観光のための環境景観学』（古今書院）、尾家建生他『着地型観光』（学芸出版）、その他授業の中で紹介する	期末試験（７０％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	国際会議・イベント事業論	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。 講義概要 国際会議、博覧会やイベントとは何か、その歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。 講義では、国際会議、博覧会、イベントを中心に観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。 履修希望者は２０１２年度ＪＡＴＡ旅博 （９月２１日～２３日）を必ず見学しておいて下さい	１．講義概要 ２．イベント・コンベンションの発生と発展 ３．イベント・コンベンションとは① ４．イベント・コンベンションとは② ５．世界と日本のイベント・コンベンション動向 ６．イベント・コンベンションの仕組みと実務① ７．イベント・コンベンションの仕組みと実務② ８．イベント・コンベンション産業① ９．イベント・コンベンション産業② １０．イベント・コンベンションの施設と付帯設備 １１．コンベンション・ビューローの役割と機能 １２．イベント・コンベンションの推進機関 １３．イベント・コンベンションの課題と展望① １４．イベント・コンベンションの課題と展望② １５．講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『イベント＆コンベンション概論』（ＪＴＢ能力開発）その他は適宜指示する。	試験結果に基づいて判断する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	ツーリズム政策論	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ツーリズムの持つ、社会（地域、国、世界）や政治、経済との係り、これまでの“お上”主導のツーリズム政策の問題を検証し、“観光立国”のあるべき姿、方向を考察する。 講義概要 ・明治期、不平等条約改正の一助として用いられたインバウンド・ツーリズム政策、貿易収支のバランス材だったツーリズム、地域や景観破壊に結びつくツーリズムの商業的側面を検証しながら、ツーリズムのあり方を政策の観点から点検する。 ・日本人の豊かな感性、自然観に根差したツーリズムの姿を探求する。 ・以上の文脈の中で「若者の旅離れ」や観光立国推進基本政策など現代的課題について考察する。 （＊）ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。	１．ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ；講義内容、進め方、成績評価について ２．ツーリズム政策の位置づけ ３．日本の観光政策の史的考察 ４．観光の経済力、規模、影響力 ５．アウトバウンド･ツーリズム政策 ６．インバウンド･ツーリズム政策の検証、国際比較 ７．「若者の旅離れ」とツーリズム政策 ８．ディスカッション；「若者の旅離れ」 ９．貿易立国から観光立国へ １０．「観光立国」を考える １１．ツーリズム政策の課題（１）；ツーリズム行政 １２．ツーリズム政策の課題（２）；景観を守る １３．エコロジーを考える １４．ツーリズム政策論 １５．講義全体のまとめ、夫々の到達点 （＊）専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。　事前に通知する。

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：レジュメを配布する 参考文献：鈴木茂他『観光立国と地域観光政策』（晃洋書房）、川村晃生他『崩れゆく景観』（慶応大学出版）、その他授業の中で紹介する。	期末試験（７０％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。

09年度以降	旅行・宿泊産業論	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。 講義概要 旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。 旅行業の発展経緯と機能役割、商品形態等について重点的に触れ、又、ＩＴ時代における旅行ビジネスの今日的課題及び将来像についても考察する。 宿泊産業では、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホテル業のサービスの実態についても学習する。 講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。	１．講義の概要・旅行市場の現状 ２．旅行業の機能・役割 ３．旅行業の歩み① ４．旅行業の歩み② ５．旅行業の商品と形態 ６．旅行業法と消費者保護 ７．旅行業界の現状と課題 ８．旅行業の今後 ９．ホテル業とは・ホテル業の分類 １０．欧米におけるホテル業の歴史 １１．日本におけるホテル業の歴史 １２．ホテル業の動向 １３．ホテルの組織と経営特性 １４．ホテル業界のホスピタリティー １５．ホテル業の今後・講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。	試験結果に基づいて判断する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09 年度以降	航空産業論	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 人やモノ、文化の移動、交流を担う航空産業における世界的な規制緩和の潮流を検証しながら、日本の空、アジアの空のこれからを考察する。又、航空を通して見えるホスピタリティ、国籍を超える人間活動、地球環境への取り組みを広い視野から考える。 講義概要 ・ 経済のグローバル、ボーダレス化を支え、牽引する航空産業の構造を検証し、これからの空の仕組み、動向を考える基礎を学ぶ。 ・ 米のオープンスカイ戦略、ＥＵの単一航空市場を検証し、規制緩和の世界的な動きを捉える。 ・ 国籍規制の壁を超えるグローバル・アライアンスの動向、戦略を学ぶ。 ・ 航空のサービスを通して見えてくるホスピタリティを捉え、これからのサービスのあり方、対抗するＬＣＣの低運賃、その先を考察する。	１．ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ；講義内容、進め方、成績評価について ２．日本の空で起きていること、航空産業の枠組み ３．民間航空の史的考察と、シカゴ・バミューダ体制 ４．米のオープンスカイ戦略とＬＣＣ，ＣＲＳ、Ｈ＆Ｓ ５．ＥＵの戦略；単一航空市場、“Community Air Carrier” ６．ディスカッション；「LCC と Legacy Carrier の今後」 ７．グローバル・アライアンス（１）誕生の背景、動向 ８．グローバル・アライアンス（２）増収、世界戦略 ９．日本の航空のこれから １０．航空のサービスとホスピタリティ １１．ホスピタリティｖｓ ＬＣＣの低運賃 １２．航空と観光 １３．航空とＣＳＲ，地球環境 １４．北東アジア共通航空市場を考える １５．講義全体のまとめ、夫々の到達点 ＊ 専門家の講話も検討する ＊ 上記関連で、講義の順番など事前に通知の上、一部変更することがある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：ＡＮＡ総研『航空産業入門』（東洋経済新報） 参考文献：伊藤元重他『日本の空を問う』（日経出版社）、山路顕『日本から発信するホスピタリティ』（ていくおふ）、ＡＮＡ総研『ｴｱｰﾗｲﾝ・ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ入門』（ぎょうせい）他	期末試験（７０％）に、出席状況、授業でのコメント･シートの内容、発表他授業への参画姿勢など総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09年度以降	サステイナブル・ツーリズム論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サスティナブル・ツーリズム論」の講義を行います。 近年、成長の持続化の追求から、持続可能な社会を形成しようとするパラダイムシフトの兆しがみられます。環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。 本講義は、「サスティナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローカルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えていきます。 なお、サスティナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサスティナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。	１．講義の概要 ２．マスツーリズムとサスティナブル・ツーリズム ３．開発と持続可能性概念 ４．開発と持続可能性概念（続き） ５．地球環境問題 ６．自然・環境思想（国立公園・ﾅｼｮﾅﾙﾄﾗｽﾄ・世界遺産） ７．エコツーリズム（歴史と概説） ８．エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例） ９．エコミュージアム（歴史と概説） １０．LOHAS（ロハス）と観光 １１．欧米のグリーンツーリズム １２．日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開） １３．グリーンツーリズムの二面性と矛盾 １４．アクセシブル観光（ユニバーサル交流） １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。	期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	オルタナティブ・ツーリズム論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。 オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。 なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。	1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 4. 場所性の商品化―アマンリゾーツの戦略 5. 環境主義の商品化―エコリゾート 6. 世界遺産と観光 1―ラオス・ルアンパバンの事例 7. 世界遺産と観光 2―中国・麗江の事例 8. ビデオ上映（バックパッカーの窮状） 9. 先住民と観光―北米イヌイットの事例 10. 先住民と開発―開発的遭遇 11. 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光―高知県四万十川流域を事例として 15. ダーク・ツーリズムの現状と可能性―西アフリカの事例から (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)

テキスト、参考文献	評価方法
特に指定しない。	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09年度以降	ツーリズム人類学	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする際の方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。 本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。	1. 趣旨説明 2. グローバリゼーションの民族誌1 3. グローバリゼーションの民族誌2 4. 観光の誕生 5. ビデオ上映 6. 表象の政治学―情報資本主義と観光 7. メディアと観光―「楽園」ハワイの文化史 8. 植民地主義と観光―「神々の島」バリの誕生 9. 文化装置としてのホテル 10. 世界遺産の窮状―カンボジアの事例 11. セックス・ツーリズム―タイの事例 12. 少数民族と観光―タイの事例 13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」 14. 他者との協働を目指して：北海道アイヌ観光の現在 15. まとめ・予備日 (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。	授業毎の小レポート(50%)、期末テスト(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	ツーリズム地誌論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における 1 泊 3 日の研修旅行を通じて、世界各地のツーリズムに関連する幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指す。 リトルワールドには、22 カ国、33 の地域・民族の家屋や生活道具が移築・復元されている。受講者は、複数のグループに分かれ、そのなかから 1 つの地域・民族を選び、それぞれの地域や民族の文化や習慣について、事前に資料収集を行なう。そして、こうした文献調査を踏まえた上で、研修旅行では、各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらう。さらに、これらの文献調査・研修旅行の成果を踏まえた上で、学期末に報告書を作成する。 本講義は、リトルワールドにおける実習を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となる。またグループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備に積極的に参加できる者のみ履修を認める。なお，初回授業時にグループ分け等を行なうので、必ず出席すること。	1. 趣旨説明・グループ分け 2. 講義(2 回) 文化の収集と展示の歴史、芸術―文化システム論など異文化展示・博物館論に関する基礎的な概念についての紹介。 3. 発表・議論（3〜4 回） 各グループによる、発表計画・中間報告。 4. 研修旅行 11 月 17 日(土)、18 日(日)に実施予定（出発は 16 日(金)の夜行バス）であるが、詳細は初回の授業で説明する。費用は往路夜行バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで 2.5 万円程度（飲食費は除く）。 5. 発表・議論（6 回） 文献資料・博物館での実習を踏まえた、成果報告についての発表。

テキスト、参考文献	評価方法
山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣	研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえ、総合的に評価する。 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	市民参加のまちづくり論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。 まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょうか。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのＮＧＯ活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。 教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。	１．講義の概要 ２．地域とは何か、発展とは何か ３．住民参加の意義と多義性 ４．事例研究：参加型開発　※教室内ワークショップ ５．組織・制度化、学習プロセス：山形県の事例 ６．地域づくりにおけるキーパーソン：兵庫県の事例 ７．共益から公益の創出へ：NY と東京の事例 ８．ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』 ９．地域づくりとまなざしの多様性：島根県の事例 １０．開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 援助の事例 １１．ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』 １２．ソーシャル・キャピタル １３．(予定)つながりと居場所の構築：大阪の事例 １４．まとめ：まちづくりは人づくり １５．試験対策

テキスト、参考文献	評価方法
（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO 等で各自購入してください	期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。

09 年度以降	フィールドワーク論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
「江戸＝東京＝Tokyo」をテーマに、フィールドワークと呼ばれる学問的営みを、実践的に身につけることを目的としている。人類学者・社会学者・地理学者・建築学者などによって書かれたテクストを参考にして、実際に東京の街を歩き、東京という都市の成り立ちや人々の営みなどについて「解読」を行なう。 受講者は複数のグループに分かれ、担当教員が指定した5~6 つのコースを 1~2 つ選択し、5 月から 6 月の週末に一緒に歩いてもらう（実費負担）。そして町歩きの成果について、各々のコースに関連する文献資料の収集・議論を踏まえた上で、学期末にグループ発表を行なう。 本講義は、グループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備・街歩きの実習に積極的に参加できる者のみ履修を認める。 なお、初回授業時にグループ分け等を行なうので、必ず出席すること。	1. 趣旨説明・グループ分け 2. 各町歩きコースに関する講義・解説（5~6 回） (1) 山の手と下町 ・城北地区（本郷、上野、浅草） ・城南地区（赤坂、六本木） (2) ウォーターフロント ・深川、佃、月島 (3) 「おばあちゃんの原宿」 ・巣鴨 (4) 繁華街の過去・現在・未来 ・渋谷 (5) エスニック・タウン ・新宿、新大久保 (6) ジブリ映画の舞台ニュータウン ・多摩ニュータウン 3. 各グループの発表・議論(5〜6 回)
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。随時、プリントや文献リストを配布する。	授業での発表・議論への参加度・フィールド実習でのパフォーマンス（50%）、学期末レポート（50%）。 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09年度以降	インターンシップ	担当者	遠藤　充信 山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 在学中に自らの専攻、将来のキャリア形成に関連した就業体験を行うことで、働くことの意義や、実社会の現状の理解と自己の職業への適応力等を学習し、併せて、その経験を踏まえて自己の人生（キャリア）をどのように形成していくかを考える。 講義概要 この講義は、事前学習としての１０回の講義と、夏休みに行う実習、９月に実施する５回（２日～３日）の事後学習としての報告会から構成されている。 事前学習は、インターンシップの意義と目的を理解し、効果的に実習が受けられるようにする。 社会人としての常識、企業で仕事をすることの意義や遵守すべき事項等の一般論と、ツーリズム産業を構成する各業界の現状と業務内容や課題と将来像に関する講義を行う。 報告会では、実施報告書、日誌に基づき、実習で得た様々な体験とそこから学んだことに関する発表と議論を行う。 報告会で得た各々の情報を全員が共有することにより各人のキャリア形成に役立てるようにする。	１．講義の概要 ２．インターンシップの実際 ３．ツーリズム産業で働くということ ４．企業としての旅行業界 ５．企業としての宿泊業界 ６．企業としての航空業界 ７．企業としてのエコツーリズム業界 ８．公的機関としての政府観光局業務 ９．インターンシップ実習前の心得① １０．インターンシップ実習前の心得② インターンシップ実習・国内・海外 （夏季休暇の２～４週間） １１．報告会 １２．報告会 １３．報告会 １４．報告会 １５．報告会とまとめ ※４回～８回の講義は各業界の方々が担当します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。	講義への参加度、実施報告書、日誌、発表会内容等を総合的に判断する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	トランスナショナル文化論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] グローバルな文化編成を理解し、地球が抱えるさまざまなイシュ―に対し批判的、創造的、実践的な介入を目指すため、文化が国境を越えて、トランスナショナルに交流し、また、変容していくさまを、民族、ジェンダー、文化的アイデンティティの構築のプロセスとして分析する。 [講義概要] 社会学、人類学、文化研究、ポストコロニアル研究などの知見をふまえ、学際的、複眼的なアプローチをおこなう。テキストはあくまでも出発点であり、毎回の授業では、現代の地球社会が直面している多様な問題を紹介しながら、文化のトランスナショナルな側面を考えていく。	１　イントロダクション ２　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 ３　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 ４　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 ５　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 ６　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 ７　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 ８　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 ９　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 １０　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 １１　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 １２　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 １３　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 １４　毎回のキーワードを中心に授業を展開する。 １５　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
Steven Vertovec,　*Transnationalism* , Routleddge , 2009. 映画『シリアの花嫁』	授業で提出する課題と学期末の課題による。

09 年度以降	トランスナショナル・メディア論	担当者	横村　出

講義目的、講義概要	授業計画
メディアの個性が際立つのは、戦争や騒乱、クーデターといった世界を揺るがす現場である。そうした事象を世界のメディアはいかに伝えているのか。国際報道を現場の視点から読み解くことで、メディアによってつくられる印象が多岐にわたることを実感してもらいたい。 また、世界の主要グローバルメディアとローカルメディアとの報道にはなぜ隔たりが生じるのか。メディアやジャーナリストは、どのような立場から、誰に向けて情報を発信するのか。それによって事実がどのように伝えられ、国際政治にどのような影響を受を与えるのか、といった点についても解説する。 講義では、２００１年の米同時多発テロ以降の戦争や政変を教材とする。まずロシア南部でのチェチェン戦争を取り上げ、欧米の主要メディアとロシア国内メディアの報道の違いに注目。その裏にある大国の政治的思惑やメディア規制が戦争報道に与える影響を具体的に検証したい。アフガン戦争、イラク戦争などについても言及しながら、国際世論を左右するグローバルメディアの功罪について理解を深めてもらいたい。 講師は元朝日新聞のモスクワ・アフリカ特派員で、現フリージャーナリスト。講師自身が直接取材した国際報道の現場を取り上げる。質疑応答など積極的参加を希望する。	1. オリエンテーション－国際メディアと戦争報道 2. チェチェン戦争にみる主要メディアの報道 3. チェチェン戦争とメディア規制 4. 政府とメディアの関係 5. テロリズムの時代のメディア 6. 政変で果たすメディアの役割－グルジアとウクライナ 7. 独裁政権とメディアは共存可能か－中央アジア 8. 米同時多発テロと国際報道の変容 9. アフガニスタン戦争は世界にどう伝えられたか 10. イラク戦争と米メディア 11. 国益と国際報道－中東パレスチナ情勢 12. アフリカを「暗黒」にする画一報道 13. インターネットが介在する新たな紛争 14. 日本のメディアは戦争をどう伝えているか 15. ジャーナリストとメディアの役割
テキスト、参考文献	**評価方法**
横村出著『チェチェンの呪縛–紛争の淵源を読み解く』（岩波書店、2005 年）	期末試験と授業内レポート、出席・質疑応答などの実績で総合評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09年度以降	メディア・ライティング論	担当者	横村　出

講義目的、講義概要	授業計画
メディアの記事の特質は、より多くの事実を、より正確に、より多くの人に伝えることである。そのためには、深い取材、情報の真偽の峻別、さらに実践に裏打ちされた確かな文章力が必要である。 文章の難しさは、単に経験や訓練を積めば上達するものではないということだ。書くことの根底には、個人としての確たる「ものの見方」が不可欠である。そこには、書き手の全人格が投影されると言っていい。いかなる力にも影響されない独立心はあるか、その心は外へ向かって開かれているか、バランス感覚を失っていないか。これらの心構えを理解し、書くための基礎的な力をつけてもらう。 新聞業界の現状についても言及する。新聞が紙からデジタル化されても、文字情報の重要性は変わらない。刻々と発信される記事の事実と背景を読み解き、正しく把握するための力を養ってほしい。 講義では、文章力を高めるために実践的に参加をしてもらう。各人がルポルタージュのテーマを決めて意欲的に取材し、授業で発表してもらいたい。独創的なものの見方を文章で表現し、より広く伝えることの喜びを分かち合いたいと思う。 受講にあたって新聞は日々必読。将来、メディアや広報分野での仕事を選択肢に入れる学生の参加を希望します。	1. オリエンテーション 2. 新聞報道の歴史と変遷 3. ジャーナリズムと「ものの見方」 4. ジャーナリスト列伝 5. 新聞記事（１）構成と執筆手法概論 6. 新聞記事（２）取材とインタビュー法 7. 新聞記事（３）事実と真実の表現法 8. 新聞記事（４）論説・社説とは 9. 新聞記事（５）編集のプロセス 10. 新聞記事（６）国際取材の方法 11. ルポルタージュ（１）題材 12. ルポルタージュ（２）取材 13. ルポルタージュ（３）発表 14. ルポルタージュ（４）評価 15. メディアの未来を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
すぐれたルポルタージュ作品などを随時推薦する。	課題ルポルタージュなどの成果（７０％）と出席・質疑応答など授業中の実績（３０％）で評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09 年度以降	表象文化論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 表象(representation)と文化の関係を、「他者の展示」という文脈から考察する。 [講義概要] テクストには、カルチュラル・スタディーズの主要な論客である Stuart Hall が、イギリスの Open University のために編纂した、*Representation: Cultural Representations and Signifying Practices* (London:Sage, 1997)から抜粋(pp.153-222)を用いる。 テクストは図書館の指定図書になっているので、各自でコピーすることもできる。そうでない場合は、アマゾン等で購入すること。	1-2 (2.2 What is a museum?) 初回、2 回目では教科書の 155~160 ページを扱う。章末の READING A も必ず読んでおくこと。履修登録が済んでいない学生でも、この部分の予習をしていなければ、次回以降の授業への参加は認めない。（単位は認定されない。） 3-4 教科書の 160~167 ページ 5-9 教科書の 168~184 ページ 10-14 表象とパフォーマンスの関係を、他のテクストも参照しながらディスカッションしていく。 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
上記のほかは、授業中に指示する。	授業中のディスカッション、発表、期末の課題。

09 年度以降	開発文化論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
グローバルとローカルなものの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の１つです。 近年、alternative（もう１つの）という言葉を時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう１つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。 この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。 開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、ＮＧＯや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。 （参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、Ｊ.フリードマン『市民・政府・ＮＧＯ』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバーグホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』	１．講義の概要 ２．豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か ３．近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） ４．貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 ５．教育・学び・文化 ６．ジェンダーとフェミニズム ７．宗教と社会開発 NGO ８．ローカルメディアとアイデンティティ戦略 ９．開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO 等で各自購入してください （参考文献）上欄を参照。	期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	トランスナショナル社会学	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の実際を知ること、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の３点です。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。 関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。	１．講義の概要 ２．社会学とはどのような学問か ３．国家と社会との関係、トランスナショナリズムとは ４．国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア ５．国境・国民概念②：知られざる漂泊民サンカの末路 ６．グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム ７．グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 ８．グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 ９．国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 １０．国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 １１．中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） １２．アイデンティティについて １３．民際協力としての自治体国際協力 １４．講義全体のまとめ １５．試験対策

テキスト、参考文献	評価方法
テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリズ鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社	期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。

09年度以降	食の文化論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。 一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみあることもあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。 このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。	１．講義の概要 ２．食の文化を見る眼：文化とは何か ３．食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） ４．私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに ５．遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） ６．マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 ７．ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み ８．食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える ９．食育と学校 １０．コーヒーのグローバルヒストリー １１．フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 １２．イタリアのスローフード、米国のシビック・アグリカルチャー、日本の地産地消 １３．地球社会と「食」：食料廃棄物、食糧援助 １４．食の「再ローカル化」（re-localization） ※ビデオ『未来の食卓』（予定） １５．講義のまとめ、試験対策
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。	期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
『イギリスの現在』 「エリア・スタディーズ」の目的とは、ある地域の、ある時代について、歴史、政治、社会、文学など、多角的な視点と学際的な手法によって理解を深めることである。 今年度春学期は「イギリスの現在」に焦点をあてる。フィッシュ・アンド・チップスと『ハリー・ポッター』の国イギリスというイメージは、富士山、桜、スシという日本のイメージと同じくらい紋切り型で、観光誘致ポスターのイメージに過ぎない。国際金融都市ロンドンを首都とし、オリンピック開催を目前に控えたイギリスは、世界に対し次々と新しい文化や情報を発信する創造的エネルギーにあふれ、またそれにともなう問題点を多く抱え込んだ先進国の一つである。 この「イギリスの現在」について、3 人の教師が講義をする。ジェンダーやセックスの問題、多民族と多文化の共存、クリエイティブ・インダストリーと政治の関係といった視点から講義を行う。 現代のイギリスが抱える新しい問題は、古い伝統や長い歴史と無関係ではない。イギリスの現在について理解を深めながら、それらの問題を歴史的なパースペクティブの中でとらえることが本講義の目的である。	1. イントロダクション（前沢） 2. 1948~ Has London Been a Place for Me?（上野） 3. 70s&80s Black & British（上野） 4. 400years (1562/ 1808/ 2008)（上野） 5. Mixed Britannia (1)（上野） 6. Mixed Britannia (2)（上野） 7. *Macbeth* : Pre-performance lecture（前沢） 8. 母を探して——映画 *Secrets and Lies* より（片山） 9. 妊娠中絶の物語——映画 *Vera Drake* より（片山） 10. 男たちの問題——映画 *Full Monty* より（片山） 11. Diana の死とセレブリティの時代（前沢） 12. Cool Britannia と商品としての文化（前沢） 13. City の現在（前沢） 14. Diamond Jubilee と Olympic（前沢） 15. まとめ（前沢） 注意事項(1)：2011 年度に『英語圏のエリア・スタディーズ **b**』の単位を取得した人は受講できません。 注意事項(2)：5 月 30 日は外国語学部主催で *Macbeth* の上演が予定されている。当日、この授業で上演前の講義を行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストとして授業中にハンドアウトを配布する。 参考書は授業中に適宜紹介する。	毎回の授業でのコメント：25% 定期試験成績：75%

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
『アメリカの現在』 秋学期は「アメリカの現在」に焦点をあてる。その世界覇権に陰りが出ているとはいえ、アメリカ合衆国は最も影響力の大きな国家であり、現在のアメリカ合衆国の問題を考えることは、グローバルな視点で現在の世界について考えることにつながる。アメリカ合衆国の現在について理解を深めながら、今日の世界についての問題意識を新たにすることが本講義の目的である。 5 人の講師が、それぞれ異なった視点から、今日のアメリカが抱える問題や現状を講義する。多様性と自由を認めてきた多民族国家アメリカは、宗教、政治、外交、経済、文化、社会など、いずれの分野においても、今日、複雑な問題を抱え込んでいる。価値観の多様性の問題、ユダヤ人、アメリカ先住民など民族の問題が今日のアメリカの社会・政治・外交・経済にどのように関わっているのか、また常に変化する多様な文化が共存する状況の問題点とは何かといった視点から講義を行う。	1. アメリカの中絶論争 1—産むか産まないかの葛藤(片山) 2. アメリカの中絶論争 2—果てしない対立（片山） 3. レオ・フランクのリンチ殺人事件（佐藤） 4. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ主義（佐藤） 5. 閉ざされた象牙の塔（佐藤） 6. 公民権闘争期におけるユダヤ教会堂爆破事件（佐藤） 7. *King Lear*: Pre-performance lecture（前沢） 8. Native American って誰？（原） 9. Walt Whitman って誰？（原） 10. Modernism って何？（原） 11. Counterculture って何？（原） 12. 崩壊する「アメリカの夢」(1)（島田） 13. 崩壊する「アメリカの夢」(2)（島田） 14. シビック・アグリカルチャー(1)（北野） 15. シビック・アグリカルチャー(2)（北野） 注意事項(1)：2011 年度に『英語圏のエリア・スタディーズ **a**』の単位を取得した人は受講できません。 注意事項(2)：11 月 7 日は外国語学部主催で *King Lear* の上演が予定されている。当日、この授業で上演前の講義を行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストとして授業中にハンドアウトを配布する。ただし第 3～6 回の佐藤先生担当分については、集英社新書『アメリカのユダヤ人迫害史』(680 円)を必ず持参すること。ハンドアウトは配布しない。参考書は授業中に適宜紹介する。	毎回の授業でのコメント：25% 定期試験成績：75%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの美術 Ⅱ）	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 17 世紀から 19 世紀末までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテクストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。 講義概要： 毎回一人の作家を中心に取り上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1. イントロダクション 2. プッサン 3. ブーシェ 4. シャルダン 5. ダヴィッド 6. アングル 7. ドラクロワ 8. ミレー 9. マネ 10. 印象派-1 11. 印象派-2 12. セザンヌ 13. スーラ 14. ゴーギャン 15. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて授業中に指示します。	コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末試験

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語概論 a）	担当者	柿沼　義孝

講義目的、講義概要	授業計画
この講義はドイツ語を始めて学習する皆さんが、あるいはこれまで学習してきた皆さんが、文法の授業とは違った視点からドイツ語を観察し、体験してもらおうとするものです。 子供は言語を学ぶとき、文字や文法から学ぶのではありません。そうではなく、まず音を聞いて、それを繰り返すことで学んでいきます。もともと言語は、音を通して互いに意思を伝達することからはじまったのです。 そこで、春学期は、主としてドイツ語の音（音韻）とその発音（音声）に重点を置いて、日本語や英語、フランス語などと比べながら、その音の違いや特徴、ヨーロッパ言語の言語の歴史的関係などを概観しながら、ドイツ語そのものを改めて見つめてみようとするものです。 皆さんには積極的に発音をしてもらい、互いに発音を聞き合いながら、そして意見交換をしながら、講義を進めていこうと考えています。皆さんの積極的に参加をする授業をしたいと考えています。	１．　ドイツ語の世界 ２．　ドイツ語の発音（イントネーション） ３．　ドイツ語の発音（アクセント） ４．　ドイツ語の音と文字（母音） ５．　ドイツ語の音と文字（母音） ６．　ドイツ語の音と文字（子音） ７．　ドイツ語の音と文字（子音） ８．　ドイツ語の発音（日本語とドイツ語） ９．　ドイツ語の発音（英語とドイツ語） １０．ヨーロッパの中のドイツ語 １１．ラテン語、フランス語とドイツ語 １２．英語、オランダ語とドイツ語 １３．ルターのドイツ語 １４．ドイツ語の歴史概観 １５．復習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
1.　I. Albrecht, U. Hirschfeld, Y. Kakinuma: *Deutsche Phonetik für japanische Studenten*　（獨協大学外国語教育研究所） 2.　ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』（朝日出版社）　他	毎回の質問シートなどの提出と確認テストおよび総合テストによる。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語概論 b）	担当者	柿沼　義孝

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は少し専門的にドイツ語を見ていくことにしましょう。ドイツ語という言語の歴史的流れ、ドイツ語を勉強していて、わからない事柄に出会ったとき、疑問がわいたときに、これを自分で解決するにはどうしたらよいでしょうか。 その手段には何があるのか。ドイツには方言がたくさんあるというが、それはなぜか、またどのように分布しているのか。ドイツ語を言語学的に研究する方法は、また何が研究対象となりうるのか。また、日本語との違いはどんな点に見られるのか。 このように、ドイツ語をめぐる疑問、不思議はいろいろな分野に及んでいます。この学期では皆さんから積極的に疑問や質問を提示していただいて、皆でこれを考えながら、ドイツ語にもっと近づいていきたいと考えています。 どうぞ積極的な参加をお願いします。楽しい講義にしましょう。	１．　ドイツ語とはどういう言語か。 ２．　ドイツ語の文字の成立と発展 ３．　疑問に答える（１）辞書について ４．　疑問に答える（２）文法について ５．　標準ドイツ語の成立と正書法 ６．　ドイツ語の標準発音と方言 ７．　ドイツ語の標準発音と方言 ８．　外国語とドイツ語 ９．　ドイツ語の地名 １０．ドイツ語の人名 １１．探求するこころ（１）ドイツ語の調査・研究 １２．探求するこころ（２）ドイツ語の調査・研究 １３．日本語とドイツ語の言語表現 １４．日本語とドイツ語の言語表現 １５．復習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
１．ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』（朝日出版社） ２．風間喜代蔵『言語学の誕生』（岩波書店）	毎回の質問シートなどの提出と確認テストおよび総合テストによる。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの音楽 Ⅰ）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
フランスを中心に、その周辺国も視野に入れながら、西洋音楽史を辿り、時代によって音楽表現がどのように変化してきたかを見ていきます。時代の制約の中から出てきた表現のどこに永続的な価値を見つけられるか、作品を味わいながら感じ考えていき、現代を見つめる手立てにすることが講義の目的です。 春期はバロック時代（17～18世紀半ば）の宗教作品からはじめます。キリスト教の精神がここでどのように音楽作品に反映されているかを見る一方で、世俗音楽の代表であるオペラの発展も見ていきます。さらに次の古典派の器楽も扱います。 音・楽譜・映像を活用しながら進めますが、授業で紹介した作品については学生もみずから積極的に聴くように心がけてください。	1. ガイダンス 2. フランス・バロックの宗教音楽 3. バロックのオラトリオとヘンデルのオラトリオ 4. バッハの教会カンタータ 5. ミサ曲 6. バロック以降のミサ曲：モーツァルトなど。 7. フランスのオペラ改革（ブフォン論争） 8. モーツァルトのオペラ 1 9. モーツァルトのオペラ 2 10. 前古典派 11. 古典派の理念と形式 12. 18 世紀後半のフランス音楽 13. ハイドンの器楽 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント。 参考文献は授業時に紹介。	出席（10%）と、2 回の試験の平均（90%）による（各試験実施の時点で 1/3 以上欠席の学生には受験を認めない）。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの音楽 Ⅱ）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
フランスを中心に、その周辺国も視野に入れながら、西洋音楽史を辿り、時代によって音楽表現がどのように変化してきたかを見ていきます。時代の制約の中から出てきた表現のどこに永続的な価値を見つけられるか、作品を味わいながら感じ考えていき、現代を見つめる手立てにすることが講義の目的です。 秋期は、モーツァルト、ベートーヴェンの器楽から入り、19 世紀のロマン派の表現を見ていきます。 音・楽譜・映像を活用しながら進めますが、授業で紹介した作品については学生もみずから積極的に聴くように心がけてください。	1. ガイダンス 2. モーツァルトの器楽 1 3. モーツァルトの器楽 2 4. ベートーヴェンの器楽 1 5. ベートーヴェンの器楽 2 6. ロマン派の理念 7. フランスのベルリオーズ 8. ロマン派のオペラ 1 9. ロマン派のオペラ 2 10. ロマン派のオペラ 3 11. ロマン派のピアノ曲 1：シューベルト 12. ロマン派のピアノ曲 2：シューマン 13. ロマン派のピアノ曲 3：ショパン 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント。 参考文献は授業時に紹介。	出席（10%）と、2 回の試験の平均（90%）による（各試験実施の時点で 1/3 以上欠席の学生には受験を認めない）。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏文学・思想概論 a）	担当者	矢羽々　崇

講義目的、講義概要	授業計画
春学期では，「文学」って何？という問題から授業を始めます。 「読書感想文」を書かされて辟易（ヘキエキ）しませんでしたか？　「国語」の入試で解釈の問題に正解が１つしかないことに疑問を感じませんでしたか？　「文学」はなぜ「ブン学」で，「音楽」のように「ブン楽」ではないのでしょう？ こんな疑問や不信感(?)を出発点にしながら，最初に「文学」（そして文学研究）という問題を考えます。 また，メルヒェン・昔話という「単純な語りの形式」や，児童青少年文学を中心に据えて，文学のさまざまな面白さ，問題点を考えていきます。また，詩・劇・散文という主要なジャンルについても，考えてみましょう。 また，文学と思想（哲学・宗教など）のつながりも，必要に応じて考えていきます。	詳しくは第 1 回授業で説明します。 1. 導入 2. 文学はじめの一歩（グリム「白雪姫」）1 3. 同 2 4. 同 3 5. 「文学」とは何か？ 6. 文学の基本ジャンル 7. 文学研究の意味　読めばわかるのになぜ？ 8. 文学と思想 9. 作者とは？　作者の死？ 10. 読者とは？　「読む」だけ？ 11. 本とは？　本はなくなる？ 12. 翻訳の諸問題 13. 明治期の翻訳 14. 春学期のまとめ 15. 授業内試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献例：手塚富雄『ドイツ文学案内』岩波文庫 生野幸吉・檜山哲彦編『ドイツ名詩選』岩波文庫 テキストはコピーで，文献は授業でその都度紹介します。	出席 20%（4 回以上の欠席は評価の対象としません），6 月中旬に提出する小レポート 20%および最終回に実施する試験 60%によります。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏文学・思想概論 b）	担当者	矢羽々　崇

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では，主にドイツ文学と思想のアウトライン（歴史）を知ることを目標とします。 皆さんはドイツ語圏の文学を知っていますか？　18 世紀後半に書かれたゲーテの『若きウェルテルの悩み』を出発点にして，現代のシュリンク『朗読者』までのドイツ文学の歩みを辿っていきます。また，文学と思想（哲学・宗教など）が，それぞれの時代でどう関連したのかを考えます。 授業では，扱う作品を知らなくてもわかるように話しますが，作品を読んでから聞くと，作品および講義内容をよりよく理解でき，より興味を持つことができます。できるだけ，扱う予定の作品を読むようにしてください。	詳しくは第 1 回の授業で説明します。 1. 導入 2. 近代的な恋愛のはじまり（ゲーテ『ウェルテル』） 3. 感情の実験詩，シラー「歓喜に寄せて」 4. 苦悩する近代人？　ゲーテ『ファウスト』 5. 1770 年　ベートーベン，ヘーゲル，ヘルダーリン 6. ロマン派というアヴァンギャルド（前衛派） 7. シャミッソー『影をなくした男』を読む 8. 文学が文学だった頃（19 世紀リアリズムの時代） （ビュヒナー『ヴォイツェク』） 9. 19 世紀後半からの児童少年文学 （『もじゃもじゃペーター』『ハイディ』など） 10. イタリアへのあこがれ （Ｔ・マン『ヴェニスに死す』） 11. 見えない世界との出会い（20 世紀前半） （カフカ『変身』） 12. 明るく楽しくナチス批判？ （ケストナー『エーミールと探偵たち』） 13. 過去の克服？　現代ドイツ文学 （シュリンク『朗読者』） 14. 秋学期のまとめ 15. 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献例：H・シュラッファー『ドイツ文学の短い歴史』和泉，安川訳，同学社，2008 年 テキストはコピーを配布し，文献はその都度紹介します。	出席 20%（4 回以上の欠席は評価の対象としません），12 月はじめに提出の小レポート 20%および最終回に実施する試験 60%によります。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏芸術・文化概論 a）	担当者	山本　淳

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 　その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 講義概要 　ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 　春学期は、ルネサンス・宗教改革期からロマン主義時代までを扱う。 　春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。	1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 ルネサンス・宗教改革期 3 同上 4 同上 5 三十年戦争・バロック期 6 同上 7 同上 8 啓蒙主義時代 9 同上 10 同上 11 ロマン主義時代 12 同上 13 同上 14 グリムのメルヒェン 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。	講義で扱ったテーマに関するレポートおよび出席状況により評価。詳細は授業中に指示する。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏芸術・文化概論 b）	担当者	山本　淳

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 　その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 講義概要 　ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 　秋学期は、19 世紀後半から現代までを扱う。 　春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。	1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 19 世紀後半 3 同上 4 世紀転換期 5 同上 6 モダニズム 7 同上 8 ヴァイマル文化 9 同上 10 同上 11 ナチズムと芸術 12 同上 13 現代へ：新たな芸術の展開 14 同上 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。	講義で扱ったテーマに関するレポートおよび出席状況により評価。詳細は授業中に指示する。

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。 授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。 国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。 国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましょう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。 国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。 この授業では、そのノウハウを伝えていきます。 ご一緒に、国際問題を料理してみましょう。	１　国際情報ツール「ニュースの見方」 グローバル社会を見る眼 ２　国際社会の誕生――大航海時代のスタート ３　国際システム ４　国際システム ５　国際社会と国内社会の相違 ６　国際社会と国内社会の相違 ７　政治過程：恋愛・結婚・ファミリー 権威：権力＋正統性 ８　まとめ ９　米英欧の世界観 １０　イギリスの思想家 １１　ヨーロッパの思想家 １２　国際社会の比較 １３　国際社会の比較 １４　国際社会の比較 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『グローバル社会論資料集』	評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の３点セットです。

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。 授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。 国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。 国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましょう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。 国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。 この授業では、そのノウハウを伝えていきます。 ご一緒に、国際問題を料理してみましょう。	１　国際情報ツール「ニュースの見方」 グローバル社会を見る眼 ２　国際社会の誕生――大航海時代のスタート ３　国際システム ４　国際システム ５　国際社会と国内社会の相違 ６　国際社会と国内社会の相違 ７　政治過程：恋愛・結婚・ファミリー 権威：権力＋正統性 ８　まとめ ９　米英欧の世界観 １０　イギリスの思想家 １１　ヨーロッパの思想家 １２　国際社会の比較 １３　国際社会の比較 １４　国際社会の比較 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『グローバル社会論資料集』	評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の３点セットです。

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目標は、一年時に学習した国際関係論の概要から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。 本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組である主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体例として取り上げ、理論的アプローチを適用することによってグローバル社会の実態像の把握をめざす。	第 1 回　ガイダンス、グローバル化する国際社会 第 2 回　国際政治の理論とは何か 第 3 回　国際政治の分析枠組み①国際関係 第 4 回　国際政治の分析枠組み②国家 第 5 回　国際政治の分析枠組み③個人 第 6 回　国際政治アプローチ①現実主義 第 7 回　国際政治アプローチ②理想主義 第 8 回　国際政治アプローチ③コンストラクティズム 第 9 回　（前半まとめ）中間小テスト 第 10 回　安全保障①伝統的安全保障 第 11 回　安全保障②人間の安全保障 第 12 回　国際経済 第 13 回　地球環境 第 14 回　貧困と開発 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の授業で参考文献を紹介する。	出席状況、中間小テスト、学期末試験で評価する。

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目標は、一年時に学習した国際関係論の概要から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。 本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組である主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体例として取り上げ、理論的アプローチを適用することによってグローバル社会の実態像の把握をめざす。	第 1 回　ガイダンス、グローバル化する国際社会 第 2 回　国際政治の理論とは何か 第 3 回　国際政治の分析枠組み①国際関係 第 4 回　国際政治の分析枠組み②国家 第 5 回　国際政治の分析枠組み③個人 第 6 回　国際政治アプローチ①現実主義 第 7 回　国際政治アプローチ②理想主義 第 8 回　国際政治アプローチ③コンストラクティズム 第 9 回　（前半まとめ）中間小テスト 第 10 回　安全保障①伝統的安全保障 第 11 回　安全保障②人間の安全保障 第 12 回　国際経済 第 13 回　地球環境 第 14 回　貧困と開発 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の授業で参考文献を紹介する。	出席回数、中間テスト、学期末試験で評価とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	国際協力論	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
ほぼ毎回の授業で、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみます。 国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。 国際ニュースは授業の前半で見ますが、後半は国際協力に関連した２つのトピックを取り上げます。 第１のトピックは、グローバル社会における先進国と発展途上国の関係を、オーストラリアに注目して、国際協力の視点から取り上げます。 第２のトピックは、現代の海賊問題です。インド洋に出没するソマリア海賊に注目します。世界の海運に脅威を与える海賊問題への対応が、国際協力で大きな課題となっています。	１　国際情報ツール「ニュースの見方」 ２　オーストラリアは、どんな国 ＜国際協力の表とウラ＞ ３　国境を越える ４　国境を越える ５　国内の紛争 ６　国内の紛争 ７　地域の協力 ８　ニッチ外交 ９　まとめ ＜現代の海賊問題を考えてみよう＞ １０　現代の海賊問題 １１　現代の海賊問題 １２　現代の海賊問題 １３　国際協力――海賊対策 １４　国際協力――海賊対策 １５　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』（中公新書） など	評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の３点セットです。

09年度以降	国際開発論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、開発途上国における貧困および開発の実態を明らかにし、さらにグローバル化時代において開発途上国が直面する課題と可能性について検討します。 講義は３つのシリーズから構成されます。第１の「開発途上国の貧困」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉えます。第２の「開発途上国の開発とその実態」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、経済成長重視政策の問題点やグローバリゼーションが開発途上国に与えている影響に関して検討し、さらに近年目覚まし中国の経済発展の実態について、その弊害を含めて探ります。第３の「グローバル化時代の国際開発」では、グローバル化時代における開発の新たなトレンドを探りつつ、新たな開発の方向性やビジネスの可能性について考えます。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	１．イントロダクション：開発と国際関係 ＜開発途上国の貧困＞ ２．貧困の現状／歴史的要因（1）：植民地支配の影響 ３．歴史的要因（2）：アジアにおける植民統治 ４．政治的要因（1）：民主主義と開発 ５．政治的要因（2）：開発独裁体制 ６．社会・文化的要因：インド・カースト制度 ＜開発途上国の開発とその実態＞ ７．経済開発の方法とパターン ８．高度経済成長の要因と弊害 ９．開発途上国にとってのグローバリゼーション 10. 中国経済発展の光と影（1）発展の勢い 11. 中国経済発展の光と影（2）弊害と矛盾 ＜グローバル化時代の国際開発＞ 12. 国際ビジネスの新展開（1）：ツーリズム関連産業 13. 国際ビジネスの新展開（2）：ポップカルチャー 14. 国際ビジネスの新展開（3）：イスラム関連産業 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。	学期末試験の成績を中心に評価を行います。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09 年度以降	国際交流論	担当者	小松　諄悦

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際交流基金活動の三本柱である、芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流の各分野における、国際文化交流事業の実践を検証します。 分野ごとの文化交流事業の実践を学習しながら、文化交流政策、文化交流の目的についても、考察して行きます。 国際交流基金環境の変化が、文化交流にいかに影響を与えるかについても、検討します。	１．　講義の概要（国際交流と国際交流基金） ２．　国際交流基金の歴史 ３．　国際文化交流政策の変遷 ４．　芸術交流 ５．　芸術交流の実践 ６．　芸術交流の実践（２） ７．　日本語教育 ８．　日本語教育の実践 ９．　日本研究 １０．　日本研究の実践 １１．　知的交流 １２．　知的交流の実践 １３．　知的交流の実践（２） １４．　国際交流基金環境の変化と国際文化交流の変遷 １５．　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、授業でレジュメを配布	期末レポートによって評価（80%）するが、出席率も考慮に入れる（20%）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化、多極化、多様化といった現象が進む現代社会において、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も多様化し、国家、国際機関、企業などとともに非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、国際協力、とりわけ開発援助における NGO の機能と役割に注目しながら、現代の国際社会が抱える開発協力の諸問題について考えます。 本講義は４つのシリーズから構成されます。第１の「開発援助の仕組みと展開」では、政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODA の新たなトレンドと課題を探ります。第２の「NGO の役割と課題」では NGO やボランティア組織のあり方について歴史的背景を踏まえながら捉え、さらに開発と NGO との関係について具体的なケースを取り上げながら考えます。第３の「日本の NGO 活動」では、日本における国際協力 NGO に焦点を当て、歴史、実態、課題について検討します。最後に、「国際協力の新たなテーマと NGO」として、近年注目されている国際協力の幾つかの側面に着目しながら、新たな NGO の役割と課題について検討します。	１．イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO **＜開発援助の仕組みと展開＞** ２．ODA の仕組みとトレンド ３．日本の ODA の特徴 ４．日本の援助実績と問題点 ５．日本の ODA の課題 **＜NGO の役割と課題＞** ６．国際援助の新たなテーマと NGO ７．NGO の定義と歴史的経緯 ８．NGO の機能と途上国での役割 ９．開発と NGO：ケーススタディ(1)バングラデシュ 10．開発と NGO：ケーススタディ(2)マレーシア **＜日本の NGO 活動＞** 11．市民活動の歴史と国際協力 NGO 12．国際協力 NGO の実態と課題 **＜国際協力の新たなテーマと NGO＞** 13．マイクロクレジットという方法 14．ジェンダー問題と開発 15．震災と NGO・ボランティア

テキスト、参考文献	評価方法
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。	学期末試験の成績を中心に評価を行います。

09 年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の問題意識】 今般、日本の外交・安全保障分野の専門家の間で、防衛協力のパートナーとしてのオーストラリアに対する関心がこれまでになく高まってきている。6 年ぶりとなる「防衛計画の大綱（防衛大綱）」（2010 年 12 月 17 日閣議決定）でも、政府は中国の台頭を念頭に、日米同盟の深化とともに、オーストラリアなど友好国との防衛協力強化を謳っている。 こうした関心の高まりとは裏腹に、オーストラリアに対する理解は浅いのが現状である。本講義では、オーストラリアがどのような歴史を歩んできたのかを概観し、同国に対する理解を深める一助となることを願うものである。 【講義概要】 春学期の講義では、イギリスによるオーストラリア植民地の形成（18 世紀後半）から、第二次世界大戦終結までのオーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国）やアメリカ、アジア地域との関係性のなかで概観していく。 本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。	第１回：イントロダクション―オーストラリアを学ぶ意義 第２回：植民地オーストラリア①―植民地の誕生と発展 第３回：植民地オーストラリア② ―大英帝国とオーストラリア 第４回：ゴールドラッシュと白豪主義政策 第５回：多文化主義社会オーストラリア 第６回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ―「二つのナショナリズム」 第７回： 20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ―第一次世界大戦とアンザック精神 第８回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ―第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第９回： 第二次世界大戦―アジア国際関係と黄禍論 第 10 回：２つの捕虜収容所①―アンボン捕虜収容所 第 11 回：２つの捕虜収容所②―カウラ捕虜収容所 第 12 回：対日講和問題とオーストラリア 第 13 回：オーストラリアにおける先住民問題① ―1970 年代まで 第 14 回：オーストラリアにおける先住民問題② ―ラッド首相の「謝罪演説」まで 第 15 回：総括と質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：永野隆行他編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

09 年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の問題意識】 今般、日本の外交・安全保障分野の専門家の間で、防衛協力のパートナーとしてのオーストラリアに対する関心がこれまでになく高まってきている。6 年ぶりとなる「防衛計画の大綱（防衛大綱）」（2010 年 12 月 17 日閣議決定）でも、政府は中国の台頭を念頭に、日米同盟の深化とともに、オーストラリアなど友好国との防衛協力強化を謳っている。 こうした関心の高まりとは裏腹に、オーストラリアに対する理解は浅いのが現状である。本講義では、戦後のアジアにおいてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、日豪協力の今後を考える一助となることを願うものである。 【講義概要】 秋学期の講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリアの歴史を概観していく。 春学期同様、本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。	第１回：イントロダクション ―オーストラリア外交を見る眼 第２回：チフリー労働党政権の外交 ―新たな国際関係構築の模索 第３回：アンザス同盟の実現 第４回：冷戦下のアジア① ―中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争 第一次インドシナ危機 第５回：冷戦下のアジア② ―イギリスのアジアの戦争「対決政策」 第６回：冷戦下のアジア③ ―アメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」 第７回：ポストベトナムのオーストラリア外交 第８回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ―オーストラリアの「アジア化」 第９回：ミドルパワー外交①PKO、多国間主義 第 10 回：ミドルパワー外交②移民、難民、援助 第 11 回：ミドルパワー外交③核軍縮 第 12 回：ミドルパワー外交④国際テロとの戦い 第 13 回：日豪関係の歴史的展開―敵国から同盟国へ 第 14 回：ギラード労働党政権の政治と外交 第 15 回：21 世紀オーストラリア外交の行方＆質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済　Ⅰ）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。 初めにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。	1. ガイダンス 2. フランス政治史① 3. フランス政治史② 4. 現代フランスの政治システムの概要 5. 半大統領制 6. 議会 7. 官僚制 8. 政党システム① 9. 政党システム② 10. 選挙 11. 政治的リーダーシップ 12. 政策決定過程 13. 社会運動 14. 中央-地方関係 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。	中間テストと期末テスト。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済　Ⅱ）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では年金や医療保険などのフランスの社会保障制度の仕組みと最近の改革の動向を日本と比較しながら学習します。 2006 年にフランスはスウェーデンを追い越し世界最大の福祉国家になりました（対 GDP 比）。公的年金や医療保険などの社会保障制度の改革は政治家にとっても有権者にとっても最大の関心事の一つです。いまや社会保障は政治・経済に関する議論の中心に位置していると言っても過言ではありません。 日本も人口の高齢化・政府の財政難・雇用の不安定化などの問題に直面し、社会保障改革が喫緊の課題になっています。 そこでこの講義では①まずフランスと日本の社会保障制度を比較することで両者の特徴を明らかにします。②次に両国における社会保障改革をめぐる政治動向について解説します。③最後にフランスや日本で今後どのような社会保障改革が必要なのかについて考察します。 講義と試験を通じて、学期の終わりには年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようになることを目指します。	1. ガイダンス 2. 社会保障とは何か？ 3. 大きな福祉国家（フランス）と小さな福祉国家（日本） 4-5. 年金制度 6-7. 医療保険制度 8-9. 雇用政策（失業・非正規雇用・若者の就職） 10-11. 公的扶助（生活保護） 12-13. 家族政策（子ども手当・保育サービス） 14-15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。	中間テストと期末テスト。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済　Ⅰ）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
現代のフランス社会について体系的に理解するうえで、フランスの政治システムの特徴について学ぶことも有益だと言えるでしょう。本講義は、フランス政治についての基礎的な知識の習得を目的とします。具体的には、現在のフランスの政治システムが形成された歴史的背景を概観した上で、現状の政治制度について学びます。	1. 講義の概要 2. フランス革命から第二帝政まで 1 3. フランス革命から第二帝政まで 2 4. 第三共和制からヴィシー政府 1 5. 第三共和制からヴィシー政府 2 6. 第四共和制 1 7. 第四共和制 2 8. 第五共和制の成立 9. 第五共和制下における政権交代 10. 第五共和制の政治制度 1 11. 第五共和制の政治制度 2 12. 第五共和制の政治制度 3 13. 第五共和制の政治制度 4 14. 第五共和制の政治制度 5 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業の際に指示します。	平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済　Ⅱ）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第 2 次大戦後のフランス経済の変遷を歴史的に辿るとともに、フランス経済の特徴を探ることを目的とします。 なお、履修者数によっては簡単な発表をしてもらい、フランス経済の特徴についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。	1. 講義の概要 2. 戦後復興と経済近代化 1 3. 戦後復興と経済近代化 2 4. 戦後復興と経済近代化 3 5. EEC 発足とフランス経済の開放 1 6. EEC 発足とフランス経済の開放 2 7. 世界不況とフランス経済 1 8. 世界不況とフランス経済 2 9. フランス経済の現状 1 10. フランス経済の現状 2 11. フランスの工業 1 12. フランスの工業 2 13. フランスの農業 1 14. フランスの農業 2 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業の際に指示します。	平常授業における小テスト（複数回実施、50%）とレポート・発表（50%）

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏歴史概論 a）	担当者	古田　善文

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。 講義概要： 春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦の勃発までを対象に、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配布するほか、DVD やビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。	第１回：　年間授業計画、評価方法、参考文献等について 第２回：　歴史とは何か？（主要な歴史方法論の解説） 第３回：「記憶」をめぐる論争(1)ドイツ 第４回：「記憶」をめぐる論争(2)オーストリア／日本 第５回：　ビデオ上映と解説：映画『ショア』関連 第６回：　ハプスブルク帝国史(1)：マリア・テレジア以前 第７回：　ハプスブルク帝国史(2)：マリア・テレジアの時代 第８回：　19 世紀史(1)：ナポレオンとドイツ・オーストリア 第９回：　19 世紀史(2)：1848 年革命 第10 回：19 世紀史(3)：若きヒトラーと世紀末ウィーン 第11 回：現代の開幕(1)：ドイツ統一と世界帝国への夢 第12 回：現代の開幕(2)：第一次世界大戦（原因） 第13 回：映像で見る第一次世界大戦 第14 回：現代の開幕(3)：第一次世界大戦（経過と帰結） 第15 回：春学期のまとめ
テキスト、参考文献	評価方法
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 増谷英樹/古田善文著『図説オーストリアの歴史』河出書房新社、2011　原則として毎回講義レジュメを配布する。	学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏歴史概論 b）	担当者	古田　善文

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 講義の目標は、ドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）における現代史（第一次世界大戦以降）の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、20世紀および21世紀にこの地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。 講義概要： 秋学期は、（１）ドイツ革命とワイマール共和国、（２）ヒトラーの独裁、（３）第二次世界大戦、（４）戦後ドイツの歩みを主要なテーマとし、20 世紀および21世紀のドイツ語圏の歴史を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配布するほか、DVD やビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。	第１回：　革命の時代：ドイツ革命とオーストリア革命 第２回：　ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 第３回：　ファシズムの誕生(1)：イタリア・ファシズムを中心とする欧州ファシズム運動の比較検討 第４回：　ファシズムの誕生(2)：ナチス運動の誕生 第５回：　ファシズム論の変遷(全体主義論、権威主義体制論、近代化論) 第６回：　危機の30年代(1)：民主政治システムの崩壊 第７回：　危機の30年代(2)：戦間期の国際政治 第８回：　ビデオ上映と解説：「ナチズム」関連 第９回：　受容と抵抗(1)：ナチスによる民衆統轄 第10回：　受容と抵抗(2):反ナチス抵抗運動の諸相 第11 回：第二次世界大戦(1)：大戦の経過と帰結 第12 回：第二次世界大戦(2)：ホロコーストと戦後補償 第13 回：占領改革と戦後復興：ドイツ占領から東西ドイツの成立まで 第14 回：ドイツ統一とEU 新時代 第15 回：秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	評価方法
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 増谷英樹/古田善文著『図説オーストリアの歴史』河出書房新社、2011　原則として毎回講義レジュメを配布する。	学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。

2012 年度

第二外国語（英語プラス1言語）
【全学共通授業科目】
シラバス

09 年度以降	ドイツ語　（Ｉａ　総合１）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の人とその国の言葉でコミュニケーションがとれた時です。「話せる」ということは外国語学習の基本であり、話せない外国語の知識など一片の価値もありません。いくら文法の知識があっても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。ただし会話と言えども文法を無視しては成り立ちません。日本人教員のもとでしっかりと基礎を学んだ上で「話す」ことにチャレンジして下さい。	１．　Lektion 1　人と知り合う１ ２．　Lektion 2　人と知り合う２ ３．　Lektion 3　専攻と言語 ４．　Lektion 4　趣味 ５．　Lektion 5　食事 ６．　Lektion 6　家族と職業 ７．　小テスト ８．　Lektion 7　持ち物 ９．　Lektion 8　住居 １０．　Lektion 9　時刻と日付 １１．　Lektion 10 週末の後 １２．　Lektion 11 街と大学 １３．　Lektion 12 休暇の前 １４．　小テスト １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Szenen 1 integriert　佐藤、下田他　三修社	試験と授業への参加度及び定期試験による。

09 年度以降	ドイツ語　（Ｉｂ　総合１）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の人とその国の言葉でコミュニケーションがとれた時です。「話せる」ということは外国語学習の基本であり、話せない外国語の知識など一片の価値もありません。いくら文法の知識があっても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。ただし会話と言えども文法を無視しては成り立ちません。日本人教員のもとでしっかりと基礎を学んだ上で「話す」ことにチャレンジして下さい。	１．　Lektion 1　Reise und Verkehr ２．　Lektion 1 ３．　Lektion 2　Im Restaurant und im Hotel ４．　Lektion 2 ５．　Lektion 3　In der Stadt ６．　Lektion 3 ７．　小テスト ８．　Lektion 4　Wetter ９．　Lektion 4 １０．　Lektion 5　Krankheiten und Körperpflege １１．　Lektion 5 １２．　Lektion 6　Geschenke und Einladungen １３．　Lektion 6 １４．　小テスト １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Szenen 2 kompakt　佐藤、下田他　三修社	試験と授業への参加度及び定期試験による。

09 年度以降	ドイツ語　（Ｉａ　総合２）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の人とその国の言葉でコミュニケーションがとれた時です。「話せる」ということは外国語学習の基本であり、話せない外国語の知識など一片の価値もありません。いくら文法の知識があっても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。ただし会話と言えども文法を無視しては成り立ちません。日本人教員のもとでしっかりと基礎を学んだ上で「話す」ことにチャレンジして下さい。	１．　Lektion 1　人と知り合う１ ２．　Lektion 2　人と知り合う２ ３．　Lektion 3　専攻と言語 ４．　Lektion 4　趣味 ５．　Lektion 5　食事 ６．　Lektion 6　家族と職業 ７．　小テスト ８．　Lektion 7　持ち物 ９．　Lektion 8　住居 １０．　Lektion 9　時刻と日付 １１．　Lektion 10 週末の後 １２．　Lektion 11 街と大学 １３．　Lektion 12 休暇の前 １４．　小テスト １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Szenen 1 integriert　佐藤、下田他　三修社	試験と授業への参加度及び定期試験による。

09 年度以降	ドイツ語（Ｉｂ　総合２）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の人とその国の言葉でコミュニケーションがとれた時です。「話せる」ということは外国語学習の基本であり、話せない外国語の知識など一片の価値もありません。いくら文法の知識があっても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。ただし会話と言えども文法を無視しては成り立ちません。日本人教員のもとでしっかりと基礎を学んだ上で「話す」ことにチャレンジして下さい。	１．　Lektion 1　Reise und Verkehr ２．　Lektion 1 ３．　Lektion 2　Im Restaurant und im Hotel ４．　Lektion 2 ５．　Lektion 3　In der Stadt ６．　Lektion 3 ７．　小テスト ８．　Lektion 4　Wetter ９．　Lektion 4 １０．　Lektion 5　Krankheiten und Körperpflege １１．　Lektion 5 １２．　Lektion 6　Geschenke und Einladungen １３．　Lektion 6 １４．　小テスト １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Szenen 2 kompakt　佐藤、下田他　三修社	試験と授業への参加度及び定期試験による。

09 年度以降	ドイツ語（Ｉａ　総合３）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語はとても豊かな文化と歴史を持ったドイツ、オーストリア、スイスなどで話されている言葉です。ドイツ語を学ぶことはツールとしてだけでなく、彼らの精神基盤を知ることでもあります。彼らの物の考え方はドイツ語の物の考え方でもある訳です。 一方で日常の言葉としてのドイツ語は、（主観的ですが）美しい響きとややストレートで飾らない言葉として面白いものだと思います。 総合コースは日本人教員と外国人教員とのペアの授業で文法と会話を総合的に学び、ドイツ語の運用能力を得られるよう配慮してあります。多少の困難があってもくじけずに頑張って下さい。わからないところがあれば、積極的に担当教員に質問して下さい。曖昧なまま先に進むのは、語学を学ぶ上で大きな精神的ストレスになります。	１．　　導入　－文字と発音－ ２．～１４． １課－動詞の現在変化など ２課－名詞の性と格など ３課－名詞の複数形など ４課－不規則動詞の現在人称変化 ５課－冠詞など ６課－前置詞など ７課－話法の助動詞など １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Schritt für Schritt　今井田、前田、Büchli　三修社	定期試験による。

09 年度以降	ドイツ語（Ｉｂ　総合３）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語はとても豊かな文化と歴史を持ったドイツ、オーストリア、スイスなどで話されている言葉です。ドイツ語を学ぶことはツールとしてだけでなく、彼らの精神基盤を知ることでもあります。彼らの物の考え方はドイツ語の物の考え方でもある訳です。 一方で日常の言葉としてのドイツ語は、（主観的ですが）美しい響きとややストレートで飾らない言葉として面白いものだと思います。 総合コースは日本人教員と外国人教員とのペアの授業で文法と会話を総合的に学び、ドイツ語の運用能力を得られるよう配慮してあります。多少の困難があってもくじけずに頑張って下さい。わからないところがあれば、積極的に担当教員に質問して下さい。曖昧なまま先に進むのは、語学を学ぶ上で大きな精神的ストレスになります。	１．～１４． ８課－zu-不定詞など ９課－動詞の三基本形など １０課－現在完了など １１課－形容詞の格変化など １２課－関係代名詞など １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
chritt für Schritt　今井田、前田、Büchli　三修社	定期試験による。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱa　総合１）	担当者	Ｈ．Ｊ．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語 I で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたと思います。ドイツ語 II ではさらに多くの場面で使える会話表現を学んで下さい。既に文法的には難しいことはありません。様々な状況に応じた受け答えの練習です。これからはなるべく多くの単語を憶え、ドイツ語圏を旅行しても困らない会話能力を習得して下さい。	１．　Lektion 7　Personenbeschreibung ２．　Lektion 7 ３．　Lektion 8　Müll und Umwelt ４．　Lektion 8 ５．　Lektion 9　Verbote und Gebote ６．　Lektion 9 ７．　小テスト ８．　Lektion 10　Lebenslauf und Schulsystem ９．　Lektion 10 １０．　Lektion 11　Feste und Feiertage １１．　Lektion 11 １２．　Lektion 12　Jahresende und -anfang １３．　Lektion 12 １４．　小テスト １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Szenen 2 kompakt　佐藤、下田他　三修社	試験と授業への参加度及び定期試験による。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱb　総合１）	担当者	Ｈ．Ｊ．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
この時間では Treffpunkt Berlin を使って、様々な練習（簡単な言葉遊び、役割遊び、パートナーにインタビューをするなど）を通して、会話表現能力を訓練します。既に持っているドイツ語の知識を活用して、さらに表現力を高めて下さい。	１．－１５． 初回の授業で、授業方法、進度などを説明しますので、必ず出席して下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピー、ビデオなどを用意します。	試験と授業への参加度により評価します。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱa　総合２）	担当者	Ｈ．Ｊ．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語 I で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたと思います。ドイツ語 II ではさらに多くの場面で使える会話表現を学んで下さい。既に文法的には難しいことはありません。様々な状況に応じた受け答えの練習です。これからはなるべく多くの単語を憶え、ドイツ語圏を旅行しても困らない会話能力を習得して下さい。	１．　Lektion 7　Personenbeschreibung ２．　Lektion 7 ３．　Lektion 8　Müll und Umwelt ４．　Lektion 8 ５．　Lektion 9　Verbote und Gebote ６．　Lektion 9 ７．　小テスト ８．　Lektion 10　Lebenslauf und Schulsystem ９．　Lektion 10 １０．　Lektion 11　Feste und Feiertage １１．　Lektion 11 １２．　Lektion 12　Jahresende und -anfang １３．　Lektion 12 １４．　小テスト １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Szenen 2 kompakt　佐藤、下田他　三修社	試験と授業への参加度による。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱb　総合２）	担当者	Ｈ．Ｊ．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
この時間では Treffpunkt Berlin を使って、様々な練習（簡単な言葉遊び、役割遊び、パートナーにインタビューをするなど）を通して、会話表現能力を訓練します。既に持っているドイツ語の知識を活用して、さらに表現力を高めて下さい。	１．－１５． 初回の授業で、授業方法、進度などを説明しますので、必ず出席して下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピー、ビデオなどを用意します。	試験と授業への参加度により評価します。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱa　総合３）	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語Ｉで学んだ基礎の復習と知識の定着を目指すと共に、さらに一歩進んだドイツ語の練習をします。これだけの知識があれば十分に日常的な語学力を身につけられ、ドイツ語圏を旅行してもさほど言葉に不自由することは無い筈です。あとは実践あるのみですから、本学のドイツ人教員を見かけたら積極的に話し掛けるなどして実力を試し、場慣れするよう心がけて下さい。	１．～１４． Lektion 1A, 1B Lektion 2A, 2B Lektion 3A, 3B Lektion 4A, 4B １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Straße Neu Vers. 2.0　Muelenz、林、五十嵐、須藤他　朝日出版社	定期試験による。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅱb　総合３）	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語Ｉで学んだ基礎の復習と知識の定着を目指すと共に、さらに一歩進んだドイツ語の練習をします。これだけの知識があれば十分に日常的な語学力を身につけられ、ドイツ語圏を旅行してもさほど言葉に不自由することは無い筈です。あとは実践あるのみですから、本学のドイツ人教員を見かけたら積極的に話し掛けるなどして実力を試し、場慣れするよう心がけて下さい。	１．～１４． Lektion 5A, 5B Lektion 6A, 6B Lektion 7A, 7B Lektion 8A, 8B １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Straße Neu Vers. 2.0　Muelenz、林、五十嵐、須藤他　朝日出版社	定期試験による。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅲa　応用）	担当者	Ｅ．ビリック

講義目的、講義概要	授業計画
この時間では Treffpunkt Berlin を使って、様々な練習（簡単な言葉遊び、ロールプレイング、パートナー・インタビューなど）を通して、会話表現力を訓練します。皆さんは既に持っているドイツ語の知識をフルに活用してさらに表現力を高めて下さい。 ドイツの若者たちの日常生活を描いた、短い場面で構成されたビデオ教材を使用し、練習します。	１．　自己紹介 ２．　練習１ ３．　練習２ ４．　練習３ ５．　練習４ ６．　練習５ ７．　練習６ ８．　小テスト／練習７ ９．　練習８ １０．　練習９ １１．　練習 10 １２．　練習 11 １３．　練習 12 １４．　練習 13 １５．　小テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料をコピーし、配布します。	試験と出席点を加味して学期の成績とします。

09 年度以降	ドイツ語（Ⅲb　応用）	担当者	Ｅ．ビリック

講義目的、講義概要	授業計画
この時間では Treffpunkt Berlin を使って、様々な練習（簡単な言葉遊び、ロールプレイング、パートナー・インタビューなど）を通して、会話表現力を訓練します。皆さんは既に持っているドイツ語の知識をフルに活用してさらに表現力を高めて下さい。 ドイツの若者たちの日常生活を描いた、短い場面で構成されたビデオ教材を使用し、練習します。	１．　練習１ ２．　練習２ ３．　練習３ ４．　練習４ ５．　練習５ ６．　練習６ ７．　練習７ ８．　小テスト／練習８ ９．　練習９ １０．　練習１０ １１．　練習１１ １２．　練習１２ １３．　練習１３ １４．　練習１４ １５．　小テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料をコピーし、配布します。	試験と出席点を加味して学期の成績とします。

09 年度以降	フランス語（Ｉａ　総合１）	担当者	大原　知子

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ia 総合１）は日本人講師、(Ia 総合２）はフランス人講師が担当する。 この(Ia 総合１)では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ｉｂ　総合１）	担当者	大原　知子

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ib 総合１）は日本人講師、(Ib 総合２）はフランス人講師が担当する。 この(Ib 総合１)では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ｉａ　総合２）	担当者	Ｃ．ヴァリエンヌ

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ia 総合１：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ｉｂ　総合２）	担当者	Ｃ．ヴァリエンヌ

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ib 総合１：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ｉａ　応用）	担当者	田中　成和

講義目的、講義概要	授業計画
実用フランス語検定４級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。	1.　ガイダンス 2.　演習(1) 3.　演習(2) 4.　演習(3) 5.　演習(4) 6.　演習(5) 7.　演習(7) 8.　演習(8) 9.　演習(9) 10.　演習(10) 11.　演習(11) 12.　演習(12) 13.　演習(13) 14.　まとめ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ｉｂ　応用）	担当者	田中　成和

講義目的、講義概要	授業計画
実用フランス語検定４級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。	1.　ガイダンス 2.　演習(1) 3.　演習(2) 4.　演習(3) 5.　演習(4) 6.　演習(5) 7.　演習(7) 8.　演習(8) 9.　演習(9) 10.　演習(10) 11.　演習(11) 12.　演習(12) 13.　演習(13) 14.　まとめ 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ⅱa　総合１）	担当者	富塚　真理子

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ia 総合１）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIa 総合１）は日本人講師、（IIa 総合２）はフランス人講師が担当する。 この（IIa 総合１）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ⅱb　総合１）	担当者	富塚　真理子

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ib 総合１）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIb 総合１）は日本人講師、（IIb 総合２）はフランス人講師が担当する。 この（IIb 総合１）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ⅱa　総合２）	担当者	C．ヴァリエンヌ

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ia 総合１）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIa 総合１）は日本人講師、（IIa 総合２）はフランス人講師が担当する。 この（IIa 総合２）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ⅱb　総合２）	担当者	C．ヴァリエンヌ

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ib 総合１）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIb 総合１）は日本人講師、（IIb 総合２）はフランス人講師が担当する。 この（IIa 総合２）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ⅱa　応用）	担当者	竹内　久雄

講義目的、講義概要	授業計画
実用フランス語検定３級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。	1.　ガイダンス 2.　演習(1) 3.　演習(2) 4.　演習(3) 5.　演習(4) 6.　演習(5) 7.　演習(7) 8.　演習(8) 9.　演習(9) 10.　演習(10) 11.　演習(11) 12.　演習(12) 13.　演習(13) 14.　まとめ 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ⅱb　応用）	担当者	竹内　久雄

講義目的、講義概要	授業計画
実用フランス語検定３級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。	1.　ガイダンス 2.　演習(1) 3.　演習(2) 4.　演習(3) 5.　演習(4) 6.　演習(5) 7.　演習(7) 8.　演習(8) 9.　演習(9) 10.　演習(10) 11.　演習(11) 12.　演習(12) 13.　演習(13) 14.　まとめ 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ⅲa　応用）	担当者	Ｃｈ．ペリセロ

講義目的、講義概要	授業計画
実用フランス語検定２級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。	1.　ガイダンス 2.　演習(1) 3.　演習(2) 4.　演習(3) 5.　演習(4) 6.　演習(5) 7.　演習(7) 8.　演習(8) 9.　演習(9) 10.　演習(10) 11.　演習(11) 12.　演習(12) 13.　演習(13) 14.　まとめ 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	フランス語（Ⅲb　応用）	担当者	Ｃｈ．ペリセロ

講義目的、講義概要	授業計画
実用フランス語検定２級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。	1.　ガイダンス 2.　演習(1) 3.　演習(2) 4.　演習(3) 5.　演習(4) 6.　演習(5) 7.　演習(7) 8.　演習(8) 9.　演習(9) 10.　演習(10) 11.　演習(11) 12.　演習(12) 13.　演習(13) 14.　まとめ 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示をする。	授業時に説明する。

09 年度以降	スペイン語（Ｉａ　総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉ）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、それにより簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 （総合 1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語を習得することを目的とする。 なお、この授業はスペイン語（Ｉａ 総合 2）とのペア授業である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	①　発音・アクセント ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　ser, estar 動詞の用法 ⑦　ser, estar 動詞の用法 ⑧　動詞の活用---直説法現在規則活用（-ar 動詞） ⑨　動詞の活用---直説法現在規則活用（-er, -ir 動詞） ⑩　代名詞の用法 ⑪　gustar 型動詞の用法 ⑫　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑬　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑭　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑮　今学期のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ（青い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉｂ　総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉｂ総合 1）は、スペイン語（Ｉａ 総合 1, 2）の継続の授業である。 直説法未来形・過去未来形までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し聞き取る能力の一層の向上を目ざす。直説法までの初級スペイン語文法の学習はすべて完了する。 （総合 1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現を習得し、日常生活に支障がない程度に書きくこと、話すこと、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 なお、この授業はスペイン語（Ｉｂ 総合 2）とのペア授業である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	①　春学期の復習 ②　動詞の活用---再帰動詞 ③　再帰動詞と諸用法 ④　動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形 ⑤　動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形 ⑥　比較表現 ⑦　動詞の活用---直説法点過去規則活用 ⑧　動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑨　動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑩　動詞の活用---直説法線過去 ⑪　点過去と線過去の違い ⑫　受け身表現 ⑬　動詞の活用---未来形・過去未来形 ⑭　動詞の活用---未来形・過去未来形 ⑮　今学期のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ（青い表紙）” 朝日出版社	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉａ　総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 総合 2）はスペイン語（Ｉａ 総合 1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（Ｉａ 総合 1）と（Ｉａ 総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語（Ｉａ 総合 1）に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉｂ　総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 総合 2）の継続の授業である。 スペイン語（Ｉｂ 総合 2）はスペイン語（Ｉｂ 総合 1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（Ｉｂ 総合 1）と（Ｉｂ 総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語（Ｉｂ 総合 1）に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09年度以降	スペイン語（Ｉａ　会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉ）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目ざす。 （会話）では、スペイン語（Ｉａ 総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉａ 総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉａ 総合 1）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09年度以降	スペイン語（Ｉｂ　会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 会話）の継続の授業である。 直説法未来・過去未来までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。直説法の初級スペイン語文法の学習を終える。 （会話）では、スペイン語（Ｉｂ 総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉｂ 総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉｂ 総合 1）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa　会話１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb　会話１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 会話 1）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa　会話２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb　会話２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 会話 2）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa　総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1 年目で未習の接続法を中心に扱う。また、命令表現を新たに学ぶとともに、点過去・線過去・現在完了・大過去、未来・過去未来、関係詞、前置詞などの重要文法事項については重点的に復習し、より高度な表現力を身につける。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に 1 年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb　総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 総合）の継続の授業である。 この授業では、初級文法のうち、1 年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、その他の重要な文法事項についての復習も行い、接続法現在までの初級文法の学習を完了する。より高度な表現方法を学び、表現力をさらに向上させることも重視する。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に 1 年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。この授業ではとくに予習が不可欠である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅲa　応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲ）の授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目ざす。 なお、接続法過去、条件文など、スペイン語（Ⅱ）までに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。復習の際に使用することがあるので、スペイン語（Ⅱa, b 総合）で使用した教科書も持参のこと。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅲb　応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 応用）の継続の授業である。 この授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目ざす。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09年度以降	中国語（Ｉａ　講読・文法）	担当者	阿邉　淳

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法(ピンイン)、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習し、平易な文章の読解ができるようになることを目指します。 【講義概要】 ①週３回の授業の内、この授業では、語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②表音文字のない中国語ではローマ字を借用して表音しています。中国語に合わせるための特別な発音規則が作られていますのでそれを先ず習得してください。 ③さらに、基本文型を学習し、それを用いた作文練習、易しい文章の読解を学びます。 ④将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 注意 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　中国語概説、授業の進め方、履修上の注意、基本母音発音 第２回　発音解説　声調、短母音、複合母音、鼻音を伴う母音 第３回　発音　子音、声調の変化、簡単なあいさつ 第４回　第１課　人称代名詞、(～は･･･です)の文　連体修飾語 第５回　第２課　指示代名詞　反復疑問文 第６回　１・２復習小テスト　第３課　場所代名詞　所在の“在”語気助詞“吧” 第７回　第４課　動詞述語文、時に関する表現　語気助詞“呢” 第８回　３・４復習小テスト、第５課　方位詞　“有”の用法　数 第９回　第６課　形容詞述語文　比較の表現 第10回　５・６復習小テスト　第７課　時刻表現　願望の助動詞 第11回　第８課　数詞　量詞　動詞の重ね型 第12回　７・８復習小テスト　第９課　“了”の用法、方向補語 第13回　第１０課　可能の助動詞　年齢を尋ねる 第14回　９・１０課復習小テスト　第１１課　義務の助動詞　介詞 第15回　春学期まとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『初級中国語　花ばな－改訂版－』池上貞子（朝日出版社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09年度以降	中国語（Ｉｂ　講読・文法）	担当者	阿邉　淳

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・春学期に続き中国語の基礎力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし読解力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ①春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 ②総合的表現力を増やすために先ず基本的文型を学び、その文型を用いた作文練習をしていきます。	第１回　春学期の復習　発音ウオームアップ 第２回　第１２課　方向補語　動詞＋時間量/動作量＋目的語 第３回　第１３課　動作の進行　状態の持続 第４回　１２・１３課復習小テスト　第１４課　程度補語“过”を使った経験を表す構文 第５回　第１４課　“是～的”構文 第６回　第１５課　結果補語　“把”の構文 第７回　１４・１５課復習小テスト　第１６課　可能補語 第８回　第１６課　呼応“越～越･･･”“一边～一边･･･” 第９回　第１７課　使役構文　呼応“一～就･･･ 第10回　１６・１７課復習小テスト　第１８課　受身表現 第11回 第１８課　存現文 第12回 第１８課 第13回 第１８課　復習読み練習とドリル 第14回 第１９課　状態の持続表現、仮定表現、“是”～“的”表現 第15回 第２０課　復習読み練習とドリル　秋学期まとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語の基礎づくり』楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09年度以降	中国語（Ｉａ　会話１）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ｉａ 会話１と２は同一教材で共に張亜紅先生が担当します。 【講義目標】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話を主に学習します。 【講義概要】 語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」（会話）に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1）中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　中国語概説、授業の進め方、履修上の注意、基本母音発音 第２回　発音　有気音と無気音　複合母音 第３回　発音　声調の変化、声調の組合わせ練習 第４回　第１課　人称代名詞、「～です」の文　反復疑問文 第５回　第２課　動詞述語文　文末の助詞“吧”　連体修飾語① 第６回　第３課　形容詞述語文　副詞“也”と“都”の用法 第７回　第４課　代名詞（指示・場所）　所在を表す“在” 第８回　１～４課中間試験　文法説明不足個所補充 第９回　第５課　助詞“了”の用法①　前置詞“在”の用法 第10回　第６課　“有”の用法　数詞①・量詞　方位詞 第11回　第７課　助詞“了”の用法②　時間量　起点の前置詞 第12回　第８課　名詞述語文　数詞②　数の尋ね方 第13回　説明不足個所補充　会話練習 第14回　第９課　時刻の表現　願望の助動詞　連動文 第15回　春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。途中で学事歴で休みが入った場合は１・２で順序が前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『たのしいの中国語　愉快的**汉语**』大久保明男他（金星堂）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果（８０％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09年度以降	中国語（Ｉｂ　会話１）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声ををよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。	第１回　春学期の復習　秋学期履修上の注意 第２回　第１０課　経験・持続を表す助詞　選択疑問文 第３回　第１１課　様態補語　可能の助動詞　動量詞 第４回　第１２課　比較の表現　義務の助動詞　方向補語 第５回　第１３課　連体修飾語③　後置の程度のを表す副詞 第６回　第１４課　動作の進行表現　呼応“是～的”構文 第７回　説明不足個所補充　会話練習 第７回　11課～14課　中間試験　説明不足個所補充 第８回　第１５課　兼語文　二重目的語を取る動詞　前置詞“跟” 第９回　第１６課　前置詞“到”と“**对**” 第10回　第１７課　存現文　形容詞の重ね型 第11回　第１８課　使役文　受身文　後置の前置詞　“把”構文 第12回　補充課文　手紙文 第13回　説明不足個所補充　会話練習” 第14回　補充教材 第15回　秋学期まとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。途中で学事歴で休みが入った場合は１・２で順序が前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語の基礎づくり』楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果（８０％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09年度以降	中国語（Ｉａ　会話２）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ｉａ 会話１と２は同一教材で共に張亜紅先生が担当します。 【講義目標】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話を主に学習します。 【講義概要】 語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」（会話）に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1）中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　基本母音発音　声調、短母音、子音、 第２回　発音　鼻音を伴う母音、 第３回　発音　総合練習 第４回　第１課　応答表現　復習の読み練習と練習問題 第５回　第２課　復習の読み練習と練習問題 第６回　第３課　復習の読み練習と練習問題 第７回　第４課　連体修飾語②　復習の読み練習と練習問題 第８回　１～４課中間試験　説明不足個所補充 第９回　第５課　「少し」の用法　復習の読み練習と練習問題 第10回　第６課　時の表示法　復習の読み練習と練習問題 第11回　第７課　動詞の重ね型　復習の読み練習と練習問題 第12回　第８課　年の尋ね方 復習の読み練習と練習問題 第13回　説明不足個所補充　会話練習 第14回　第９課　疑問詞の用法　復習の読み練習と練習問題 第15回　春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。途中で学事歴で休みが入った場合は１・２で順序が前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語の基礎づくり』楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09年度以降	中国語（Ｉｂ　会話２）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。	第１回　春学期復習②　中国語で夏休みの報告 第２回　第10課　中国語のお金　復習の読み練習と練習問題 第３回　第11課　前置詞“給”の用法　復習読み練習と練習問題 第４回　第12課　結果補語　復習の読み練習と練習問題 第５回　第13課　可能補語　復習の読み練習と練習問題 第６回　第10課　復習の読み練習と練習問題 第７回　11課～14課中間試験　説明不足個所補充 第８回　第15課 連用修飾語 復習の読み練習と練習問題 第９回　第16課　復習の読み練習と練習問題 第10回　第17課　復習の読み練習と練習問題 第11回　第18課　復習の読み練習と練習問題 第12回　補充課文　復習の読み練習と練習問題 第13回　説明不足個所補充　会話練習 第14回　補充教材 第15回　秋学期まとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。途中で学事歴で休みが入った場合は１・２で順序が前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語の基礎づくり』楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09年度以降	中国語（Ⅱa　講読・文法）	担当者	阿邉　淳

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 １年次で学習した語彙、文型、文法事項を復習しながらさらにややレベルアップした中国語を学び､総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。 このレベルの学習を終われば中国語検定３級に合格する力を付けたことになります。 【講義概要】 ①語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②１年次の教材より量的に少し長めの文章を､文法の復習と更なる文法事項を学習しながら、読解する力を付けていきます。 ③各課の練習問題をしっかり予習復習することで､キーポイントで学習した文ぽい事項の定着を図ってください。 ④複文を作る様々な呼応を学習し､中国語の表現力を増していきます。 ④できれば会話の時間と共に学習し､将来就職してからさらに延長できるような、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 注意 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　１年次中国語の復習・確認、履修上の注意 第２回　第１課　連体修飾、呼応“既～又･･･”、“有的～有的･･･” 第３回　第１課　復習読み練習と練習問題 第４回　第２課　連用修飾　呼応“**连**～也･･･”、比較表現の否定文 第５回　第２課　復習読み練習と練習問題 第６回　１・２課小テスト　第３課　疑問詞の呼応“即使～也･･･”、“除了～以外”、“一点儿也～” 第７回　第３課　復習読み練習と練習問題 第８回　第４課　“着”の用法、複合方向補語、動詞の重ね型 第９回　第４課　復習読み練習と練習問題 第10回　３・４課小テスト　文法のまとめ１ 第11回　第５課　結果補語、存現文、呼応“因**为**～所以･･･”、“一**边**～一**边**･･･” 第12回　第５課　復習読み練習と練習問題 第13回　第６課　可能補語①、呼応“只要～就･･･”“一～就･･･” 第14回　第６課　復習読み練習と練習問題 第15回　春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『２冊目の中国語』講読クラス　劉頴　他（白水社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果（８０％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09年度以降	中国語（Ⅱb　講読・文法）	担当者	阿邉　淳

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・春学期に続き中国語の基礎力プラス応用力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし読解力を増強することを目標とします。 ・中国語の総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。 【講義概要】 ①春学期に引き続き「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②複文を作る様々な呼応をさらに学習し、中国語の表現力を増していきます。	第１回　第７課　様態補語　呼応“好像～一**样**”“是～的” 第２回　第７課　復習読み練習と練習問題 第３回　第８課　可能補語②、呼応“无**论**～都･･･”“要是～就･･･” 第４回　第８課　復習読み練習と練習問題 第５回　７・８課小テスト　文法のまとめ２ 第６回　第９課　受身文、動詞の後の“**给**” 第７回　第９課　復習読み練習と練習問題 第８回　第１０課　離合動詞、動量補語　呼応“**虽**然～但是･･･”“不但～而且･･･” 第９回　第１０課　復習読み練習と練習問題 第10回　９・１０課小テスト　文法説明の補充 第11回　第１１課　使役表現、兼語文 第12回　第１１課　復習読み練習と練習問題 第13回　第１２課　“把”構文、呼応“**对**～来**说**”“只有～才･･･” 第14回　第１２課　復習読み練習と練習問題 第15回　文法のまとめ３　　秋学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『２冊目の中国語』講読クラス　劉頴　他（白水社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果（８０％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09年度以降	中国語（Ⅱa　会話１）	担当者	星野　芳欣

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 　中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。この中国語Ⅱab を習得して中国語検定３級に合格する力を付けたことになります。それを目指して毎日学習してください。 【講義概要】 　語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 　様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまうのが上達の最上方法です。 　引き続き、教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1）中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　１年時の学習内容の復習、確認　　履修上の留意点の説明 第２回　第１課　「ここで待ちます」　文法ポイント 第３回　第１課　復習読み練習とドリル 第４回　第２課　このお酒少し強い文法ポイント、 第５回　第２課　復習読み練習とドリル 第６回　第３課　上海語聞いて分かる？ 第７回　第３課　復習読み練習とドリル 第８回　中間試験　　説明不足個所の補充 第９回　第４課　立って歩いてみて　文法ポイント 第10回　第４課　復習読み練習とドリル 第11回　第５課　車にぶつかった　文法ポイント 第12回　第５課　復習読み練習とドリル 第13回　第６課　ギョーザの作り方を教えて　文法ポイント 第14回　第６課　復習読み練習とドリル 第15回　春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語のかたちづくり』楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09年度以降	中国語（Ⅱb　会話１）	担当者	星野　芳欣

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声ををよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。	第１回　春学期復習　第９課　乾杯！　文法ポイント 第２回　第７課　私がやってみよう　文法ポイント 第３回　第７課　復習読み練習とドリル 第４回　第８課　要領を掴めばいい　　文法ポイント 第５回　第８課　復習読み練習とドリル 第６回　第９課　乾杯！　　文法ポイント 第７回　第９課　復習読み練習とドリル 第８回　中間試験　説明不足個所補充 第９回　第１０課　小さなお客　文法ポイント　ドリル 第10回　第１１課　言わないで　文法ポイント　ドリル 第11回　第１２課　ずっとこうなんだ　文法ポイント　ドリル 第12回　第１３課　おばあさんは彼に特に優しい　文法ポイント　ドリル 第13回　第１４課　弟の話① 第14回　第１５課　弟の話② 第15回　秋学期まとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語の基礎づくり』楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09年度以降	中国語（Ⅱa　会話２）	担当者	秦　敏

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅱa(会話 1)と中国語Ⅱa(会話 2)は 2 つの科目として、異なる教材、異なる教員が担当します。 【講義目標】 　中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。会話１と共に会話力習得に重点を置きます。 【講義概要】 　語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 　様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまうのが上達の最上方法です。 　引き続き、教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1）中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　１年時の学習内容の復習、確認　　履修上の留意点の説明 第２回　第１課　紹介 呼応“是～的”“不但～而且･･･” 第３回　第１課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第４回　第２課　最初の授業 第５回　第２課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第６回　第３課　おしゃべり 第７回　第３課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第８回　１課～３課　中間試験　　説明不足個所の補充 第９回　第４課　値切りの交渉 第 10 回　第４課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第 11 回　第５課　タクシーに乗る 第 12 回　第５課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第 13 回　第６課　バスに乗る 第 14 回　第６課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第 15 回　春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語Ⅱ　中級会話コース』　顧明耀（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09年度以降	中国語（Ⅱb　会話２）	担当者	秦　敏

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声ををよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。	第１回　春学期復習　第７課　小包を出す 第２回　第７課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第３回　第８課　レストランで 第４回　第８課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第５回　第９課　診察を受ける 第６回　第９課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第７回　第 10 課　お呼ばれ 第８回　第 10 課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第９回　中間試験　説明不足個所補充 第 10 回　第 11 課　旅行 第 11 回　第 11 課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第 12 回　第 12 課　春節で見たこと 第 13 回　第 12 課　復習読み練習と表現練習、練習問題 第 14 回　第 13 課　送別 第 15 回　第 13 課　復習読み練習と表現練習、練習問題 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語Ⅱ　中級会話コース』　顧明耀（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09 年度以降	中国語（Ⅲa　応用）	担当者	阿邉　淳

講義目的、講義概要	授業計画
【講義概要】 中国語は漢字を使用しているので、中には見ればすぐに内容が理解できるものもある。ところが聞くとなると思うように聞き取れず、内容の理解に苦しむことが多い。これは留学を経験した学生の多くが語ることである。先ず聞いて分かるように、目は極力使わない授業を行う。 【講義目的】 ・中国語の語彙を増やして読解力を増強する。 ・発音面では課文の音声を事前に配布するのでそれをよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った読み方ができるようにする。 ・教材に出てきた現代中国語における様々な構文について文法事項を説明また復習する。	第１回　中国語基礎の確認、学習方と授業に臨む注意事項を説明 第２回　第１課「山本君」　音声を漢字に変換、課文を配布 第３回　第１課　学習語句と文法を説明　読み練習 第４回　第２課「人の好みは様々」　音声を漢字に変換 第５回　第２課　学習語句と文法を説明　読み練習 第４回　第３課「本を２冊買いました」音声を漢字に変換 第６回　第３課　学習語句と文法を説明　読み練習 第７回　第４課「一人っ子」　音声を漢字に変換 第８回　第４課　学習語句と文法を説明　読み練習　中間試験 第９回　第５課「なまりがつよい」音声を漢字に変換 第１０回　第５課　学習語句と文法を説明　読み練習 第１１回　第６課　「まだ取れていない」音声を漢字に変換 第１２回　第６課　学習語句と文法を説明　読み練習 第１３回　第７課「成田空港へ」音声を漢字に変換 第１４回　第７課　学習語句と文法を説明　読み練習 第１５回　春学期の総まとめ 履修者の理解状況によっては適宜進度を調整することもある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材は音声で配布	平常の授業への取り組み（予習の聞き取りを含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09 年度以降	中国語（Ⅲb　応用）	担当者	阿邉　淳

講義目的、講義概要	授業計画
【授業目標】春学期に続き以下のことを目標にして進める ・中国語の語彙を増やし読解力を増強することを目標とする。 ・発音面では課文の音声を事前に配布するのでそれをよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った読み方ができるようにする。 ・教材に出てきた現代中国語における様々な構文について文法事項を説明・復習していく。 ・辞書を丹念に調べる習慣を身につける。 ・春学期に続き多読(ピンインなしで)をしていく。多読するなかで語彙力を高め、文法の知識を更に深めていく。	第１回　第８課「小遣い」音声を漢字に変換 第２回　第８課　学習語句と文法を説明　読み練習 第３回　第９課　「曇りのち晴れ」　音声を漢字に変換 第４回　第９課　学習語句と文法を説明　読み練習　天気の表現 第５回　第１０課「ラジカセを買う」音声を漢字に変換 第６回　第１０課　学習語句と文法を説明　読み練習 第７回　中間試験 第８回　第１１課「インフルエンザ」　音声を漢字に変換 第９回　第１１課　学習語句と文法を説明　読み練習 第１０回　第１２課　「友人」音声を漢字に変換 第１１回　第１２課　学習語句と文法を説明　読み練習 第１２回　第１３課　「中華料理」音声を漢字に変換 第１３回　第１３課　学習語句と文法を説明　読み練習 第１４回　課文朗読大会 第１５回　秋学期まとめ 履修者の理解状況によっては適宜進度を調整することもある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材は音声で配布	平常の授業への取り組み（予習の聞き取りを含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

09 年度以降	韓国語Ｉａ（総合 1）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、１～２年次では３コマで、そのうち２コマを読解や作文等の総合的な学習に、１コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。 本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハングルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。	1. ガイダンス：韓国語について 2. 基本母音（1） 3. 基本子音（1） 4. 複合母音（1） 5. パッチム（1） 6. 発音の変化（1） 7. 私は浅井ゆかりです（1） 8. 出身はソウルですか（1） 9. 図書館ではありません（1） 10. 時間がありますか（1） 11. インターネットをします（1） 12. 貿易会社で働いています（1） 13. 東大門市場に行きます（1） 14. 授業のまとめ 15. 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『基礎から学ぶ韓国語講座初級』、木内明著、国書刊行会	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

09 年度以降	韓国語Ｉｂ（総合 1）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、１～２年次では３コマで、そのうち２コマを読解や作文等の総合的な学習に、１コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。 本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハングルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。	1. しょっちゅうスーパーで買います（1） 2. それは一万ウォンです（1） 3. 今、何時ですか（1） 4. 日本語を話されますか（1） 5. そんなに遠くありません（1） 6. いつ韓国に来ましたか（1） 7. 民俗村に一緒に行きましょう（1） 8. パーティーの準備をしています（1） 9. 何も食べられませんでした（1） 10. 陶磁器を見たいです（1） 11. 写真を撮ってもいいですか（1） 12. もう行かなければなりませんか（1） 13. 手紙を書きますよ（1） 14. 授業のまとめ 15. 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『基礎から学ぶ韓国語講座初級』、木内明著、国書刊行会	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

09 年度以降	韓国語Ｉａ（総合 2）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、１～２年次では３コマで、そのうち２コマを読解や作文等の総合的な学習に、１コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。 本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハングルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。	1. ガイダンス：韓国語について 2. 基本母音（２） 3. 基本子音（２） 4. 複合母音（２） 5. パッチム（２） 6. 発音の変化（２） 7. 私は浅井ゆかりです（２） 8. 出身はソウルですか（２） 9. 図書館ではありません（２） 10. 時間がありますか（２） 11. インターネットをします（２） 12. 貿易会社で働いています（２） 13. 東大門市場に行きます（２） 14. 授業のまとめ 15. 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明　著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

09 年度以降	韓国語Ｉｂ（総合 2）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、１～２年次では３コマで、そのうち２コマを読解や作文等の総合的な学習に、１コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。 本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハングルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。	1. しょっちゅうスーパーで買います（２） 2. それは一万ウォンです（２） 3. 今、何時ですか（２） 4. 日本語を話されますか（２） 5. そんなに遠くありません（２） 6. いつ韓国に来ましたか（２） 7. 民俗村に一緒に行きましょう（２） 8. パーティーの準備をしています（２） 9. 何も食べられませんでした（２） 10. 陶磁器を見たいです（２） 11. 写真を撮ってもいいですか（２） 12. もう行かなければなりませんか（２） 13. 手紙を書きますよ（２） 14. 授業のまとめ 15. 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明　著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

09 年度以降	韓国語（Ｉａ　応用）	担当者	金　泰植

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、韓国語の基本的な会話表現を学びながら、文字（ハングル）の学習と発音の変化の規則を学ぶ。また課題と小テストを課すことにより、しっかりとした韓国語能力を育てることを目的とする。授業中には、朝鮮半島の文化や生活について随時紹介する。	１．ガイダンス ２．母音１ ３．子音１ ４．子音２ ５．母音２ ６．終声 ７．発音の変化 ８．復習１ ９．大学生ですか？ １０.会社員ではありません １１.何処で習いますか？ １２.暑くありませんか？ １３.誕生日はいつですか？ １４.復習２ １５.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語の初歩　改訂版』白水社 ※韓国語の辞書を必ず持参すること。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテスト、課題および平常点（50%）と定期試験の成績（50%）を総合して評価する。

09 年度以降	韓国語（Ｉｂ　応用）	担当者	金　泰植

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、前期に引き続き韓国語の基本的な会話表現を学びながら、文字（ハングル）の学習と発音の変化の規則を学ぶ。また課題と小テストを課すことにより、しっかりとした韓国語能力を育てることを目的とする。授業中には、朝鮮半島の文化や生活について随時紹介する。	１．前期の復習 ２．何処に住みますか？ ３．先生はいらっしゃいますか？ ４．何をお探しですか？ ５．何をしましたか？ ６．何を召し上がられますか？ ７．復習１ ８．何時に会いましょうか？ ９．水泳をしています。 １０.家に一度遊びに来てください。 １１.市庁から近いですか？ １２.復習２ １３.長文読解 １４.会話の練習 １５.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語の初歩　改訂版』白水社 ※韓国語の辞書を必ず持参すること。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテスト、課題および平常点（50%）と定期試験の成績（50%）を総合して評価する。

09年度以降	韓国語（Ⅱa　総合１）	担当者	金　熙淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では「韓国語Ⅰ総合」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。 ●欠席は遠慮し１回目の授業から出席すること。 ●変則活用表現を徹底的に覚えること。	1. ガイダンス 2. 復習 3. 復習 4. 第１課　遅れて申し訳ありません 5. 第２課　この背の高い人が主人ですか 6. 第３課　付き合っている人はいなかったです 7. 第４課　通いながらずっと学びましたか 8. 第５課　どこに行くつもりですか 9. 第６課　小学校で習ったことがありますよ 10. 第７課　韓国が勝ちそうです 11. 第８課　見ようと思います 12. 第９課　雨が降り始めました 13. 第10課　食事でもしに行きましょうか 14. 復習 15. 期末テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明『基礎から学ぶ　韓国語講座　中級』国書刊行会 参考書：油谷幸利『間違いやすい　韓国語表現　中級編』	出席、小テスト、期末テスト

09年度以降	韓国語（Ⅱb　総合１）	担当者	金　熙淑

講義目的、講義概要	授業計画
今まで見につけた知識を活かし文法や表現を応用してどんどんチャレンジしていく。韓国語の正確な表現力、会話運用力の学習をめざす。履修者には資格を取り、自分の将来に活かすことを期待したい。 ●韓国の諺に고생 끝에 낙이 있다（苦労の後には楽あり）という言葉がある。 この言葉を肝に銘じて地道に学習することを期待したい。	1. 復習 2. 復習 3. 第11課　実現したらいいのですが 4. 第12課　高校の時に修学旅行で来ました 5. 第13課　開かれるといいます 6. 第14課　すごくきれいになりましたよ 7. 第15課　建てられて依頼どのぐらい経ちましたか 8. 第16課　健康そうですね 9. 第17課　同じ年かもしれません 10. 第18課　タレでも作っておいて 11. 第19課　痩せるために我慢しなくちゃ 12. 第20課　私も行くから 13. 総合復習 14. 総合復習 15. 期末テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明『基礎から学ぶ　韓国語講座　中級』国書刊行会 参考書：油谷幸利『間違いやすい　韓国語表現　中級編』	出席、小テスト、期末テスト

09年度以降	韓国語（Ⅱa　総合２）	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は『基礎から学ぶ韓国語講座－初級－』のテキストの内容を踏まえた上で、学習者の表現力の向上を目指す。具体的には様々な接続形や連体形などを学習し、単文から複文へと文の内容を豊かにする表現を身につける。	1　基礎文法と表現のおさらい 2　遅れて申し訳ありません 3　この背の高い人がご主人ですか 4　付き合っている人はいませんでした 5　Review 6　通いながらずっと学びましたが 7　どこに行くつもりですか 8　小学校で習ったことがありますよ 9　韓国が勝ちそうです 10　Review 11　見ようと思います 12　雨が降り始めました 13　食事でも行きましょうか 14　会話練習 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明『基礎から学ぶ韓国語講座－中級－』国書刊行会	出席、中間テスト、期末テスト、課題

09年度以降	韓国語（Ⅱb　総合２）	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は『基礎から学ぶ韓国語講座－初級－』のテキストの内容を踏まえた上で、学習者の表現力の向上を目指す。具体的には様々な接続形や連体形などを学習し、単文から複文へと文の内容を豊かにする表現を身につける。	1　前期のおさらい 2　実現したらいいのですが 3　高校の時に修学旅行で来ました 4　開かれるといいます 5　Review 6　すごくきれいになりましたよ 7　建てられて以来どのくらい経ちましたか 8　健康そうですね 9　同い年かもしれません 10　Review 11　タレでも作っておいて 12　痩せるためには我慢しなくちゃ 13　私も行くから 14　会話練習 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明『基礎から学ぶ韓国語講座－中級－』国書刊行会	出席、中間テスト、期末テスト、課題

09年度以降	韓国語（Ⅱa　応用）	担当者	金　熙淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では「韓国語Ⅰ応用」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。 ●目標を立て、常に復習と予習を繰り返すこと。 ●6月にハングル能力検定試験5級、４級に挑戦。	1. 韓国語を学ぼう　初級の復習 2. 韓国語を学ぼう　初級の復習 3. 第１課　何を食べましょうか 4. 第１課　文型・活用練習(5級問題集・第１章) 5. 第２課　電話番号を教えてください 6. 第２課　文型・活用練習(5級問題集・第２章) 7. 第３課　趣味は何ですか 8. 第３課　文型・活用練習(5級問題集・第３章) 9. 第４課　インサドンにはどう行けばいいですか 10. 第４課　文型・活用練習(5級問題集・第４章) 11. 第５課　風邪は治りましたか 12. 第５課　文型・活用練習(5級問題集・模擬テスト) 13. 復習 14. 復習 15. 期末テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語を学ぼう　中級』 李昌圭『別冊練習帳　韓国語を学ぼう　中級』 李昌圭・尹南淑共著『ハングル検定試験実践問題集5級』	出席、小テスト、期末テスト ●ハングル能力検定試験結果

09年度以降	韓国語（Ⅱb　応用）	担当者	金　熙淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では前期で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には前期より深いコミュニケーションができるように期待したい。 ●常に復習と予習を繰り返し、韓国語を学ぶ目標をもつこと。 ●11月にハングル能力検定試験４級、３級に挑戦。	1. 第１課から５課まで復習 2. ４級問題集(発音) 3. 第６課　連休には何をするつもりですか 4. 第６課　文型・活用練習 5. ４級問題集(語彙) 6. ４級問題集(文法) 7. 第７課　雨がたくさん降るようですね 8. 第７課　文型・活用練習 9. ４級問題集(対話文) 10. ４級模擬テスト 11. 第８課　プルゴギを作ることができますか 12. 第８課　文型・活用練習 13. 第９課　このズボン、試着してもいいですか 14. 復習 15. 期末テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語を学ぼう　中級』 李昌圭『別冊練習帳　韓国語を学ぼう　中級』 李昌圭・安國煥共著『ハングル検定試験実践問題集４級』	出席、小テスト、期末テスト ●ハングル能力検定試験結果

09年度以降	韓国語（Ⅲa　応用）	担当者	金　熙淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、今まで見につけた知識を活かし文法や表現を応用してどんどんチャレンジしていく。 韓国語の正確な表現力、会話運用力の学習をめざす。 履修者には資格を取り、自分の将来に活かすことを期待したい。 ●常に復習と予習を繰り返し、韓国語を学ぶ目標をもつこと。 ●6月にハングル能力検定試験3級挑戦。 ●欠席は遠慮し1回目の授業から出席すること。 ●「ハングル文字」の読み書きが出来るよう復習・予習を徹底的に行うこと。	1. 復習 2. ハングル能力試験対策 3. ハングル能力試験対策 4. ハングル能力試験対策 5. ハングル能力試験対策 6. ハングル能力試験対策 7. 第1課　病院で 8. 第2課　バス停留場で 9. 第3課　銀行で 10. 第4課　本を読む 11. 第5課　韓国料理 12. 第6課　天気 13. 総合復習 14. 総合復習 15. 期末テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語上級』白帝社 李昌圭・安國煥共著『ハングル検定試験実践問題集3級』 参考書：油谷幸利『間違いやすい　韓国語表現　中級編』	出席、小テスト、期末テスト ●ハングル能力検定試験結果

09年度以降	韓国語（Ⅲb　応用）	担当者	金　熙淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、今まで見につけた知識を活かし文法や表現を応用してどんどんチャレンジしていく。 韓国語の正確な表現力、会話運用力の学習をめざす。履修者には資格を取り、自分の将来に活かすことを期待したい。 ●常に復習と予習を繰り返し、韓国語を学ぶ目標をもつこと。 ●11月にハングル能力検定試験準2級に挑戦。	1. 前期の復習 2. 第7課　趣味は何ですか 3. 第7課　文法と表現 4. 第8課　約束 5. 第8課　文法と表現 6. 第9課　道を歩く 7. 第9課　文法と表現 8. 第10課　引っ越し 9. 第10課　文法と表現 10. 第11課　あけましておめでとうございます 11. 第11課　文法と表現 12. 第12課　秋夕 13. 第7課から12課まで復習 14. 総合復習 15. 期末テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語上級』白帝社 前田真彦『韓国語上級演習ノート』白帝社 参考書：油谷幸利『間違いやすい　韓国語表現　中級編』	出席、小テスト、期末テスト ●ハングル能力検定試験結果

2012 年度

外国語学部共通科目シラバス

09 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状１）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。 地域統合の歴史的前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。	1. 講義の概要 2. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 1 3. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 2 4. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 3 5. 第 2 次大戦と欧州統合 6. 戦後復興と欧州統合 1 7. 戦後復興と欧州統合 2 8. ECSC の成立 1 9. ECSC の成立 2 10. EEC の成立 1 11. EEC の成立 2 12. EEC の定着期 1 13. EEC の定着期 2 14. EEC の定着期 3 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合―歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年	平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）

09 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状２）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。	1. 講義の概要 2. 通貨統合 1 3. 通貨統合 2 4. 通貨統合 3 5. マーストリヒト条約以降の EU1 6. マーストリヒト条約以降の EU2 7. EU の制度 1 8. EU の制度 2 9. EU の政策 1 10. EU の政策 2 11. 加盟国と EU1 12. 加盟国と EU2 13. 加盟国と EU3 14. EU の現在の課題 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合―歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年	平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）

09 年度以降	総合講座（性と芸術）	担当者	コーディネーター 谷口　亜沙子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の総合講座は、「性と芸術」というテーマによるリレー講義です。 「ジェンダー」「セクシュアリティ」「エロス」等をキーワードにした場合、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、その他の国の、たとえばどんな芸術作品がどんなふうに浮かび上がってくるのか。どのような問題意識があり、どのような背景があったのか。そこには、どんな表現、抵抗、当惑、禁忌、偏見、検閲、欺瞞、挑戦があったのか。そして、それらの作品を受容する現代の私たちには、いかなる態度が可能なのか。 時代も国も異なるさまざまな作品に触れながら、「芸術」と「性」をめぐる多様な視点を手に入れてください。	1. 谷口亜沙子（フランス語学科）：初めに ― 性と芸術 2. 原成吉（英語学科）：アメリカ詩にみるホモセクシュアリティ ― アレン・ギンズバーグを中心に 3. 若森栄樹（フランス語学科）：フランス文学とセクシュアリティ 4. 前沢浩子（英語学科）：「恋」か「友情」か ― Shakespeare の男たち 5. 片山亜紀（英語学科）：19-20 世紀イギリスの同性愛文学 6. 一條由紀（早稲田大学非常勤講師）：少年愛と吸血鬼 ― 『マルドロールの歌』を中心に 7. 江花輝昭（フランス語学科）：18 世紀フランス文学に見る男と女 8. 柿田秀樹（英語学科）：絵画の視覚論 9. 上野直子（英語学科）：フェミニスト文学批評入門 10. 渡部重美（ドイツ語学科）：グリム童話の男の子と女の子 11. 青山愛香（ドイツ語学科）：アダムとイブ ― 北方世界におけるヌード（Akt）の誕生 12. 下川浩（ドイツ語学科）：なぜ不倫小説が多いのか？ 13. 前田直子（ドイツ語学科非常勤講師）：ドイツの移民女性たち 14. 谷口亜沙子：ユディットとルクレチア ― 女性の表象を読む 15. 谷口亜沙子：総論
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に提示されます。	出席状況と筆記試験。 各回の終わりにコメントペーパーを提出してもらいます。

09 年度以降	総合講座（神は細部に宿る）	担当者	コーディネーター 谷口　亜沙子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の総合講座は、「神は細部に宿る」という言葉から連想されるものならどんなテーマでも結構です、という呼びかけに応えてくださった多彩な講師陣によるリレー講座です。 「細部」や「具体」への注目が真理の発見や手ごたえのある喜びにつながるという例や、「徴候」や「めだたないもの」への注意深さが全体の理解や新しい変化の鍵となることがあるというお話を、様々な分野で聞くことができれば、というのが当初の構想でした。 さて、文学、思想、言語学、美術、歴史、人類学、精神医学、宗教、神話、社会、都市、政治、教育、コミュニケーション学などにおいて、一体どんな「神」と「細部」が登場するのか――？ 「神は細部に宿る」という言葉を、ひとつの方法論あるいは問いかけとして身に持っていることによって、目の前の世界や時間にどんな変化が起こるのかを体験してみてください。	1. 谷口亜沙子：初めに ― シャーロック・ホームズに倣って 2. 田村毅（フランス語学科）：一編の詩から詩人とその時代の宗教思想を読み解く 3. 工藤達也（ドイツ語学科）：ヴァルター・ベンヤミンのモナドロジーと歴史について 4. 安井美代子（英語学科）：神の設計 ― 言語の単純性と無限性 5. 辻田麻里（ドイツ語学科）：メタファーに聞く人間の心 6. 工藤和宏（英語学科）：世界を変える大学生たち 7. 佐野康子（英語学科）：「ダーウィンの箱庭」― タンザニアから世界へ 8. 日野克美（交流文化）：地名の不思議 ― モントリオールの街路名 9. 須永和博（交流文化）：＜周辺＞という「細部」― 寄せ場と貧困の人類学 10. 佐藤唯行（英語学科）：ユダヤ教の成立 ― 613 もの戒律 11. 下川浩（ドイツ語学科）：神と仏と愛と 12. A.ゾーリンジャー（英語学科）：Utsushi: The Art of Copying（英語による講義） 13. 青山愛香（ドイツ語学科）：神は細部に宿る ― ファン・アイク兄弟の『ゲントの祭壇画』（1432 年） 14. 鈴木隆（フランス語学科）：細部に宿る都市空間の秩序 15. 谷口亜沙子：総論 ― 詩の生まれる瞬間
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に提示されます。	出席状況と筆記試験。 各回の終わりにコメントペーパーを提出してもらいます。

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1.　講義の概要と目標、情報科学とは 2.　データ表現、基数変換、論理演算 3.　コンピュータの構成要素 4.　ソフトウェアの役割、体系と種類 5.　オペレーティングシステム（OS） 6.　プログラム言語 7.　データ構造―リスト、スタック、キュー、2分木 8.　アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9.　コンピュータによる言語情報処理技術（1） 10.　コンピュータによる言語情報処理技術（2） 11.　機械翻訳システムの演習 12.　情報検索と質問応答システム 13.　インターネット上の多言語処理技術 14.　授業のまとめ 15.　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

09 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[総合]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」の各科目、および［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[総合]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」の各科目、および［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[英語]	担当者	内田　富男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[英語]	担当者	内田　富男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(プレゼンテーション中級)	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 受講者数や学習状況によって変更することがある
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(プレゼンテーション中級)	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 受講者数や学習状況によって変更することがある
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(Word 中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(Word 中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(Office 中級)	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	授業時に説明する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(Office 中級)	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	授業時に説明する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(言語情報処理１)	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行う。われわれ日本人が話す、あるいは書く英語は全て「学習者言語」であり、ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なる。たとえば「流暢さ」、「使用する単語の種類」、「使用する文法の複雑さ」、「正確さ」などである。この授業は、これら（学習者）言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とする。それにより、自分自身の英語力を振り返ることが出来るようになったり、将来教職（英語教師）に就きたいと希望する場合は、生徒たちの英語力を測定評価できる技能を身につけることが出来るようになったりすることを目指す。**英語学習に強い興味関心がある人**、**教職を目指す人**に適した内容と考える。 [概要] ごく基本的な言語学の知識の講義から始め、その後は１人１台のコンピューターを使い、演習を中心に授業を進める。自分で学習者言語データを分析し結果をレポートにまとめることも課題となる。コンピューターの操作にある程度慣れていることが望ましいが、授業を通して学習することも十分可能。	1.　【ガイダンス】 2.　言語の基本（1）：品詞 3.　言語の基本（2）：形態素、単語、句、節 4.　学習者言語の分析：語彙力とは何か（1） 5.　学習者言語の分析：語彙力とは何か（2） 6.　学習者言語の分析：語彙力とは何か（3） 7.　学習者言語の分析：文法力とは何か（1） 8.　学習者言語の分析：文法力とは何か（2） 9.　学習者言語の分析：文法力とは何か（3） 10.　学習者言語の分析：流暢さとは何か（1） 11.　学習者言語の分析：流暢さとは何か（2） 12.　学習者言語の分析：流暢さとは何か（3） 13.　最終レポート準備（1） 14.　最終レポート準備（2） 15.　【まとめ】
テキスト、参考文献	**評価方法**
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(言語情報処理２)	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 春学期に引き続き、学習者言語の分析を行う。それにより、英語学習を進める上で直面する困難点を、具体的数量的に把握する視点や分析方法を身につける。 [概要] 春学期の内容を総合的に復習し、それらを踏まえた上で演習を中心に授業を進める。そのため，春学期の「言語情報処理 Ia」を予め履修していることが望ましい。秋学期から履修する場合は、言語学の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。 授業においては、実際に学習者言語のデータ収集を行い、その分析を進めていく。受講人数によって、グループ活動または個人活動になるが、受講生の作業、演習、発表が中心になる。	1.　【ガイダンス】 2.　学習者言語の分析の視点（1）：概要 3.　学習者言語の分析の視点（2）：流暢さ 4.　学習者言語の分析の視点（3）：語彙力 5.　学習者言語の分析の視点（4）：文法力 6.　学習者言語の分析の視点（5）：正確性 7.　データ収集と学習者コーパスの作成（1） 8.　データ収集と学習者コーパスの作成（2） 9.　学習者コーパスの加工：tagging（1） 10.　学習者コーパスの加工：tagging（2） 11.　分析（1） 12.　分析（2） 13.　プレゼンテーション（1） 14.　プレゼンテーション（2） 15.　【まとめ】
テキスト、参考文献	**評価方法**
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する	出席＋授業活動への参加度＋プレゼンテーションにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(言語情報処理１)	担当者	吉成　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です） 本講義では，最終的にはコンピュータというメガネを通して，「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば，皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時，どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが，必ずしも近くにいるとは限りませんし，聞く相手によって答えが揺れることもあります。 そんな時に，一つのヒントを与えてくれるものが，「コーパス」です。コーパスというのは，コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで，普通の辞書では得られない例文を見つけたり，また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。 本講義では，まず春学期に情報処理の基本的な考え方，発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析 **（下に続く↓）**	1　講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2　言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3　計算(計算式，計算式のコピー，セルの相対参照，絶対参照等) 4　Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5　Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6　Excel 関数(論理関数を中心に) 7　Excel 関数のネスト(1) 8　Excel 関数のネスト(2) 9　Excel 関数のネスト(3) 10　データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 11　データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 12　データベース上のデータの蓄積方法 13　自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 14　データベースの活用 15　まとめと演習
テキスト，参考文献	**評価方法**
テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。	学期末試験および２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

09 年度以降	［応用］情報科学各論(言語情報処理２)	担当者	吉成　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが，それらのツールは特定の処理には適しているものの，汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく，あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。 秋学期は，春学期に学んだ Excel の知識を活用して，学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から，コーパスの構築の仕方，および Excel で KWIC Concordance を実現する手法，および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに，本格的なコーパス，約 1 億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は，コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。 本講義で修得したコンピュータを使った見方と，構築した自分専用のコーパスは，講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。	1　講義のガイダンス：コーパスとその応用 2　Access 上にデータを格納 3　Access のデータを引き出して Excel で分析 4　コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5　コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6　コンコーダンスラインの利用(3)：演習 7　品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて，より精密な分析を試みる。また，自動タグ付けも試みる。 8　タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9　品詞の使われ方と英文の特徴 10　「文体」をどうとらえるか。－文の長さ－ 11　語彙の出現情報から何を読み取るか(1) 12　語彙の出現情報から何を読み取るか(2) 13　語彙の出現情報から何を読み取るか(3) 14　最先端のコーパスの現状：体験アクセス 15　まとめと演習
テキスト，参考文献	**評価方法**
テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。	学期末レポートおよび２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

09 年度以降	［HTML］情報科学各論(HTML 初級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 応用 1）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

09 年度以降	［HTML］情報科学各論(HTML 初級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 応用 1）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

09 年度以降	［HTML］情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：　評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。	1　ガイダンスとイントロダクション 2　HTML と FTP の復習（1） 3　HTML と FTP の復習（2） 4　インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5　プログラミングの基礎知識 6　JavaScript（1） 7　JavaScript（2） 8　JavaScript（3） 9　JavaScript（4） 10　JavaScript（5） 11　CGI の利用 12　総合課題（1） 13　総合課題（2） 14　総合課題（2） 15　鑑賞・報告会

テキスト、参考文献	評価方法
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。	授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。

09 年度以降	経済原論 a	担当者	未定（掲示で確認）

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　本講義は経済学をより深く学びたい学生を対象にした授業である。春学期でミクロ経済学に相当する内容を、秋学期でマクロ経済学に相当する内容を解説する。春学期のミクロ経済学では主に家計と企業の意思決定と、市場の機能について説明する予定である。 講義目的　日常の経済活動をよりよく理解するためには経済学の知識が不可欠である。この講義ではミクロ経済学を学習するが、消費者（家計）や生産者（企業）がどのようなことを考えながら行動しているかを学習することを通して、経済をより深く理解できるようになることが本講義の目的である。	1.　ミクロ経済学とは何か 2.　市場機能の働き① 3.　市場機能の働き② 4.　数学的予備知識の準備 5.　消費者の行動理論① 6.　消費者の行動理論② 7.　消費者の行動理論③ 8.　生産者の行動理論① 9.　生産者の行動理論② 10.　生産者の行動理論③ 11.　市場均衡と資源配分 12.　市場の失敗 13.　政府による市場介入① 14.　政府による市場介入② 15.　試験前まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。参考文献としてスティグリッツ『ミクロ経済学』をあげておく。必要があれば、授業中に適宜紹介する。	定期試験の成績によって評価する。受講人数が少ない場合、小テストを行うこともある。

09 年度以降	経済原論 b	担当者	未定（掲示で確認）

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　本講義は経済学をより深く学びたい学生を対象にした授業である。春学期でミクロ経済学に相当する内容を、秋学期でマクロ経済学に相当する内容を解説する。秋学期のマクロ経済学では主に日本経済の概要とマクロ経済モデルに基づいた財政金融政策について説明する予定である。 講義目的　日常の経済活動をよりよく理解するためには経済学の知識が不可欠である。この講義ではマクロ経済学を学習するが、日本のマクロ経済の実態や、経済がどのような政策によって運営されているかを学習することを通して、経済をより深く理解できるようになることが本講義の目的である。	1.　マクロ経済学とは何か 2.　ストック変数とフロー変数 3.　GDP の概念 4.　経済成長と寄与度 5.　消費と貯蓄 6.　投資 7.　GDP の決定 8.　財市場分析 9.　貨幣需要 10.　貨幣供給 11.　政府の役割と財政金融政策① 12.　政府の役割と財政金融政策② 13.　総需要と総供給 14.　インフレーションとデフレーション 15.　試験前まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。参考文献として伊藤元重『マクロ経済学』をあげておく。必要があれば、授業中に適宜紹介する。	定期試験の成績によって評価する。受講人数が少ない場合、小テストを行うこともある。

シラバス 交流文化学科

2012年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1656

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	